

女あり圓滿なる家庭である。因に八和田村各宗聯合佛教慈善會本部並に事務所を當山に置き、大正二年以來近在の細民救助、免囚人保護等各般の社會事業に活躍貢献してゐる。

玉川村玉川

玉壺山龍福寺

當山は曹洞宗に屬して龍隱寺の末寺である。本尊は釋迦牟尼佛で、開基は善巖智公和尚、梁岫全棟庵士、開山は入間郡龍隱寺第十四世、大鏡良賀大和尚禪師である。當寺は始め天台宗に屬し、その當時の本尊の阿彌陀如來は別堂に安置してある。天正十九年、開山大鏡良賀大和尚が當寺を草創して現在に至つてゐる。善巖智公和尚は當寺が天台宗の時の開基であるらしいが、諸記録類を喪失して今は一切不詳である。本堂、別堂、火防の神として靈驗あらたかなる秋葉大權現がある。その大いさ間口三間、奥行二間、境内は六百坪を算してゐる。十二月七日秋

葉大權現の例祭は極めて盛大である。玉川村一圓にわたつて檀家であつて、總代にもその人を得て誠實熱心に奉仕してゐる。現住職は第三十三世日峰信由師である。學識德行一世に卓出し信行徳化遠近に洽く、歸依隨喜するの徒來つて拜するもの四時踵を接してゐる。

小川町大塚

拈花山大梅寺



職住 中村義天師

當山は曹洞宗に屬し、

本堂は間口九間、奥行八間、庫裏は間口十四間半、奥行三間、山門は間口二間半、奥行一間半、境内は千五百八十一坪を算してゐる。明治二十二年十一月十七日内務省より、保存資金五十圓を下附せられた。末寺は東昌寺、電龍寺、長昌寺等四箇寺がある。檀家は二百五戸に上り、横川市次、横川禎造、大塚忠太郎、加藤利助、伊藤仲次郎の諸氏が惣代を熱誠に奉仕してゐる。現住職は第二十三世中村義天師であつて學識德行が高く、遠近より歸依されること頗る厚いものがある。

縣入間郡梅園村龍隱寺の末寺である。本尊は釋迦牟尼佛木像であつて、開基は猿尾氏、開山は榮朝禪師である。仁治三年猿尾氏は榮朝禪師を勸請して當寺を創建し、その後寛永の頃鐵州大牛和尚が鶴峯聖孫和尚を勸請して中興せるところであ

在京縣人

下谷區池端

衆議院議員 辯護士 古島義英

當年五十四歳、縣を双肩にがつちりと擔つて、中央議政壇上に正々堂々、侃々々々の論陣をすゝめてその將來に多大の囑目期待をされてゐる氏は、現に二回目の代議士であり、また東京市會議員として市政に與り、華々しい活動をつゞけてあるが、しかも東京市政には缺くことの出来ない存在として重要視され、埼玉縣人のために大に氣を吐いてゐる。氏は日本大學法科出身の偉材、司法官試補に任じ、官界往來を旨指して薦進したが、中途感ずるところあつて退官、辯護士となり、夙に法曹界に錚々たる令名を轟かしてゐる。政黨系統は民政黨。

四谷區東信濃町一

區會議員 勳七等功七級 木村清五郎



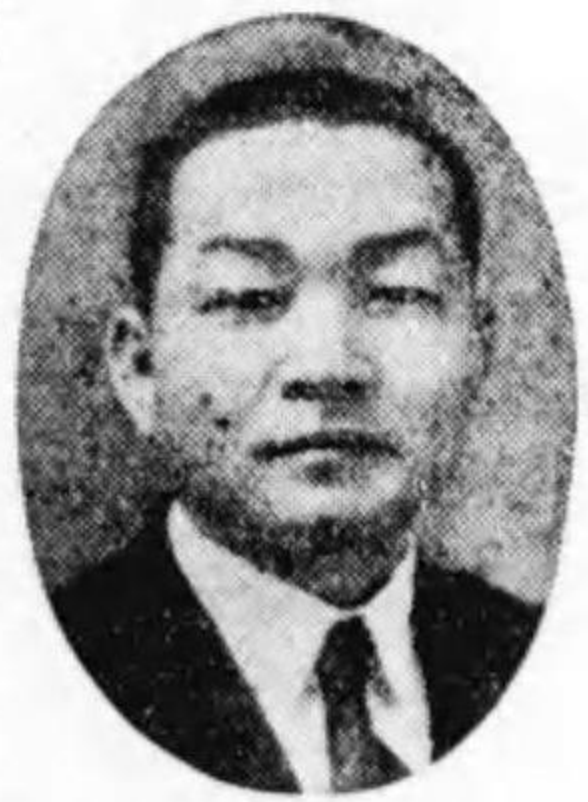
氏は利平氏二男として、兒玉郡七本木村に明治十年

十二月八日呱呱の聲を擧げた。明治三十七八年の日露戰役に近衛歩兵軍曹として從軍し、前後十六回の戰闘に参加して拔群の勳功あり、勳七等功七等を授けられた。三十九年凱旋後上京なし、初め芝區に於て砂利業を開業し後更に現在の場所に移り今日に及ぶ、其間堅忍不拔剛毅眞

小石川區指ヶ谷町一四六

小石川區會議員 齋藤奇一

拳の淬勵は逐年業績の顯著なる擴充盛大を招來し、氏の温厚篤實の人格と共に信望太だ厚く、大正八年業界より推されて組合長の重職に就いた、現に東京砂利業組合長たるのみならず、同十三年以來關東砂利業聯合會長、東武砂利販賣協會專務理事として業界の重鎮たり、又昭和四年以來四谷區會議員に推輓され、その他東京商工會議所議員として將又町會副會長、銃後援會常務理事、實業愛市協會常議員として自治方面にも太く貢獻してゐる。事業關係は寶達鑛業株式會社取締役、新宿地下街株式會社取締役、東部河砂株式會社取締役等に就任して精力的な活動をなす。組合より表彰さるゝこと數回に及ぶ、實に信念と意志の事業家である。今や脂ののり切つた働き盛りである。今後の活躍は刮目して待つべきである。



氏は埼玉縣入間郡入間村の出身、明治二十四年二月

皆子(十六才高女在學中)さん、次女喜代子さん、三女真砂子さんあり、一家常に春風和樂を極めてゐる。

淺草區雷門二ノ二
前市會議員
半五前かけ卸
かづさや商店主

岡田四郎



氏は埼玉縣大里郡戸村の出身である。實家は約三百餘年連綿續ける舊家にして、現在長兄幸三郎氏家を繼ぎ村會議員、區長等となす。四郎氏は明治十六年一月五日故會根吉氏四男として呱呱の聲を擧げた。明治三十二年上京かづさや呉服店に年期を入れ、十二年の間一日も休まず淬勵し、明治四十三年春かづさやの暖簾を貰ひ受け、獨立して現在の場所に半襟商を開店爾來努力奮闘着實を標語として事業の經營に當り、遂に一ケ年二十萬圓の取引あり

り半襟専門商として東都第一流の今日を爲すに至つた。學業は郷里に在る時五年間漢學を修め、奉公中は獨學讀書に耽けつた人にてその勤勉を知り得る。昭和四年市會議員、市參事會員に選出され、東都市政の爲めに盡瘁する處があつた。又淺草仲見世納稅組合長として二十年來格勵なし市長より表彰されてゐる。資性濃厚篤實、眞摯熱意の實業家にして、溫容の風格を持す。家庭はふく子夫人(四十才)の間に長女春子さん(二十七才)、次女冬子嬢(二十三才)あり常に春風和樂を極む。

向島區寺島町四ノ五八
諸會社重役
田原徳次郎

二十日宮岡岡藏氏二男として呱呱の聲を擧げた。大正二年上京同五年現齋藤家に入り家督を襲ぐ、爾來現在の場所に於て藝妓置屋業を営み着々成功し、業界に重きを爲す、昭和十二年十一月選ばれて小石川區會議員に當選し、現に社會施設委員、財源調査委員並に衛生施設、公益委員等を兼ね、區政諸般のことに淬勵貢獻する處甚だ多い。政黨は政友會に屬し、他に指ヶ谷小學校後援會長、指ヶ谷町會會計等を勤めてゐる。資性濃厚篤實、矜愍の情に厚い。又信仰に厚く現に成田不動尊の一心講々主を爲し、町民の信望頗に厚いものがある。家庭は梅子夫人(四十七才)との間に日大藝術科在學中の長男滿君(二十一才)、次男喜久雄君、長女

悠揚不迫自ら大なる材幹として風格あり。家庭はとわ夫人(三十四才)との間に令息三人、令三嬢人の子福者にして、長男欣之助君は府立第七中在學中、長女幸子さんは國府臺學園に在學中である。因に電話は墨田六二六番である。

信念による淬勵は幾年ならずして業界に確固不拔の地盤を築くに到る。後三越百貨店創設の爲めに四谷區旭町に店舗を移轉し、愈々業績の擴大股盛を極め今日に到つた。曾つては山の手方面には所業一つだになく、爲めに高價にして而も古米を常用するの弊を看取し、之が改善を目的として率先其運動を開始し努力の功績空しからず現在三十七名の組合員を擁して益々善處す、組合創立以來推されて組合長の要職に就き業界に貢獻する大なるのあり。更に昭和十一年山手米穀卸商業組合創立せらるゝや其組合長に推され信念愈々厚いものがある。資性濃厚篤實、憐愍の情に厚く、思操堅實正義を愛好し自己に薄く他に厚き商業的武士道は、祖先の血を汚さざるもの、大正九年の米穀大暴落の如き場合にも超然として腹に納め黙々として後より輸送を約して之を實行せる等、其の風格心事の大なるを如實に語るものにして、今尙業界に炙炙されてゐる。現在の取引額一日約一千餘俵に



である。明治三十七年病歿するや、其家系を繼承して

淀橋區西大久保一八

東京山手米穀問屋
組合長
東京山手米穀卸
商業組合長

寺島徳太郎



氏は埼玉縣北足立郡上尾町の出身、明治二十二年四月二十

眞摯家業に精勵なし逐年業績の隆盛を來す。規模擴大し、磐石の基礎を爲すに至る。又町内に於ける信望極めて厚く「人を遇する春風駘蕩の如く、身を律する秋霜烈日の如し」とは蓋し氏の徳を示す至言といふべし、其の名聲の高き又故なきに非ず。現在諸會社重役等多數の事業を經營する傍ら町會の事務を管掌してゐるが、その精力の旺盛なること驚嘆に値する。昭和七年市郡併合以來向島區會議員に選ばれ、引續き現任中にして、昭和十一年十一月以來學務委員長に推され、大いにその抱負を實踐し、業績を擧げてゐる。現在の關係の事業は日本サク化工株式會社社長、葛飾瓦斯監査役、株式會社一徳社取締役其の他である。資性濃厚篤實

十五日新井己之助氏二男として生る。後士族寺島家を繼ぐ、幼にして川越市に出で、米穀問屋に奉公して刻苦精勵業を修め、多年の宿望を遂ぐべく、大正二年上京、角筈一番地に米穀問屋を開業した。爾來多年の經驗と武士道的商業道の強き

及び、従業員四十餘名、澁谷區惠比須、豊島區池袋の二ヶ所に支店を置く、又店員を役するに合理的且温情あり、毎期利益の四割を配當する等社會稀有の經營をなす。未だ不平を不聞、年々三四名の獨立者を出してゐる。

京橋區京橋二ノ六

京二西町會長 染谷 治兵衛

染谷藥局主 電話京橋一三二〇、二二五〇番



染谷家は創立以來三百數十年を閱する舊家にして、

氏は明治九年十月二十四日を以て染谷龜吉氏の三男に生れ、同二十八年雄志抑へ難く上京、某藥局に入りて修業すると共に獨學を以て藥學を研究し、東京府施行の藥種商試験に美事パスし、明治三十五年獨立藥種商を創業、これ即ち染谷藥局

の初めにして、爾來銳意經營努力の結果着々業界にその地歩を占め、大正十一年三階建洋館を建築して偉觀を呈したが、彼の大地震火災のため折角の勞も烏有に歸した。然るにその後更生の意氣物凄く、昭和七年には現在地に移轉、家業益々殷盛を極めて今日に至つた。氏はまた極めて敬神の念に厚くして、明治神宮には月詣りして昭和十三年一月にて二百八回に及び、伊勢大廟へは年詣りしてすでに二十回に及ぶといふ。

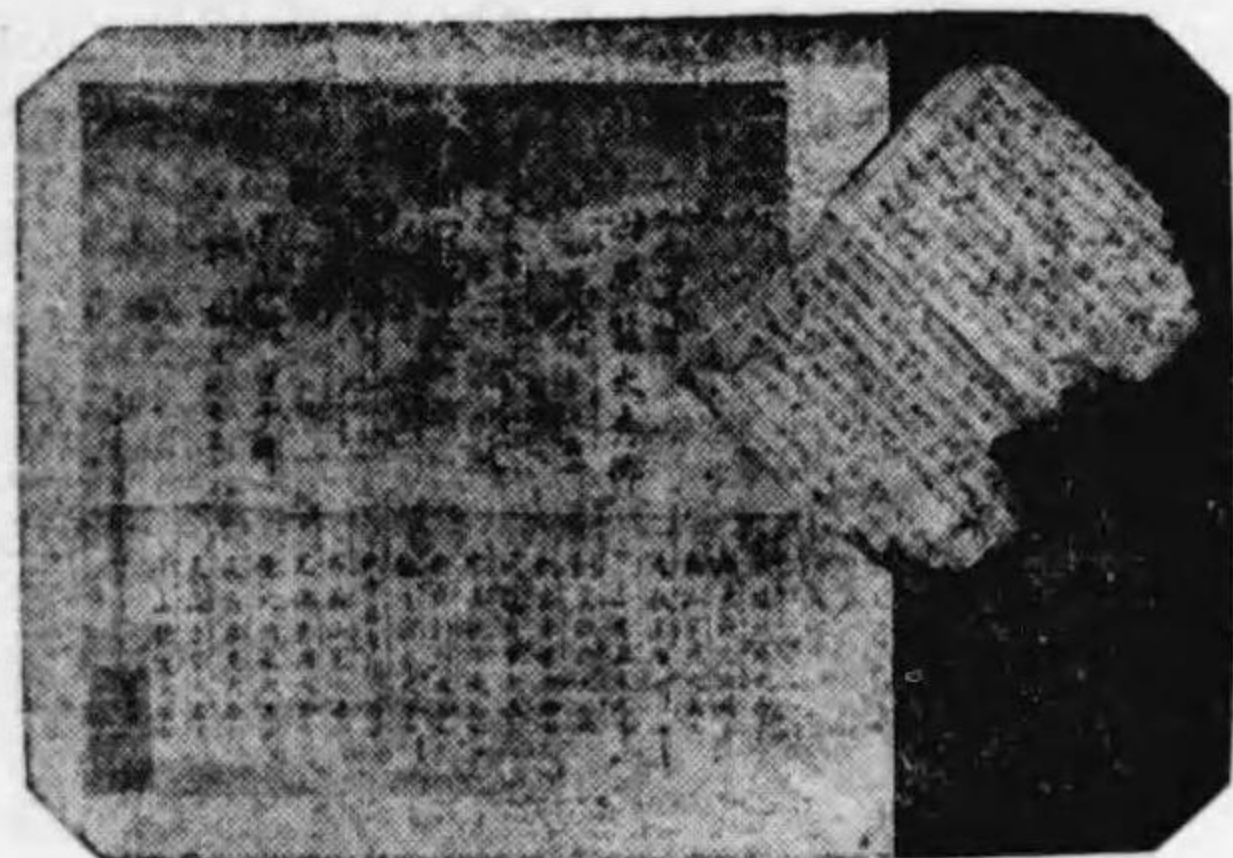
京橋二丁目西町會長並びに京橋藥業組合常任幹事として會計を擔任し、町會、業界に盡瘁するところ多大である。趣味は和歌。夫人たけさんは明治十六年生れ長男滋治氏は藥學士、二男博治氏は明治學院高等商業部在學、三男邦治氏は同學院中等部在學、長女豐子さんは慶應大學醫學部中山醫學博士に、二女喜子さんは早稻田大學出身橋本商學士に嫁し、一家益々繁榮を加へて。家庭はきはめて圓滿である。

牛込區山吹町一三三
山吹町會幹事
牛込區商組合
理 事 小山新吉



努力の人、汗愛主義の人、功の人である。抑

小山家は、その昔の名判官小山判官の直系たる舊家にして有數の名門であり、代地方の名望家と謳はれてゐた。氏は先考仁三郎氏の長男として、明治二十三年十一月十五日に呱呱の聲をあげ、僅か十歳の時、嚴父に従つて上京、日本橋區北新堀町小林啓助氏方に來住、間もなく京橋區北紺屋町の鶏肉屋に入りて奉公六年更に牛込區改代町の魚商店に入り二ヶ年勤めた。追風に帆を張つて進むは容易なことであるが、氏の如く幼時から數度の變轉と幾多の辛酸を嘗めてなほ決然たる雄志を抱いて成功の彼岸に男性的な抜き



小山家の尊き家系

手を切るもの、は尠い二十九歳の時は牛込區五軒町に獨立魚商を開業、厚利な性格と正

日に至つた。誠に氏の努力の偉大なる成果といふべきであらう。山吹町會幹事に推され町内切つての有力者であり、また牛込區商組合理事に選ばれ、魚新小山新吉の名は業界にも燦々たる光芒を放ち、今後なほ、隆昌の限りを盡さんとしてゐる。夫人ナツさんは石川縣珠洲郡飯田町宮本家の人、琴瑟相和して至幸至福の家庭をつくつてゐる。

豊島區池袋一ノ一三一

池袋公友會顧問 鹿島敏三

金物販賣商 電話大塚一八九六番

直な商法とにより漸次隆盛に向ひつゝあつたが、大正十二年怖るべき大震災火災に遭遇し、折角多年の努力を以て築き施業礎も、自然の猛威の前には如何とも施す術なく、その後數年間は氏に取つては嘗て修業時代の勞苦にも勝る努力と忍耐の期間であつたが、遂に誠實の花は咲いて昭和五年十月現在地に魚新と稱して盛大に開業、爾來隆々繁榮の一路を進んで今

資性快活明朗、衆望極めて厚き氏は大里郡別府村の人にして、明治二十三年十一月七日、故鹿島傳次郎氏の二男に生れた。生家は郷里に於て糸商を營み、數代相繼ぐ名門、母堂ヒサさんは齡古稀を超えてなほ矍鑠たるものがある。十五歳の時、日本橋區馬喰町瀬高金物問屋に入り、徴兵検査の時までは盆暮に僅か一圓づつの小遣で辛抱し、二十一歳で番頭と

なつて二十圓の月給を貰ひ、終始主家の繁榮を慮つて奮勵努力すると共に、業務の樞要を熱心に研究した。二十六歳にして赤坂區青山原宿に電線工場を創設經營したが不馴れのため五ヶ年にして閉鎖の止むなきに至り、その後某電線工場に勤務して大いに斯業經營法の研鑽を積み、大正初年、年不惑に達せんとする頃、現在地に金物販賣業を創始、初めのうちは非常な苦心と努力を傾けたが、大正七八年頃から次第に繁榮を呈し、爾來躍進した躍進の發展を遂げて今日に至り、現在は錫輸入も兼營し、業界に相當の羽振りを利用してゐる。家業に熱心で眞面目なること氏の如きは尠い。曩には町會副會長、同會計、青年團部長、國勢調査員等をなし、現在は池袋公友會顧問、警察後援會役員、豊島教育會評議員、第六小學校後援會常任幹事等の要職に推され、各方面から表彰されること八回、警察署からは銀盃を、青年團及び町會からは木杯を贈られてゐる。趣味は旅行、特に敬神

の念厚きが故に、常に東西に神詣の旅を
娛しんでゐる。

日本橋區堀留町二ノ八

東京針灸接骨同盟會長
杉山檢校遺徳顯彰會
副會長

吉田 弘道

電話浪花七三三・三四六二番

當吉田家は相當由緒深き舊家にして郷
里に於て代々農を業とせる名門である。
氏は即ち先代吉田七郎氏の長男にして、
慶應元年三月六日を以て入間郡柏原村に
呱聲をあげ、不幸三歳にして失明の厄に
遭ひ、十九歳の時上京、業界の權威とし
て、全國的にその名著はれたる神原學堂
氏の門を叩いて弟子となり、刻苦精勵、
研鑽努力の功成りて、明治二十三年獨立
開業するに至り、爾來溫厚篤實の資性と
卓越せる方技とを以て業界に漸次頭角を
顯はし遂に今日の隆昌を現出せしめた。
昭和九年十一月、日本赤十字社國際會議
開催の節、本邦獨特の針灸治療に關する
資料を多數出品して大いに參考に供する
ところあり、殊に各國人士に多大の驚異

を與へ賞讃の辭を惜しまざしめたる功績
は特筆に値し、社長徳川家達公より謝禮
状を送られたるは、獨り氏の光榮たるの
みならず、全日本に散在する業者の誇で
ある。斯業の研究以外何等他を顧みること
なく、これが氏の事業であり生活であ
りまた全生命である。曩に鳩山文相、平
生文相より表彰せられしは萬人周知のこ
と。夫人かとしは明治十七年の出生
長男正雄氏は沖電氣會社勤務の中堅社員
二男豐成氏は東洋大學支那哲學科卒業の
俊英である。

澁谷區代々木初臺

財團法人東京
育英實業學校長

粕谷義三郎



晉之氏（古谷村收入役）が繼承、現在六

氏は埼
玉縣入間
郡古谷村
の出身で
ある。實
家は令弟
代目位なりといはる。氏は明治八年十二
月十五日加藤氏三男として岳降し、明治
二十七年慶應義塾に入り正科三年修行と
共に退學、明治三十二年七月アメリカに
遊學サンフランシスコ市のロイエルハイ
スクールを経て更にスタンホード大學に
入り、教育學と英文學を研究して、明治
四十一年歸朝した。大正三年九月財團法
人東京育英實業學校を創立し其校長
として今日に及んだが、其間故澁澤榮一
子爵、故大川平八郎氏、故小池國藏氏等
の後援あり、氏の教育方針は、從來の形
式教育を排除し、完成教育（中等學校に
て）を施すを主眼とする。即人格の陶冶
心の教育に重點を置き、高級學校入學の
段階的教育は排斥するものなりといふ。
從而校舍設備完成せるに不拘生徒數を二
百名以内に制限し、中途入學等絶體に許
可せざるを見るも普通一般の教育に非ざ
るを知る。趣味は教育の外に餘念なく、
人格高潔にして溫容の風格、慈父の感あ
り。校社は四棟の外に寄宿舎あり、高臺

松杉鬱蒼たる林間に在りて勉學修養は勿
論健康上最好適の地たり、實に本校は我
國中等教育界の一異色として知らる。家
庭は待子夫人子女なく、閑寂和平を極む
因に電話は四谷五〇四一番である。

小石川區水道端一ノ四九

專修大學
教授 吉田 衛



當家は
豐橋市、
（舊吉田
町）の舊
家、森蘭
丸の末流

と稱される森家が久喜町に隱棲し、故郷
地名に因つて吉田氏を稱す。久喜町屈指
の舊家にして、現に先祖なる吉田右京之
介をはじめ累代の墓碑が同町天王院にあ
る。左京之介は慶長八年に歿せし人、代
代酒造業を營み、祖父元輔氏は埼玉縣會
議員たり、嚴父廉助氏は醫師、東京府會
議員たり、夫々地方自治に貢獻した人で

ある。衛氏は廉助氏長男として明治廿七
年六月十八日岳降、東京帝國大學法學部
政治科出身である。氏の抱負は國內の富
の分配の不均衡の是正、國外にありては
現状維持國家、英米佛蘇をして資源領土
の公平なる分配を行はしめることである
革新的方面の下に現に小石川に小石川革
新クラブを創始した。又勞資協力を標榜
する印刷工組合、働きませう會々長とし
て盡瘁する等主義主張の眞摯な實踐を行
ひ區長の信頼極めて強いものがある。曩
に小石川區學務委員、青年團長、町會長
小石川區會議員として貢獻する所あり。
實に學理と實踐を兼ね行ふ人と云ふべく
資性高潔清廉溫容にして自ら高士の風格
を存す。家庭は少く母堂、文子夫人あり
和平を極む。因に電話は小石川二三九六
である。

京橋區木挽町一ノ九

中島商工合資
會社代表社員

中島武平

電話京橋一六四一・五三五六番

氏は中島周治郎氏三男にして明治七年
七月二十六日の出生、生家は元祿年間以
前より繼續せる舊家である。氏は幼少よ
り霸氣に富み、明治二十年僅か十四歳の
時、大實業家を志して上京、神田區内某
器械銅鐵商店に住込んで業務を習ひ、十
九歳にして獨立營業を開始したが、二十
一歳の時、感ずるところありて陸軍關係
の革具製造業に轉じ、相當の業績を挙げ
た。明治三十五年八月、再び銅鐵器械商
を營み、不撓不屈の努力を傾け、同四十
二年には陸軍士官學校、戸山學校、幼年
學校等の御用達となるに至り、同四十五
年には東京陸軍兵器廠、中野電信隊材料
廠、現通信學校の前身たる陸軍無線電信
調査委員會に納入するやうになり、その
後陸軍兵器本廠にも出入し、無線電信電
話附屬器具製作に於ては日本有數の傑物
と稱され、現在直營工場二ヶ所、專屬工
場八ヶ所を有するも、現下の非常時局に
ては猶ほ需要に應じきれぬ程である。近
來無線工學の發達に連れて、製作品も漸

次複雑化し、工場も擴張に次々に擴張を以てするほど、事業量の増大を來せるため、従来の個人經營を資本金十五萬圓の合資會社に改め、古參店員を社員となし業礎益々堅固を加へてゐる。納税年額は一萬餘圓といはれ、大資産の程も察せられる。書畫に興味あり、盆栽を好み、業務多端中の寸隙を見ては悠々と楽しんでゐる。又公共事業、教育事業に盡力して令名高く、佛教に歸依信仰深くして東京各神社佛閣及び郷里の鎮守、菩提寺等へ寄進の金額は莫大に上る。夫人マキ子さんは明治二十二年生れ、長男武一氏は大正九年生れにして慶應商工學校を卒業し家業に精出してゐる。

神田區須田町二ノ一九

東京衣類市場會社

取締役代表 河野千代吉

氏の生家は文祿年間より連綿繼續せる舊家にして代々農をもつて家業とす。氏は先代故平兵衛氏の三男にして、明治八年十月二十二日岳降す。同郷縣會議員河

野和吉氏は氏の義兄に當る。氏の烈々たる野望は夙に實業界を志し、遂に明治三十年上京、明敏なる氏の慧眼は當時の洋服商に着目し同業に入り具さに辛酸を嘗めて修業すること十年、堅忍不拔の氏の精神は遂に明治三十八年獨立して業界へ雄飛の第一歩を印しよく精勵克己、商機を捉へるに明敏なる氏の手腕と相俟つて家業日一日と隆盛に向ひ、大正八年、店舗を改築し業務を擴張する等、前途益々多幸なりしに偶々關東大震災に遭遇、永年の結晶は一朝にして灰燼に歸せしも氏の不撓不屈の精神は微塵も怯まず、着々再興に努力し遂に昭和十二年資本金八萬圓を以つて合名會社を組織し、代表取締役の任に就いた。現在の販路は市内を中心に廣く關東一圓東北方面に擴張する隆盛振りなり。氏は又町政に盡瘁し昨年推されて町會長に就きしも現在は辭任して専ら家業に意を注げり。氏は全く立志傳中の人にて、家庭は三男二女の子福者なり、長男周一氏は京華商業出身、家業に

従事し、次男通次氏も京華商業出身にして豫備砲兵少尉、家庭に在りて待機中、三男武二氏は東大理學部天文科を卒業し又長女富子さんは、他家へ嫁し次女幸子さんは家庭にある。

小石川區指ヶ谷町一三三

白山三業株式會社社長
白山三業株式會社社長
共濟商工會社取締役

秋本平十郎

電話小石川六〇一七番



氏は信念の人である。強い意志と穩健な思想の持主

である。公益を重んじ、幾多公共事業に盡瘁し、東京市よりは道路改修功勞者として、小石川區よりは自治に關する功勞者として、共に表彰されし名譽の人である。明治二十五年一月、入間郡富岡村に代々農を營める舊家に故長次郎氏三男として生を享け、明治三十九年十五歳の時

上京、當時手廣く酒類卸商を經營せる秋

本鐵五郎氏の養嗣子となつた。明治四十五年従来の營業を廢し、現在の場所に料理業「かね萬」を經營、名聲大いに揚がり、同年六月養父は白山三業組合の組織に奔走努力して設立後組頭に推され、氏は若年ながら會計主任の椅子に据ゑられた。大正四年頃これを株式會社組織に變更し、養父が社長となるや、氏はその下に支配人として冴えた手腕を揮ひ、養父の長逝後は、社長に就任して今日に至り、白山三業地をして今日の隆盛たるに至らしめた功勞者であり、また白山キネマ株式會社社長として映畫興行界にその名を知られ、共濟商工株式會社取締役にも推されてゐる。また所得税調査員二期、小石川區會議員二期、東京府會議員一期を歴任、現在小石川區學務委員として教育自治に貢献しつゝある。柔道の達人にて弘道館三段の有資格者。ます子夫人は明治二十七年生れ、長女喜代子さんは京華高女出身の才媛にして目下家庭に家事

を見習つてゐる。

下谷區南稻荷町七七

株式會社 淺見源吉

株式會社 淺見源吉



順風満帆、社會の波に棹して幸運の追風に惠まれた

る氏は、郷土人の誇りとする偉大なる成功者の一人である。慶應二年一月四日、淺見嘉一氏の三男に生れ、盛衰の波に沈みし生家を再興すべく、明治二十五年、赤手を以て上京、警視廳巡を奉職すること五年の後、日清戦争後の財界好況を期に創立されし下谷商業銀行に轉じたが、約三年にして銀行破産の厄に遭ふや、氏は整理員となりて卓抜の手腕を揮ひ、生馬の目も抜くといふ都會人を驚嘆せしめた。次で裁判所書記その他を歴動してから、取手銀行支配人を勤めること三年、

遂に多年の宿願たりし獨立自營を企圖し明治四十二年僅か十圓の資本を以て錫鉛地金商を開業、粉骨碎身、夙夜淬勵して年毎に隆盛を加へ、遂に今日見るが如き大功を贏ち得、今や一ヶ年取引高百數十萬圓の巨額に上り、納税額二萬圓と稱されてゐる。昭和十年には組織を改めて資本金十萬圓の株式會社とし、同十二年には資本金二十萬圓に増資し、業界の雄と仰がる。また福殖無盡株式會社取締役、石川證券株式會社取締役を兼ね、推されて南稻荷町會相談役もつとめてゐる。趣味は多方面に亘り、義太夫に堪能なるほか、圍碁を娛しみ、演劇を愛好する。わき子夫人は不幸不歸の人にして、愛嬌くき子さん（明治三十六年生）に養子已之助氏を迎へ、淑徳高女在學中の才媛悦子さん（大正十三年生）をはじめ、源之助君（大正十五年生）憲治君（昭和三年生）榮三郎君（昭和七年生）等の令孫あり、淺見家中興の祖として氏の業績は燦然たる光輝あり、一家益々繁榮して幸福の限

りを盡し、因に電話下谷二三〇二番。

淺草區七軒町四

株式會社深山
洋紙店代表
取締役

深山金一郎

電話淺草八一六一番



當深山家は、埼玉縣北足立郡上平村の舊家に於いて累代名主役を勤めし名門の家柄、その家で先考新三郎氏の長男に明治十七年五月一日生を享けし氏は資性濃厚、その圓滿なる人格の中に俊敏の氣性を有し事業的方面に卓拔な手腕のある材幹、亦文字通り

見せて繁榮を來し遂に斯業界の重鎮と稱せらるゝに至りしもの、而し創業當時の苦心並々ならず、現在のこの隆盛は實に血と涙の結晶にて、大正五年には業務擴張の爲、現在の場所に移轉、益々繁榮を極め昭和九年資本金五十萬圓を以て株式會社に組織を變更、氏は取締役代表社員

を擧げた。大正六年青山師範學校卒業後東京府青梅小學校其他に教鞭をとること十四年、其の間體育と衛生に非常なる關心を持ち、當家々傳の靈藥「白王華」を普ねく世に弘めんことを志し、昭和四年斷然教職を辭して上京、賣藥業を創始、苦心經營淬勵の結果業績日々に昂り昭和十一年遂に株式會社藥有堂の創立を見るに到つた。爾來其社長として、敏腕を揮ひ益々隆盛今日に及ぶ、資本金六萬圓(全額拂込)其販路は内地及殖民地に及ぶ。「白王華」一方劑を以て今日の基礎を爲せるは、氏の努力の結果なりと雖も、其藥効の如何に顯著なるかを知らるに足る。之等悉く氏の信念たる「悠久なる過去を考へ、之に立脚して永遠の將來を慮り、現在に最大の努力を拂ふ」の眞理の所産といふべきであらう。資性濃厚篤實憐愍の情厚き徳望の人である。家庭はきめ夫人(四十五歳)との間に三男三女あり、長男雅義君(十四歳)長女マサ嬢(二十歳)は和洋女子専門學校に在學中である。

代名主役を勤めし名門の家柄、その家で先考新三郎氏の長男に明治十七年五月一日生を享けし氏は資性濃厚、その圓滿なる人格の中に俊敏の氣性を有し事業的方面に卓拔な手腕のある材幹、亦文字通り努力家にて十四歳の少年時、志を抱いて單身上京、直ちに神田秋田洋紙店に入りて業務を見習ひ、主家の爲に精勵する事七、八年、明治二十三年遂に獨立の自信を得て淺草小島町に店舗を設け、令弟富雄氏と共に刻苦精勵、業績逐年發展を

當家は入間郡精明村に出づ、代々名主を勤め、連綿十一代を傳ふる家柄にして曾て村収入役等をなした。氏は明治廿七年十二月六日清義氏長男として呱呱の聲

これを解散した。業務に熱心なると共に頗る公共心に富み、区内各種公共事業には率先盡力し、爲めに區民の信望極めて厚く、現在瀧野川區會議員、下田端町會長、瀧野川防護團評議員、下田端防護團理事、政友會瀧野川支部會計を兼ね、日露戰役に出征して勳八等白色桐葉章を授與されたる勇士だけに、支那事變勃發以來は寢食を忘れて應召家族の慰問出征兵の激勵など他の及ばざることを多々行ひつゝあり、また最近は傷病兵慰問の會を組織して大いに盡瘁貢獻してゐる。区内學校建築十數ヶ所完成の功により表彰せられたるほか各種表彰狀は二十數通を有し稀有の功勞者といはれる。陶冶されたる人格と穩健な思想の持主にして、越味は大弓、市内有數の弓術家である。夫人光子さんは明治二十六年の出生にて、氏との間に長男英利君(大正八年生)をはじめ、二男浩嘉君、三男裕君、四男喬美君、二女昌代さん、三女千枝子さん等あり、家門益々繁榮して霽々たる和氣に溢

なほ自宅は世田ヶ谷區代田町二ノ九六〇

瀧野川區田端新町二ノ二八

日本建築金物
工業所長
勳八等

柳留吉

電話下谷六〇三五番



非常時局下の町會長として事變勃發以來銃後援護に

十全を竭して寧日なく努力される氏は、埼玉が生んだ偉大なる成功者である。明治十五年二月十六日、柳吉五郎氏の四男に生れ、同三十三年十九歳の時、雄志を抱いて上京し、商店に奉公の傍ら夜學で商業學校を卒業、次で某會社に就職、苦學力行の後、明治四十三年獨立して建築金物工業を創始、軍需景氣の波に乗つて今や業績著しく擧がり、業界の覇者と稱される。また曾ては日本清函工業株式會社を創立して社長たりし事あり、その後

れてゐる。

京橋區月島西仲通四ノ一二

齋藤工場主
勳八等

齋藤利助

電話京橋一二二四番



齋藤家は郷里埼玉縣に於て數代相繼いで農を業とす

る名望家、氏は明治十六年一月十六日、齋藤清吉氏の三男として入間郡川角村に生を享けた。同四十一年上京、東京瓦斯會社に入り、幾許もなくその技能を認められ職工長に任じ、勤續十三年、精勵格勤の故を以て表彰せられ、畏くも明治天皇御大葬に際しては瓦斯會社より特に選ばれて御神火係を命ぜられ、且つ御轎車に附添ひブラットホームまで奉送せし名譽を擔つた。大正十一年十一月退社と同時に電氣水道衛生工事請負業をはじめ

たが、一年足らずに彼の地震火災に遭遇し、想像も及ばざる苦心と努力を拂ひし結果、着々業績を収めて遂に現在の地歩を占めるに至つた。誠に刻苦精勵粉骨碎身の成功者、立志傳中錚々たる人といふべきであらう、先に澁澤榮一氏よりは表彰状と共に銀時計を贈られ、逕信大臣よりは防火感謝状を受けた。資性濃厚質朴にして剛健、菊の栽培に興味あり、國光會の一員にして、昭和十二年自培の「霞ヶ浦」と稱する菊花を乃木神社に奉獻して一等席賞状を受けた程である。公共事業に竭するところも多く、曾て京橋月島四ノ部會幹事として信望ありしも現在はこれを辭し、京橋月島第二小學校學術獎勵會常任理事、京橋區月島振興會會計を兼務する。なほ氏は日露戦役に出征して滿洲の曠野に轉戦、功により勳八等に叙されてゐる。夫人ツネ子さん（明治二十三年生）との間には、長男利勝氏（明治四十五年生）をはじめ、長女アイ子さん、二男正勝君、二女ハルエさん、三男清勝

君、四男常博君、三女ヒサエさん、四女スミ子さん、五男和郎君があり、家庭は圓滿幸福を極めてゐる。

神田區岩本町一三

鋼鐵商會會社 佐藤佳二
佐藤商店主

氏は北足立郡大和田町の出身である。

家は代々名主を勤めた舊家にして、氏は故作一郎氏の二男として、明治十一年三月五日に呱呱の聲を擧げた。十七歳のとき上京し、東京商業學校を卒業後鐵商に志して研究すること多年、其間苦學力行に螢雪の苦を嘗め遂に大正六年氏が四十歳のとき現在の地を人して鋼鐵商を創立した。爾來其の豊富なる經驗と、倦むなき眞摯精勵は、逐年の擴大興隆を見るに到つた。現在に於いては更に合資會社組織になし、自ら其社長として畫策活躍なしつゝあり。一ケ年の取引百數十萬圓に及び、業界の信用亦益々高いものがある。資性濃厚且剛毅眞摯の人にして、苟も他人に阿諛することを慾せず、清廉高

潔にして毅然たる高士の風格あり、而も黙々業務の外趣味を覺えずといふ精勵家である。家庭は内助の功高きよし子夫人（六十三歳）との間に明治大學商科出身の英夫氏（三十）があり、常に春風和樂を極む、因に電話は浪花三七三一、三七三二番である。

本郷區湯島天神町一ノ七一

東京株式一般取引員 小林光次
角和商會主

氏は明治二十五年五月五日勇吉氏二男として北埼玉郡川邊村に呱呱の聲を擧げた。實家は郷土屈指の舊家にして、令兄小林清三氏は現に川邊村長たり。氏は二十歳のとき上京して、株式界に入りて業務を見習ひ研究に寧日なき努力を傾注し、後分家して一家を創立した。大正九年一月東京株式現物組合員として獨立なし、爾來眞摯なる斯業界での活動は、業界の信望大で、昭和六年東京株式短期取引員、昭和八年更に東京株式一般取引員となり現在に及びしものである。

角和商會と稱し、公稱資本金百萬圓、納税二十五萬圓に上り、現在店員百餘名に及び、年と共に旺盛を極む。氏は事業信念として堅實を第一義とする人、世に處する又地味謙讓、趣味は事業に没頭する以外になき、眞に事業に生くるの眞面目の人である。關係事業として、昭和十一年より盛岡電燈取締役、日本工機株式會社監査役を勤め、東京株式取引所短期取引組合委員の公職に在る。家庭はと

の夫人と早稲田大學商科出身の養子啓三氏（二十四歳）で常に和樂を極む。因に商會は日本橋區兜町二ノ二五、電話は茅場町五六三四、六八四一、二〇六九、二〇七〇、三四二九、五九三七、九九五〇番で、自宅は下谷の六七五四番である。

本所區石原町二ノ一七

逸見耳鼻咽喉科 逸見銀三郎
院長

電話墨田四一五二番

氏は兒玉郡東兒玉村の産、明治二十七年三月十四日を以て故逸見友次郎氏の三



男に生れた。生家は現在令兄正親氏が相續して居り、

代々八郎右衛門氏を襲名して十數代連綿たる舊家にして、名主等をつとめたる名門である。祖父は畫家として知られ、號は東鶴、特に日本畫に靈腕を持つてゐる氏は少年時代を郷里に過し、縣立熊谷中學校を経て岡山醫科大學に入り、大正九年これを卒業と同時に東京帝大岡田一郎博士に師事して研究すること二ケ年餘拔擢されて同博士經營の根岸養生園副院長となりて更に博士の指導の下に實地の研鑽を積むこと十餘年に及び、昭和七年獨立して現在の場所に耳鼻咽喉科醫院を開業經營した。多年の經驗を基礎にせる確實なる診斷治療は忽ち患家の信頼を博し、今や門前市をなすの盛況を呈するに至つた。醫院は總建坪百餘坪、病室七十



玉縣北埼玉郡新郷村の出身である。當家は代

阿部内科 阿部十郎
小兒科醫院

代名主を勤めた舊家にして、嚴父（八十歳）は漢法醫鍼灸術を以て醫術の道に貢獻した人である。當主十郎氏はその男として明治二十年八月二十四日の岳降で

ある。朽木縣阿波郡笑井村小學校を卒へ
中學出て、明治四十五年日本醫大の前進
日本醫學校を卒業後、東京泉橋慈善病院
第一高等學校衛生室醫局に大正九年迄勤
務なし、之を辭して麻布區狸穴町に内科
小兒科の専門科目を設けて獨立開業爾來
氏の高潔良容の人格と臨床的蘊蓄は一般
の信頼愈々厚きを加へ、繁忙を極めてお
る。現に芝區濱松町二ノ三ノ四に出張所
を設けてゐる。治療室、控室、藥局等の
設備も完全最新にして使用人は看護婦の
外書生、運轉手等皆氏の温情を慕ふ、殊
に神經痛、腦背髓症等に於いて其妙手を
普く知られてゐる。氏は醫術のみならず
町會相談役、醫師會理事、防護團理事と
して貢獻する處あり。氏の趣味は書畫骨
董、讀書である。次男重正君(二十二歳)
は慶應大學醫學部豫科在學中、長女三重
子嬢は双葉高女在學中である。

本所區綠町二ノ一

大橋醫院 大橋幸三郎



氏は埼玉縣南埼玉郡南埼玉村の出身
實家は徳川初期より
り連續せる名門にして、代々武右衛門と
稱し庄屋を勤めた家柄である。氏は慶應
三年四月十三日故助三郎氏五男として呱
呱の聲を擧げた。明治二十年醫を志して
上京なし、濟生學舎に入學して明治二十
五年卒業した。頭腦明晰秀才を以て知ら
れ、明治二十二年在學中既に、開業試験
前期試験に合格し、卒業と同時に後期實
地試験に合格、醫術開業免許狀を得た。
明治二十六年本所區綠町に於て内科小兒
科を専門科目として開業し爾來氏の温良
の風格、仁慈の情は氏の明徹なる臨床手
腕と相俟つて名聲噴々たるものあり、本
所一帶健康の父として敬仰せられ今日に
及ぶ、昭和十年更に現在の地に移り益々
信望を博してゐる。又本所區醫師會理事

氏は埼玉縣南埼玉郡南埼玉村の出身
實家は徳川初期より
り連續せる名門にして、代々武右衛門と
稱し庄屋を勤めた家柄である。氏は慶應
三年四月十三日故助三郎氏五男として呱
呱の聲を擧げた。明治二十年醫を志して
上京なし、濟生學舎に入學して明治二十
五年卒業した。頭腦明晰秀才を以て知ら
れ、明治二十二年在學中既に、開業試験
前期試験に合格し、卒業と同時に後期實
地試験に合格、醫術開業免許狀を得た。
明治二十六年本所區綠町に於て内科小兒
科を専門科目として開業し爾來氏の温良
の風格、仁慈の情は氏の明徹なる臨床手
腕と相俟つて名聲噴々たるものあり、本
所一帶健康の父として敬仰せられ今日に
及ぶ、昭和十年更に現在の地に移り益々
信望を博してゐる。又本所區醫師會理事

板橋區板橋町一〇ノ二九〇八

新井 繁

電話板橋一三三〇番

新井家は平忠文の後裔新井與右衛門清
則を祖とする舊家にして、郷里の大里郡
別府村に於て代々名主或は代官職をつと
めたる家柄、當主を以て、十四代目とす
る。氏は現當の令弟にして先代文作氏の

三男、明
治三十一年
二月二十
四日を
以て生れ
た。性温



氏は北葛飾郡幸手町の人の祖は薪炭商を營める舊家に、明治二十七年四月二十六日先考傳三郎氏の長男として生を享け、同四十二年雄圖を抱いて上京、工業藥品商店に入りて實地を修業すること約十七年、休む暇もなく刻苦淬勵せし甲斐あり、大正大震災後、同十四年獨立して多年經驗を積みし工業藥品商を開業し、堅實をモツトに着々確實なる基礎を築き、昭和九年には苦心研究の結實たる澤庵漬の素を發明してこれが專賣特許をとり、爾來日尙淺しと雖も販路頗る多く、その成績極めて良好にして、關東一圓は勿論の事、東北、北海道、樺太地方にまで浸潤し、最近に於ては朝鮮へも多數販賣するに至つた。極めて稀に見る活動家にして、常に家庭に落着いてゐることなく、業務擴

小石川區大塚坂下町一四五

魚計惠 小山慶治郎

電話大塚七五六七番

實直の中に融通無礙を含み、業界有数の博識多才を以て鳴る氏は、故小山仁三郎氏の二男にして明治二十八年二月二十日の出生である。二十歳の頃、牛込區西五軒町に於て令兄新吉氏と共同にて魚商を營みしが、當時東京に於ける魚屋は料理業を兼營せざれば成功覺束なしと悟り地方に於て割烹を研究習熟せんものと思

神田區東神田二ノ一三三號

染料工業藥品商 澤庵漬の素發賣元 染谷精一

電話浪花七〇八番

厚にして元氣強く、夙に獨立力行の意氣に燃え、豐島區池袋四八番地に於てフライビンズ製造業を創始、日毎に隆昌の度を加へ、間もなく業務擴張のため同町一ノ一三一へ移轉し、また板橋區内の貧民救濟の趣旨を兼ねて工場を板橋區内に設置し、現在使用人員五百人に及び、年製造高十萬貫をかぞへ、フライビンズの王者といはれてゐる。現時町會及び青年團役員をつとめるほか愛染銀座商勵會副會長に推されて公共に竭し、各種公共團體よりの表彰數回に及ぶ功勞者である。

考中嚴父の逝去に遭ひて歸郷、偶々福島縣下に嫁ぎ居りし令姉と同道して同縣下に赴きて二年間魚屋を經營、次で發心して仙臺市に至り、同市内有名料理店をはじめ宮城縣下各地の主要割烹店に勤務研究、幾多の苦心を累ねて遂にその蘊奥を究め、大正十二年の關東大震災直後再び東京に出て魚商を創め、爾來熱心に商賣に従ひ、旭日昇天の勢を以て同業界に頭角を擡んじ、遂に今日の如き盛業となるに至つた。機を見るに敏にして商才に長じ、人格また陶冶されて興望あり、推されて大塚坂下町會役員五回、小石川魚商組合理事數期をつとめ、昭和十年には坂下町會長より誠意克くその任務に盡瘁し勤勞尠なからざるにより感謝状を寄せられた。令聞よねさんは茨城縣東茨城郡片倉村武田善次郎氏長女にて淑徳の譽たかく、氏との間に長男敬一君、二男仁六君があり、家庭頗る平和圓滿で春風洋洋たる感あり、附近町民の羨望するところである。

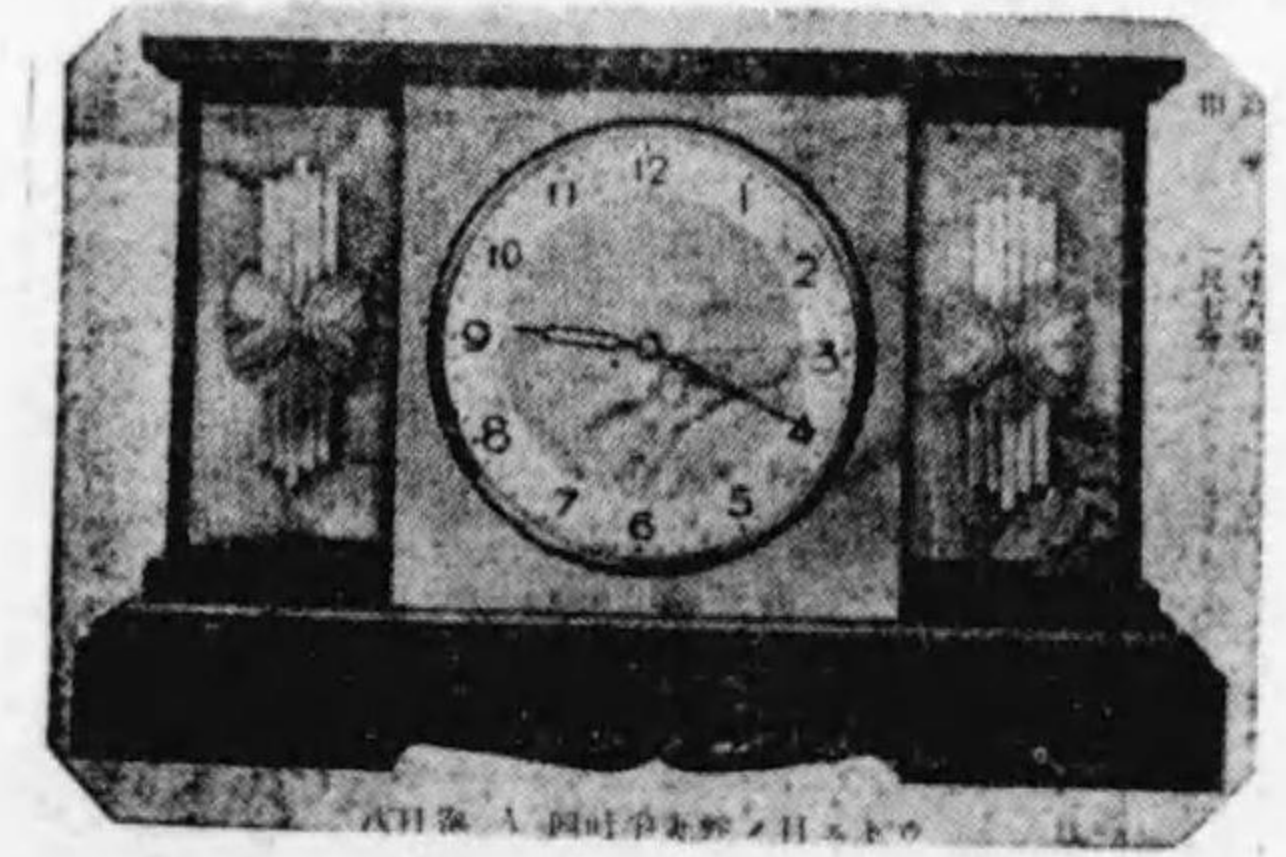


板橋區板橋町一ノ二五三八
柴崎大理石店工場

電話板橋三〇九番

當工場は、大正四年頃、柴崎宇人氏が從來手仕事として

來りしものを機械を買入れて近代工場組織にせるものにして、工場坪數三百坪、従業員二十餘人を有し、大理石置時計枠製造では日本一とまでいはれ、年産一萬六千個、遠く海外にまで輸出されてゐる。柴崎氏は大理石の肌のやうな滑らかな感じの人、明治二十一年九月、柴崎彌太郎氏の二男として北埼玉郡太田村に生れた。令兄は柴崎家十二代目を繼いで、農に従事しつゝあり、始祖は約三百年前の人で、代々名主をつとめた家柄である。氏は十三歳の時、青雲の志を抱い



本品見本

製 狀を受けること數回に及んで夫人との間に七人の愛兒あり、長男清治君は目下府

て上京、上野大理石工場に入つて技術を習得鍊熟し旭川輪重兵隊除隊後、獨立自營の途を開き、營々辛苦、遂に今日の大をなすに至りし立志傳中の一人にて、南畫に興味深きはその人柄を忍ぶに餘りあり、家業の傍ら推されて埼玉縣人會評議員、板橋町救護委員、國勢調査員三回、東京府方面委員、町會長等を歴任、公事に盡瘁頗る多く、警視廳その他より感謝

立工藝學校に在學し秀才の聞えが高い。
小石川區小日向水道町六四

米穀商 駒 たけ

電話大塚四七四七番



信仰の念厚く、人に接しては懇篤丁寧、しかも商才

に長ずる駒タケさんは宮内權三郎氏の長女、明治十年八月十六日を以て生をこの世に享け長じて駒重次郎氏の許に嫁いだ實父權三郎氏は郷里埼玉が有する成功者の一人にして、四十七歳の時離郷、小石川區第六天町に酒商を創め、粉骨碎身、日夜怠ることなく精勵して家産の大を致し、商賣益々繁昌を見、現在はその孫宮内靜子さんが清次郎氏を養子とし、令弟重次郎氏は資性英邁にして機才に富み、

家業に全力を傾けて働きし、溫篤の人格者、現在は淑徳のほまれ高き米子さんが養婚辰五郎氏を迎へて家督を嗣ぎ、益々産を殖やし、店舗を擴げ、米穀商仲間の羨望をあつめるほどの繁昌を呈してゐる米子さんは牛込家政女學校出身にして頭腦明晰にして資性明朗、一女芳子さんを有し、芳子さんは府立第二高女に通學中にて、成績拔群を以て級中に鳴る才媛である。

小石川區第六天町四
武藏屋酒店 宮 内 睦

電話大塚四七二八番

畏くも 明治天皇の御製に「國をおもふ道にふたつはなかりけり軍の場にたつもたぬも」と仰せられ、國民奉國の道を御教へ遊ばされた。わが宮内睦氏はこの有難き御歌の通り、銃前銃後の兩面に於て盡忠報國の誠をつくしつゝある人である。大正五年六月六日を以て故芳郎氏の二男として呱呱の聲をあげたのである

が、家業酒類商は、祖父權三郎氏が明治三十二年上京し現地に創業し、爾來銳意經營に萬全を致して今日の隆盛を見るに至りしものにして、祖父は上野盈三氏の令弟に當る。嚴父は商賣熱心な篤實家と稱されたが、惜しくも四十二歳にて永眠された。氏は若年ながらよく父祖の業を承けて精勵努力し、將來多幸多望の青年として大いに期待されてゐる。昭和十二年二月滿洲派遣部隊に屬して現に國境守備兵として酷暑酷暑を物ともせず一意盡忠の誠を捧げ、隊内の模範と稱揚されてゐる。資性溫厚篤實、寫真に興味ありて相當の技を有する近代的青年である。母堂マスさんは明治十四年生れ、令姉靜さんは明治三十七年生れて神田家政女學校出身の才媛家庭は頗る平和圓滿である。

醫學博士 奥 富 孝 祐

電話大塚五七四番

學識深けれど傲らず、技術卓拔なれど



慢らず、
温厚篤實
文字通り
圓滿の人
格者たる
氏は、埼

玉縣は、奥富長三郎氏の長男として、明治二十年二月二十八日を以て生れ、浦和中學及び金澤第四高校を経て、京都帝大醫科に學び、同校卒業後も暫らく母校研究室に残つて夙夜研鑽を積み、大正九年開業したが、開業中も東京帝大に通つて研究を続け、遂にその勞成り、「軟骨頭蓋の發生」なる論文により名譽ある醫學博士號を授與され、獨文にて發表するや世界醫學界は爲めにその偉業を賞讃した。氏の如きは實に埼玉が生める郷土の譽れである。長男氏は日本醫大を出て目下日本赤十字社病院に研究勤務中にしてその將來を囑望されてゐる。その資性は尊父孝祐氏の血をうけて温厚、而して頭腦明敏である。



麻布區龍戸町六三
敬神家 熊倉良助

明治八年四月五日の岳降、幼にして郷里の學校を修了、後東京に出で米穀界に入る、業務研究の傍苦學を爲し、具さに螢雪の苦を嘗む。三十一歳の時獨立深川區佐賀町に米穀廻米問屋を創設し、淬勵經營遂に幾何ならずして、巨萬の富を得、斯業界の牛耳を把るに至つた。當時蠟燭町米界に於いて熊倉將軍の異名あり、東京米穀貿易商組合、東京廻米問屋組合、東京雜穀組合、東京豆粕商聯合會等の重鎮として多大の貢獻をなし、全國の斯界に其の名を謳はれたが、大正三年翻然として痛感する處あり業界を隱退し、爾來

二十餘年日本神道の研究に没頭、其間の苦心は實に慘憺たるものあり、言語に絶す。秋霜烈日のいとひなき修養を爲し、今日の悟道に入る。實に國家中心の大いなる信念の人にして、言一度、國體のことに及ぶや。多年の深淵の如き研究は忽如、霹靂奔瀑の如く、何人と雖も伏せずば在るべからざるの概あり、今後に於ける活躍こそ刮目してまつべきものあらん實に氏の如きは眞理一如の境地を確把せる敬神家といふべきである。家庭はうた子(四十五歳)夫人、長女正子嬢(二十歳)日大第三中學在學中の長男良治君十六で靜肅和樂を極む。

附 大正十一年十一月十三日神明不言記の言を聞き、明治神宮御大祭に際し帝國全版圖の廻米問屋を指令し、代表産米奉獻の議を行ひ、更に思想統一の根本實義に就て内閣に建議した。大正十二年明治天皇陛下御着用の一絹帽(シルクハット)一フロックコート上衣

右公爵家鷹司家にて 聖上の御形見として御拜領後鹽小路家に傳はりしものを熊倉氏の敬神至誠に感じ寄贈を受け邸内に奉齋せり。大正十四年十一月十日 明治天皇印集木版本上下三冊一箱を明治神宮に奉納せし所明治神宮に於て直に境内桐材を以て箱を製作して寶藏してゐる氏はその受納證を受く。

御尊像 明治天皇陛下稀世の御尊像は由來 鑄金の大家岡崎雪聲、宮中に

召され親しく、天顔に咫尺し奉ること許され、數ヶ月に亘りて 龍顔を拜し奉り 後齋戒沐浴心血を濺いで 御三體を謹彫し奉り御嘉賞を蒙りて、御一體を宮中に奉安あらせられ、御一體は明治神宮御寶物殿に列し、他の御一體は即ち大正十一年十一月不測の由縁に由り深川區佐賀町の熊倉家に奉安して朝夕禮拜して在りしが、大正十二年九月一日の大震災に際し、不思議にも其の災厄を免れ、火中を脱して、繫留の船中に移御なし約十日の後小石川區事に奔走す。郷里に在



小石川區第六天町一七
陸軍技術本部員 新井竹太郎

水道端町に奉遷、更に麻布區龍土町の僑居に奉迎し奉り、朝夕禮拜奉仕せる稀世の尊き 聖像である。大正十五年三月深川區富岡八幡宮震災に焼却せるに依り、自家の家寶、後光明天皇勅筆御繪一軸箱付、靈光天皇御親翰竹退年十一軸箱付の二點を献納し、宮司富岡宣永氏より寶物として保管する禮狀を受けた。

當家は 阿部豊後守の臣新井十郎より連綿三百年を傳

秩父方面の養蠶事業の開發に奮勵貢獻なし、金成社(埼玉縣養蠶改良事業社)教授長として蠶業改良に没頭せる等功勞大なるものあり。後東京に出では神田明神平田先生等と交り、大いに國學の振興に力む、又和歌をたしなみ吟詠又極めて多い。日本橋魚河岸常盤稻荷神社神官たり大正十二年多くの逸話奇行を遺して長逝された。當主竹太郎氏はその長男として明治二十年五月十六日に生れ三十九年一月上京し陸軍技術本部に雇はれ傍ら獨學を以て工業殊に機械學を専攻すること數年具さに螢雪の苦をなめ、引續き陸軍に奉職して累進今日に及ぶ、氏は嚴父の衣鉢を繼ぎ書道を研究する事多年唐宋三千年來の書道を研究し盡し、其精力の旺盛なる實に稀有の材たり。現在我國斯道に氏と並ぶ者指を屈するに足らず。又漢學を中島玉振先生に師事し、且文字學を修む。更に氏は越味として鐵筆に入り斯界の第一人者河井荃盧先生に師事して多年の研究を積み、其篆法の蒼潤にして典雅

なるは已に斯界に定評あり、其名を全國に知られてゐる。富豪岩崎氏一門、木庄大將、湯淺前宮相、稻垣子爵、故鎌田榮吉氏等政界知名の士は氏の篆刻以外に用ひないときまでいはる。又南畫にも堪能にして政治家、實業家等より成る無聲會同人として知名である。現在又故人の爲めに印譜の著述に着手してゐる。東京書道會理事兼審査員、京都平安書道會興贊員、説文會幹事(大正十五年以來)神田如水會館篆刻會指導等を勤め、大正十一年平和博覽會に入賞、昭和八年第二回東方書道會展覽會最高賞を獲得してゐる。資性濃厚清廉にして温雅の風格は夙に多數知名士の間に信望あり。



氏は明治三十年七月二十日土地六日土地屈指の舊家たる實

菊子夫人は常に清貧に甘んじて氏の今日の研究と大成を爲さしめた内助の譽高き賢夫人である。長女梅子さん(二十五歳)は共立女子専門學校出身の才媛である。家庭は常に團樂清風靜に流れ、和樂そのものである。因に名は淋、字は玉淋別號翠竹冬蹄夢樓と號す。

書家 野本實

號「白雲、別に萬石」

家に故榮吉氏の二男として呱呱の聲を擧げた。郷土の小學校を卒へて、埼玉縣師範學校に入學、當時習字の師たりし岩田鶴鼻先生に學ぶ、書を愛する事は殆ど天性に出で、こと書學に關し一度其見聞に入れば半平記憶に存し之を忘るゝに忍びずと云ふ。松田南溟先生の知遇を受け、その半生の精力を傾倒して、苦心探究せる千古書法の奥義と、牌版法帖の學を悉く授かる。後年書道界雄飛の根柢は實に茲に築かれたものゝ如し、曾て平凡社に於て書道全集發刊の計畫あるや招かれて

編纂の任に當り、殆ど獨力能く全廿七卷を完成した。此書は質、量共に書道出版界に一時期を畫するものである。後更に和漢名法帖全集正續十八卷、習字本大成二十四卷を完成なし、又個人の筆蹟全集として内外古今に其の例を見ない弘法大師眞蹟全集編輯に勉勵して十八卷を完成した眞摯なる書家である。昭和十年書藝院を創立主宰なし、現代書道、書藝、兩雜誌の刊行を爲して、大いに天下に呼び掛けてゐる。昭和十二年以來更に書藝院と書道の一大團體となして書藝界に活躍しつゝある。又横濱市に五萬圓を投じてキリンビール開源記念碑設立せらるゝに當り同碑文を依囑せられ、十二年十一月完成したが碑文は竹腰與三郎氏の撰であつた。現在東方書道會協贊會員たり。斯界に貢獻する處甚大である。資性極めて眞摯清廉にして温良典雅の風格の人である。家庭はせき子夫人(四十才)と一男二女あり團樂和樂を極む。因みに電話は大塚の九九八番である。

豊島區高田豊川町四三

酒類商 宮内玉藏



當家は上野主人の直系にして、嚴父權三郎氏は盈藏

氏の實弟である。明治三十五年權三郎氏青雲の志を抱いて上京なし、小石川區第六天町に酒類商を開業して着々其業績を擧げるに到つた。玉造氏は明治十七年權三郎氏次男として呱呱の聲を擧げ、十五歳の時嚴父と共に上京し、爾來長兄と共に家業を補けて精勵した人である。資性極めて眞摯にして温良篤實な人格の所持者である。明治四十二年九月一日現在の地に分家開業なし、以來一層の奮勵努力寧日なき奮闘は遂に現在の盛業を招來したもので、町會會計を永勤し町會幹事として重きをなし、人望頗る重いものがあ

る。長男謙一(二十八歳)氏は早稻田實業卒業、奥戸精糖製油會社に勤め、二男正二君(二十五歳)は慶應法科在學中他に一女あり夫人は内助の賢女である。

小石川區小日向水道町六四

高橋シチ



今は未亡人たるシチさんは、北埼玉郡鴻莖村大字芋

莖の舊家繁山仁三郎氏の長女として明治二十年三月十一日に出生、長ずるに従つて男まさりの氣性の發揮、夙にその將來を刮目期待された。後高橋大吉氏に嫁し、夫君の片腕となつて内助の功を擧げ他の範として推賞措く能はざるものがある。大吉氏は小間物商を營み、他面區内のことに斡旋奔走するところがあり、終に小石川區會議員、その外の名、公職

に推學されて盡瘁すること永年、功績多大、昭和十三年二月、八十一歳の高齡を以て物故されたが、氏の區政に遺した偉大なる足跡は、今も區民にたゞへられてゐる。

豊島區長崎南町一ノ一九三六

小林恵一郎



當家は小山七郎政種の末胤である先代又司氏は現に



祖父啓助氏はその長男とし

治三十五年九月十日に呱呱の聲を擧げ中

央商業を卒へて専門部に進み、英才を以



祖父母八重子さん

邊銀行に奉職した後、株式會社第一無盡に入社、爾來寧日なき努力と眞摯なる精勵は實に入社以來十年一日の如く、遂に外務部長の椅子を占むるに至つた。趣味は邦樂、江戸小唄(何れも八犬傳)江戸史跡研究である。家庭は美代夫人(三十二歳)との間に長男輝(四歳)君あり、常に春風和樂を極めてゐる。因に祖父啓助氏に小山七郎政種の次女たりし祖母八重さんが嫁し、その長女センさんに又司氏が養子となりたるものである。

京橋區築地三ノ六

東京魚市場株式會社代表取締役社長

田口達三

電話京橋六八五三番

て知られたる人卒業後東京に出でて先づ魚商を經營して營々として努力、また努力を重ねて奮闘、遂に堺屋商店として斯業界に確固たる位置を占めるに至り、それと共に行くところ止まざる活躍に業界の信望高まり、就任されて東京魚市場組合長の重責に荷ふに至つた。その任に就くやます／＼衆望あつく、盡瘁功勞も多大なるものあり、殊に大正十二年中央卸賣市場の取引機構の變更に際して當組合員壹千三百名を擁して斯業界の爲いろ／＼な情實、陋習を斷然として破り、その強き信念は遂に魚市場問屋組合權を會社組織に改めて資本金參千五百六拾萬圓を以ていまの東京魚市場株式會社を創立した。それと共に現職の代表取締役社長に就任、今や斯業界の重

鎮として推服されて名聲噴々四隣に普くその一舉一動期待を以て業界よりは勿論の事、一般市民よりも注目されてゐる。氏はまた家庭にありては義太夫を趣味としてすでに素人の域を脱し、悠々たる餘裕を見せてゐる。

秩父郡高篠村栃谷

村會議員 梅澤 馨

梅澤家はその創始は頗る古昔の事に屬し、年代不詳なるも享保以前の事と推定せらる。代々専ら農を以て業とす。嚴父嘉平氏は織物業の有利なるに着眼して之を開業せしが、後、栗島彌五兵衛氏と共に同じ織物業用の型紙の製造販賣業に轉じて成功し、現在に至つてゐる。嘉平氏は六十三歳頗る健勝にて活躍中である。馨氏は明治三十年三月五日、その男として生れ、陸軍歩兵第六十六聯隊に入營、伍長に任ぜられて除隊し、シベリヤ事變に出征して勳八等を賜はる。消防組班長副組頭、組頭等を前後十五年間歴任して現在に至つてゐる。在郷軍人分會長五年間勤続し、現に顧問を勤めてゐる。分會のため盡瘁これ力め、莫大なる寄附金をなすなど、今日分會の基礎鞏固なるは氏の努力に由るといふ。現に村會議員に任

ぜられ、社會教育委員を兼務してゐる。

村小學校の御眞影奉安殿建設には、その發起人としてこれを完成した。弓段に練達し二段の榮位を獲得してゐる。人格は圓満温厚であつて人望甚だ大である。四男一女あり、一家常に和樂を極めてゐる

樋口村梁瀬

村會議員 南直三郎

南家は當地屈指の舊家たる本家の、分家筆頭である。代々年貢を江戸へ運送する役を勤めてゐた。直三郎氏は亡父福次郎氏の男として明治十年九月五日に生れた。夙に製絲事業に身魂を打込んで努力し、功勞甚だ多大なるものがある。區長及び消防組小頭を二十數年間勤続し、埼玉社梁瀬組理事を歴任して、現に組合長として盡瘁するところあり、更に養蠶實行組合長、農事實行組合長、農會評議委員、學務委員、方面委員、製糸組合聯合會理事を兼務して、現に村會議員に任ぜられ三期間に及ぶ。産業に自治に往くと

して可ならざるはなく貢獻寄與甚だ力めて、功勞頗る著大である。長男甚藏氏(三十四歳)は熊ヶ谷農林學校を卒業し、實業教員養成所を卒業樋口小學校訓導を奉公中であつて、前途多望多屬の新進教育家とせらる。なほ四男三女あり、家長の圓満高雅なる徳風は一家を化して至樂至福の門とし、比隣仰いで悉く敬仰するところである。

樋口村

村會議員 吉川清作



頭腦明晰にして長じて檢定試験に合格し教職に就き

上小學校、樋口小學校、國神小學校を歴勤、二十年間次代國民の教育に努力鞏掌し大正九年退職し、屈指の教育功勞者として稱され縣教育界より表彰を受けし事のあ

る氏は、明治十年六月二十八日の出生にて今は亡き先代藤十郎氏の男である。育英界より身を引きし後は専ら自治及産業の發達に意を用ひて村會に出馬し引續き三期目を現任中、兼ねて學務委員の任にもあり、亦埼玉製糸組合理事の重職にあるは十年前よりの事、その各方面に一身を挺して盡瘁する努力は村民の等しく感嘆するところ、功勞は村史の上に燦と輝き、人望四隣に普き及んでゐる。家庭は春風洋洋として圓滿を極め、夫人との間に六男一女あり、長男晃義氏は埼玉師範出身の俊敏の氣性に富む俊器にして野上小學校に奉職してゐたが、今次の日支事變に召集を受け、正義の戰の爲に勇躍出征、今彼地に在りて勇戦活躍中である因に當家は累代農を家業とし、當主にて五代を関する家柄である。

樋口村

村會議員 野口國五郎

野口家は當村屈指の舊家にして名主動

役の名門であつた本家より、元祿年間に分家して現在に至れる舊家、世々農を以て業とし惣代等に擧げられたる家柄である。國五郎氏は亡父市三郎氏の男として明治八年十月四日に生れた。二十七歳より區長を勤めて六期間勤続し、消防組小頭を二十四年間勤続した。製糸業埼玉社大瀧組理事を勤め製糸業界の功勞者として推稱せらる。現に村會議員に任ぜられて盡瘁貢獻顯著なるものがある。その資性は温厚にして篤實、精緻にして謹直、而もよく人を容る。母堂刀自は健勝にして愛孫を愛撫し、養嗣子縫之助氏四十七歳は秩父農業學校を卒業し、野上小學校に訓導を奉職中である。なほ他に六女がある。令孫三人である。一家は常に春風駘蕩として和樂の聲門に溢れ、近隣の者悉く讚嘆敬仰せざるものはない。かくて家運は愈々隆々として富み榮えてゐる。

三澤村三澤

天理教會 秩父分教會
甲賀支教會



氏敬正井新 宰主

當教會は明治三十二年一月十八日許可を得て、新井又平氏及び扇原清三郎氏の助力に依つて創建せられ、十柱神及び月日之命を奉齋せる分教會である。講元は群馬、長野、栃木、埼玉、東京、岩手等に存し、明治四十二年には北海道及び朝鮮に出張したことがある。

教會堂は七十三坪、教祖堂は十八坪、今や新井又平氏の令息新井正敬氏の主宰に係る。師は明治三十二年四月二十五日に生れ、天理教を卒業し、昭和十二年六月十一日、分教會長に就任した。

新進の宗家として各方面より大いに期待されてゐる。當教會の顯著なる御神徳は病氣の快癒であるといはれる。

北足立郡上尾町

上尾町役場

當上尾町の位置を見るに縣の中央、平埴部にひらけ、往昔は中仙道の一宿場である。現在も高崎線と並行して北越への國道が町の中央部を南から北に走つてゐる。海拔約十七米、臺地が二條あつて東側の臺地には上尾下、上尾村の一部が入込み、この兩臺地の間に芝川を挟んで田園が带状に續き當町の稲作地となつてゐる。農作物は米、麥は勿論、甘藷、銀菜を産し北部と南部の臺地では薪炭、亦清酒、漬物、味噌、蠶種、玩具を製され東洋時計株式會社上尾工場もある。最近まで大宮桶川、原市等の中間に挟まり一ツの小さな町に過ぎなかつたが、東京市の膨脹と縣南地方の東京市郊外としての躍進に伴ひ、數年來當町も傳統的半農半商から漸次近代的都市への發達を見るやうになつた。人口凡そ五千、附近町村中で密度第

一位で上尾村、上尾下、柏屋、谷津、春日の區域に分れ、いまや日を追うて發展への途上にあり、當事者一同も専心上尾繁榮に意を用ひ努力する。町長として執掌するは岡本沛太郎氏である。

町長 岡本沛太郎

自治的才腕に秀で
俊敏の氣性を有し快
活淡明にして活動家



たる氏
は明治二十二年八月三十一日先考沛太郎氏の

男に呱聲をあげた。因に當家は江戸時代旗本の家臣にて祐筆を勤めし武士の家柄明治維新の際當地に移住し現在に至りしもの、尊父氏は町會議員として多年、町勢發展に努力貢獻せる功勞者、當主その名を襲名し、幼時より智慮衆に勝れし英才、會て多年に互りて町會議員を勤めて精進活躍せし事あり、町民の信望高く遂

大里郡長井村江波

長井信用購買組合

本組合は大正十二年九月有限責任組織を以て設立、昭和九年四月保證責任に改組今日に至つてゐるが、現在の發展を見るに至つた背後には、初代組合長たる内田善一氏の功大なるを忘却することは出来ない。出資一口金額二十圓、加入者三百九十餘人、一萬四千七百圓を數へてゐる。今、本組合の事業計畫は玄米生産の五割五、〇〇〇依、小麥五割の五、五〇〇依、貯金一五〇、〇〇〇圓、肥料三五〇〇〇圓までを目標とし、これが實現化へと邁進する。現理事組合長は江森右一

氏であるが、氏はこの方面に於ける手腕家として最も自信を強め、他またこれを許してゐる。なほ役員に長島亮平、高橋恒三郎、石井伊三郎、高山桂、村田富士平、茂木泰三郎、松本鏡一、宮本新次、須藤恒男氏等がある。

寄居町

町會議員 岩田新太郎
前町長勲八等

明治二十二年町制施行後初代の町長に就任、町勢伸展の爲に活躍せる岩田幡五郎氏とは實に當主の尊父にて、當主新太郎は明治十四年五月九日の岳降である。因に當家は當町切つての舊家にして代々名主戸長を勤めし家柄であるが氏はその名ある家門の長として將亦公共の一員として一頭地を擯んじてゐる材幹、資性濃厚にして果斷、中々剛毅なる風格を有し現在町會議員、軍人分會長、農會長その他の任にありて執掌町自治の爲に活躍してゐるが、曾ては大正元年より収入役、

大正十四年に助役、その間納稅組合を創設、助役としては學校新築、道路橋梁の改修に効をなし、遂に昭和三年町長に町民一致を以て推輓を受けて盡力、その多年に亙る功勞多大にして表彰も枚舉に遑なく自治功勞者、神社功勞者としてその名縣下に聞え、今次の事變に際しては内治の功に依り内務省より表彰を受つた

寄居町末野

農會長 吉田脩一郎



資性濃厚にして篤實、自治公共に携はつては一身を挺して盡瘁す氏は先考竹次郎氏の長男明治十二年八月十九日の出生である。當家は當町屈指の素封家、竹次郎氏は戸長役場當時戸長を勤め、町制施行初代の助

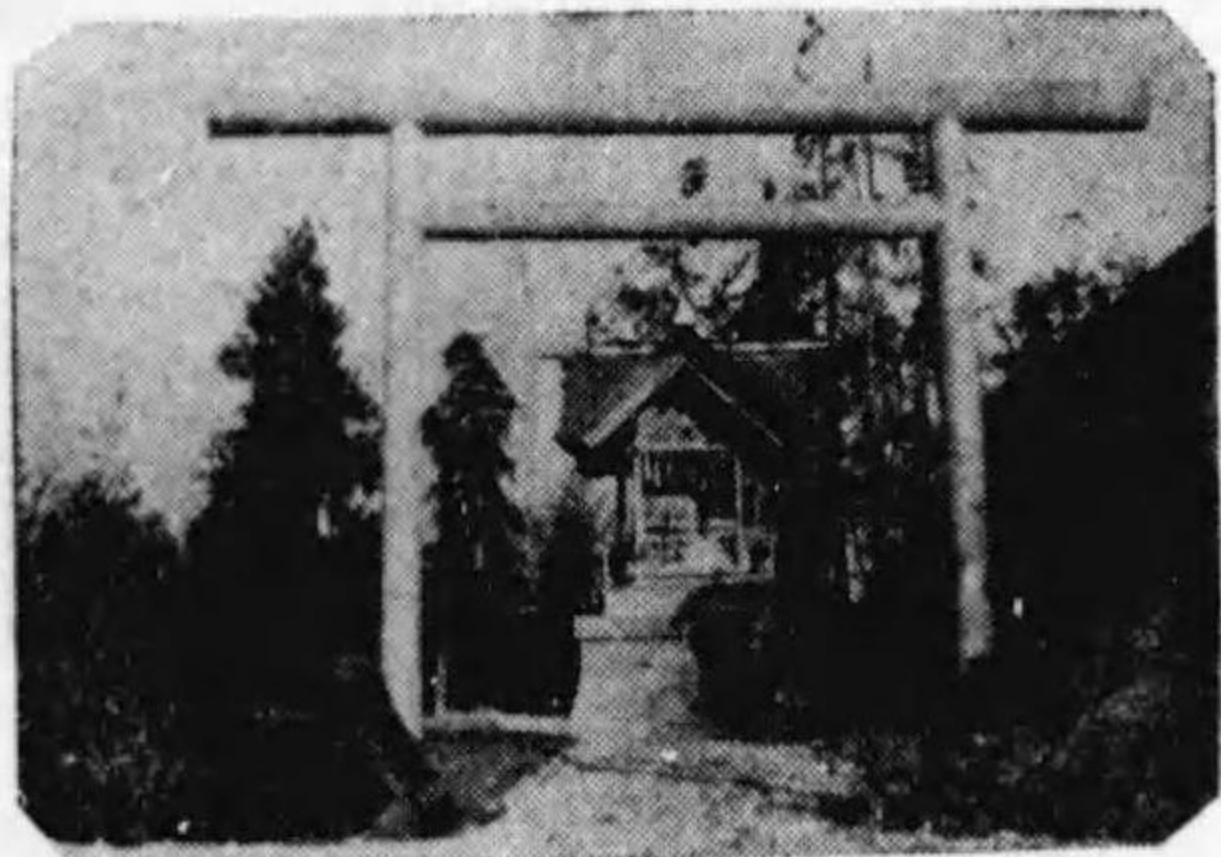
役に任せられ、尙町會議員、學務委員等をも兼ねて活躍貢獻せる功勞者であつた當主その衣鉢を襲ぎて公共の爲に執掌現任する町會議員は十九年目、學務委員も數期目農會長その他の重責にもある。亦政友會參事會員にしてその各方面に努めて寄與する功勞は實に多大である。長男義明氏は明大法科出身にして正八位豫備少尉、二男紋郎氏は大正大學出身である

末野信田販賣
購買利用組合

縣下優秀の產業組合との稱ある當組合は共存

共榮の目的を以て創立されしもの、出資總額六千九拾圓にて一口金額は十圓組合員數壹百六拾七人を擁して業續日に日を追ふて發展を見せ、組合員は主に産業資金の運用を利用し、當地方産業發展に寄與するところ頗る多大、役員として盡瘁するは庶民の人望頗る厚き吉田喜作氏を理事長に大森、田島、和田、淺見、鈴木柴崎、朝香大澤の諸氏が一致、組合發展の爲に一身を挺してゐる。

秩父農學校



秩父郡三津村

玉谷喜三郎氏



秩父郡野上村

堀口哲氏



秩父郡野上村

野口仁平氏



秩父郡大河原村

郵便局長 大久根氏



秩父郡三澤村

福田氏



秩父郡尾田村

八木銀作氏



秩父郡白鳥村

野村藤作氏



秩父郡秩父町

秩父織物組合 坂本宗太郎氏



秩父郡皆野町

門平又作氏



秩父郡秩父町

淺見鶴藏氏



秩父郡尾田村太寶山圓福寺

後藤憲巖氏



秩父郡原谷村

福島房藏氏



大里郡寄居町

岩田新太郎氏



北葛飾郡櫻井村

岩井八郎氏



秩父郡三澤村

雨宮鍋次氏



秩父郡白鳥村長

大澤寅次郎氏



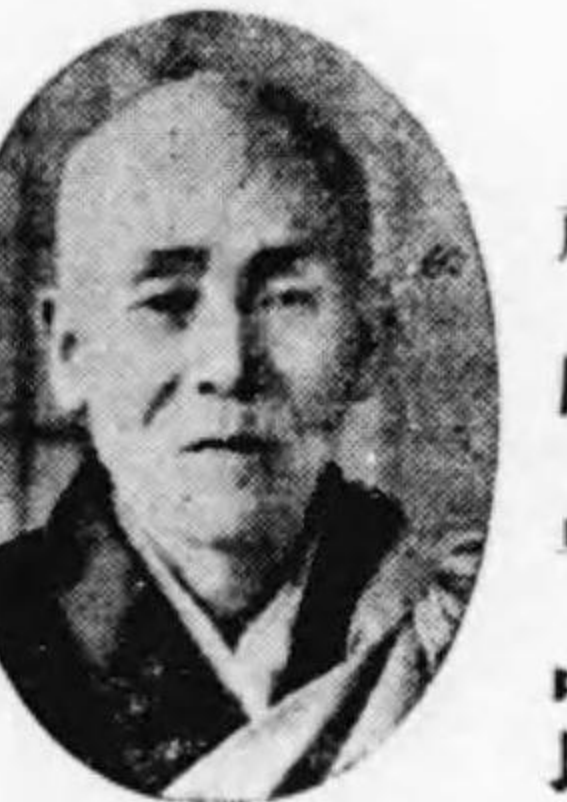
北葛飾郡田宮村

田中章四郎氏



入間郡梅園村

藤田卓中氏



秩父郡原谷村

町田嘉之助氏



大里郡太田村

長島彦八郎氏



北葛飾郡金杉村

田口嘉一氏



市

部

前橋市

群馬縣立前橋商業學校

創校以來すでに十四年、八百十八名の卒業者を各地實業界に送り出してゐる當校は大正九年三月二十五日文部大臣の設置認可を得て同年四月二十六日神明町假校舎に授業開始、その頃は前橋商業學校と稱し、同年十二月二十三日芳町校舎に移轉、昭和四年四月四日再度市之坪の本校舎に移り、昭和九年遂に市より縣に移管、群馬縣立前橋商業學校と改稱し現在に至りしもの、詔勅の聖旨を遵奉し、敬神崇祖、至誠奉公、信義禮節、質實剛健の五訓を校訓とし、亦國民精神總動員に關しては小島宏校長を中心として全職員は隨時隨所に極力強調、率先躬行以て範

を垂れ、生徒をして時局の重大性を認識せしめるべく現下非常時局にそくした教育方針をとり、亦地方産業團體との協力産業への直接的貢獻は商業學校の一任務たるを信じ社會教育を爲し、理想的なる實業報國の士を養成する爲、職業指導に重點を置き、尙校外教育にも見るべき點多々あり、時局に適應せる新教育の成果を見せてゐる。現校長として奔走努力する小島宏氏は愛知縣出身にしてその人格の高潔なる事は市民のよく知るところ、職員は三十二名にてよく校長を輔佐し、一致團結、次時代を背負つて立つ少年の教育に一意邁進してゐる。

前橋市外

販賣組合群馬社

蠶糸絹業に於て古き歴史をもち年産額六百萬貫餘、産糸額また約九十萬貫をかぞへて本邦蠶糸府縣中の覇者として斷然頭角をあらはしてゐるわが群馬縣は、大正九年の糸價大慘落に際會して以來、次ぎ／＼と惹起する不況の結果、終に農蠶業者を起ち能はざるの窮地に陥らしめた。有志早くもこれが對策に腐心、養蠶家救済の方策を講ずべ設の聲を大にし、全縣下を區域とする理想的計畫を樹立し、斯業界の大權威者大久保佐一氏を中心となし、縣當局の多大なる指導と援助との下に、終に昭和二年二月十一日の佳節を卜して本組合の設立を認可され、現在の保證責任販賣組合群馬社が生れたのである。出資一口の金額は五十圓、保證金額五十圓となし、創立當初の組合員數は一萬二千二百二十八人だったが、十年後の昨年末は一萬五千四百八十八人、三萬八百七十三口を擧げ、本組合の急激なる展開振りを如實に示してゐる。今、農業倉庫を加へ、いよ／＼内容充實、礎石ま

た強固、信用ますく、厚く、たゞ發展の
一路へと力進しつゝある。

當社の役員

社長理事に早川直瀬氏をいたゞき、事務理事に五十嵐吉藏氏、理事に桑島完助、五十嵐仲藏、伊與久藤太郎、原齋輔、堀江熙、大澤安造、岡田清藏、松井郡治、白岩重治郎、加藤喜一郎、山口芳雄の諸氏、常任監事に小泉信太郎氏、監事に細野久吉、福島藏之助、北爪勘一郎氏等現任中である。

前橋市一毛町二一五

社団法人前橋積善會

電話一〇〇四番
一〇八番

本會は明治十三年四月、市内有志僧侶數名によつて設立せられ、縁寡孤獨の救恤並に匿名陰徳を行ひ、同三十七年一月組織を改めて市内各宗及び有志者の共同事業とし、更に市内醫師會、藥劑師會の協力を得て専ら施藥救療に努め、大正六

年四月濟生會の委託患者收容を、次で市行路病者の委託收容及び精神病者の收容監護、割引診療事業等をそれ／＼開始した。越えて昭和二年四月社団法人組織とし、精神病院の建設に着手、翌三年六月竣工と同時に病院を經營今日に及んでゐるが、その間増築、分院の建設をなし、同九年の陸軍特別大演習に際しては、畏くも天皇陛下には社會事業御獎勵の思召を以て特に本會(既橋病院)へ御使御差遣の光榮に浴した譽れある會である。現院長は前田忠重氏、副院長は廣瀬三郎氏、事務長に須藤早太郎氏がそれ／＼與つてゐる。

前橋市横山町一二

株式會社 上毛貯蓄銀行

縣下唯一の貯蓄銀行として、金融界に錚々たる名を躍らしてゐる株式會社上毛貯蓄銀行は、支店を高崎、伊勢崎、桐生に、更に代理店を縣内樞要の地十五ヶ所に設け經營に任じてゐる。本行は全く特

前橋市本町

株式會社 群馬大同銀行

昭和七年十月、大藏省並に群馬縣當局との協力を依り縣產業經濟振興の爲創立されし當行は所謂縣民銀行にして同年十一月本縣東西の二大銀行でありし、群馬上州の兩行を合併、翌年一月には更に倉賀野銀行をも合併、遂に今日の盛大を見

るに至りしものである。業績は縣民の後援を得て、亦理事者が當行創立の趣旨を體して専心堅實を旨とし、業礎の確立に意を注いだ結果、日を追てて逐日發展、預金貸出金を初めとして諸勘定何れも縣下普通銀行の大半を占むるに至つた。尙縣下に三十餘ヶ所の營業所を有する業績を擧げれば左の通りである。

(昭和十二年現在)

資本	金	五、〇〇〇、〇〇〇
準備	金	一、九〇〇、〇〇〇
預備	金	四、八五七、一七三・六三
諸貸付	金	三、三三三、七〇・八〇
割引手形	金	三、〇三三、一三三・八九
他店貸	金	七、七四四、〇〇
他店借	金	六、三、四九八、八四
預金	金	四、四、九元・六
借入金	金	三、〇、四、六三・五三
未拂利息其他	金	五、四、八七・五八
未經過割引	金	八〇、四〇・五五
料其他	金	三、四、五、四三
預金利息諸税	金	一、三、三、五、八六・五〇
所有有價證券	金	一、三、三、五、八六・五〇

營業用土地建物	一、〇九、六三・七一
什器	二、六三、七、四・四三
所有不動産	一、八六、六、六・五
現金	一、三、九、七三・八
内國爲替取扱高	六、八、七、五・三〇
當期末現在受託	一、三、五、五七・二六
代金取立未済高	一、三、五、五七・二六
保管金	一、三、五、五七・二六

取締役頭取としては縣經濟界の第一人者平田健太郎氏が盡瘁してゐる。

前橋市連雀町五 市會議員 道下富一郎

電話三四五番

氏は縣立前橋中學の出身、その同窓に小暮武大夫代議士あり、會ては縣會議員にて市會議長たる詫間清秀氏と同一の市政會員十五名中の一人として活躍するところあつたが、後ちこれを脱して二人會なるもの組織し、純中立を標榜して昭和四年以來、市會議員として市の財政整理時代より大前橋市政刷新のため、奮闘これ努むる著大なるものがあつた。例へば

水道の敷設、吏員の向上、待遇改善等皆な氏の寄與貢獻するところである。その他氏は桐生金物同業組合長、區長等をも兼務、進んで税制の改革等、重要市政策を講ずるなど、近來稀に見る熱の人としてたゞへられてゐる。先に滿洲事變の起るや、出動兵士遺家族の借家料免除を自ら率先して斷行した徳望の人でもある。既に七十四歳の嚴父に仕へて至孝、日々その範を示してゐる。家庭は至極圓滿、兄弟三人戮力協同して、即ち一人は支配人たり、一人は營業主任たりして各自分擔、金物の販賣業を營み、鋼鐵建築用材一式を取扱ひ、盛業を極めてゐる。氏はまた子弟の教養にも熱心、令弟徳治氏の長男時一君を九州帝大探礦冶金科に在學せしめつゝあるの外、四男富明氏は日本大學醫學部を卒業、軍醫として今日支事變に出動中であり、五男の富信氏は慈惠醫大出身、目下大森葛目病院に勤務中である。なほ令息清氏は東京帝大土木科を卒業した逸材、現に朝鮮開組に在つて勤

務、將來を大に囑目されてゐる。

高崎市旭町

旭町 石黒松太郎



俊敏の氣性に富みて獨力獨行の努力家である氏は明治二十五年四月

月新潟縣三島郡興坂町本興坂に呱呱の聲を擧げ、長じて後、二十七歳の折前橋市の材木商に入りて刻苦精勵、努力に努力を積んで遂に三十一歳の時、多年の精進を結びて獨立、以來業績は日を逐ふて盛大、今日に至りしものである。その傍ら住友生命保險代理店を營んでゐる。亦自治公共方面にも寄與貢獻多く、曾て青年時郷里の青年團創立に奔走努力し、感謝を受け、尙高崎市區長會計兼理事防護團會計、國勢調査員の任に在りし事もあり、現在は旭町區長として寢食を忘

れて執掌する外、旭町納稅組合長、方面委員、木材商組合理事、木材商群馬縣聯合會代議員等の重責に在つて自治の爲に斯業界發展の爲に盡瘁する。その功勞頗る多大にして庶民の信望頗る厚く。その一舉一動期待を以て囑目されてゐる。家には令閨とみ子さんとの間に二男四女あり、家庭は圓滿、附近美望の的にて、氏はその圓滿なる家庭内に於ては俳句を趣味として松翠と號し、人格の修養につとめてゐる。

高崎市芝塚町一九〇五

理髮業 山本一郎

我國運興隆への一大轉換期である日露戰役に際し勇躍應召、波荒き大洋を渡り彼地に上陸、戰場に在りては常に第一線に於て活躍勇戰、敵陣におどり込み遂に名譽の戰死を遂げて護國の鬼と化した山本鷹藏氏を父に明治三十六年七月五日新潟縣西蒲原郡松尾村に呱呱の聲を擧げし氏は資性勤直、努力の權化そのものゝ如

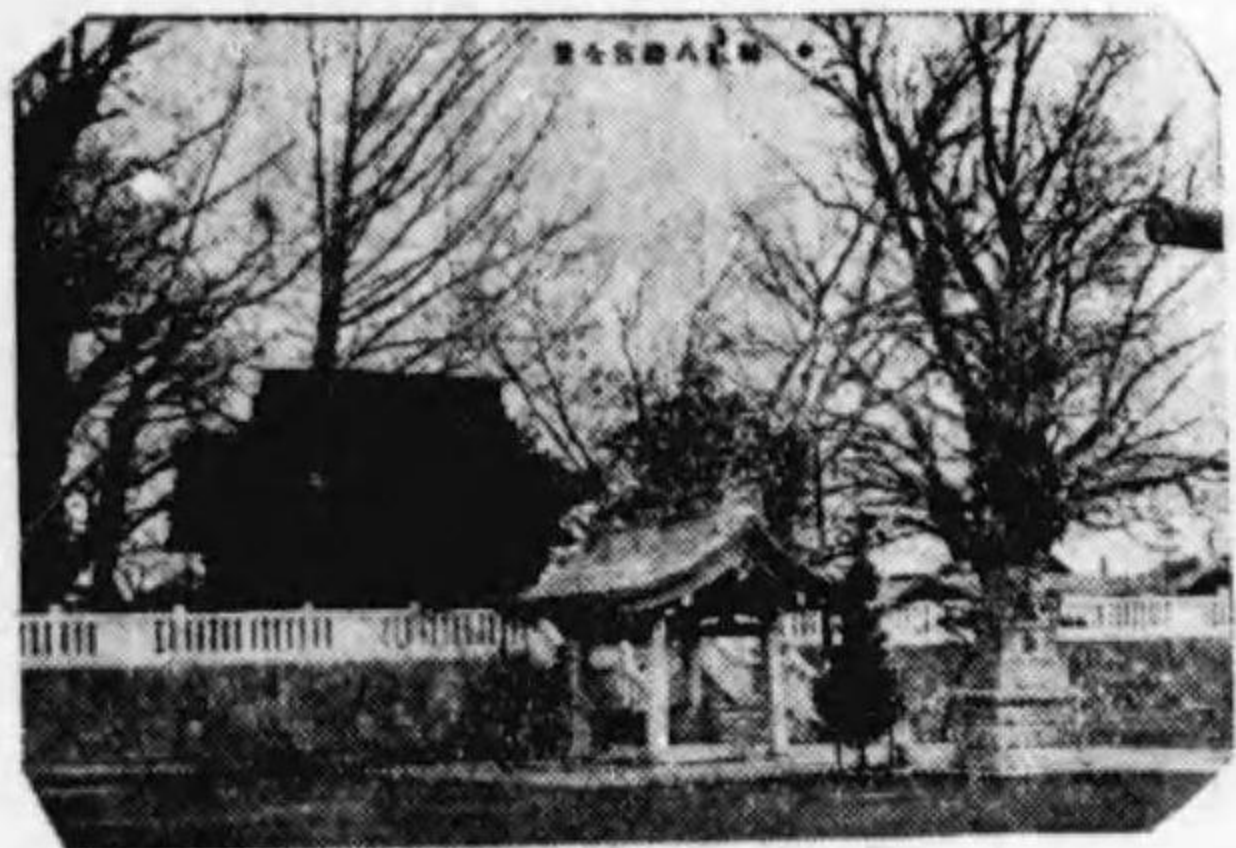
き獨力獨行の氣性に富む人物にして、亦圓滿なる人格の持主、長じて後、十八歳の時、志を抱いて單身上京、先づ理髮店徒弟として修業、只管傍目もふらず業務に精勵、その時、彼の關東大震災に遭遇而し神は氏を見捨てず何事もなく難を逃れる事が出来て翌大正十三年春未だ淺き四月、二十二歳の若冠にて多年の望でありし獨立を高崎市驛前に開業、以來顧客本位をモットーに努力精進、遂に今日の盛大に至りしもの、立志傳中の人とて市民より仰慕の眼を以て迎へられ、いま高崎理髮組合理事、衛生講習會理事の任に在る。はつ子夫人は新潟縣寺泊町小黒寛司氏の長女にて内助の功多大にして間に二男一女あり、家庭頗る圓滿である。

前橋市連雀町二八

縣社 八幡宮

前橋驛から約八町、市内電車本町停留場から半町の丘上にある前橋市總鎮守たるわが八幡宮は、その創立年代等は詳か

ではないが、社傳によれば清和天皇の貞



八幡宮

觀年中、在原業平の後裔であり、また當地方の豪族だつた長野氏が、山城國男山八幡宮の豐前國宇佐より奉祀せられた頃既に勸請せられたものだといはれてゐる。爾來常に鎮護國家の祈願怠らず、社殿は代々國守、守護職等の造營にかゝり、守護不入の地とされた。永祿十年兵燹の厄に遭つたが、戦後直ちに再建、累代城主

の崇敬最も篤きを加へ、後陽成天皇の御宸筆にかゝる神號を今に傳へて社寶となしてゐるが、徳川三代將軍家光以後社領十五石を獻進し、外に御供料三反歩を寄進された。明治の初頭、神佛混淆を廢し社僧を罷むるに及んで郷社に列し、同六年縣社に昇格、現在に至つてゐる。祭神は品陀和氣命を主神に、比咩神並に息長足媛命を配祀し、金刀比羅宮、三峰神社、宇倍神社、菅原神社、四柱神社、大國主神社、嚴島神社等を境内神社に合祀し、また攝社諏訪神社がある。境内地八百二十三坪あり公孫樹並に樺等は何れも數百年前のもの、當社の古きを如實に物語つゐる。寶物としては數多あつたが、現在は僅かに後陽成天皇御宸筆の御神號、裏面に古代文字ある白銅の鏡一面、家光將軍以來の朱印狀等を存するに過ぎない。例祭は毎年九月十五日。

社司 宮澤勳吉

氏は神宮支所に、永年にわたつて奉職せられた博識の人格者、國

幣中社貫前神社主典を経て、昭和三年當社々司に就任、現に前橋神職會長、群馬縣並に全國神職會評議員として盡瘁しつつある。

高崎市原

華藏山清水寺



眞言宗の名刹としてその名著はれる當寺は、坂上田村麻呂將軍を開基とし、開山は祐清上人である。本尊千手觀世菩薩は平城天皇の御宇、大同三年、坂上田村麻呂將軍が東夷征討のみぎり、國家安泰武運長久を祈り、併せて戦病死者の冥福を祈らん爲安置せるものにて、爾來幾

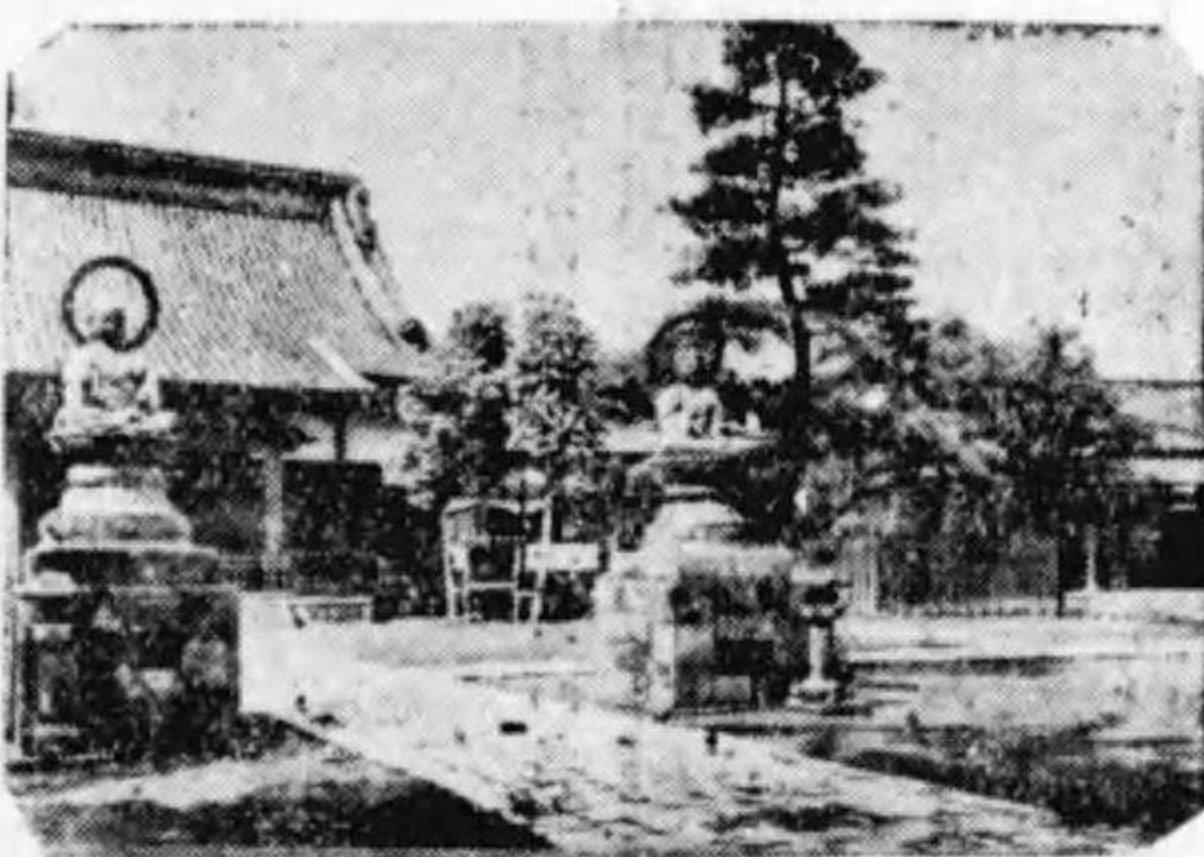
多の星霜を経て、當地の未だ和田と稱せし時の城主和田兵衛太夫信業公は大いに當寺を尊信し、堂宇、櫻門等を修築し更に寛文年間に至り、安藤對馬守重治公は諸堂に一大修理を加へ、歴代の城主また尊信頗る厚く、以て今日に至つた。今なほ祖先の追恩冥福を祈り家内安全商賣繁昌のために大悲の御慈に浴さんと欲して來たり賽するもの後を絶つたことがない高崎驛より約十五丁、自動車の便を借りれば僅か五分位にて山麓に至るを得る。例祭は、春季が一月二日、秋季が舊十月九、十の兩日にして、俗にトウカンヤと稱し、遠近の善男女その老幼を問はず雲集し、當地方名物の一にかぞへられてゐる。古くは御朱印を賜はり、棟札等も多く、寺寶多數あり、靈域内には遊園地も設けらる。(寫眞は山上にある高さ百三十尺の有名な白衣大觀音像)

前橋市芳町 成田山恭和寺

當地方屈指の名刹たる當山は新義眞言宗智山派に屬する。御本尊は不動明王、大日如來にして、千葉縣成田山新勝寺の末に當り、その創建由緒頗る深きものあり、開基、開山共に恭和尚である。而して明治二十六年恭和尚が千葉縣佐原町清祥院を現在の場所に移轉し、清祥院恭和尚と稱せしもの、毎年節分會その他一般行事を行ひ、檀信徒の參詣頗る多い。天性温厚、而して高潔な人格の持主にて檀徒間の信望甚だ大なるものある師は人格と共に識見も高く現任職として法燈興隆の爲盡瘁貢獻する外、社會救済のため寄與するところも多大。

前橋市向町 青柳山橋林寺

曹洞宗に屬して釋迦如來を本尊とする當山は玉岸慶珠和尚を開山とし、開基は長尾右衛門尉景信である。古文書三十八通、及び唐鏡、應永年間の罽口、繪旨を



橋林寺

寶物として藏し千坪餘の境内地に本堂、庫裡の外、觀音堂、納骨堂、鏡樓堂、山門を有し毎年八月二十五日施餓鬼を執行する。檀家千餘戸に及ぶ。

住職 佐田馨苗

當寺三十六世に當る師は人格高潔にして前橋中學卒業後、駒澤大學に修學、昭和八年卒業の善知である。

群馬郡

室田町中室田

室田信用販賣購買組合

當組合は碓氷社に所屬し、明治二十五年滿を製糸し販賣することを共同の目的として組織され、爾來再三分離合併等のことありしも、昭和十一年室田信販組合と室田信用組合の二つを併せて現在の有限責任室田信販購買組合と改めた。組合員約六百、出資總額三萬圓を數へ、縣知事及び産組中央會縣支會、碓氷社等より表彰六回に及ぶ優良組合である。信用事業に於ては、各資金の低利融通と整理回収に努め、更に貯金の獎勵をなし、貸付總額四萬八千圓、貯金總額三萬二千圓に上り、組合本來の機能を發揮してゐる。良品の安價生産は製糸の生命、好配分を

なす根源である。されば昭和十一年呱呱の聲をあげた碓氷社室田工場により、場長以下熱心なる努力の結果よく豫期の成績を挙げ、工費も從來に比し低減せられたるは意を強ふるところである。組合長は關和一郎氏、副組合長は武井茂吉氏、理事は齋藤龍太、清水茂一郎、石井清、中島三郎、赤尾義一、清水龍太郎、金田惠之吉の七氏、監事は清水儀一郎、清水丹治、岡田喜志雄、清水徳茂、清水寅太郎、飯野喜一郎の六氏である。關和一郎氏は明治三十八年より三十有餘年の永い間組合發展のため盡力貢獻されし人望家である。

伊香保町

伊香保信用購買組合

當組合は大正十二年の關東大震災の影響を受け縣よりの示達に基き、翌十三年より日掛一錢貯金を奨励し、他方遊覽の町なるため物資の共同購入の必要に迫られたるため、右の一錢貯金組合を利用して物資購入をなし、その殘餘金を利用することに端を發し、遂に信用購買組合の設立となり、昭和六年に有限責任を保證責任に改めると共に、一口三十圓の出資を五十圓に増額し現在に至つた。その間現組合長の努力もまた一方ならず、あらゆる公名譽職を退いて専心當組合のため津勵奮闘すること十年餘、遂に今日の隆盛を見るに至らしめた偉大なる功勞者にして、全組合員の心からなる信望をあつめてゐる。發起設立功勞者は木暮金太夫氏であり、現役員は組合長塚越七平氏のほか、専務理事茂左衛門氏、理事齋藤嘉平、福田與重、亘三彌、田中安太郎、北瓜豊太郎、岸權三郎、齋藤谷藏、福田豊太郎の諸氏、監事は一倉武雄、小宮寅松、松本久五郎、飯野和五郎の四氏であ

る。なほ最近の事業状況を見るに組合員百八十五人、出資七萬五千八百圓、内三萬三千八百餘圓は拂込済、準備金二千六百餘圓、借入金八千圓、預金四萬五千九百圓、貯金三萬四千圓は家族、定期、定期、日掛、兒童、團體、記念、出資、据置、納税、豫約等の種類に分れる。

伊香保町

伊香保温泉場組合

電話伊香保一四番

伊香保は上野驛から上越線で二時間半ばかり、澁川驛から出る自動車は僅か二十分で遊客を旅館の側まで運ぶ。また電車の便もあつて交通は至便である。温泉は古來子寶の湯の名あり、鹽類性含鐵炭酸泉にして、攝氏四十五、六度。湯量は極めて豊富で、貧血病、消化器病、殊に婦人諸病に適し、昔から婦人の湯治場として知られ、哀戀不如歸の發端もこゝ伊香保である。四月中旬には梅、櫻、桃、山吹等が一齊に咲き亂れ、五月には満山

新緑、次で青葉の間につゝじの花鮮かに丘の麓を彩り六月ともなれば濃緑の山や溪間から聞える老鶯、閑古鳥、慈悲心鳥杜鵑、河鹿の聲々は一入趣を添へ、八月の避暑は山岳温泉として天下一品の稱がある。九月の秋草、十月、十一月の頃は榛名山の紅葉は全く萬目錦繡の美を呈する。冬の景色はまた格別で、銀嶺榛名、スキー、スケート、公魚釣りなど婦人子供にも好適である。温泉旅館には石坂旅館、横手館、木暮旅館、森秋旅館、蓬萊館、塚越旅館、古久屋旅館、醉月旅館、千明仁泉亭、福一旅館、岸權旅館、村松旅館、大森館、吉田屋、新井屋、丸本館、金田屋、油屋、藤野屋、叶屋、立花屋、福善、木村屋、市川館、柏屋、香月館、青山旅館等あり、近代的完全な設備と、洗練されたサービスと、低廉な費用を標榜し、當組合では東京驛前大川田中ビルに東京案内所を置いて、遊客の便を圖つてゐる。前組合長は現衆議院議員にして政務次官たる木暮武太夫氏、現組合長

は古久屋旅館主にして町會議員たる森田啓太郎氏である。なほ副組合長は福田與重氏、會計中島理三郎氏、常務委員三名書記長富永良太郎氏である。

長野村我峰

群馬長野郵便局



當局は昭和三年四月無集配三等郵便局とし開局さ

れしも同七年一月より集配局となり、長野村及び久留馬村を區域とする。内外替爲、内外電信、内外電話、郵便貯金、保險年金等は開局と同時に取扱ひ、昭和四年には電話事務を開始、當地方の文化産業の進展に寄與するところ大なるものがある。従事員十名。初代局長は木暮勘一氏、二代目現局長は木暮群一郎氏である。現局長の家は三百有餘年を閱する舊家に

して豪農、氏は明治十一年五月二十八日

を以て先代庄五郎氏の長男に生れ、青年時代より村政に參與貢獻するところ多く収入役、助役、村會議員等を歴任、また村長にも推され、村内有数の自治功勞者として尊敬されてゐる。資性濃厚にして稀に見る勤勉家、昭和五年群馬長野局が集配事務を開始すると共に特に局長に任命され、爾來區域内の郵便貯金、各種保險の成績向上のため寢食を忘れて努力しその効ありて今や縣下第三位の好成績を擧げるに至つた。誠に通信事業従事員に以て範とすべき人材である。家庭的には三男三女の子福者にて、長男は室田小學校に奉職し、兒童父兄の信任をあつめ名教育家と稱揚されてゐる。

伊香保町

岸權三郎

當家は天正年間より続く古き旅館にして、氏は明治十六年九月二十五日を以て本郡白柳井村の舊家名門生方家に呱呱の

聲をあげて、長じて當家の養子となりし



もの、實父及び令兄甚作氏は共に白郷井村長たること

多年に及ぶ自治功勞者である。氏は初め正一郎と稱し、家督相続と共に權三郎を襲名した。習志野騎兵聯隊に屬して日露戰役に出征され、勳八等を賜はりし勇士凱旋後、家業の傍ら軍人分會長十有餘年たるほか、消防組頭、町會議員、その他の要職を歴任、現時名邑伊香保町長として名立たる湯の町を双肩に擔つて立つほか、町農會長、縣町村長會副會長、都市計畫群馬地方委員その他を兼任し、學校新築、道路改通、温泉地文化の振興、その他自治産業に盡されし功勞は到底筆紙につくし難く、町内屈指の功勞者と稱され、資性濃厚圓滿、町長たるの手腕力量に富み、名町長の聞え高く表彰を受けし

こと數回に及ぶ。長男良幸氏は高崎歩兵聯隊志願兵見習士官にして現に千葉砲兵隊に入隊中、他に六人の子女がある。因にその經營に係る岸權旅館は當地方の代表的且理想的旅館にし、伊香保神社前坂の中腹に位し、客室百二十有餘、浴槽廣く湯瀧もあり、すべての設備完備し、またケーブルカー驛に近く交通の便よく、海拔三千尺の高原、四面の連峰、その雄大な眺望は正に絶佳といふべきであり鐵道省並にツーリストビュローの指定旅館になつて居り、温泉は人皇十一代垂仁天皇の御宇より湧出せる古き歴史を有し冷症、貧血症、胃腸病、婦人病、神經痛等に特效がある。

大類村

中里仁重郎

茲適なる資性を有し、濃厚なる人格者と稱され、亦自治に當りては卓拔な手腕を有する氏は明治十一年二月廿二日の岳降、圓滿なる人格の持主として村民仰慕の

的となりし先考佐市氏の男である。頭腦明晰にして、二十五歳の青年時より夙に自治公共の事に竭し、以來參拾數年終始一貫一身を挺して村勢發展の爲に活躍鞅掌、當村繁榮に貢献せる功勞者中の第一人者、その努力するところ役場書記多年を経て村會議員二期を歴任して村會に自論を堂々論じ、亦國勢調査委員、村助役三期も歴任、その盡力功勞は圓滿なる人格と相俟つて衆望を一身に集め、遂に村長の重責に推輓を受け就任した。實に氏の業績は村史に記録さるべきものあり、その名は村民永久に忘れぬものである。

倉田村權田

倉田村長 塚越傳三郎



通貨膨脹を防止するため
の公債消化対策が
日支事變

を轉機として、低金利政策の運用によるものから、漸次公債の強制保有の方向へと進行するに至り、國民勤儉貯蓄獎勵の意義は愈々重大さを加へて來た。氏は倉田村長の要職にありて特にこの點に留意し、國民精神總動員の強調と相俟つて、夙に村民に貯蓄獎勵をなし、種々の方法により成績顯著なるものがある。氏は村内屈指の舊家たる塚越家の當主だ。先代新造氏は農の傍ら村會議員その他の公職に就かれ、令名遠近に洽ねかりし人望家は、その長男として明治十九年五月に呱呱の初聲をあげ、高崎中學校卒業後、兵役に服して、陸軍砲兵少尉に任じ、正八位に叙された。資性濃厚篤實、早くから在郷軍人分會長、助役、區長等を歴任して公共のために貢献裨益多く現在村長に擧げられて農村興隆に寢食を忘れて努力奔走しつゝ、信用組合理事として重きをなしてゐる。家庭には二男三女あり、長男眞一氏は農林學校卒業後村農會技術員を勤め、また青年團幹事に推され模範

人物と賞讃されてゐる。なほ氏を扶けて倉田村の發展に功勞多きは助役永井治一郎氏である。永井家祖先には新義眞言宗の名僧海行禪師あり、名家である。氏は村會議員その他をつとめて自治功勞者といはれる先代柴太郎氏の長男として明治三十二年七月に生を享け、高崎中學校の出身、三ノ倉小學校に五ヶ年間教鞭を執りしことあり、後、收入役に任じて勤続一期半、村役場新築に功績を残し、また青年團長滿八ヶ年、村會議員一期をつとめ、現時助役のほか信用組合信用評定委員を兼任する。資性温良、家庭には三男一女に恵まれ、幸福を極める。

古卷村

古卷 阿部藏太郎



共存共榮の社會
を實現せしむるこ
そ氏の理

想であり、從來努力を拂ひ來りしもの道への邁進である。資性質實剛健、勤勞を愛し、奉公の念に富み、名村長と謳はれて村民の信望頗る多く、本村が有する至寶とまで稱される偉大なる材幹である。明治十年二月を以て呱呱の一聲をあげ、

父祖は代々農を本業とせしも氏は夙に仁術を以て世に立たん事を志し、螢雪の效空しからず、今や當地方切つての名刀圭家として名聲頗る高く、温厚なる紳士的人格に加ふるに高貴なる氣品あり、方技の卓抜と設備の完全、患者に懇篤等、醫院としてすべての條件を具備し、門前市をなすの盛況を呈し、履は常に戸外に溢れてゐる。しかも開業醫の傍ら早くより村會議員、學務委員等に選ばれて自治に貢献多く、現に全村民の輿望を擔つて村長の任にあり、共存共榮、相扶隣助をモットーに村政を掌り、普く仰慕されてゐる。趣味は書畫、盆栽。因に氏の經營する醫院は阿部産婦人科醫院と稱し、村内及び前橋市田中町(電話六一三番)の二ヶ

所にあり、産科婦人科を専門とする。長男敏氏は日本大學醫學部出身の新鋭にして、二男三男は共に勉學中である。

桃井村新井

桃井 淺見 音吉

當家は村内屈指の名門にして舊家、代農を業とせる郷土の名望家である。氏は明治十三年十月九日を以て先代和三郎氏の長男に生れ、夙に村役場書記、助役等を拜命せる村治の偉大なる貢献者である。外交的にも經濟的にも非常時局に際會せる今日、東洋永遠の平和樹立のため暴支膺懲の聖戰を進め、克く艱難を克服して皇軍の威力を中外に發揚して居ることとは、固より將兵一同盡忠報國の赤誠に依るのではあるが、また銃後國民の熱誠なる激勵後援が與つて大いに力あるのである。氏は村長として銃後の指導強化に深甚なる配慮をなし、自治の圓滑なる運用、産業の開發、國民精神總動員の徹底出征遺家族の慰問激勵など、萬全を期し

白郷村

白郷 荒木眞平



村内第一の舊家たる荒木家より分れて七代目、また

村内有数の素封家として知られ、先代徳次郎氏は村長をはじめ各種村内の要職を歴任して自治初期時代の偉大なる先覺者と尊崇される村勢發展の大恩人なるも、七十三歳を以て他界、村民の大いに惜しむところであつた。氏はその長男にて明治四年九月を以て生をこの世に享け、現に白郷井村長に推されてゐるほか、村會議員、養蠶實行組合長等の重責を帯び、村長は三回、村會議員四回の長きに及び郡會議員その他郡治にも關與し、忠魂碑建立、農村振興、殖林事業の完成等に特筆すべき業績を残し、氏はまた村内に中郷林業株式會社を創立せられ、現にその社長として斯業の發展に努力されつゝあり、また上毛銀行取締役をつとめ、縣下金剛界に重きなしてゐる。劍道に達し將棋をよくし、資性濃厚篤實の士にして村長としての信望最も厚く、事績赫々として本村自治産業史上不滅の光を放つてゐる。サイ子夫人は國防婦人分會長に推されて銃後の援護に十全を盡しつゝあり



大類 村柴崎
元衆議院議員 根岸 曙太郎

長男恭平氏は劍道四段の免許を有し、二男美一郎氏は現村農會長、三男久彌氏は帝大卒業の俊才にして大阪市役所に勤務中である。

當家の祖は信州武田家に仕へし武士にして元谷中姓を名乗り、後當地に住し農を家業とし累代豪農の聞え高く、亦名主を勤めし名門の家柄、先考紋吉氏は篤學者と聞えし人の長男に萬治元年岳降せる氏は外柔内剛の高潔なる人格者、自治方面への卓越せる手腕を有し、長じて後、村内各名譽職は勿論の事、村長の重責をも勤めて功あり、縣會、郡會にも推輓を受けて出馬

縣政郡治に偉大なる寄與貢獻をなして翕然として人望を集め、縣民の根岸氏ならばとの評高まりて遂に國會に出陣、議事堂に於て堂々の陣、諤々の論を以て國政の爲に活躍、政友會に屬して代議士に當選の榮譽を擔ふ事三期、板垣退助、後藤象二郎、伊藤博文、西園寺公、星享の諸氏との交友あり、國政に寄與するところ燦と輝くものがありて、明治四十四年の地租徵收交付金案には特に功勞がある。現在は農工銀行取締役の重職に在りて縣經濟の爲に尙も執掌しつゝあるが縣政界の王者として元老として縣民みな尊敬と驚嘆の念を寄せてゐるところである。

室田町 榛名山
町會議員 唐澤 福造

當家は開祖以來三代なりと雖も、榛名湖畔に於ける草分の家である。即ち先代の時、湖畔が高崎原町街道に沿ふ宿場として必要なるを痛感し、現在地に料理旅

館業を經營、今日に至り謂はゞ最古參の家である。氏は明治十年九月七日を以て呱呱の聲をあげた。剛毅快活、日本人の誇りたる武人的タイプの敏腕家である。日露戰爭に出征、鴨綠江軍指令部に屬し奉天大會戰の後には撫順永陵に出陣して戰功を樹て、勳七等に敘されたる護國の精華である。凱旋業後は父たる旅館料理業(ふじや)の經營に全力を注いで隆昌を見兼ねて貸ポート業を營み、榛名湖畔發展の大恩人として普く尊敬されてゐる。また自治公共の事に關しては區長三期。消防組第四部長二期、在郷軍人分會副會長等に推され、現時町會議員、軍友會副會長、榛名神社氏子總代、衛生委員等を兼任する。縣道安中伊香保線の改修事業、榛名神社參道改修、烏帽子山増林事業に特に功績あり、縣下民政黨系の一偉材と仰がれてゐる。夫人との間に三男あり、長男は家業に精勵してその隆盛を大ならしめ二男は東京に在り、三男は別家してゐる。



倉田村三ノ倉
村會議員 關 乾 吉

享け長じて分家獨立し憲兵として多年軍務に服し、彼のシベリヤ事變にも出征し後、憲兵特務曹長に任ぜられたる武勳の人、大正十二年の關東大震災當時は横濱に勤務せられ、軍事警察の任務を完ふされし才能ある手腕家である。部下の信頼あつく、上長の信任あり、徳川家達公を初め、憲兵司令官荒木貞夫大將より、表彰され、在任中は東京、横濱、滿洲等に轉勤された。功成りて退職後、當地に一家を創立、村政に獻策し、青年教育指導に任ずるなど、本村發展に萍動渺ながら

ず、烏淵は軍人分會長、區長等に推され在任中の功績頗る多く一々枚舉の遑がない。資性濃厚篤實、村民の信望あり、曩に村會議員改選の際には全村の輿望を擔つて高點にて當選し、また信用組合監事にも擧げられ、材幹といはれ、手腕家と稱揚されてゐる。家庭には二男三女あり春風駘蕩として和樂堂に溢るゝの圓滿さにて、一家益々繁榮の途を進んでゐる。



白郷井村中郷
村會議員 井上島五郎

に立つて、自治産業に幾多の功績を残せる氏は、明治三年十月十九日の出生にして篤農家として令名高かりし、先考吉五

郎氏の長男である。資性濃厚、人格高潔にして手腕力量あり、村會議員たる事四期、現時その五期目をつとめ、また村農

會長、郡農會代議員、中郷養蠶組合長、收入役、消防組副組頭、同組頭に歴任、また村役場、學校、駐在所設立の各委員長として活躍し、稚蠶飼育場、稚園、桑園等私費を投じて設立、初めは無理解な人々から白眼視されたが、今では本村養蠶業發達の温床たりし功勞を認められて盛業中である。現在は前記村會議員として活躍し村政に献策多きほか、養蠶實行組合長、産業組合督勵委員、中郷排水路復舊耕地代表委員長、檀徒總代等を兼ね排水路復舊事業は工費七千二百圓を投ぜし大掛りのものにてその完成には氏の手腕に期待するところ甚だ大なるものがある。また確氷社實行委員、長尾組合實行委員、花百合輸出組合長等の任にもあり地方産業の發達擴張に寄與貢獻尠ならず、村内第一の産業功勞者といはれ、近來益々聲望を高めてゐる。家庭には二男

三女あり、圓滿至福を極める。

小野上村小野子 村會議員 平方慶一



連綿數百年相嗣る當家は代々名主戸長その

他の公役に任じて、郷民のため郷仰の福祉のため寄與盡瘁せる名門にして、遠近に名聲高き家である。先代鶴之輔氏は夙に助役、村長、村會議員、その他村内要職を歴任し、自治の發達に村勢の振興に多大なる貢獻ありし徳望家であつた。氏はその長男として明治二十六年十一月に生を享けた。幼時より頭腦明敏を極め、郷學通學中は神童の名を以て呼ばれ、將來の大成は萬人の等しく期待して止まざるところであつた。青年時代から信望全

村に普く、模範青年の譽れ高く、學識豊富にして人格高く、自治の圓滑なる運営と地方産業の發達とに關しては卓見を有し、郡農會理事、村農會長、森林委員を多年に互つて歴任、植林事業には殊に功績多く、現在は村會議員として活躍献策するほか、産業組合理事として産組内容の充實と事業量の増大に努め、養蠶實行組合理事に推されては養蠶業の改善に盡力して幾多の業績を示し、他方學務委員に選任村學事の振興に寄與するところまた頗る大である。長男良夫氏は目下支那事變に出征中にて轉戰勤功多く、令聞は國防婦人會理事に推されて、銑後婦人の本務を盡しつゝあり、一家揃つて盡忠報國の誠を效せる名譽の家である。

室田町下室田

町會議員 武井茂吉

當家は代々篤農家として著聞し、相當由緒ある舊家にして、先代八十吉氏は家

業の傍ら村會議員及び區長をつとめ、自治の發達に貢獻大なりし功勞者である。氏はその養嗣子。明治十八年四月一日を以て生をこの世に享け、日露戦争の時は海軍々人として第四戦隊に屬し、彼の日本海大海戦に奮闘して輝やかしき武勳を樹て、勳七等を授けられたる護國の勇士である。曩に町會議員に選ばれること三回、現在その四期目の任にあり、町治に

あり長女は安中高女の出身、三女は高崎高女卒業、共に才色兼備の聞えが高い。

倉田村三ノ倉 村會議員 豊田丹八



今より五代前、倉田村切つての舊家たる豊田家より

分れ、爾來代々農を業とせる當家は郷民の信望頗る篤く、世に精農家として尊敬せられた。氏は先代與四郎氏の長男、明治二十二年八月二十日を以て呱呱の一顰をあげ、資性濃厚篤實、青年時代から聲望高く、夙に收入役、助役、村會議員をはじめ、信用組合理事、製糸組合理事長等に歴任、收入役時代には役場廳舎の建立に力を竭し、助役時代には役場廳舎の建立に奔走し、その他各方面に互つて功勞頗る多く現時村會議員五期目をつとめて村内

最古參者にして最大功勞者といはれ、亦方面委員、常務委員、倉庫團顧問等を兼任する。自治に精通して人格は高く、村内屈指の材幹である。圍碁に興味あり、相當の腕を持つてゐる。家庭には二男三女あり、長男光氏は農林學校卒業の俊才である。

白郷井村上白井 村會議員 牧重造



當家は本村内鎮座子持神社の神宮たる牧家より分れ

たるものにして、氏を以て十八代目とする舊家名門である。嚴父鶴造氏は自治界に活躍して令名高く、村會議員その他の要職に歴任せる誠實なる活動家、なほ祖父の代までは代々名主をつとめ、部落のため貢獻絶大なりし家柄である。氏は先

代の長男に當り、明治十四年四月十二日を以て呱呱の一聲をあげた。資性濃厚なる篤農家にして、事に當つては用意周到人に接しては懇懇懇切、類稀なる人格と謳はれて郷黨の尊敬を一身に集めてゐる夙に社會公共の事業に竭し、部落總代に擧げられしこと連續五回、その他幾多の公名譽職に就き、現在は村會議員及び山林委員會副委員長の重責にあり、自治、殊に産業自治に盡瘁裨益するところ甚だ多く、一意山林造營につとめ、子持山殖林事業は殆ど氏の努力により完成を見たるものにて、現在その成績の良好なる事他、例を求めると困難である。趣味は狩獵、長男倉雄氏利根郡飯宿に現住して縣廳森林課に勤務し、他に二男三女を有する子福者にして家庭は常に和氣霽々の氣に充ちてゐる。

伊香保町

前町長 横手信太郎

常町發展の大恩人たる氏は、また正義



の士として人々の敬愛的である。明治十五年を以て生をこの世に享け、資性濃厚、その底に

は理智により洗練されたる熱烈の意氣を有し、若年より伊香保開發のため絶大な努力を致され、町の民信頼頗る厚く、先年名譽ある自治功勞賞を授與された。誠に氏の如きは人材中の人材、功勞者中の一人者とも稱すべき存在である。町會議員多年、町長二期、その他町内のあらゆる公名譽職を歴任し、子寶の湯の町としての伊香保今日の隆盛は一半の氏の盡力に負ふものにして、現時伊香保温泉組合取締常務員の任にありて夙夜淬勵されまた伊香保自動車會社を設立してその重役に任じてゐる。抑々當横手家は數百年來の由緒ある舊家にして代々温泉旅館業を營み、伊香保一流旅館として知られ、

總社町 高井

元町長 福島藏之助



熱意に燃ゆる氏は、總社町唯一の蠶種製造家にして年々數十萬グラムの蠶種を製造販賣し、優良なるが故に信用極めてあり、公奉仕の努力家に於ては、稀有的精神に富み、共奉仕の

古卷村 半田

元村長 海津政之丞



實業家として、また自治産業の功勞者として著聞する

つく、販路の擴張顯著なるものあり、ひたすら蠶種業の發展向上に盡瘁するを趣味とし、且つ生命とする篤行の人、實に氏が履んで來た道は蠶種業界への献身的努力の一條にして、群馬産業同盟會、縣蠶種業同盟會の組織に當つては率先奔走してこれが加盟を慫慂し、設立と共に役員に推されて貢献、また縣蠶業協會議員たることあり、昭和十年陸軍特別大演習の際、聖上陛下に單獨拜謁の榮を賜はり大日本蠶業協會よりは紅綬功績章を授與された。抑々當家は代々名主をつとめし舊家にして名望家、氏は元治元年一月十二日を以て呱呱の聲を擧げた。家業たる蠶種製造は明治以前よりの經營に係り、氏は家業の傍ら推されて總社町長たること一期、同町會議員たること十期以上に及ぶ自治功勞者にして、現時群馬社監事の任にありて令名がある。長男は惜しくも長逝され、次男が家業を相續し精勵しゐる。家庭はすこぶる圓滿、春風洋々とたるものがある。

氏は、明治七年八月二十九日の岳降、温厚なる努力家にしてまた實業家なるが故に、村政に對する經濟問題等明るく、産業組合擴充、救農土木事業、濟經更生、教育費國庫擔負等大いに自治の改善に盡されてゐる。昭和七年より同十一年まで一期間村長に就任、所得稅調査員、村會議員二期、その他の公名譽職に歴任し、現在八木原驛前に八木原合同運送店を経営するほか、信販購利組合理事、所得稅調査員、上毛酒造組合長等の公職にあり卓抜の手腕を發揮して盡瘁貢獻してゐる敬神崇祖の念篤く神佛參拜の旅行をする

ことは有名である。令息三名は共に兵役に服して陸軍少尉に任じ、先年陸軍省より表彰されしことあり、長男清助氏は早逝され、令孫亘氏を以て家督相續者とす。因に家業酒造業は氏が二十五歳の時の創業に係り、爾來四十年間斯業の改良發展に努力して今日の隆昌を見、銘酒坂東一は品質良好なる故に名譽富岳に列し、東京及び關東一圓に互つて販路を有する。

白郷井村 上白井

村會議員 荒木利藤太



温厚篤實といふ言葉は氏の性格行為を表現して最も

格好である。明治十九年八月二日、先考職太郎氏の長男として健かな呱呱をあげ少年時代より頭腦業にすぐれて明敏を極

め、群童の中に一頭地を抜いてゐた。近

衛歩兵聯隊に勤務して模範兵といはれ、満期除隊後は家業に精勵の傍ら自治公共の事業に關與貢獻するところ甚だ多く、農業組合委員、産業組合理事のほか、養蠶實行組、理事。土木委員、學務委員等を永年つとめ、本村産業經濟の圓滑なる發展と内容の充實とに一意力を用ひて事績枚舉に遑なく、現在は學務委員の要職に在つて學事の振興助成に努める外、村會議員、農事實行委員を兼ね、村内中堅人材中の異彩として令名愈々普く、郷黨の信望と愛慕を一身にあつめてゐる。夫人ちかさんは國防婦人分會副會長に擧げられ、銃後婦人戰線の先頭に立つて活躍しつゝあり、氏とは琴瑟相和し三男二女の子を有し、家庭は和氣に溢れてゐる。因に當家は始祖以來十三代をかぞへる舊家にして、明和より天保の頃までは名主の役をつとめたる名門、先代職太郎氏は村會議員、學務委員その他の公名譽職に歴任せる自治界の先覺的恩人であり、今

もその名は誦ばれる。

大類村宿大類

元郡會議員羽鳥友太郎



萬延元年三月三日、時の大老井伊掃部頭の暴政に誅

井伊大老の聲高まりて振ひ立ちし、尊皇の水戸浪士數十名、櫻田門に大老を襲ひて大老を誅し、その中に徳田寛豐と稱す志士ありしが、之友太郎氏の曾祖父に當る人、寛豐後富士山に於て天照教會を創立した。當主は先考八太郎氏の男にて慶應二年九月十二日の岳降、幼時より智慮衆に勝れ佐々木禺山先生に就て學を修め長じて後は専ら自治公共の事に竭し村會議員四期、村助役二期を歴任、村治に貢獻するところ多大、自治への卓拔せる手腕は村民みな認めるところにて衆望自ら

翕然と集まり遂に郡會議員に推輓を受けて出馬した。亦學會議員としても執筆、その他勤めるところ甲乙種統計委員、佛敎々會顧問、愛國婦人會贊助會、その多年に亙りて各方面への盡瘁貢獻燦たるものがある。表彰も數度に及びて一々枚舉の遑なく赤十字終身社員となつてゐる氏は亦、圓滿なる家庭内に於ては盆栽園藝に趣味を有して和やかな日々を送つてゐる。

澁川町

縣聯合産業組合長 澁川信用組合長

後藤善十郎

温厚にして勤勉力行の士といはれ、縣下産組運動を背負つて立つにふさはしい熱と力の溢れてゐる氏は、明治十五年を以て先考善十郎氏の長男に生れた。抑々當家は代々善十郎を襲名して數百年に及び、豪農と謳はれる舊家名門にして先代善十郎氏は町長をはじめ、町會議員、郡會議員、その他の公職を永年つとめ、澁

岩鼻村東中里

産業組合郡部會副會長岩鼻産業組合長

五十嵐仲藏

電話會野四五番



當家は今より四代前に分家創立せるものにして、先

川尋常高等小學校の設立に功あり、澁川銀行の前身たる生産會社を興して重役に任じ、澁川信用組合創立に東奔西走して功あり、その他各方面に偉大なる足跡を印せる人にて、功勞賞、表彰狀、感狀などを寄せられしこと一々枚舉に遑がない。當主善十郎氏またその血を享けて事業家の才腕と政治家的頭腦の持主、夙く銀行頭取町會議員、養蠶實行組合長その他各種團體、役員を歴任し、信用組合創立當時から専ら組合の發展に全力を注ぎ、町内一般の信望殊に篤く、産業功勞者として綠綬功勞賞を授與されしほか、各方面よりの表彰數回に及び全國養蠶組合聯合會總裁宮殿下よりも賞狀を賜はり、宮中御養蠶所の拜觀を許されるなど、光榮の數々に浴し、現在は縣産業組合聯合會長並に澁川信用組合長の任にあり名聲愈々高きを加へてゐる。俊敏の氣性に富む長男氏は養蠶實行組合長を現任し、その一舉一動は期待を以て矚目され。徳望普きものがある。

代仲藏氏は縣會議員並に村長に選ばれ縣政界にその人ありと謳はれし敏腕家、氏はその長男に當り、明治二十年三月二十八日の誕生である。夙に高崎中學校を経て駒場農大實科に學びし秀才、その後、祖父熊藏氏の代、明治初年に創業せる醬油味噌醸造業に従事して令名高く、醬油は上、中、下の三種あり、群馬縣内特に高崎市附近一圓を販路とし、醬油年産三百石、味噌年産百石に上り東京博覽會に出品して二等賞牌を受けし優良品、岩鼻陸軍官邸にも買上を受けてゐる。氏はま

岩鼻村

消防組頭 高橋長三郎

精氣澄澗、土木建築請負業界に異彩を放つ氏は、資性英邁にして徳望遠近に普く、豪磊剛健の氣性と進取の精神に富み博識多才、業界有數の人材と稱される。

抑々當高橋家は相當由緒深き舊家なるもその初期は詳かならず、先々代までは農を本業として篤農家と稱された家柄である。先代長三郎氏の代に至り、土木建築の請負を業とし、氏はその長男として明治二十九年二月五日に生をこの世に享け長ずるや父業を承けて精勵、氣骨に富み親分肌の人として尊敬する者多く、現に家業のほか陸軍岩鼻火藥庫の御用達をつとめてゐる。また古くから消防組に關係し、推されて組頭たること多年、統御の才ありて組員の信任を一身にあつめ、本村消防發達の一大柱石として功勞顯著なるものあり、郡下有數の優秀消防組となりしも偏へに氏の盡力に依るものである。先年縣當局より表彰されし、また宜なる哉といふべきである。誠に氏は岩鼻村が有する中堅人材中の傑物、今後の活躍もまた期待すべきものがある。令聞とは琴瑟相和し、家庭は和氣霽々たるものあり三男二女はいづれも氏に肖て英敏、その將來を嚮望されてゐる。



倉田村權田
農會長
元村長 丸山可 信

粉骨碎身、農業報國の至誠を致し時局に際會して農

家指導の方策に於て苟も足らざることなきやう全力を傾注し、以て無極の洪恩に報ひ奉り、郷黨の名望頗る高き氏は、明治七年の岳降にして、丸山家五代の當主にあたる。嚴父沌峯氏は村會議員、區長をはじめ、村内幾多の重職に歴任せる村政の恩人として知られ、氏はその薰陶を受けて早くより自治公共のことに意を用ひ、村長一期、村會議員二期、その他各名譽職を永年に互つて歴任せる自治界の材幹、村長在任當時、現在の村役場廳舎建築に盡力され、また小學校舎改築委員長となりて絶大なる努力を拂ひ、自治産

業教育の三方面には特に事績顯著なるものあり、現在は村農會長に任じて銃後農村の振興と堅實なる發展とに意を用ひ、指導宜敷を得て、成績頗る良好である。また信用組合常任監事の任にあり、本村産組の内容充實に夙夜淬勵の誠を致してゐる。村第一番の元老にして、生字引とまでいはれる温厚なる老紳士である。各方面から表彰を受けること數回、令名は郡内に冠絶し、曾て消防組頭、確氷社權田組合長等に任じて當時の功績は今なほ燦々たる光芒を放つてゐる。

桃井村新井
農會長 飯塚永三郎

資性温和の中に強健を含み、村民の仰慕をあつめて令名噴々たる氏は、先考利一郎氏の長男にして明治六年十月十二日の岳降である。當家は先々代彌治郎氏は中興の業を完成してより三代目、代々農を本業とし、篤農家を以て稱された。氏は柔道師範神保源十郎氏の門に入りて柔

道及び整復術を修め、目下接骨師を副業にしてゐる。また郷土の小學校を中途退學後は、間山成臣氏經營の間山塾に入り漢學に研鑽を積んだ。かく文武兩道に秀で、先年推されて助役となり、更に村長の要職につき、また村會議員に當選數回その他村自治のため枚擧に遑なき功勞を遺し、現在は村農會長に任じて本村農業の改善發達に盡力しつゝあるほか、金錢貸借並に小作爭議調停委員、群馬社及び郡養蠶組合評議員、縣整復術師會評議員氏子總代、檀家總代等を兼任して功績愈々愈々たるものあり、聲望益々あつきを加へてゐる。質素相愛をモットーとして青年層の指導訓育に當り、時間を勵行し、業務に熱心なること他に比なく、精勵勤勉は氏の生活の信條である。曩に群馬社組長として十年勤績の感謝狀を贈られる外表彰數回に及んでゐる。フジ夫人は明治三年生れ、長男勝馬氏（明治二十七年生）はマツさんを夫人に迎ひ、令孫四人がある。



白郷井村上白井
産業組合長
前村長 猪熊鶴吉

三百有餘年連綿たる當家は、村内切つての舊家名門

である。氏は先代與市氏の長男として明治二年十月三日を以て生をこの世に享けた。嚴父は篤農家として知られた人、令弟敬太郎氏は日露戰爭に旗手少尉として出征、凱旋後中尉に昇進、中隊長代理をつとめ、明治四十三年病氣のため茅ヶ崎に靜養中、實戦中の記録を執筆編輯し、「鐵血」と題して一巻の書に纏め、一般在郷軍人分會、各學校等に配本し、體驗による迫力と流麗なる文章とにより多大の反響を呼び、戰爭書籍中の白眉と賞讃されたが茅ヶ崎に波の音を聞きつゝ惜しきも永遠の眠りに就いてしまつた。氏は

桃井村長岡

消防組頭 岩田幸作

性忠允、消防功勞者として令名噴々たる氏は、統御の才と運営の妙に長じ、單に消防關係者のみならず、全村の信望を一身にあつめてゐる。明治二十七年四月二十日を以て先代茂市氏の長男に生れ

瀬田農林學校を優等で卒業せる秀才、長

じては家業たる農耕に従事して篤農家の定評を受け、傍ら役場書記を拜命して勤

桃井村新井

元村會議員

小山善十郎

當家は小山一家四十數軒の中でも舊家名門に屬し、先々代は重平氏と稱し篤農

がある。

伊香保町

第六區區長 旅館大森館主 電話伊香保四九番・六三番

大森繁



古來子寶湯の名ある伊香保の温泉は、榛名山を背景

として、景觀の美と湯量の豊富を誇りとし、更に近代的の完全な設備と精練され

會長、同幹事等に推され、現時區長、伊香保第六七八九區世話人、軍友會幹事、

岩鼻村

從七位 勳七等

金井雍次郎

當家は天正十一年金井八郎兵衛眞安氏によつて創家されたる部落切つての舊家

當主を以て十代目となし、先々代鐵平氏は岩鼻代官に仕へ郡中總代または史生試

古卷村有馬

區長 岡本元吉



氏は隣村豊秋村の人、明治八年健かな呱呱の一

燦たる功績を残す大恩人である。當主は先代の次男に當り、明治八年三月六日を

あげ、長じて先代岡本伴七氏の養子となり家督を相續した 岡本家は村内有數の

はざるところ、早くより村會議員に選出されしほか、信用組合理事、消防組小頭等に任じ、昭和五年には村助役に推されて同八年まで勤続、その他各種公名譽職を歴任すること多年、村内切つての自治功勞者と稱され現在は専ら區長として部落の繁榮と興隆に全力を傾けてゐる。經濟思想の普及、冠婚葬祭儀式に於ける酒類の廢止、時間勵行、精神作興など順調に好成績を示し、納税成績の如き他部落に見られぬ好結果を収め、迷信打破、衛生状態の改善、自治思想の普及徹底等も氏が區長就任以來頓に顯著な成績を挙げてゐる。三男三郎氏は勢多農林學校出身の俊才として將來を囑望されてゐる。

桃井村長岡

愛國婦人會及
縣農會囑託講師
清水八郎

椎茸栽培並に漬物の研究家として令名高き氏は、温厚なる紳士にして舉措明捷而して雄辯家である。明治十三年十月二

十五日を以て故平作氏の四男として生をこの世に享け、初め祖業たる農業に精勵せしめ、昭和五年頃より椎茸栽培の研究を始め、多大の家財を投じて研究を完成せしめ、今や椎茸栽培に於ける權威と稱され、合資會社丸八椎茸園社長に任じ全國的にその栽培の普及につとめ、著書も

二三あり、先年愛國婦人會群馬縣支部及び群馬縣農會より請はれて椎茸栽培囑託講師となり、これが副業經營の指導に當つてゐる。氏が唱導の方法によれば、栽培法は極く簡單にて何人とも必ず成功し、年々増加の一方にあるものなれば收益頗る多く、農家副業として最も好適である。因に氏は曩に村會議員一期、長岡信用組合理事一期、同副組合長一期、村農會副會長二期等をつとめ、村政並に地方産業の發展に献策貢獻る多き、村内有數の功勞者といはれ、また郷土興隆の大恩人である。夫人マツさんは明治二十年の出生、長男次郎氏(明治四十年生)、同夫人ノブさん(明治四十一年生)の間に



倉田村權田
教育功勞者
勳八等
市川亭三郎
電話三ノ倉一八番

先代元吉氏は縣會議員、郡會議員等に選ばれて功あり、村長は三期十餘年に亙つて盡瘁し、その他公名譽職多數に歴任せる自治界有數の手腕家であつた。氏は明治四十四年に群馬縣師範學校卒業後多年教育界に身を置いて功績顯著なるものあり、初等教育界有數の材幹と稱された。退職後は専ら讀書を友に日を過し、また植林に興味の生活を送つてゐる。長男八

十夫氏は高等農林學校出身にて目下兵役に在り、他に一男四女がある。

白郷井村上白井

劍道
飯塚儀内



當家は郷土の舊家にして代々農業及び養蠶業を営み

現在村内有數の豪農といはれてゐる。先代は稀に見る勤勉家にして、農事改良その他部落の發展興隆に寄與盡瘁多き自治産業界の功勞者である。氏は明治九年一月を以て生をこの世に享けた。十六歳の時、都丸磯七教士の門に入り、刻苦修行の後、二十一歳にして荒木流の免許皆傳を得、次で範師高野先生に師事して小野派一刀流を修め、これまた皆傳を得、縣下隨一の劍道教師として知られてゐる。日露戰爭には出征、各地に轉戦して忠勇

無双の武功を樹て、勳六等功七級を授けられた。資性温厚にして意氣旺んなるものあり、縣下有數の劍客なれば、澁川警察署その他警察、學校等より劍道教授を囑託され、肉體の鍛錬と共に精神を錬磨し眞に日本國民たるの人材養成に全力をつくし、信望頗る高く、表彰數回に及んでゐる。また村會議員をはじめ、幾多の公名譽職に歴任せることあり、自治方面に於ても有數の功勞者であり、稀に見る手腕家である。農作物の栽培を竹刀の餘暇に娛しみつゝあり、栽培に新方法を發見するなどこの方面に於ても卓抜明敏さを發揮してゐる。四男一女を有し、家庭的にも頗る恵まれてゐる。

桃井村長岡

助産婦
清水ヒロ子

頭腦明敏、資性温厚なる才媛と謳はれる女史は、明治村の産、大正四年を以て故喜太郎氏の五女に生れ、昭和十年清水武夫氏の許に嫁いで今日に至つた。夙に

國府村裁縫女學校を卒業後、上京して神田區水原産婆學校に學び、抜群の成績を以て卒業、學識に達すると共に方技に冴え言語明瞭にして氣品があり、産家に懇切丁寧、句も周到ならざることなく、清水家五代目の産婆として若年ながら名聲遠近に噴々たるものあり、村の衛生設備の完全を期し、愛國婦人會健康保健囑託に任ずるなど、今後の活躍は大いに期待されてゐる。家庭には父源太郎氏、母ハルさんあり、夫君は明治四十四年出生、他に弟妹四人を有し、和氣霽々として愉樂の家庭をつくつてゐる。

岩鼻村栗崎

素封家
五十嵐重五郎

當家の祖は上杉氏の家臣として武藝に秀でたる材幹、民籍に入つて後は代々名主の役をつとめ、地方有數の名望家である。曾ては松平右京輔氏より御墨付を頂戴せしことあり、先々代は名主、收入役をつとめた。氏は先代重五郎氏の男とし

て明治二十年七月七日に呱呱をあげ、高崎中學校を卒業せし人、村會議員に選出重任四期に及ぶ人望家にして現在岩鼻自作農創設臨時審議委員に任じてゐる。小島飼育に興味あり、鷹司公を會長とする飼鳥會々員として有名である。令聞は愛國婦人會幹事に推されて功績多く、氏との間に五男一女あり、長男隆重氏は學習院卒業後九州帝大工科に、次男恒二氏は京都帝大法科に、四男勲男氏は學習院高等科に四男伴夫氏は高崎中學校にそれぞれ勉學中である。

古卷村八木原

長原寺 住職 黒田文昌



宗教家として徳望特に高く、村民より普く敬慕され

また縣より選ばれ社會事業視察のため東

筆吉、飯塚伊之助、小平昇之助、小平五六の四氏である。

白郷井村上白井子持山

郷社 子持山神社



人皇五十三代淳和天皇の御時、弘法大師との山に登

りて種々の奇蹟を残し、當神社は人皇六十一代朱雀天皇の御宇、天慶七年甲辰夏の創建に係り、その後、人皇九十九代後光嚴院の貞治年中御宮柱を建て、神徳四邊に普く輝き、後柏原天皇の御代、享祿三年庚申四月、上野太守菅領上杉民部太夫憲顯氏は今の地に美麗宏壯なる神殿を造營、爾來國家鎮護の靈社として名高くまた古來子授けの神と稱される。社格は郷社、木花開耶姫命を祭神とし天津産瓊杵尊及び眞根山岩長姫命を配祀する。

舊社殿は明治六年野火のため焼失し、現在には假宮殿である。寶物には徳川幕府より下されし御朱印狀、長尾公猷納の永光作太刀一口、古記録六卷等がある。例祭は毎年五月一、二の兩日、柳原二位局の御親拜あり亦縣知事その他知名人士の參拜も多く、附近には鷹ノ巢岩、小節岩、葛籠岩、烏帽子岩、寝坊岩、蠟燭岩、護摩壇岩等の奇岩怪石が所々に横はる。現神職牧隼人氏は牧雅樂麿氏の長男にして明治二十二年の誕生、始祖は千數百年前の人、大僧正尊海師にして、氏を以て二十七代目とする舊家名門、代々子持山神社神官として奉仕して來た。氏は早稻田大學の出身にて、一時實業界に入り貿易會社々員として北米ニューヨークに滿八ヶ年間滞在され、歸朝後も實業方面に活躍し、財界知名人士との往來も數多い。現在當社昇格運動に盡力しつつあり、官幣社に列せられるも近き將來との見透しがついてゐる。地元發展にも努力するところ多く、子持山ハイキングコースは普

く都人士の知るところである。また方面委員を兼ねる。母堂は八十餘歳の高齡を以てなほ健在する。

車郷村

金富山長純寺



曹洞 住職 長野野溪保 宗に屬し釋迦牟尼佛を本尊とする 當山は

土御門天皇の御宇在五中將業平の後胤當國濱川城主三河守長野尙業公下芝村に草創せる當地屈指の古刹、開山は當國綠野群御嶽永源寺四世幻室伊達禪師にて、後永正より六十餘年に亙る弘治三年迄第二世天攝玄盛禪師中興し、第三世文佐禪師の折、尙業の孫信濃守長尙政、箕輪城築城するに及んで下芝より富岡村字源寺に移轉せしめて七堂迦藍建築、依て中興開

基とす。現在長野業政公木像及び鏡、中興開山の畫其の他を寶物として藏し、本寺は永源寺、末寺十數寺に及ぶ。廣大な境内地には本堂、庫裡の外に開山堂、鐘樓その他がある。亦同寺内には長野信濃守の墓があり、現住職は長野野溪保師である。

住職

長野野溪保

明治六年二月二十四日出生の師は當山三十二世に當り、萬溪師の

養嗣子である。頭腦明晰なる善知識にて明治二十八年五月多野郡鬼石町大字淨法寺村永源寺住職池田瑞巖師のもとに入りて修業、現在當寺住職として盡瘁する傍ら群馬郡佛教協和會々長、縣佛教保護會常務理事、日本佛教會評議員、また方面委員、常務委員、赤十字特別正社員、選舉委員、司法保護常務委員長その他の任に在り、寺内ばかりでなく隨時布教するを主義として勵行、亦、司法保護善道の爲に熱心なる後援者である。その功に依り表彰を受けてゐる。

室田町大久保
縣會議員 石井清



抑々當家は始祖以來十代を経、舊家にして先代國太郎氏は村用掛、収入役、村會議員等をつとめ、室田町が村制時代に於ける偉大な功勞者である。氏はその長男として明治十年十月三十日を以て健かな嗚聲をあげた。温良なる紳士といはれ、大正十二年以來縣會議員に當選四回、現にその任にありて縣政界に重きをなし、その他村農會長、群馬縣森林會副會長、群馬縣養蠶業組合聯合會副會長、群馬縣畜産組合聯合會副會長、山林會理事及び議員、保證責任信販購利室田産業組合理事等各種産業團體の役員をつとめて功勞顯著なるものあり、縣内有數の材幹と稱される。

また、町長、學務委員、縣地方外林會議員、消防組頭、町會議員、その他にも任じた。昭和十年の大風水害に伴ふ復舊工事には、縣會議員として或は請願その他の手續を取り、遂に工費一千五百萬圓也の縣豫算を編成せしめて、碓氷群馬、利根、吾妻の四郡に亙る復舊工事を、隣接關係町村工事費の支出と合せて實に總額三千萬圓餘に上る大工事を起し昭和十三年完了豫定のところ、支那事變勃發のため同十五年に延期され、目下着着進捗中で氏の才腕は縣民の仰慕措く能はざるところである。これまで表彰されたこと數回、そのうち三回の表彰を示せば、

表彰狀

石井清氏

右者當ニ農事ニ精勵シ其成績モ亦顯著ニシテ本部農業界ニ貢獻スル處勢カラサルモノアリ依テ篤農家トシテ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和三年一月二十日

農業教育會長

貴族院議員男爵 稻田昌植
法學士農學士

更に亦昭和十三年自治制發布五十周年記念に當り縣會より縣政功勞者として名譽ある表彰を受けた。長男は不幸夭折されたが次男は早稻田大學政治經濟部卒業にて、柔道四段の免許を有し群馬縣蠶糸學校柔道部師範をつとめてゐる。長女は高崎高女出身の才媛にして他に嫁ぎしも目下夫君は支那事變に出征皇軍のため忠烈を盡されてゐる。

勢多郡

木瀨村

木瀨村役場



中村繁太郎氏

本村は土地平坦にして海抜凡二百六十一尺、河流は概して西北より東南に向つて流る、所謂關東平野の一部にて地味肥沃し、田は二毛作田にして、畑は各種農作物に適す。土質は普通壤土、眞土、砂礫等にして、大字小屋原、上増田、下増田、笥井、上長磯、下長磯、女屋は普通壤土にして、地味肥沃し、大字駒形町、下大島、天川大島、野中、上大島の

五字は普通壤土又は砂礫地にて、畑地は専ら果樹栽培に適す。大字東上野、小島里は赤城山脈に連系せる稍々高燥にして他の各字に比し土質低位なり。面積は、東西一里三十六間四尺、南北一里十九町三十間にして、大凡一、二二方里あり、水利は大利根川より廣瀨、桃木の兩用水を通し村内全體に亘りて配水し日用水は勿論動力にも至極便なり。當村現村長、中村繁太郎氏は先代佐四郎氏の男にして明治十年六月二十一日である。當家は又村屈指の舊家にして代々名主戸長を勤め篤農の聞へ高く、先代佐四郎氏は本年八十五歳の高齡なるも尙矍鑠壯者を凌ぐの感がある。當主繁太郎氏夙に村政に意を注ぎ村行政に盡せし功績頗る顯著にし

て、曩に大正十三年より助役を勤め、果進して現在當村々長の重職に在る。氏は又曩に明治三十七年日露戰役に出征し勳功に依り勳七等を授與されてゐる。その識見人望噴々たるもので村民の深く敬仰する處、家庭には嚴父佐四郎(八十五歳)氏、母堂ぎの子さん(八十歳)の外氏の令閨いち子さんとの間に長男正義氏(二十九歳)あり氏は目下砲兵伍長として日支事變に出征中なり。一家三夫婦健在といふ目出度い家庭である。

下川淵村龜里
村會議員 三輪有一
多額納稅者

三輪家は戰國時代當地の城主たりし三輪右門氏の後裔と稱される名門にして、先々代仁平氏の時本家より分れて一家を創立した。仁平は地方有數の材幹として聞え、殊にその卓抜なる財政的手腕は、今日の三輪家在るを確固たらしめ、また下川淵村初代村長に推され、自治功勞者としても著名である。先代悦三郎氏は勢

多郡政友會に重きをなせし人、當主有一氏はその長男にして明治二十年十一月五日の出生、非常に眞面目な人で、眞に豪農たるの面影が見られ、區長十八年、村農會代議員、水利組合議員等をつとめ、現時村會議員に當選活躍中にして、趣味は園藝及び園藝、多額納税者としても令名が高い。

木 瀬 村

産業組合長 清水及衛



斯界の先驅者にして、組合長四十一年間連續就任といふ記録保持者の氏は、先考理作氏の男として明治七年六月八日の岳降である。當家は村内屈指の舊家として又聞へてゐる。氏は十八歳にして組合長の要職を占め、又、多年全國を遊説して斯界に貢献

寄與する處頗る顯著である。その功勞により氏は大正五年木瀬村野中組合特別表彰として恩賜金を賜はり、同、九年氏は査定會を設けて地主と小作の關係を圓滑に進行させる氏の圓熟せる才腕非凡のものである。曩に日本産業組合會頭平田東助閣下、現内大臣湯淺倉平閣下、縣下視察の節當家にて午餐せられた。大正十五年氏夫婦は觀櫻會の光榮に浴し、昭和八年には再び觀菊會の榮を賜はつてゐる。大正十五年梨本宮殿下（農會總裁）より二回御下問を賜はり、又昭和八年一月、有栖川宮の更生資金に依る表彰として花瓶を御下賜され、同年高松宮殿下より農村農家の實情御下問二時間餘に及ぶ光榮に浴してゐる。昭和九年特別大演習の砌り、組合農牛を天覽に供し、前橋行在所に於ては單獨拜謁と云ふ、氏は身に餘る光榮の数々に浴してゐる。現在、氏は木瀬村産業組合長、勢多郡産業組合理部長、産業組合中央會群馬支會理事、群馬縣信用組合聯合會理事等を兼任してゐる。夫

荒 砥 村

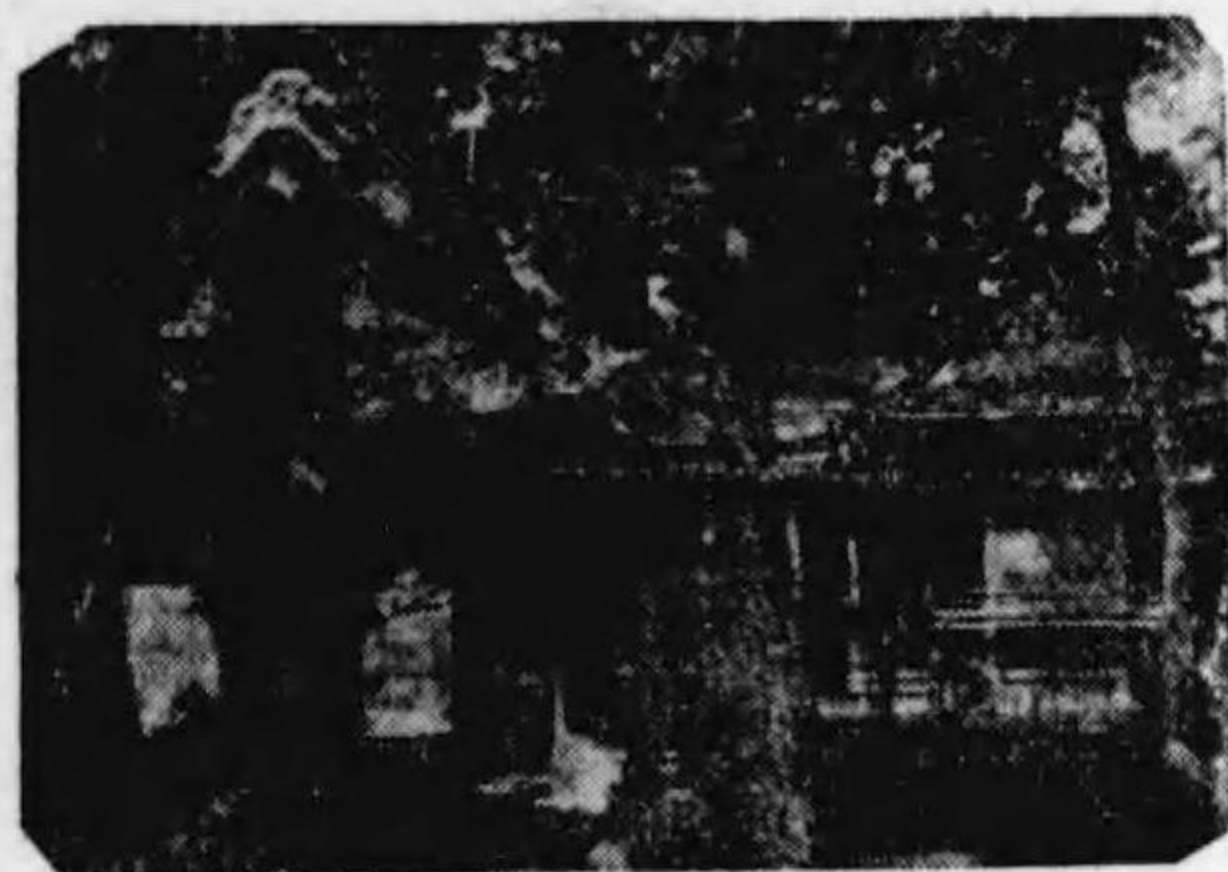
退役陸軍大尉 正六位勳六等 鯉 登 進 助

當家は代々神官をつとめ、舊家にして、先代直道氏は永年産泰神社に奉仕せられ、實に氏を以て連綿十七代を數へる家柄である。氏は先代の男にして明治十七年の岳降、夙に前橋中學校を卒業され、陸軍士官學校に入つて國家の干城となり、明治四十一年同校卒業後は、北海道旭川聯隊勤務を振出しに、若松歩兵第六十五聯隊の新設されるや中尉に陞進して

轉任し、爾來大正十五年まで勤続、その間陸軍歩兵大尉に進み、同年家事都合により退職せられ、父祖の業たる神官となり、産泰神社々掌として今日に至つた。資性剛健謹直、現に郡在郷軍人聯合會顧問に擧げられてゐる。また氏は稀に見る愛犬家として縣下でも著名である。

大胡町河原濱

村 社 大 胡 神 社



當神社は豊城入彦命及び大己貴命を祭神とし、天正十七年の創建に係り、大胡城主常陸介高繁公より御供

米五石宛奉納せられたることあり、古來衆庶の崇敬厚き神社にして、社格は村社に列す。境内一千四百坪の廣袤あり、本殿をはじめ、社務所、手洗舎、神樂殿等の建造物ありて壯觀を極め、寶物には幣帛箱、御劍、御鏡、御玉等が藏される。毎年五月一日を例祭となし、遠近の人々群集して盛大を極める。氏子約一千九百戸、崇敬者はその數を知らない。

社 掌

奈良喜久太



氏太久喜原長奈

氏は明治七年十月の出生、代々神官をつとめ、資性英邁にして學識高適有徳の氏は現に當神社に奉仕するほか五社を兼掌し、郡神職會評議員に推され、令名噴々として四隣に溢きものがある。

大胡町堀越

不二山觀音院金藏院

當院は今を去る三百八十年前、元龜年中、當郡大胡城主大胡常陸介の創立にして、開山は尊永上人なりと傳へられる。本尊には大日如來を安置し奉り、後年、兩度の火災に遭ふて古書古記録並に多數の什物寺寶を烏有に歸したるも、世に善男善女の信仰をあつめて寺運の振興著しく、當地方折りの靈刹として今日に至つた。檀家は約二百戸。毎年四月十二日には大般若經會を催ほして盛大賑賑を極め、五ヶ年に一回づつ執行する大施餓鬼會は近隣にその比を見ざる豪華さである。現住職遠藤丈夫師は大正十年豊山大學を卒業せる縣下佛門の俊才にて、曾て碓氷郡磯部町に住職たりことあり、當寺住職となりしは昭和四年にして、示來檀家信徒の聲望をあつめて今日に至つた。

粕川村

泰雲山龍源寺



住職 吉田哲英 師

當寺は釋迦如來を本尊として聖觀吉音

菩薩を脇立とし、曹洞宗に屬する古刹にして、開山は培芝正悦師、開基は膳備中守である。赤城山より御火を受けて祝融の災に遭ひ、古記録並に古書類を殆ど灰燼に歸せしため、古い沿革の詳細を傳へざるも、永祿十二年二月、當寺四世住職は大般若經を赤城神社に納めしことがあつた。世に善男女の信仰をあつめて當地方有数の靈刹として聞え、現在境内二千坪ありて幽邃を極め、本堂、庫裡、山内、鐘樓等の堂塔を有し、參詣の客跡を絶つことがない。寶物として大般若經、羅漢像掛軸を藏し寺の由緒をそゞろ忍ばしむ

るものがある。毎年四月一日には大般若經會を盛大に執行し、秋十月には大施餓鬼供養をなし、共に粕川村年中行事の一に數へられ、村民の樂しみにして待つところである。檀家は三百五十戸の多きを數ふ。現住職吉田哲英師は駒澤大學を卒業せる學識豊富の徳望家にて、東京市品川區了仙寺の住職たりしことあり、昭和二年來りて當寺の法燈を嗣ぎ、第三十一世住職として今日に至つた。

大胡町

豊國山長善寺

當寺は曹洞宗に屬する古刹にして、本尊釋迦如來とし、開基は大胡大了左馬助氏、大雲寺瑞譽和尚(福林寺五世)を開山とする。鎌倉幕府時代には赤城山と稱したることあるも、豊臣秀頼はこれを豊國山と改めた。福林寺末に當り、寺内に舊蹟たる大胡太郎の墓あり、末寺に湯清寺を有す。境内六百餘坪、本堂、庫裡、鐘樓堂、山門等の建造物あり、流石に古

粕川村

龍光寺

名將新井圖書守を開基とし、天寶伊弉師を開山とする當寺は、曹洞宗に屬する名刹にして、本尊藥師如來は粕川村女淵城主たりし新井圖書守の守り本尊たりしものを當寺に奉安したといふ。古來四民の信仰をあつめて寺運隆盛を極め、六百坪に餘る境内は森閑として流石に百靈の憩ふに相應しく、本堂、庫裡、山門、鐘樓堂等は昔ながらの面影を今に傳へて神聖の氣が漲つてゐる。檀家は四百有餘

戸。毎年十月中旬には大施餓鬼を執行する。因に本尊藥師如來は弘法大師の御作と傳へられる至寶である。現住職白幡宗順師は、若き頃小學校の教壇に立ちて第二國民の訓育に當られしが、大正九年これを辭して當寺住職となり、曩には曹洞宗教區長、勢多郡佛教會副會長等をつとめ、また村教育の振興に功勞多き信望家である。

横野村

津久井文一



當家は今から約四百年前の創始に係り、開祖は源右

衛門と稱する武士であつた。代々農業を營み、先考伊三郎氏は十八歳の時當村の區長代理をつとめ、後、區長數回、郷黨の信望あつく、更に村收入役に選任、自

治に對し活動頗る多かつた。氏はその長男にして明治二十六年九月七日の出生、夙に祖業を承けて農耕の業に従ひ、副業に養蠶業を營んだ。資性濃厚にして篤實、盆栽に興味深く、夙に養蠶實行組合長、農事實行組合長、檀家總代等を歴任して事績見るべきものあり、現時區長に選ばれて部落の繁榮のため寄與貢獻しつゝある。わか夫人との間には長男長三郎氏、長女よし子さん(澁川高女卒業)の一男一女を有し、家庭頗る圓滿幸福である。

前橋市

世久山養行寺



住邊 田

當寺は法華宗に屬し、新

西本成寺の末寺である。本尊は十界勸請である。開基は酒井正親侯で、開山は大

乘院日膳上人である。本堂は間口七間半、奥行六間、庫裏六十坪、鐘樓、鬼子母神堂がある。境内は二千坪を算し、田二段、畑二段、宅地三百坪である。鬼子母神は羅刹といはれた頃に、その子を受するの念甚だ強烈にして、自分の子供のために他の迷惑など意に介せず、世の中を我物顔に暴れまはつたのである。釋尊の教化により翻然と悔恨し、今まで犯した罪を贖はんと、十人の子供達や眷族と共に、釋尊の前に至り一同聲を揃へて申上るに、一切衆生を擁護してその衰患を除きませうと、誓ひました。それで鬼子母神にお願すれば、災難も除かれ、病氣も癒し、願ひ事を叶へてくれる。それには法華經を讀誦し受持せんものとあるので、鬼子母神を拜むには先づ題目の南無妙法蓮華經を唱へばならぬとせられる。當寺の鬼子母神堂は、開基酒井正親侯夫人世久院が、令息忠世侯の武運長久祈願のため、勸請した尊像を奉安してゐて、舊曆十月十二日の鬼子母神祭には參拜者が雲集して盛況を極めるのが常である。

北甘樂郡

富岡町

富岡信用組合

組合の餘裕金を國債證券、地方債券、貯蓄債券その他に運用、厚生を謀りつゝあるのが富岡信用組合は、大正十四年五月二十二日に設立認可を得、同十五年二月十三日定款を變更し、更に昭和十二年三月二十六日組織を變更して保證責任となし、ますく本村金融方面に進出、一村和平のために努力してゐる。現在組合員数は六百三十名、その口數四千四百八十八(昭和十二年末調)口をかぞへてゐる。出資一口の金額は二十圓、保證金額また二十圓であるが、貸付總額は十萬八千圓、貯金は十六萬五千圓に上つて

ゐる。當組合の事業分量は年々増加の一方で、貯金にあつては前年度に比して二萬五千圓餘の増加を見せてゐる。なほこの年の剩餘金の減少は、土地家屋買収のため、諸税及び諸雜費の支出によつて、前年度に比べて減少したのは實際止むを得ざることである。組合長理事は初代は並塚次郎氏で、氏は當組合生みの親である。とまでたゞへられつゝある人、現在は太田長三郎氏その任に在り、また専務理事馬庭信岡、理事並塚龜吉、丸澤彌作、兩田長次郎、奥平文七氏等あり、監事に菊地榮市、宮條元氏がある。

富岡町壽町

石井絹織物工場

で、斯業界に於ける歴史の新らしい割合に、すべての設備が完全してゐる。四十二坪の工場、十八名の従業員によつてあげられる製産數量は六千疋、その殆んどは東京、關西方面に捌けてゐる。第一、第三日曜日が公休日。

工場經營者

石井 宇平

氏は明治三十六年二月十一日同郡一ノ宮に生れ、夙に織物業に従事せる新進氣鋭の辣腕家、獨立旗を樹て、現在の場所に工場を設置、事業を開始したが、事、志と躓き、幾度か危殆に瀕したにも拘らず、氏が不撓不屈の努力は終に當初の苦境に打ち克つて今日の盛況を見るに至つた。本町同業者中の最年少者で、前途に洋々た



絹織物を専門とする本工場は、昭和五年三月の創設

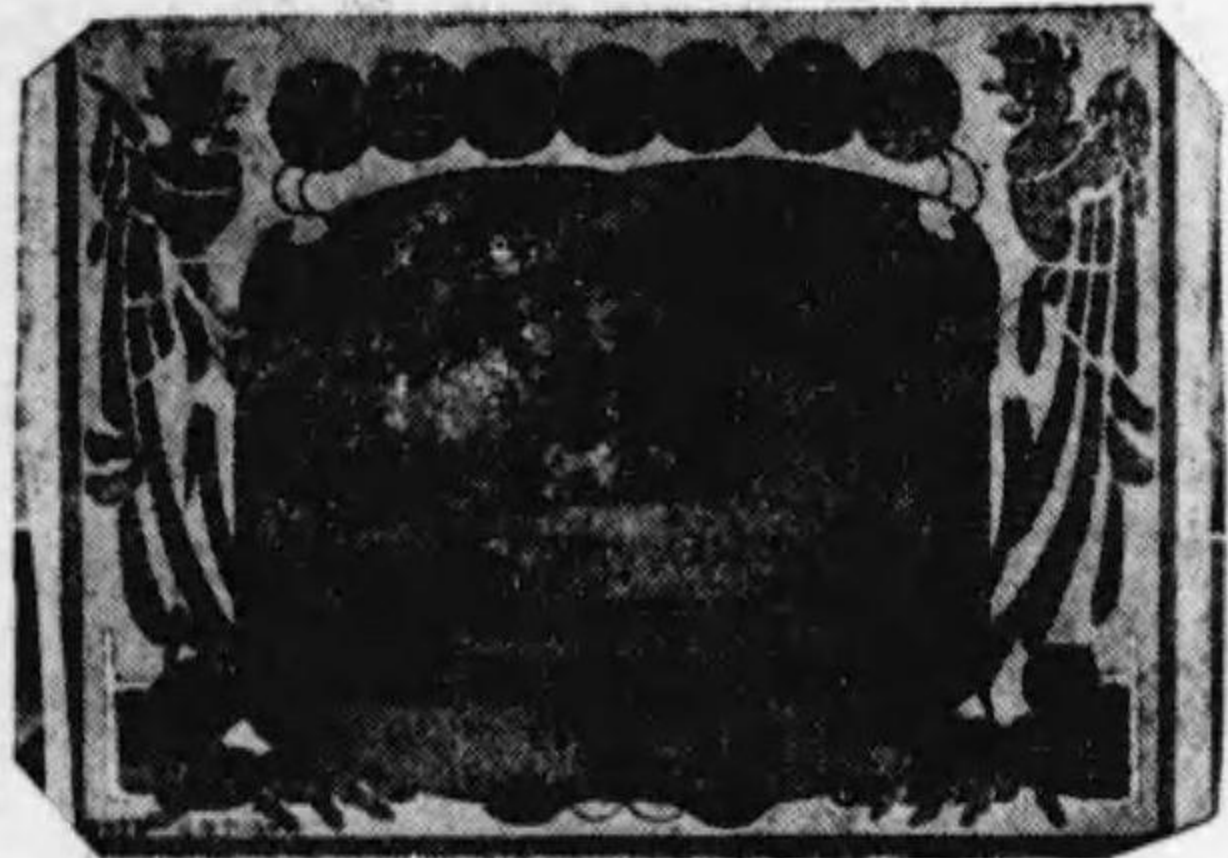
る望を囑されてゐる。

磐戸村小澤

ヤマタ

田村醬油醸造場

今より四十年前の創業になる。醬油の醸造にして金印の商標あり、主なる販路



田村醬油店

は、下仁田町西部一圓にして、當主自らが製品に従事され、品質良好を持つて名高し。昭和十一年第十五回全國酒類醬油

品評會に於て入選賞を受けたる外關東品評會出品に當りて數回の賞を受く。代表經營者は、田村むらの名義なれども、營業上の主權は現村會議員田村彌五郎氏並に田村文三郎氏共同にて當り、磐戸村代表の醸造業である。

村會議員

田村彌五郎

遠き祖先是坂上田村麻呂と聞く、代々連綿と繼承せる當村切つての名門舊家である。先代故清三郎氏齋藤家より婿養子として入り田村家を繼ぎ清三郎と改名する。劍道は學心流代師を勤めし人にて、明治二十四年現醬油味噌製造業を開業したものである。氏はその五男にして明治十五年生れ。令兄四男市四郎氏分家して該業を經營せしものなるが、大正十二年病死せる爲め、妻女むらさんがこれを繼ぎ氏が支配人として經營上の一切を處理して今日隆盛の基礎を固めたものである。氏は華々しく表面に立つを好まず温健なる人格者なり。村民の信用厚く今回懇望、推

輓せられて、村會議員の要職に就けるものである。若き頃より劍道を好み三段の腕前と聞く。

磐戸村

磐戸村長
元縣會議員

佐藤量平

佐藤家は本村最古の舊家、いくつかの分家を出し、幕政當時は名主等を命ぜられ、一村開發の上に多大の功を遺した。氏はこの榮えある家柄に生を享け、夙に漢學を修め、鶏群一鶴の鋭鋒の芽えを見せ、青年時代既に自治體に進出、選ばれて郡會議員となり、また縣會議員に當選すること數回、郡治縣政に寄與貢獻する顯著なるものがあり、村民は勿論、縣一般から崇敬さるゝに至つて、聲望いよいよ高大となる。その間、村民一致の推薦によつて村長に就任、村内の弊風を矯めて刷新へと力進、萬戸安眠の礎石を築うして功績を高め、病軀の故を以てすべて名、公職を去り、悠々自適の生活に入つたが、村民の懇請黙止しがたく、終に

出處、現村長として村勢を見つゝある。

村勢

本村は天正の頃御料所と稱し、徳川氏の時御領所となり、爾來幾變遷明治に至り、町村施行に際し磐戸、小澤、大鹽澤、檜澤、千原の舊五ヶ村合併して磐戸村と稱し、現在に至つてゐる。全村戸數約八百のうち、その四百餘戸は農を主業となす農村で、特に蒟蒻芋の栽培に熱注し、その作付反別は約百二町、七萬六千貫を收め、三萬六千餘圓を擧げてゐる。役場、小學校、青年學校、各種の公共團體等あり、また指定村社二、村社三、寺院九つがある。

にして又軍隊教育に服し歩兵伍長として除隊せり。生來、犠牲的精神に富み、幾多の公共事業に率先して參與し、又産業自治には熱心的に碎勵せり。その清廉潔白、高潔なる人格は噴々たる名聲を拍し、村民敬仰の的なり。推輓せられ村長の要職に就くや、よく村治績の向上に努力し現に災害復舊の爲め經費一萬三千圓を以て、町村道及び村道に通ずる橋梁の改復修理の實行に盡瘁せり。現在當村長の要職の外、農會長、軍友會長及び恤兵委員會の委員長を兼務せり。信仰は曹洞宗にして家庭は貞淑の譽高き、令閨との間に三男二女あり。長男茂夫氏次男清司氏三男久雄氏共に揃つて富岡中學校卒業者なり。長女ふみさんは富岡中學校を卒業し高崎市の平井家に嫁し次女とよさんは目下富岡中學校に



小野村 高橋喜平

入學準備中である。

小野村 高橋喜平

名門舊家なるも八代迄判明せる當村の素封家にして、多額納税者である。氏は先代萬吉氏の男として明治二十一年十月八日の生れなり。氏の祖父故喜十郎氏は郡會議員を勤め、先代故萬吉氏も助役及村長の要職を勤めし當村の功勞者である。明晰なる頭腦の持主である氏は富岡中學を卒業し、昭和六年十月収入役に選ばれ、現在同上長を勤めてゐる。資性温良、謹直なる氏は、數理に明るくその緻密なる頭腦の冴へは未だ一度も、その計算上に相違なしと云はれてゐる。又圓滿なる人格者である氏は現在、村内に重きをなし、その手腕、識見共に前途を囑望されてゐる。家庭は母堂、令閨の外三男二女と云ふ子福者である。長男豊治氏(二十三歳)は富岡中學校を卒業目下北支へ出征中であり、長女は富岡高等女學校を

小野村 高尾

小野村長 佐藤貞太郎

由緒ある舊家なるも、六代以降のみ判明し、後詳かならず。當主貞次郎氏は明治二十年三月二十八日出生。代々名主を勤めし家柄にて、又村内隨一の素封家にして多額納税者なり。氏は富岡中學校出身

裁判所より戸籍事務の功績により表彰された。家庭は至極圓滿令閨キンさんとの間に一男三女あり長女さく子さんは他家へ嫁いでゐる。

富岡製織株式會社 當會社は群馬縣北甘樂郡富岡町下町にあり、大正九年一月その創立をみる。資本金拂込は五拾萬圓にして一口金額五拾五圓、千二百株にして、初代社長中島 助氏、二代目齋藤美之助、現社長清水孫太郎氏をもつて三代目である。事業は絹織物、製糸で、主要販路は東京、京都、大阪、従業員二百名、役員七名である。

卒業、目下上海方面に出動中の丸山軍醫の許へ嫁し、次女は現富岡女學校へ在學中である。

一ノ宮町 一ノ宮

一ノ宮町 福澤元太郎

當家の本家は一ノ宮町大字宮崎在の舊家であるが先代の時現住所へ別家したものである。歴代農業を營んでゐたがその傍ら麻問屋を經營、近郊の麻販賣斡旋に盡力された。氏は先代治平氏の三男として明治七年四月三日出生。當家は先代より役場吏員として村治に關係せるもの多く、氏も又先代の緣故にて明治二十六年雇員として入り同二十八年書記に任用され明治四十一年七月迄勤めた。其後暫らく東京に遊學同四十四年當役場に書記として任用の間よく衆の模範となり勤勉努力、大正十五年拔擢されて今日に至つた。尙氏は縣町村會より吏員二十ヶ年以上勤続表彰を、又北甘樂郡よりも年功表彰を受けたる外、昭和四年五年前橋地方

富岡町 仲町

町會議員 清水孫太郎

資性温厚篤實なる氏は文久三年の岳降である。夙に町政改革に意を注ぎその献身的努力は數々の業績を残し町民の信頼敬仰するところである。曩に群馬縣農會第三部長、郡會議員を歴任してきた氏は、又町會議員三十年間連続と云ふ超記録者であり、町草分の恩人としてその人望重きを爲してゐる。現在八十近い高齡なるもその矍鑠たる元氣は壯者を凌ぎ、現在尙、町農會議員、甘樂社代議員その他の名譽職にあり、又富岡製織株式會社々長、北甘樂絹糸組合長、現富岡製糸會社々長等の要職にある。氏は縣政界の重鎮としてその存在は大きく現在は政友會に屬してゐる。家庭は至極圓滿にして令閨との

小幡町 小幡

町會議員 高山吉十郎

當町屈指の名門と稱される當家は代々松平家に仕え、先々代吉右衛門幸久は徒歩役を勤め、先代即ち金英氏もその職をつとめた。當主吉十郎氏はそし長男に慶應二年八月一日呱呱の聲を擧げし資性英邁にして廉潔なる人格の持主、明晰なる頭腦は既に幼少より衆をぬきて漢學を修め明治十三年十五歳の若冠にして育英に

従事長じて明治二十年五月高崎十五聯隊に入營、満期除隊後ふたゝび教育界に身を投じて郡内各小學校を歴勤、常に我國民として恥しからぬ人物の養成するを念願として執筆、昭和二年退職に至る迄、實に四十五年間一日の如く努力、功は燦と教育史の上に輝いてゐる。その間明治の日清戦役に應召、各地にて活躍、二等軍曹に昇進、亦勳八等に叙された。表彰も枚擧に遑なく、現在は町會議員及び軍友會長の任に在りて尙盡瘁、家に在りては書畫、園芸、剣道を趣味としてゐる。

福 島 町

町會議員 區 長 矢 島 寅 平



日の出生、先代安五郎の養子となる。資

氏は福島町篠原仲吉の次男にして明治十九年一月四

性剛毅磊落にして又、愛郷主義、實行力ある正義感の人である。町政、及び農村改革に全力を傾注しその不屈の努力はみるべき数々の業績を残してゐる。その功績偉大なり。衆望を擔つて現在町會議員、福島區長等の要職にあり、今後の氏の活躍こそ期待すべきである。又氏の熱烈不羈の精神は政治運動にも多大の關心を拂ひ、民政黨を支持す。家庭は賢妻ハルさんとの間に信男氏あり。曩に氏は農事組合より表彰せらる。

高田村下高田

村會議員 元 村 長 須 藤 啓 藏

一町一村の發展はそれに携はる當事者の如何に依りて左右されるもの、須藤啓藏氏の如き公共の爲に盡すを使命とする士を得て高田村は郡下に於いても模範村と稱される農村、氏は今、村會議員の職に在り、兼ねて農會長、學務委員としても盡瘁中、その活躍貢献するところ頗る多大にして、また曾ては村長その他の

重責に在りし事あり、多年の功勞は村各般に事績をとゞめ、功勞は村史の上に燦と輝き、村民の等しく敬仰するところ、年齢未だ六拾歳に滿たざるが人望厚き事當村一の稱あり、當村に缺くべからざる人物として衆庶の範となつてゐる。因に當家は當地方切つて舊家にして亦、有數の豪農と聞える名門の家柄、その家に生を享けし氏は資性明敏達識、穩健なる人格者にて、由緒深き家門の長として將又公共の一員として一頭地を擢んじ、非常時局に最も相ふさはしき人物である。曹洞宗に歸依し頗る信仰が厚い。

小 坂 村

村會議員 里 見 時 次

資性謹直にして、情誼に厚き氏は、明治二十七年十一月の出生。嚴父貞吉氏は當村九代目村長、組長二十五ヶ年就任と云ふ輝しき經歷を閲してゐる。家業は米穀商にして創立三十年といふ歴史を有し、廣く南西牧二十里四方に供給してゐ

る。曾て氏は、海軍に五ヶ年三ヶ月服し名譽ある勳八等にも叙せられてゐる。夙に村政刷新に心を砕きその献心的努力は數々の業績を残してゐる。現在村會議員、養蠶實行組合長、七ヶ町村組合立病院立會議員、在郷軍人分會副會長、小坂村養豚組合長（創立大正十五年より引續き）、土木立會議員、常覺寺檀徒總代等を勤め、村民の信望厚い。曩に政友會に屬し縣政界の重鎮としてその才幹を認められた。村治績向上の爲め、道路改修、小坂橋築工、第二小學校建築委員等、氏の將來は刮目に價する。小坂村功勞者として表彰せられしことあり。家庭は圓滿にして令闈としさんの間に一男一女あり。

尾 澤 村 羽 澤

村會議員 消防組頭 曾 根 隆 太 郎

山に在りては狩獵、河に在りては釣を亦競馬、野球、スポーツのあらゆる分野に渡つて趣味を有し、燦々と降り注ぐ太陽の下に日々を送りつゝある氏は資性快

活淡明、明敏達識にして俊敏の氣性に富む紳士、亦氣骨稜々として磊落なる風格を有し當



村中堅の隨一と稱せらる。衆望頗る厚く、夙

に自治公共の事に意を用ひて、現在村會議員、消防組頭の重責に在り、自治經濟の向上に寄與するところ甚大、益々刻苦淬勵、粉骨碎身の勞を執つてその努力止まざるの精進振りはいよゝ衆望を高めその一舉一動は期待を以て矚目されてゐる。因に當家は連綿たる家系を傳へる家柄にて農を家業とし、當地方屈指の大地主にて累代村産業に寄與貢獻するところ多大、村民よりは大盡と稱せられ、それを以て見ても當家の如何に資産家たるかを窺がい知る事が出来る。家庭は和氣霽々として春風駘蕩の感あり夫人との間に二男二女ありて和合の家として附近羨望

的となつてゐる。

月 形 村

村會議員 小 金 澤 直 平



資性溫 和言語明 晰なる氏は、先代故百平氏の男とし

て、明治二十七年一月十五日の岳降。先故百平氏短期間なれども當村の收入役を勤めし人、代々篤農を以つて高し。月形村屈指の資産家とも聞く。當村六車は山間に在りて、炭燒業者多數の爲め、氏はその便宜、生活向上に道路の開墾開道に盡瘁し、又、現職村會議員として第二期を勤め村治績の向上、村民の福祉増進に鋭意努力し曩に青年團支部長、軍人會評議員、養蠶實行組合創立當時組合長としてその指導誘掖に當り軍人精神の涵養等に貢献する處頗る顯著である。當村は政友

會の地盤にして氏は又政友系現評議員として重きを爲せり。表彰は數回にのぼり、天台宗の信仰者にして家庭は二男二女あり、長男鐵平氏は現青年團支部代理理事を勤めてゐる。

磐戸村小澤

村會議員 矢島松次郎



當家の初代關孝和先生、(藤原諱孝和關新助)は天

元術考案者として其令名夙に高い。先代故伊三郎勝光氏は其八世にして、現在磐戸村小澤にその石碑がある。氏はその長男にして明治十八年一月二十日出生す。氏先代の遺業を繼ぎて免許九世にして現在北甘樂、碓氷兩郡並びに長野縣南佐久に夥多門人に教授せり。門弟人物中小金澤縣會議員の外多數知名の士が居る。天

元術はこれを點算術とも稱し支那元朝の教學者末世傑の發明したる、天元術に改良研究を加つたるもので今日の初等代數學に似てゐる。其後引續き整數術、招差術、兩一術、算管術、約術、梁術、綴術、角術適法法等を發明遂に、術理中の白眉と云ふべき圓理術を發明、之等の諸術は現代數學に該當し即ち因數分解、分數約法、連分數の漸近數を求むる法、一次及二次以上の不定方程式の整數分解、級數の總和を求むる法、正多角形の周計算代數式の極大極少を求むる法、諸幾何學圓形の長さ面積及體積を求むる微分積分學に相當するものである。圓理術の發明者はニュートン(英)、ライブニッツ(獨)、關孝和(日)の三氏である。氏は衣鉢を繼ぎ點算術教授の傍ら養蠶蒟蒻等栽培せり。砲兵上等兵として氏は軍隊に服務せしことあり。現在は村會議員、農會總代等の要職にあり、村政に盡瘁してゐる。家庭は至極圓滿にして、令閨との間に四男五女あり。信仰は天台宗である。

青倉村

村會議員 白石恒二



當家の祖、紀州より淺野長晃公に從屬し廣島市箱島

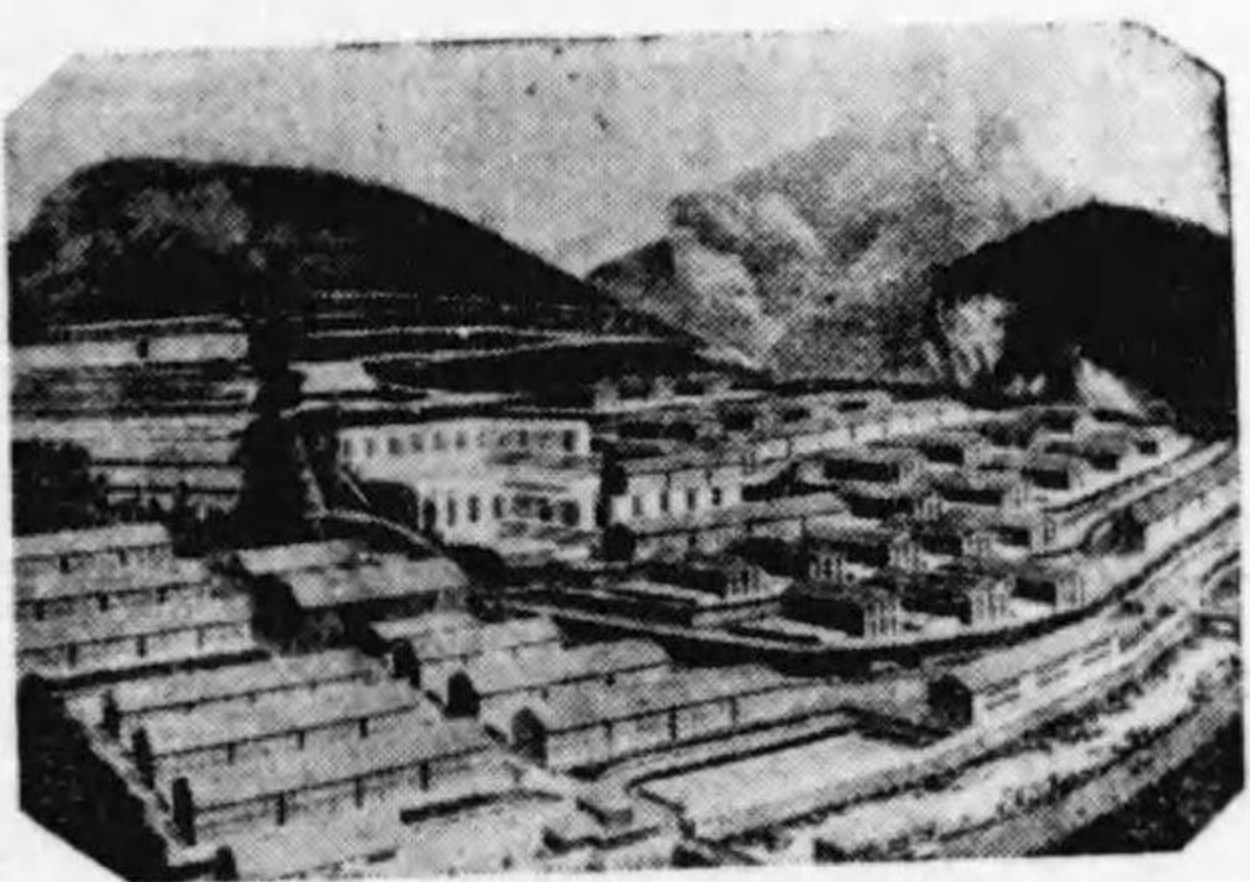
に住し現向島町に於て難波屋と號し運上米の質權商及御場所と稱し藝藩の銀座蒲鉾の製造、水車場を兼ね醸造を營みしも廢藩後、御物所の水車を以つて製粉業を盛大に營みしもの、當主の代に至りて現在の米國式に變遷せしものである。氏は、明治十九年三月一日生、先代故喜平氏の男である。頭腦明晰にして俊敏、その意志の鞏固なること磐石の如くである。氏は東京市文友義塾中學校工學院の出身で、曩に大正七年のシベリヤ出兵に出征して一時金を賜る。現在村會議員の公職の外、白石工業榮養興業白石商會社取

締役、日本炭酸カルシウム工業組合長、學業技協會長等の要職に在り、氏の活動は多彩多面である。その識見の高邁さと、圓熟、卓拔せる營業的手腕の冴は今後益々期待すべきものがありその動向は刮目に價する。家庭は令閨あさよさんとの間に二男二女あり。氏の趣味は刀劍、寫真、銃獵、謡曲と仲々多藝の持主である。

白 艶

當工場は株式會社
で明治四十三年八月
十五日創立にして、

大正八年十二月一日現在の株式會社に組織變更せるものである。設備の大なることとその古き歴史は當郡に並ぶものなし。資本金壹百萬圓にして姉妹會社は高知縣、三重縣、兵庫縣、に散在し、主要販路は東京、大阪、神戸を中心に、日本全國、殖民地、英、米、獨、佛、支那、壕洲である。本社は大阪市西成區津守町にあり、盛大にしてその隆々たる業績は今後増資又は別會社を増設の要ありと信ずる。堅實にして内容の整備、廉價優良



場工場艶白 社會業工石白

品の多産主義は、世界市場へ確固たる地盤を礎けり。

馬山村

村會議員 小金澤甚吾

小金澤家は四代目の舊家、農業並に養蠶、製糸を業となして精勵力進今日に至つてゐる。氏は與三郎氏の次男、明治十五年十月一日の出生、縣立富岡中學校第

吉田村

村會議員 大小原 繁



當家の祖父善次郎氏は、明治初年學務委員として村

一期の卒業生で、後ちアメリカ及び歐洲各國に實地農業研究の行脚を續けること實に二十ヶ年、その蘊奥を極めて歸朝、次で製糸組合幹事及び養蠶實行組合長に推される十三ヶ年、また馬山消防組第二部組頭を十ヶ年勤続、その功著大なるものがあり、曩に縣消防會より勤績賞を贈られた。現在は村會議員に在任、歐米の實際農に徹する眼光を以て、本村將來の農事の上に新意見を吐露し、一村の至福に貢献してゐる。夫人環さんは九州熊本生れの女丈夫、長男晃一氏は當年十八歳、家庭は極めて和かである。

政、育英事業に貢献された功勞者にして、

尙又當家は上小林村、大小原家十八代目の舊家の分家なり。氏は先代嘉藏氏の二男として明治十八年十一月二十七日出生す。先代嘉藏氏は土木建築請負業を営む。正義剛直の氏は明治三十八年千葉聯隊砲兵第十七聯隊へ入營朝鮮十九師團に派遣され再役し十三年間の永き軍隊生活をされ砲兵特務曹長に進陞しその功に依り勳八等に叙せらる。聯隊在營當時は剣道の教師たりしことあり、趣味としては圍碁、將棋等がある。除隊後は役場吏員として十三年間精勤し初代國勢調査委員、又軍人分會長を勤め昭和九年帝國軍人分會長より功勞章を受け表彰さる。現在、村會議員、在郷軍人分會顧問、社會教育委員、軍人後援會支部長、寺院總代等の要職にあり、村治績向上に貢献すること甚大である。令閨ふく子さんとの間に三男あり、長男敏氏は高崎聯隊現役志願歩兵伍長として目下北支に出征活躍中、又ふく子さんは、夫君を助けて愛國婦人會評

議員として公共事業に盡してゐる。

新屋村

村會議員
産業組合長
勳八等

小林楠太郎



曾ては
日露の戦
役に出陣
勳八等に
叙された
譽れある

勇士だつた氏は、明治十五年四月三日、代々農を本業となした今の家に生れ、温厚篤實、一村の和平を念となして率先して奉仕、夙に衆望の支持を得、區長、消防部頭、社寺總代に推されて功を効し、現に村會議員、日倉信用販賣組合長、方面委員、檀家總代等の要職に在つて活躍、その輿望に應へんとしつゝある人格者。氏はまた生糸工場を経営してゐるが眞摯にして群を抜く手腕は逐年業を大ならしめ、ます／＼その販路を旺盛ならしめ

てゐる。夫人ひささんは貞順よく家を治めて範を示し、二男國松氏、三男幹氏、三女愛子さんあり、家庭は極めて和かである。

小幡町

町會議員
元縣會議員

新井新太郎



氏は安
政三年八
月二十一
日岳降。
郡内に於
ける最元

老にして、祖父永吉氏の代より部落の役柄を勤め、亡父吉助氏早世の爲め氏は専ら祖父に養育を受けしと聞く。明治七年小幡村の副戸長を振出しに村衛生委員、學務委員、二十四年甘樂社小幡監査役、村會議員、郡會議員、三十年には小幡村長、三十二年郡會議員に再選續いて縣會議員、甘樂社組合理事、郡教育會理事、

郡教育會理事、郡教育會評議員、大正十一年には甘樂社小幡組合理事長、昭和二年大日本生絲販組合聯合會理事、續いて産業組合中央金庫總代、郡農會顧問、群馬縣蠶絲協會理事、生絲組合理事長、郡教育會顧問等々實に輝しき經歷を閲し、枚擧に遑なし。現在尙矍鑠壯者を凌ぎ、氏は又書畫、骨董、圍碁と多趣味の人である。表彰數回に及び、家庭は福島町大竹文平氏家から嫁して來た令閨とらさんとの間に四男あり、長男吉十郎氏外、皆一家をなし子福者、孫福者として仲々圓滿である。

福島町田篠

町會議員
田篠製紙
組合監事

中條哲太郎

氏は明治二十三年十二月二十三日先代金太郎氏の男として出生。先代當主幼少の時物故せり。代々篤農の聞へ高い。氏は資性英邁にして敦厚、圓滿なる人格、眞摯なる態度は村民の澎湃たる信望を呼

んでゐる。又其識見其才幹は村政の中樞に執筆して適材適所刷新向上に氏の貢献頗る顯著である。



今後の氏の雄飛進出は刮目して大、

議員中の白眉である。曩に民政黨群馬郡支部常任監事を勤めたり。現在は福島町會議員、田篠區長、田篠製紙組合監事、家屋稅調査委員、甘樂社信用組合常務理事、衛生部長等々の要職にある。氏は又政治方面自治會方面、特に家系を傳ふるの書集を所持し歴史的なる蒐集を自筆記してゐる。賞勳局記念章、青年會褒章等有り、信仰は眞言宗。家庭は貞妻アキ、(上田篠故中篠松五郎氏長女)さんとの間に俊敏の氣性に富む長男登志雄氏あり氏は横須賀海軍一等機關兵にていま青年團監事長町世話人、分會役員等を勤めて人望すこぶる高い。

尾澤村

村會議員
農會長

淺川文一郎

精力絶倫、先代が遺した借財整理のためにも奮闘をつゞけつゝある氏は、木炭問屋を本業に、煙草、雜貨、呉服その他日用品の販賣を兼ねて、倦まざる努力を見せてゐる。同時に他面物々たる社會奉仕の公共的思念は、土地の上に、村のためにと爲して人知れぬ功を累ねつゝあつたが、終に衆望のあつまるところとなり、選ばれて村會議員となり、また農會長として現任し、旺盛なる精力をこの方向にと注いで業績を高めてゐる。夫人はくに子さん、内助の功勞者であり、二男二女がある。

月形村大日向

村會議員

市川平三

當家は武田信玄公の家臣、笠張藤兵衛の末裔にして、當村の名舊家にて、代々名主、戸長を勤めし家柄なり。氏は明治

二十四年の生れ、資性温厚篤實にして圓滿なる人格者、福徳の相あり。夙に農村



開發に參與し村政刷新に貢獻する處頗る甚大なり。曩に在郷軍人分會評議員、消防組頭等を歴任し、現在村會議員、信用調査委員等の要職にあり、又、縣政界に重きを爲し、現在政友系に屬しその才幹は未來を囑望されてゐる。消防部二十ヶ年勤務、勤続賞及び功勞賞を授與されてゐる。家庭は至極圓滿にして二男二女あり、長男次男共に目下上海戦線へ出征中、長女は東京へ嫁してゐる。

青 倉 村

村會議員 工藤和平

氏は慶應元年六月廿二日の岳降。先代は徳川領(一名天領)といふ頃から代々

いふ羨ましき家庭である。

馬 山 村

村會議員 土屋義一郎



當家は三代目の舊家、養蠶、蒔蒔製粉業を營んでゐる。明治二十一年六月十二日、先代濱吉氏の長男に生れた。若くして村内のことに關興し、早くも衆望をあつめて村政に參するの村會議員に選ばれるのほか、また農村振興策研究機關たる中島青年會々長に就任、常に一村の先達として盡瘁貢獻してゐるが、その業績著大なるものがある。家庭には濱吉氏七十二歳、母堂ふじさん七十一歳、共に壯者を凌ぐの概を以て健勝、一家は和氣瀟々として春風洋洋たる中に歡談を交へて羨望の的となつてゐる。



長男芳太郎氏は一家をなし、次男茂助氏は目下砲兵大隊にて從七位勳六等を賜はり南京へ出征中。三男左七氏は早大出身にして現在會社員、五男新一氏は京城師範卒業し教師として奉職中、次女美津さんも前橋師範卒業し他家へ嫁して教師を奉職中と云ふ實に氏は子福者にして皆々々俊才揃ひと

総代を勤めたり。先代故多藏氏は明治二十三年町村制により、村民の衆望を擔つて收入役に推輓せられ、進んで村長、氏子寺院總代等の名譽職を歴任せり。氏また現村會議員、氏子寺院總代を兼ね曩に村長四期、消防組頭等を歴任せり。又日清、日露の役に出征す。家庭は令聞くまさんとの間に長男芳太郎氏、次男茂助氏、三男左七氏、四男紋次郎氏、五男新一氏、長女喜久子さん、次女美津子さんあり、

吉田村中澤

村會議員 消防組頭 小菅福太郎



温厚篤實なる氏は明治十四年十月十五日先故嘉吉氏

の男として出生、先代嘉吉氏は村政改革村勢向上に盡瘁すること廿八年間の永きに亘り、村自治功勞者として村より表彰されし人、昭和十二年七十八歳の高齢をもつて逝去さる。氏又よく先代の衣鉢を繼ぎ、村民の福祉増進に寄與貢獻する所尠からず、その信望厚く、衆望を擔つて村會議員の要職に推輓せらる。其外消防組頭、氏子總代、中央信用販買購買組合理事等を兼任す。曩に十餘年間消防部頭及び村會議員を歴任せり、家庭は母堂(七十九歳の高齡)の外、二男三女、十二人の大家族なるも常に春風颯颯笑聲門に溢

れてゐる。長男鋪吉氏は頭腦明敏優秀なる成績をもつて富岡中學校を卒業し、大正十五年高崎聯隊へ入營(志願兵として)現歩兵少尉、又在郷軍人分會長を勤め村青年(軍人精神涵養)に努め、又、氏の令聞さだ子さんは國防婦人會副會長として夫君によく仕へ社會公共團體に盡されてゐる。

新 屋 村

村會議員 大工原實五郎



當家は舊家にし、代々篤農家、先代故竹藏氏は區長

三期、區長代理二期、産業組合監事、氏子權徒總代等を勤めたり。氏はその男にして明治二十一年一月二十三日生れ。現在村會議員、衛生支部長、産業組合理事、農事組合顧問、村農會總代、冷害豫防委

員、山林保護組合委員等を兼務せり。曩に氏は明治四十三年青年會を組織し、又氏子寺院總代も歴任せり。家族は淑徳の譽高き令聞まつさん(實家は小幡藩士族家老職を勤めたり)との間に四男一女あり、四男常保氏は中學在學中、長女は女學校在學中。又、當家には小幡藩より下賜された名刀を家寶とし保有してゐる。信仰は、曹洞宗。

小幡町上野

町會議員 田中千治



本町に於ける中堅的人物であり、常に農業の生活改

善と町政の發達とに専念盡力してゐる氏は、明治二十二年六月十五日の出生、後ち田中家の先代松五郎氏に望まれて當家に入つたもので、當家は舊家、累代農を

本業となし、養父氏は夙に篤農の開えが
高かつた。温厚にして眞摯なる千治氏は、
期せずして衆望をあつめ、現に二期目の
町會議員として町會一方の雄を占めて町
政に關與し、また養蠶實行組合長、小幡
組製糸組合評議員などに擧げられて、そ
れ／＼貢獻してゐる。淑徳の譽高き夫人
はツルさん田中勝五郎氏の長女である。
一作氏を迎へて養嗣子となし、二人の孫
さんがある。

福島町 小川

町會議員
方面委員

藤卷 茂平



故盛藏
氏の男に
して氏は
明治五年
一月十一
日の岳降

先代盛藏氏は福島町外五ヶ村當時議員の
名譽職にあり、又部落の要職も兼ねたり。
氏は又夙に地方自治の開發に意を注ぎ前

後區長を十七ヶ年勤む。又町會議員も前
後して三期目なり。曩に福島町福島の生
絲組合の書記を拜命し有限責任となる
や、直ちに理事に推され十五ヶ年その要
職にあり。又方面委員制定と同時に委員
に就任現職、外に學務委員、農事組合長
稻荷神社世話人等を兼たり。因に氏は、
先年納稅組合を組織し自ら其任に當り成
績頗る良好をもつて縣知事より表彰を受
けたり。更に村治の功に依り村より賞品
を授與される等、氏の足跡偉大にして功
績枚舉に遑あらず。信仰は淨土宗にして、
家族は令閨さん(本郡折屋村八木福次郎
氏の二女)の外、長男保氏、二男茂雄氏
あり。長男保氏は岐阜縣船津村にをり三
井發電所に勤務中。二男茂雄氏は家庭に
あり。

小幡町 小幡

田中 俊一郎

小幡郵便局長
氏は局長とする當局は明治卅五年十二
月十六日の創立で管轄區域は廣く小幡

町、本郡新屋村、秋畑村で一町二ヶ村に
またがる。集配事務を明治三十七年三月
より開始内外爲替、郵便貯金、書留郵便、
小包郵便等を取扱ひ、昭和五年九月内外
電信事務を開始せり。これより曩、昭和
四年三月交換事務(電話)を取扱ふ。初代
局長は高松維清氏、二代田中歌吉氏、現
局長田中俊一郎氏は三代目にして、先代
局長田中歌吉氏の男である。明治三十六
年十月四日生、富岡中學校卒業後家庭に
あり父業を扶けて居りしも、偶々第一次
上海事變の(昭和七年)勃發と同時に應
召出征し名譽ある勳八等に叙せらる。歸
郷後昨年推されて町軍人分會副會長の現
職にある。謹直なる人格者で昭和八年三
代目の局長となりし人である。現在事務
員四名、集配人七名前年迄當局員たりし
結城長太郎氏多年勤績の功に依り表彰さ
れる。電話小幡の十四番。

新屋村 金井

新屋郵便所
取扱所長

江原 勝次郎

當家は代々農業を主とし、先代峯次郎
氏は氏子總代、檀徒總代等を勤めた。氏
は峯次郎氏の男として明治二十二年六月
二十五日出生。資性明朗潤達にして、志
操堅固、現在新屋郵便物取扱所長の要職
にある。又、消防小頭、農事組合會計等
を歴任した。家庭は至極圓滿にして、母
堂ゆうさん、令閨きくさんは愛國婦人會
役員として夫君を助けて公共團體に盡瘁
してゐる。長男喜久氏、次男輝吉氏、三
男甫夫氏、二女セイさんがあり、皆健在
にして家事を手傳ひ、尙來年一月中旬頃
長男喜久氏の御祝儀にて三夫婦揃ひ當村
には珍らしきことと羨望せられてゐる。
氏は又、消防組農事組合等より表彰せら
れた。

小幡町 上野

町會議員 吉田 作平

氏は明治三十三年六月廿九日の生れ、
年齒はまだ若くはあるが、祖父作平氏は
名主、郡長等を永らく勤め、父君清作氏

は精農家と稱へられたばかりでなく、農
會副會長、小幡産業組合長等として盡瘁
した自治
の功勞者
で、その
父祖の血
を受けた
當主が、



町自治へと進出、本町中堅人物として町
民の輿望を負ふも當然、今、推されて町
會議員であるの外、養蠶實行組合理事等
を兼任、町自治の刷新發展にと鋭意努力
をつゞけてゐる。趣味は讀書に益裁。夫
人トラさんは福島町佐藤八重吉氏の令
妹、間に丞作君と他に一男一女がある。

福島町 星田

元縣會議員 故佐藤 平八

氏は安政五年三月二十二日の岳降にし
て先代故九兵衛氏の男、幼名を喜四郎と
云ひ後平八と改む、父九兵衛氏の頃より
名主等を勤めり。進取の氣象に富み、幼



にして地方自治の開發に努力、盡瘁す、
惜しい哉三十九歳にて歿す。氏の生前其
の輝しき閱歴は明治二十四年群馬縣會議
員、高崎大隊區徵兵參事員、明治九年地
租改正に付き星田村地主總代、同十三年
學務委員、十六年村會議員、五ヶ村聯合戶
長、十九
年十一月
准判任官
等枚舉に
追あらず
その足跡
偉大なり。又二十二年五月土地調査事務
獎勵の功により表彰さる、二十八年推轉
せられ町長の要職に就任二十九年惜しむ
べき逸材天魔に抗し得ず、病歿す。村民
の等しく哀惜するところなり。寫眞の現
當主一郎氏は俊敏の氣性に富む人

妙義町 中里

元町長 故藤井 愛作

元縣會議員
氏は嘉永三年生れにして、七拾四歳の

高齡をもつて没す。當藤井家の中興の祖としてその生前の足跡は又偉大である。氏は自負心強く、自分の死後は、萬の金を子孫に蓄すと確言し、而してこれを實現せる傑物である。家寶として小幡藩城主より依頼された大阪城見取圖の寫しが在る。愛作氏生前自治に參與、農村開發自治産業道路改修等その功績尠からず、町民の信望厚く推輓されて郡會議員、妙義町々長(大正二年より六年迄)、町會議員、學務委員、妙義町管根組製糸理事及理事長を歴任せる輝しき經歷を持つ人で又、盆栽を良くし、勤勞せずば食せずの氣風、まことに勤儉産を納めた士である。又、獨立自營の精神に富み敬神の念篤き人なり。氏の長男故又太郎氏又よく氏の氣風を繼承せる人物にして、氏も生前管根組製糸理事長、町會議員、學務委員、區長等を歴任し大いに町政に功勞ありたる人なり。現當主、義一氏はその男にして、資性清廉なる人格者。中興の祖、愛作氏は當主の祖父に當る。



福島町 福島
元町長 故高橋半六
勳七等

吉氏の養子として迎へらる。氏の功績は頗る顯著にして、明治二十九年町長に推され前後十二年その要職にあり町政改革に盡瘁す。町長就任前、明治二十六年組頭制度制定の最初の組頭となり又納稅功勞者として其功績甚大なり。日露の役當時、現職町長として勳七等に叙せられ大正三年五月十日六十二歳を以つて逝去さる。當主小十郎氏は、氏の長男にして、町民の信望厚く、町會議員の要職に推輓せられ現在にて五期目十七ヶ年の長期に亙り、又曩に組頭を四ヶ年勤めたり。明治三十年兵にして麻布聯隊入營、豫備役

氏は福島町福島友松周吉氏の三男として生れ當家傳



代々藩政の頃より各種の役柄を勤めし舊家なり。當

主は半治氏と稱し、半衛氏は氏の祖父に當る。生存なれば百十二歳なり、半衛氏生前戸長を長年勤め、明治二十二年町村

制施行と同時に初代福島町長に就任せし人なり。その功績頗る顯著なり、當主の父先代長太郎氏(故人、大正十三年亡)も組合製絲の理事を多年勤めし人、揃つて當町の功勞者なり。當主半治明治十年一月二十六日生、大正九年より當町収入役として、昭和二年迄勤続し多年に亙つて町の財政に盡瘁せる人なり。現在は寺院總代を勤む。信仰は眞言宗なり。

丹生村上丹生

元村長 功勞者 故高橋一雄



當家は祖先より豪農をもつて知名なり。氏は明治十

年六月生れ、夙に農村開發に盡瘁しその功績頗る顯著なるものがある。資性剛毅潤達にして又人望家たり、丹生村製糸組合長を勤め、甘樂製に合併するや理事を

經て副社長に就任その間實に十三年。村會議員、郡會議員等輝しき經歷を閲してゐる。元村長も勤めた。縣及び村より數回表彰を受く、昭和十二年十月死去せるとき現村長岡部榮信氏葬儀の辭に曰く、「村の損失、亦郡の打撃なり」と氏の如き人材を失はれたことを深く惜まれてゐる。氏の次男守氏は民間一等航空士として年少氣鋭の空の猛者なりしが去る昭和八年七月千葉船橋の水田に墜死せり。現千葉縣日滿航空會社は守氏の創立せるもの。一雄氏未亡人イシさんは、丹生村婦人間に人望厚く又、現在愛國々防婦人會幹事として公共事業に活躍中。現相續人重雄氏は柔道の選手にして、母校の名譽を擔つて縣大會に出場すること數回、武德會一級の免許者であり、大いに將來を囑望せられてゐる。



文久二年五月十六日生れの氏は、既に爲すべきすべ

てのことを爲し、果すべきことすべからずを果して悠々閑日月を樂しんではゐるが、一度頭を回へせば、若かりし日の事が繪巻物の如くに繰りひろげられる。去る明治十三年一月本郡第八區の學務委員を振り出しに縣七十一學區學務委員、西牧消防組頭、郡會議員、村長、縣會議員、高山社蠶業學校分教場長、氏子總代、村長再選、下仁田社面野牧村組合創立委員長、取締役理事、監事、下仁田社取締役理事、昭和五年にも學務委員に推さるゝなど、その功績の顯著なる、當村稀に見るの人材である。自治功勞者として縣より、郡よりまた村より表彰を受くる、實に十八回のおどろくべき多きに至る。

西 牧 村
元村長 庭屋靜太郎
元郡會議員
元縣會議員

馬山村

元村長 竹内又太郎



氏は元治元年七月十五日生、名主、村會議員、區長等を勤めて功のあつた重三郎氏を父とし、その長男に生れたもので、夙に父祖の衣鉢を襲いで村政に參與し、村會議員を多年、區長、助役、村長、消防組頭、社寺總代等に歴任、特に村長在職中は村道を縣道に移管し、その他小學校舎の増築、橋梁の新設等を完成したが、これがためには時に私財を投ずるなど、滅私奉公の一念を以て盡瘁、村自治今日の礎石をなした。氏はまた、村信用組合の役員として金融、産業方面にも碎勵しその功績大、氏の輝しき功勞は村史の上に永久記録されるべきである。

福島町

元町長 故瀧上彌一郎



當家は代々藩政の頃より御用掛りを勤めし家柄にして氏は文久二年の生れ、生存なれば七十七歳なり。夙に町政に參與し、その才幹は衆の認むるところなり。氏の卓越せる手腕、識見は収入役より助役、町長と累進しその在職中自治の開發に意を注ぎ、小學校舎の改築、増築、道路の改修等、凡ゆる公共事業に參與しその功績枚擧に追なし。氏は又田篠部落生絲組合名譽理事、監事をも歴任せり。尙又田篠青年會は氏が組織せるものにして自ら青年精神修養の涵養に當るなどその多彩なる活動振りは近郷に偉大なる足跡を残せり。氏の趣味は、書畫、骨董、盆栽にして、現

當主貞作氏は氏の嗣養子にして明治十二年二月の出生なり。資性果斷な努力の人で現在、福島町會議員の要職にある。信仰はキリスト教にして家庭に二男あり、長男文彌氏、二男潔氏共に當町の模範青年なり。

福島町君川

元郡助役 茂木喜太郎



茂木家は其の昔前田家に仕へた近郡切つての名門家で、現在の家は百八十年來の昔ながらの建築物で、前庭を飾る懸崖松は、その齡二百五十餘年といひ傳へられる。以て當家は歴史の古きを知ることが出来るやう。氏は明治二年十二月一日、堅英氏の令孫に生れ、農會長をはじめ郡會議員、産業組合長、村助役二期、村長二期、養蠶實行

組合幹事、甘樂社製糸組合副社長、寺院總代、君川用水世話係等幾多の名、公職を歴任、その擧げたる功績は一々數ふるに遑なしで、縣その他より功勞章を受くる數回に及んでゐる。夫人クニさんは既に亡く、三男三女がある。

小坂村小坂

元村長 佐藤保次郎



氏は明治元年六月一日の岳降である。代々農を以つて家業とし、先代藤太郎氏も村會議員伍長役、地主惣代、社寺總代を多年勤めた人である。氏は明治十九年地主總代役を勤め明治三十二年村制施行と同時に當村書記を拜命し二十五年收入役、三十三年助役、更らに四十一年衆望を擔つて村長に推輓せられ四十五年六月迄村治改善、

村民の福祉増進に盡瘁した。在職中本村第三尋常小學校を新設し育英事業に意を碎き、又四十一年村助役として兵事主任當時、日露役の功に依り勳八等白色桐葉章を賜はつた。曩に社寺總代村農會長等多年勤め、現在は村會議員、有限責任信販組合下仁田社理事等の要職にある。家庭は令閨くにさんは本村東野牧故金井寅吉氏の家から嫁してきて、二男義三郎氏は富岡中學校卒業現在鐵道省に勤務中、三男總三郎氏は同じく富岡中學を卒へて現在滿洲ハルビン鐵道局旅客課長、又長女しまさんは高崎市矢島町永井直八氏へ嫁してゐる。

丹生村下丹生 學務委員 赤尾治郎

祖父太郎平氏は村會議員、助役、區長製絲理事等の名譽職を経歴した人、六十九歳にて逝去せり。先代勝五郎氏は本年六十三歳にて拾回區長の名譽職を永年就任し村政開發自治向上に貢獻する處頗る

後の雄飛發展に多大の期待をかけられてゐる。曩に農村商工獎勵統計調査委員、國勢調査員、農業調査員として表彰せられしことあり。現在學務委員、消防小頭等の要職にある。家族は嚴父勝五郎氏、母堂ソメさん、治郎氏令閨タイさん、(高田村、佐藤仙次郎氏の長女)の外令姉等



先代勝五郎氏

甚大、又養蠶實行組合監事を歴任せる人



格重厚、篤實温厚なる人望家である。氏はその男にして明治三十八年生れ、丹生村中堅人物なり。齡若くして學務委員の名譽職に就任する等、氏の才幹非凡なるものあり。今

の大家族にして、春風和樂、門に溢ちて
ゐる。

月形村大日向

學務委員 市川留四郎



武田信
玄公の家
臣、笠張
藤兵衛の
末流にし
て由緒あ

る名家柄、系圖は氏によりて、保有せら
る。資性剛毅果斷の人、村刷新に盡せ
る材幹にして、大正六年當村助役として
就任以來、村政の整理に衝り氏の明快な
る決斷力によりて滞納税解決の實績をあ
げ、爾後北甘樂郡有數の模範村となる等、
氏の功績頗る顯著なるものがある。その
後、收入役十年勤続後、植林(杉)視察
及び移植等、専ら村政改革に貢献し産業
組合を合併するや、これ又、當郡有數の
模範組合と爲し、自ら監査役に當る等、

當村切つての偉材として氏の將來にかけ
られる期待は大きい。又兼に村長として
一期勤務せり。趣味は將棋にて初段、か
つて關根名人と手合せし時の寫眞を保持
す。家庭は令閨との間に一男四女の子福
者で至極圓滿なり。

西 牧 村

學務委員 神戸金治



當家
は平岩
氏の一
族、終
に今の
地に土

着したが、現在の蓬萊山峯藥師如來尊は、
その昔當家が祀つたものだといはれてゐ
る。代々庄屋、名主、戸長を勤めて夙に
一村開發に功を効してゐる。先代故篤太
郎氏は村長をはじめ組頭、郡會議員、村
會議員、衛生組合長、土木委員、氏子及
び檀家總代等を歴任した自治功勞者であ

つた。當主はその男、明治十七年七月六
日の出生、現在學務委員、社會教育委員、
國民精神總動實行委員として活躍貢献し
てゐるが、前には村會議員、産業組合理
事、衛生部長、土木委員等に歴任、それ
ぞれ功を擧げてゐる。令閨壽茂さんとの
間に三男二女があり、長男金敏氏は專
修大學を卒へて社會局に勤務中。因に當
家の寶物に武田信玄公より拜領の八方睨
の達磨がある。また、槍は鶴神社に奉納
した。

小坂村東野牧

消防組頭 醜造家 金井昇



當家は
代々篤農
の聞へ高
く、又、
祖父跡右
衛門氏は
名主を勤めた人。先代故小彌吉氏又夙に
自治體に功を奏し貢献する處多々あり氏

はその二男にして明治二十八年十月七日
出生す。資性俊敏商略に富み思慮熟考の
人、その意志鞏固不屈の精神よく今日を
大成し磐石の基礎を固めたと云はねばな
らぬ。元本村東野牧に東野牧酒造株式會
社有りしを明治四十二年會社不振の際氏
がこれを買受け個人經營とし今日の發展
をみたるは並々の才腕に非らず、その機
略縱横なる活躍は刮目すべく氏の將來は
益々期待すべきである。又、大正四年近
衛第二聯隊入營、上等兵として除隊後村
在郷軍人分會班長、分會長等に歴任しそ
の軍人精神涵養に盡瘁する等功績頗る多
く、北甘樂郡會議員、參事會員、東野牧
酒造株式會社社長、小坂村社長、關東各
縣學事視察員、有限責任信販組合下仁田
社總源組合理事等々氏の偉大なる足跡は
枚擧に遑なし。又勳功により勳七等青色
桐葉章を賜はる。家庭は、淑徳、賢婦の
譽高い令閨あゆきさんは、本郡一の宮町
峯岸左平氏の二女なり。信仰は曹洞宗と
聞く。

磐 戸 村

消防組頭 池田覺三郎



氏は明
治二十三
年二月二
十八日生
れ。群馬
縣倉田村

出身にして代々農を家業とせしも、頭腦
明晰、英邁なる氏は夙に醫術をもつて身
を立てんと志し笈を負つて上京、日本醫
學校に螢雪の功を積み明治四十二年卒業
その後、順天堂病院及び三井病院にて研
磨し、大正四年現地に於て開業するや、農
村衛生思想に意を注ぎ、大正五年より校
醫として村民兒童の健康に就いて献心的
に盡瘁する等、村民の信望厚く、又、磐
戸村會議員に選ばれること三回、現在、
村消防組頭、郡學校醫會代議員等を勤め
曩に、郡醫師會理事等に歴任せり。趣味
は謡曲にして家族には令閨あささんとの

間に一男一女あり、長男龜夫氏は慶應醫
學部に在學中、長女二三子さんは富岡女
學校卒業し、同じく帝國女子醫專に在學
中である。氏は又校醫として廿九年以上
勤績に依り郡教育會より表彰せらる。

小坂村東野牧

元村會議員 金井忠藏



當家は
代々農を
以つて家
業とし父
保次郎氏
病身にて

早死せしも祖父市郎兵衛氏は戸長役場の
頃東野牧村(現在の小坂村字東野牧)の
村會議員を勤めしことあり。氏は、明治
六年四月八日岳降し、夙に農村開發、村
政刷新に盡瘁し村民の衆望により推輓せ
られ大正十一年十一月村長の要職に就く
や村治績を高め救濟事業に幾多の努力を

拂ひ自治の神として近村の模範たる理想郷建設に貢献する等、その功績頗る顯著なるものがある。勤七等は日清、日露の二大戦役に従軍し其功勞により賜つたものである。現在は本村會議員として村の顧問格たり、又、曩に西牧産業組合長、理事長を歴任せり。現在村會議員の外に神社、寺院總代を兼任してゐる。家族は長男一郎の外四男四女の令孫がある。長男一郎氏は家業に従事し現在養蠶實行組合長を勤めてゐる。

小坂村
元郡會議員 吉田重次郎



代々農を以つて家業とせり。先代故菊次郎氏生存中石灰製造販賣を営み其販路は郡内一圓遠く碓氷郡に渉る。氏はその男にして明治

四年九月十三日生れ。資性英邁にして明敏、商機を捉へるに巧みにて才氣煥發、若年ながら良く父を扶け、先代亡き後その衣鉢を繼いで家業の擴張に肝膽を砕きその業績頗る上り又製米業を興し廣く高崎市へも販路を確立させる等、氏の活動は多彩である。明治四十年郡會議員に當選し一期を勤む。又三十七年より引續き村會議員としてその要職に現任、曩に蠶種販賣業を興し今日迄經營。又群馬縣蠶種販賣業組合代議員、同北甘樂郡支部代表たりしことあり縣組合及び郡より表彰さる。氏の偉大なる足跡、その多年村治改善の功績により村より表彰を受く。元村農會長、衛生組合正副組合長をも歴任せり。信仰は曹洞宗、家庭は至極圓滿である。氏の令孫武夫氏は現役志願にて入營し目下北支に出征勇戦してゐる。

馬山村馬山

消防組頭 大河原茂平

先代茂平氏の男にして氏は明治三十年

四月十四日生れ、先代茂平氏は郡會議員村會議員等の要職を歴任し村政に盡せし功勞者である。氏は富岡中學校を卒業後、夙に農村開發、自治産業等に意を注ぎ、これが向上、發展に寄與するところ尠からず、その功績甚大である。曩に村會議員、三期、馬山中央養蠶實行組合長、生産組合（製糸）の組合長を歴任し、現在は理事、又北甘樂の合同蠶種合資會社を昭和十二年四月創立し現在その代表者である。氏は又昭和十一年ガソリンポンプ新調購入、鐵骨火の見一ヶ所新築等に盡力し、又氏は毎年十一月より三月迄火防巡視をなし、各家毎に調査改良を加へる等、その業績頗る顯著である。家庭は圓滿である。

小野村後賀

消防組頭 功七等

神宮平助

先代榮三郎氏の次男にして明治十四年四月一日の岳降。當家は氏より四代前迄

は判明せるもそれ以前は不詳である。先代榮三郎氏は助役を三期勤め、尙又収入役をも歴任し村自治に盡瘁した功勞者である。温順にして重厚なる氏は又一面意志鞏固にして義侠心に富み公德心厚き人である。富岡中學校の出身、群馬中學校樂文庫を卒業後、騎兵上等兵として日露の役に第一師團所屬第一聯隊付で第三軍に配屬、



三十八年一月十日の戦ひに斥候に出で敵陣地

に入り敵情を詳細視察し完全に任務を果して歸還、その軍事行動は沈着にて勇敢衆の範として稱讃に價するものとして、その拔群の功績により勳八等、功七級の外金鷄勳章を賜はつた殊勳者である。現在日防組頭の要職に在り、又曩に助役並に國勢調査委員（三回）としてその功績は頗る顯著である。氏は又、小山氏より

小山式血液循環療法の教を受け、貧困者には無料を以つて治療するなど篤志家としての氏の令名は普く知れ互つてゐる。家庭は、貞淑なる令閨との間に、三男二女あり圓滿である。

小幡町國峯

前村會議員 故高麗喜平



故人喜平氏、村會議員として永年に互り村政の中樞

に執掌しその功績頗る顯著なるものあり、また區長、消防關係、全國峯の寺院總代と、村民の信賴すること深く、敬仰の的たりし人にしてその逝去を村民に痛惜されし人望家なり。當主賢式氏はその男にして若年ながらもその英邁識見は高く評價され、有爲なる村中堅人物としてその將來を囑望されてゐる。現在は青年

産業組合長 淺川龍太郎



先代治三郎氏は當地にて運送業を營み、又蠶糸、蒔

蒔、木炭等の商業方面にその手腕を縦横に振ひし傑物にして、その才腕は衆の認める處。推轡されて村會議員の要職を長らく勤めし當村の有力なる人物なり、氏はその男にして明治十二年十一月十五日の出生、夙に漢學を研鑽し齊家修徳、その識見は氏の村政刷新に寄與貢獻する處甚大である。現在下仁田社事務理事の要職にあり、外に、尾澤村産業組合長、北甘樂郡木炭同業組合副組合長、氏子總代、

養蠶實行組合長、群馬縣木炭同業組合代表員等を兼任、多彩なる活動は全く刮目に價する。曩に消防部頭、國勢調査員、衛生組合長、納税組合長、區長、尾澤村農會評議員、産業組合評議員、村會議員二期等々の要職を歴任せり。氏は又多趣味にして園芸、將棋、詩歌、俳句などに造詣深い、曩に内閣統計局より納税調査に關し表彰さる。家庭は貞淑なる令閨ていさんと間に長男萬喜男氏あり、氏は一家を爲せり。

磐戸村小澤

農會長 齋藤幸次郎

當家は數百年の舊家、齋藤家の分家に由緒ある家柄であり又、當村切つての資産家である。氏は先代文三郎氏の二男にして明治二十二年七月生れ。明治四十二年高崎聯隊に入營し日鮮合併當時、守備兵として派遣され看護上等兵として除隊した。資性温厚篤實、情誼に厚き氏は村民の深く信頼するところであり。幾

多の失業救済事業、道路改修、橋梁修復等に貢献してゐる。現在下仁田銀行監査役、群馬縣産林組合名譽委員、農會長、方面委員、赤十字社特別社員、區長等々の要職にある。植林事業に興味を持ち、又自己所有の山林多しと聞く。家庭は仲圓満であり、七人の子福者、母堂も健在、夫人は國防婦人會幹事として夫君を助け、社會公共事業に活躍してゐる。長男清一郎氏は現在小學校に在學中。

秋畑村

産業組合長 黒澤和平

十年一日の如くとは氏の如き人を指す。資性温厚にして篤實、よく家業に精勵その勤勉實直なることは衆の認むる所にして、村の模範として村内の信望絶大なものがある。明治六年十月十二日、先代故島吉氏の男として生れる。曩に氏は寺院檀徒の總代として、自ら率先して奉仕なしたる人なり。現在、秋畑村産業組合長として村民の福祉増進の爲め、献心

的に盡瘁してゐる。本組合は明治十九年生糸の揚返し事業にその端を發し明治四十三年産業組合法により正式に創設されたもので氏は組合長として在職二十四ヶ年間當組合の改革發展に寄與する所甚大にしてその功績は又顯著なるものがある。現在組合總本額二萬九千七百三十圓、販賣年額八萬圓にしてその成績頗る優良として、産業組合中央會より表彰されたのも、一に氏の如き圓満なる人格者の統制宜しの結果である。家庭は夫人とら子夫人と長女いと子さん養嗣子鶴松氏令孫絹枝さんの外に養女直子さん、みす江さん等であるが一家圓満に家業に勵んでゐるのも皆當主氏の人格の反響する處である。又當家は代々篤農の聞へ高い。信仰は曹洞宗なり。

磐戸村磐戸

農事改良組合長 佐藤東一郎

當家は五代前駒之丞氏が、現在の佐藤量平氏の前祖より分家せるものなり。當



先代伊勢太氏

家初代駒之丞は國學者として近隣に響き渡りこの地に宜歌庵と稱する寺小屋を創設す。二代目與五郎氏前代の遺業を繼承し村兒童の育英にあたりその功績尠からず、後明治十二年聯合戸長となりし人、



(その祖父)

三代目新平氏事業肌の人にて、蠶業に従事すること多年、郡内富岡町甘樂社に勤

務せり。四代目先代故伊勢太郎氏は碓氷郡原市町の郷原、萩原源十郎家より養子として佐藤家に迎へらる。夙に村刷新に盡す。明治四十一年村助役を前後三期、昭和七年一月村長の要職に就任、一期、後退き本年一月逝去せり。良く村治績を高め村民の福祉増進に貢献盡瘁せる功勞者なり。當主東一郎氏はその男にして明治十六年十月十八日岳降。現在は農事改良組合長として、専らその向上に意を注ぎ、家事に精勵す。家族は賢婦の譽高き、令閨まんさんとの間に長男素平氏(安中蠶絲學校を経て前橋農業技藝員養成所を卒業現在本郡高瀬村青年學校の教職)長女よね(碓氷東原市町大字郷原須藤兼七へ嫁せり)二女ひろ(女師一部卒業現在月形校に訓導として奉職中)さんなり孰れも頭腦明晰、秀才の譽高い。信仰は天台宗である。

下仁田町

從七位 有賀良一郎

名門舊家の當家は代々商業を營み先々代は麻問屋商、又代々善五郎と稱す。祖父善五郎氏進取の氣象に富み横濱開港當時先鞭打つて當地の絹絲を送り尙出張して物品の改良に意を注ぎ多大の取引せしことは世間衆知のところである。氏の父故善五郎氏は幼にして安井息軒先生に學び齊家修徳して識見高く郷里に在りて紹計塾を開設育英文化事業に盡瘁する等功績頗る顯著、本縣第一回縣會議員の名譽職の外、寺院總代等に歴任せり。氏はその男にして明治十四年二月四日出生、群馬縣師範學校を卒業し教師として奉職すること實に二十四年間、よく亡父の衣鉢を繼ぎ兒童教育に貢献せり、昭和二年九月郵便局長として今日に引續き現在その業績頗るにあり、擴大して事務員を増員する等、着



名門舊家の當家は代々商業を營み先々代は麻問屋商、又代々善五郎と稱す。祖父善五郎氏進取の氣象に富み横濱開港當時先鞭打つて當地の絹絲を送り尙出張して物品の改良に意を注ぎ多大の取引せしことは世間衆知のところである。氏の父故善五郎氏は幼にして安井息軒先生に學び齊家修徳して識見高く郷里に在りて紹計塾を開設育英文化事業に盡瘁する等功績頗る顯著、本縣第一回縣會議員の名譽職の外、寺院總代等に歴任せり。氏はその男にして明治十四年二月四日出生、群馬縣師範學校を卒業し教師として奉職すること實に二十四年間、よく亡父の衣鉢を繼ぎ兒童教育に貢献せり、昭和二年九月郵便局長として今日に引續き現在その業績頗るにあり、擴大して事務員を増員する等、着

★氏の手腕又その堅實さをみせ將來への期待頗る大と言はねばならぬ。家庭は淑徳の譽高いきをさんとの間に次男平次氏、次女りきさん、三女しげさん、四女文子さんがあり、各々中學校、女學校に在學中、令聞きをさんはよく氏を助けて愛國々防婦人會々長として社會公共事業に盡瘁してゐる。尙家寶古書等有りしも火災にて焼失し、現在保存せるのは安井息軒先生の文通書である。氏の趣味は園藝である。

小野村後賀

後賀區長
勳七等
功七級

神宮佐平

當主より四代迄は判明せるも其以前は不詳なり。神宮平助氏は氏の令弟にして同家より分家せるもの。氏は明治十一年先代榮三郎氏の男として岳降。明治三十三年要塞砲兵一等兵として服役中偶々義和團事件勃發により出征し勳八等に叙せられ、更に日露の役には難冠山砲臺を落

入れ、旅順に向ひ、其の拔群なる戦功により勳七等功七級に叙せられ金鷄勳章を賜はる。氏は現在區長、産業組合理事の要職にあり、曩に消防組頭を五ヶ年勤続し村會議員に當選すること二回二期を歴任せり。村政刷新に盡瘁貢獻すること頗る顯著なり。家庭は令聞くらさんとの間に三男一女あり賢婦の譽高きくらさんは愛國婦人會佩三等有効章の持主なり長男義雄氏は高山蠶業學校卒業者、次男隆司氏は安中蠶糸學校卒業者、三男佐七氏は同じく安中蠶糸學校卒業し目下入營中なり。

小幡町善慶寺

耕地整理組合長
前町會議員

富岡百助



當家は農を本業となし、先代彌平氏は他面村内のこ

とに携はり、多年區長、小幡製糸評議員として盡瘁する甚大なるものがあり、八十四歳の長壽を保つて長逝した。當主百助氏はその長男、明治十六年十月十六日の生れ、父祖の業を繼ぐと共にまた村自治に與り、消防手より組頭に榮進し、町會議員に選ばれて町會一方の確たるところがあつた。現在は耕地整理組合長たるの外、更に長慶寺區長、養蠶實行組合長、小幡水利組合長、小幡組製糸組合理事等を兼務、それ〴〵奔走貢獻してゐるが、曾て縣及び組合より表彰された。なほ氏は民政黨小幡幹事に永らく任じ、また富岡中學の劍道師範でもあつた。

福島町田篠

田篠區長
方面委員

瀧上團藏

當家は代々農を以て家業となして來た。先代唯市氏は町會議員、部落の役員、生糸組合の役員等に關係した。その他自治に直接名を現はさず、隠れたる功勞者を以てたゞへられてゐる。當主團藏氏は

その長男、明治七年一月十七日の出生、若年にして家事に精勵し、曾ては氏子及び檀家總代に擧げられて功を效すところあり、現在は方面委員に區長(三期目)を兼ねてそれ〴〵奔走、盡力してゐる。夫人かうさんは田野郡平井村春田利平氏の息女、長男鐵一郎氏は大正六年兵、高崎聯隊より西比利亞に派遣され、功により勳八等白色桐葉章を賜はり、歸來在郷軍人分會役員を努めたことがあり、他に三男四女がある。

黒岩村黒川

上黒川區長 松本藤太郎



舊家に於て大農家たる當松本家は北に山を負ひ、下に揚水流れ、南に本宅、西に倉庫、東方に納屋を構へ、前面は萬頃を一眸の間に

收めたところ、いかにも一見舊農家たるを思はせる。氏は先代忠次郎氏の五男として明治十九年八月二十三日の出生、疾くより父祖の業を助けて精勵、しばしも倦むことなく、米の收穫は三十俵滿は百八十貫、しかも品評會等に出品する毎に必ず村當局者より表彰を受け、また富岡製糸場よりも賞を贈られてゐる。現に區長、衛生組合長、穀物受檢組合長等を兼ねて努力してゐる。夫人ケサさんとの間に四男子あり、三男文三君は日支事變に特務兵として應召、目下戦線に立つて活躍中である。

黒岩村上黒岩

産業組合長
勳八等

佐藤寅藏



氏は先代岩次郎氏の三男にして明治二十三年四月五

日の生れである。當家は代々農を以つて家業とし先代岩次郎氏は、區長、氏子總代寺總代、村會議員等の要職を歴任し、村政に活躍せし、功勞者である。氏は二十三歳にして渡鮮、彼地にて拾五年に亘り、朝鮮同胞の初等教育に盡瘁した功勞者である。その間二十九歳にして、校長の要職を勤め最若年校長として眞摯なる貢獻をなし信望を博せし記録者である。歸郷後は、村會議員として、村自治産業、教育等に貢獻するところ尠からず、又、村産業組合長に就任以來、銳意これが向上發展に寢食を忘れて盡瘁する等、その識見才腕共に村民の深く信頼し期待する所大である。因に本組合總資本額は一萬三千九百六十圓にして組合員百五名である。氏は又、犠牲的精神厚く、應召家族等には無料にて便宜を計る等その信望益々高い、家族は夫人ハンさんとの間に長男朝通氏、次男通明氏、長女靜枝さん、在り、和樂の聲門に溢れてゐる。

丹生村下丹生
下丹生區長 植村儀平



先代清吉氏は篤農の聞え高く、又人望家に於て村民

敬慕の的たりし人なり、氏はその養子にして明治十八年七月一日の岳降、吉田村高山家の四男なりしが見込まれ當家へ迎へらるゝ處となる。資性素朴温厚なる人格者にしてよく先代の名をけがさず村民の福祉増進に盡率貢獻すること甚大、又非常なる愛郷家にして、その改善の蔭に氏の力預かるざるはなく村民擧つて現十三區長に推擧するや氏又日夜心肝を碎きその責を遂行、圓滑なるその性格剛毅なる氣風等しく村民の敬仰するところである。家庭は和氣霽々たる春風に包まれ貞婦の譽高いナツさん、長男柳太郎氏あり、柳太郎氏は目下南京方面へ出征中である。

り、柳太郎氏は目下南京方面へ出征中である。

月形村大日向

大日向區長 市川榮次郎

福島町君川

方面委員 赤穂房吉

當家は武田家一門の末裔と云ふ、由緒ある家柄にして、安政年間分家せるものである。氏は先代己之作氏の男にして明治二十八年生れなり。豪放磊落、實行家等後備兵として當時滿鐵守備隊に編入され専ら邦人保護の任に當り重大使命を果せる人なり。現在は區長納稅組合長等の要職にあり、村政に日夜盡瘁してゐる。元區長代理を十二ヶ年間勤めその功勞亦尠からず。氏の如く常に誠意をもつて物事に當る實行家は當村稀に見る材幹にして、村民の澎湃たる信望を一身に集めつゝある。今後の氏の活躍こそ期待すべくである。氏は今後茶の栽培に意を注ぎこれが獎勵に大いに努力すると聞く。趣味は將棋なり。曩に稅務監務局より納稅良

好に付き組合長としての功に依り授賞を二回受けた。信仰は天台宗にして、家庭は二男四女の子福者である。

模範青年にして次男紋彌氏は昭和十一年度兵、騎兵伍長として目下北滿に出征中である。昭和九年、軍馬管理の宜しきに依り近衛師團長より表彰される、當家は信仰は禪宗にして、圓滿なる家庭なり。

小幡町

製糸業 細谷伊津岐



當家は代々農家に於て、又秋畑村の舊家なり。氏は

先代故登平の三男にして明治二十年二月十九日生れ。同郡秋畑村五三九八に在籍し、小幡町に於て製糸業を個人にて經營せる奮闘家なり。祖父文太夫氏は小學校教員として永らく村の育英に貢獻せし人望家なり。かつて氏は高崎十五聯隊に入營せしことあり退營後當時は秋畑村在郷軍人會理事、監事、會長を歴任して其間

約十七ヶ年の永きに渡り現在は同軍人會名譽會員たり。現北甘樂蠶糸同業組合長の榮職に在り、蠶業界の辣腕家として又、剛毅果斷、俊敏なる才幹は衆目の刮目するところである。氏の經營にかゝる現工場の従業員は男子五名、女子六十名にして、年産量貳千五百貫に上り其額たるや拾壹萬圓を算す。趣味は讀書にして殊に政治經濟學を鋭意研究その造詣深い。家庭は令閨コマさんと琴瑟相和し、長男三郎氏は富岡中學卒業。電話は小幡二七番である。

尾澤村砥澤

醸造家 故淺川

秀



先代故醸造氏は生前、村長、郡會議員等の稱主に缺

るものあり。氏は其男にして明治四十二年生れ、水戸二聯隊幹部候補生として入隊豫備少尉たりしに、今事變と共に昨年九月應召工藤部隊の〇〇〇隊長として特に其豪傑振りは部下の信賴篤かりしところなり。十二月六日湖熟嶺より高廟に向ひ前進を命じられ、敵狀視察に拔群の勳功を立て進んで十二月十二日南京城下の金陵兵工廠奪取等功勞多かりしが不幸敵の逆襲に遭ひ遂に名譽の重傷を受け野戰病院に入院手當中名譽ある最期を遂げた。氏は生前夙に村青年の軍人、精神涵養に意を注ぎ又在郷軍人分會長として其組織的手腕非凡なるものあり、其統制宜しきを得て着々効果を收め各方面に好影響を與へたり。又、自ら國防婦人會を創立し顧問として活躍するなど、多彩なる氏の活動は衆目の期待する處で未來を囑望されてゐたわけ、今事變で氏の如き模範的人物を亡くしたことは衷心残念である。生前氏の趣味は廣く陸上水上競技の高能選手として有名なり、又劍道初段の

腕前と聞く。當家は先代より農業の傍ら酒造業を営み、商標「小泉」にして年産



クーマる飾を店

額、百十五石、南牧一帯へ廣く供給せり。因みに當家は村第一の資産家なり。家庭は未亡人正子さん（碓氷郡秋間村、中會根莞爾氏の三女）の外、令弟、恒雄氏（東京上富士前榮養研究所勤務）亮吉氏（北海道帝大工學部在學）令妹治子さんあり。名譽の戦死者遺族として靜楚和合の家たり。

下仁田町

商科醫院 中島恭治



新進氣 銳の刀圭 家として の氏は明治三十八年八月九

日の生れである。資性聰明、頭腦明晰なる氏は大正十五年三月日本齒科醫專を優秀なる成績で卒業しその學研的態度は引續き大阪市中山口腔衛生研究所々長醫學博士濱野松太郎につきて研究、その卓拔せる技術、手腕は師の認むる所にして、當地には昭和三年九月開業せるものである。専門は齒科にして氏の眞摯なる探求的態度と卓拔なる圓熟せる技術は少壯ながらも町民の深く信頼する所である。現在下仁田小學校の校醫の外、群馬縣齒科醫師會學術委員、北甘樂郡齒科醫師會理事等を勤めてゐる。又、救護院囑託醫として

て社會救濟事業にも盡瘁してゐる。氏の趣味は乗馬にして、家庭は、母堂はくさん（五十六歳）令閨みや子（二十五歳）の外、令弟二氏である。

尾澤村星尾

篤農家 石井豊太郎



氏は先代故、鷲五郎氏の男にして氏はその男、明治

四十年十二月十四日の生れなり。先代鷲五郎氏、生前その功勞尠からず、明治四十一年村民の衆望を擔つて村長に就任、大正十二年再び推輓せられ村長の要職に就けり。その全生涯は村治績向上、農村開發の爲め熱心に努力し村民の福祉増進に寄與する處、頗る甚大又産業方面の開發に尠からざる私財を提供せり。氏は、十四歳にして先代鷲五郎氏を失ひ、適齡

に達し、又母に死別、不幸なる環境にも拘ず、精勵克己、よく家運の挽回に努め、その淳朴質實さは衆の認める處にして、篤農家をもつて名高し。氏は音楽に興味をもち、又讀書家にして圓満なる人格者なり。家庭は淑徳の譽高き令閨うめさんとの間に二男二女あり、令閨うめさんよく夫君を扶けて和樂の聲氏の門に滿ち溢れてゐる。

下仁田町仲町

森川 彰



氏は明治四十四年十一月十八日生れ。聰明にして才

氣煥發なる新進氣鋭の刀圭家なり。昭和醫專を優秀なる成績で卒業せし氏は眞摯なる學究的態度を持つて東京市立駒込病院（外科）に勤務、後高崎市佐藤産婦人

科病院に於て研鑽せし卓拔せる技術は遂に秩父町健生堂病院に少壯氣鋭の氏を懇望し副院長として招聘せしむるに至りその探求的態度と堅實なる手腕は衆の絶大なる信頼を拍せり。昭和十二年辭任後十三年一月當地に開業し近代的設備を持つて、民衆救済に熱心に努力し鍊達せる氏の外科、産婦人科、皮膚科、花柳病科肛門科等の技術はこの地においても村民の澎湃たる信望を呼んでゐる。この外北甘樂郡吉田村大字南蛇井四〇九ノ二に氏の出張所ありその業務の隆盛窺知さる。家庭は才徳兼備明眸の令閨はな枝さんと琴瑟相和し、その圓満振りを羨望されてゐる。因に令閨はな枝さんは當地中島齒科醫院々長中島恭次氏の令妹なり、氏の趣味は圍碁、撞球にして、氏の今後の活躍こそ刮目に値する。

福島町星田

舊家 中重武平

當家は、當村切つて名舊家、由緒ある



氣煥發にして夙に農業改善家畜の改良に貢獻寄與する

處甚大なり、曩に、北甘樂郡福島消防小頭を二十ヶ年精勤し、又星田村世話役を貳期勤め現在退職、家業に精勵せり、縣より消防小頭の功勞賞を授與されたり。信仰は臨濟宗にして、家庭は至極圓満、長男仙藏氏は現在在郷軍人分會役員を勤め居れり。陸軍少佐中重長吉氏は氏の一族にして航空界に著名なり。

黒岩村上黒岩

舊家 勅使河原鐵五郎



令息辰雄氏

宣化 天皇の 後裔、 多治比 縣守と 云ふ者

あり。今日當部落上黒岩に稻荷神社として祀らる、其後武藏國勅使河原村に秩父の十郎武經なる者、勤皇精神深く南北朝當時、南朝に仕へ、新田義貞氏と協力し



令息武雄氏

北條氏と戦ひ 武運拙く兵敗 此地に落ち 祖なり、當家は代々郷士としてその勢力近隣を風靡したと云はれるが後次第に衰

小坂村大字下坂

名門 齋藤 昇



氏は明治二十年三月二日生れ、本家は齋藤別當の後裔といふ名門にして故文八氏別家し當主を以つて二代目とす。代々農を家業とし、先代文八氏又村會議員、消防組頭等の名譽職を勤めたり。氏は近衛歩兵上等兵にして、現在産業組合理事、調査委員等を兼務せり。之、當村助役、消防組頭、在郷軍人分會長、村會議員等の要職にも歴任し大正六年忠魂砲を建設する等、氏の村治績に關する功績甚大、その人格識見共に衆民の信頼するところ、次回村長に擬せられ氏の前途亦多忙と云はねばならぬ、表彰として在郷軍人功勞賞を授與さる、家庭は淑徳、賢婦の譽高き、のゑさ

路を辿りしを當主鐵五郎氏に至りて家計經營上に執心され再び當家を興し當村屈指の豪農に復興せしめたり。當主鐵五郎氏安政元年の岳降にして本年八十五歳の高齡なり。氏は文字通り勤儉産を治めた人なり。青年時代、前田家の家老職を務めたりといふ劍道指南保阪氏の門に入り劍道を學びし爲め今日この高齡にあるも尙矍鑠壯者を凌ぐの感あり、氏の實子龜太氏又、村會議員として村政刷新に盡瘁されし人なるが六十一歳にして逝去せり。令孫辰雄氏、當年二十六歳にして海軍三等下士として、今次支那事變に出征中なり。尙當家は戸主龜太氏死後は令弟政治氏が家計を扶け、鐵五郎氏は尙當家の全般に亘る後見者なり。尙政治氏の實子武雄氏も海軍航空二等下士として出征中。信仰は淨土宗にして現在龍光寺檀徒總代を勤め、家庭は祖父鐵五郎氏、故龜太氏の實子辰雄氏、故龜太氏の令弟政治氏、その實子武雄氏なり。殊に當家は其の謹嚴と和樂を以て知らる。

んと間に義男氏弟勳氏の二男あり、長男義男氏は、青年學校教師、次男勳氏は青年團長として村青年の指導教育に當つてゐる。

西 牧 村

舊家 佐藤牧太郎

當家は代々農を家業とせる當社の舊家にして、昔武田耕雲齋の家臣より鑑兜等を受納せしも、一度の火災にて焼失せり。現在高崎藩土の使用せし槍刀劍八本を保有せり。先代故、拜輔氏は又夙に收入役、氏子寺院總代小頭下仁田社産組理事等を歴任し村政に功勞ありたる人なり。氏はその男として、明治六年三月十二日の生れ、札幌農學校を卒業し、北海道廳廳舎検査員、收入役兼助役組頭、小頭等を永年勤め、又氏子寺院總代、産業組合下仁田社理事、農會長、衛生組合長學務委員等を歴任し村政に盡瘁せる功勞者にして、氏は又昭和十年七月より下駄工場を經營し十余名の従業員を指導し自ら卒先

して督勵に當り、その明敏商機を捉へるに巧みなる氏の營業的手腕は今日よく家業を隆盛に導いたと云はれる。製品は目下高崎、東京方面へ廣く販賣してゐる。氏の長男愷二氏は安中蠶糸學校を卒業し軍務に服し歩兵少尉なり、曩に在郷軍人會分會長、現在は青年學校指導員として村青年の軍人精神、國民精神の涵養に盡瘁してゐる。

磐 戸 村

舊家 齋藤重五郎



當家は由緒ある名舊家に於て美濃守(安祥寺殿前濃州大守對州龍天大禪定門天正六年子三月二十八日卒)の末裔にして、曾祖父齋藤嘉太郎氏は中興の祖、その在世當時氏は富岡精絲會社を創立し蠶絲業に先鞭をつ

け、指導誘掖に當り、又殖林事業として杉苗の移植、戸長として道路修築その他村政刷新等に偉大なる足跡を残しその功績たるや枚擧に遑あらず。祖父長太郎氏は三期に亘り村長として村治績向上に又盡瘁せる功勞者にして明治九年土地改正の際には八十五歳の高齡をもつて衆に率先しその指導整理に當り、また北甘樂社の重役として現村長、佐藤量平、齋藤正二郎、淺川龜太郎氏の三氏と共に精絲業界に貢献せるはその特筆すべきもの、其功勞により勳八等に叙せらる。先代源太郎氏又多年消防組頭として活躍し、自ら農事組合を組織し組合長として村政に盡瘁し其功績尠からず、人物手腕共に衆の認めるところにして次期村長に擬せられしも惜むべし、四十九歳を以つて早世せり。當主重五郎氏はその養子にして明治三十年一月十九日生れ、歩兵第十五聯隊に入營しシベリヤに派遣せられ五ヶ年勤務せしことあり。資性濃厚にして實直、表面に立つを好まず専ら先祖の遺業を繼

承し、篤農の聞き高い。戦功により勳八等旭日章を賜はる。信仰は天台宗にして、家族は母堂キチさん（先代長太郎氏の妻女にして尙健在）の外、全部で十二人の大家族なり。

黒岩村黒川

舊家 月田 一郎



當家は天保の昔より代々名主を勤めた舊名家なり。

又代々農を以つて本業とする。先代故太郎氏は名譽ある勳八等に叙せられ村長、初代産業組合長、學務委員、郡會議員、氏子總代、檀徒總代等輝しき経歴を閉してゐる。又當家には七百年以上の鐵瓶あり周圍には打出しの龍の彫刻ある珍品等々、舊家に房はしき家寶を備へてゐる。當主は故太郎氏の男として明治三十一年

五月四日出生、富岡中學校を優秀なる成績で卒業、元農林省商工省統計調査員、農業統計調査員、農業調査員、青年團相談役、區長代理一ノ宮葛蒲製絲組合役員等に歴任せり。昭和七年統計調査局長より感謝状を受く。當家は舊家丈け屋敷も廣く、本屋の中心東西南に倉有り、米四十俵、藪一五〇匁收獲有り、家庭は淑徳の譽高き千代子さんの外四男三女の子福和氣靄々としてゐる。長男早苗氏は中學五年生に在學中。因に伯父月田藤三郎氏は駒澤農大出身にして農林省に勤め其後産業組合中央會々頭となり全國産業組合の發展に貢献する處頗る甚大である。

當家は當村切つての名門舊家にして、現在、家系圖保有せり。氏は先代秀次郎の二男にして明治十一年十二月一日生れ。先代秀次郎氏畫家として近隣に知名なり。氏は資性剛毅果斷の士にして、事

下 仁 田 町

鐵山師 園部寅五郎

また先代故龜藏氏は永年小學校長、村會議員、村長として盡力した育英並に村自治の功勳者で從六位勳五等の輝かしい偉績を遺してゐる。當主一郎氏はその二男、明治二十七年十月三十日の生れ、東京帝國大學の出身、目下丸ビル三菱會社へ勤務してゐるが、精勵恪勤その將來に多大の望みを囑せられ、三男三男氏また帝大出身の偉材、今、陸軍化學研究所の技師として奉職してゐる。

業肌の人なり。曩に大正三年御即位記念として軍人分會、青年團を動員して十八



町余歩の杉植村を實行し、この碑を氏が建立す。西木

村在）又、大正九年當地産出の物産に對し金融機關の不足を痛感し、氏はこれが組織に率先して有力者を求め資本金三十萬圓をもつて下仁田倉庫株式會社を創立し、金融の圓滑を計り、昭和八年には、西木村に、父の意を繼ぎ水田五丁余を開拓して専らこれに盡瘁しその成果頗る良好、村民の今尙深く感謝するところなり。昭和十一年氏は鐵山事業に志し、令弟丈太郎氏と共に、小坂村に鐵鑛山發見、目下大規模に、三十余名を督勵して一日約三、四十噸以上の採掘をみ、鑛脈豊富にして、前途益々有望なり。氏はこれを國家的事業として専心努力せり。家庭は令

聞とくさんの間に四男あり長男武氏は東京工學卒業、次男は高等工業卒業、三男は實業學校出身、四男は富岡中學五年に在學中なり。氏は、教育功勞により龔に郡長より表彰さる。氏の令弟丈太郎氏は近衛歩兵陸軍士官にして、勳六等を賜はれり。因に丈太郎氏の令聞てうさんの嚴父は檀貯蓄銀行頭取小林勝五郎氏なり。

黒 岩 村

舊家 本多 二郎



本多家の家系由來等は、寺院燒失のため判明しない

が、相當古き歴史をつゞけ、代々小幡藩に使へて名主等を勤め、後ち本多福松氏時代よりは七日市藩の支配名主となつた名門家である。先々代新太郎氏は郡會議員、村長等に推された勳八等の功勞者、

下 仁 田 町

舊家 大内勝義



當村切つての名門舊家に於て、祖は大内義弘公、當

家はその末裔にして山口縣より岩手縣一ノ關城主大内義隆に至る。祖父大内松春氏、仙臺の御殿醫を勤めたり。將軍御典

醫淺田宗伯氏と共に悪性風邪流行の際今日ある淺田館の元祖を發明せり。先代義貢氏も當郡の小幡藩御殿醫を勤めしが、其後明治維新令に依り農村に歸りて醫業を開きよく村民を救済しその信望普く衆民の敬仰の的たりし人。氏はその次男にして明治二十五年四月十五日の出生。幼少の頃先代に死別せり。長じて氏の才智は當地産物の蒟蒻製粉に着眼し、不撓不屈の努力にて二十六年間よく斯業に邁進しその商略機敏にして運営宜しきを得た結果業運隆々、今日の發展と確固たる氏の基礎を造れり。目下其製品は他縣へ移出産額頗る多大にて利潤も壓倒的なれば他より羨望の的となれり。家庭は令聞たかさんとの間に二男一女あり、長女つねさんは女學校在學中。尙當家の家寶は小幡藩よりの掘出物にて珍品丈一寸位唐金の彫像にして脊中に一對で妙法と彫刻有る恵比壽大黒の像は實によく家を護り金圓等の事は特に思ひ叶ふと聞ゆ。天台宗の信仰にして電話下仁田三番。

黒岩村上黒岩

舊家野口貞三



當主は先代故道藏氏の男にして明治三十三年四月十日

六日生れ。當家は村切つての名舊家である。遠き祖先は、黒岩村高林城主青山大納言家老に野口堅物源光忠なる者あり元龜二年城主没落後當村に土着。その子光義より代々新左衛門と名乗り野口家の祖となる。一族の屋敷神社は長歴三年に祭れるもの。其の神熊野大權現と稱す。元水野日向守時代より先祖は代々名主を勤む。元和元年より前田領となり當時野口助之丞氏は上下黒岩の總領主であり其領九百七十二石に達す。當家はその別家なるも良く當時の前田公に仕へ軍資金の御用達は當時の千兩と云ひ、其の證文數十

枚保有、其他古文書寶物等を有し、特に前田公よりの下賜大小二刀は家寶となし代々繼承今日に至る。先代道藏氏は村政刷新等に功績頗る甚大推輓せられ、村會議員、産業組合理事十六年、寺總代等々の要職を歴任せり。當主貞三氏は元海軍々人、初區長代理、産業組合監査役、統計調査員其他當區の爲め盡瘁せり。令弟祐四郎氏は日支事變に出征伍長として軍務に精勵中なり。家庭は母堂イノさんの外十二人の大家族、圓滿にして春風和樂に満ちてゐる。

一ノ宮町宮崎

乘願寺

中村英順

氏は利根郡薄根村恩田、法善寺住職中村諦胤氏の令弟にして明治三十八年七月二十五日の出



根郡薄根村恩田、法善寺住職中村諦胤氏の令弟にして明治三十八年七月二十五日の出

生なり。資性英邁にして明快なる氏は夙に越後高田佛教學院修宗道、前橋妙安寺にて修徳しその烈々たる宗教心は、布教を専念し、傳導に努め、祈禱を排して只管迷信打破に盡瘁せり。現在一ノ宮社會教育委員、一ノ宮司法保護委員、國民總動員實行委員、甘樂郡各宗和教會理事等の要職、名譽職に在り又曩に武葉學園託兒所長、光照日曜學校々長等を歴任せりその眞摯なる態度と識見高き氏の献心的な社會教化事業はその將來を期待する所大きく、刮目に値する。又當寺は久しく無住なりしを氏がこれを興せるものなり。家庭は貞淑なる令閨千代さん(二五歳)との間に一子直磨氏(三歳)あり圓滿にて他の美望する所なり。

城谷山

乘願寺

群馬縣北甘樂郡一ノ宮町字宮崎一五八に在り

當山の本尊は阿彌陀尊にして開基は釋法受坊、開山水野市五宗派は眞宗淨土大谷派なり、當寺は慶長年間開基釋法受坊建

起、明治三十九年火災し中興、上宮太子一守再建せり。古諺に、長谷川肥前守の城中にして前方に谷あり、故に、城谷山と謂ふなり。亦、火災前、寺堂の屋根に菊花御紋章を戴きたり、現在も傳ふ。當時の財産は、山二段畑五段あり、寶物は火中出現阿彌陀如來(自覺大師之作)釋達如上人藤知定書寫之、諸家前太平記宮崎落城授書あり、年中行事は釋尊涅槃會(二月)、報恩講(三月)、天徳講(三月)、檀家は百六十戸余にして廣く甘樂、碓氷、前橋一圓なり。現住職は中村英順氏である。

丹生村下丹生

正壽山永隆寺



堀口住職

當山の本尊は十一面觀世音にして宗派

は永平寺總持寺西大平山、開基は小幡彈正忠平信氏、開山は永橋法師なり。永祿年間(今より約四百年前)小幡上總介重定の長男、小幡彈正忠平信氏の草創にて今郡小幡町寶積寺の十二世永鑿法師の開山なり。寺記に言ふ、信代、國峯、宮崎兩城の主たり仍ち菩提寺なり、寺領九千七百五十坪寄附し徳川將軍家より二十三日の朱印を有す。本寺は同郡小幡町寶積寺、末寺は同郡一ノ宮桃林寺磐戸村永昌寺なり。當時は本堂間口七間、奥行六間、山門六坪、庫裡間六間、奥行七間なり。田畑三町余、山林二里余有り。寶物は本尊曼陀羅觀世音の軸、其他佛像四肢なり。年中行事は、四月廿二日、大磐若會十二月七日大施餓鬼會、檀徒は百六十余名にして範圍は廣く丹生、一ノ宮、碓氷郡東横野村なり、檀徒總代は松本安太郎氏、松本左太郎氏、松本金藏氏、赤尾光太郎氏、湯澤吉太郎氏、岩井鶴松氏、須藤武文氏、大井撲次郎氏、現住職は堀口祖道氏なり。高明有徳にして近隣村民の信仰

高田村下高田

前生壽寺

故片桐龍興

當家の祖は片桐且元の重臣にして、且元歿後、信州高井郡豊里村野澤に一族と共に居住を構へ農業に従事し今日に及ぶと聞く。故龍保師は、嘉永元年六月一日の誕生にて夙に曹洞宗立梅檀寮に佛敎を專攻後十有三年各地を修行し、明治十七年補習教育の塾を開き、三十一年一月迄約十五ヶ年間社會教化事業に盡瘁貢獻した功勞者である。生前師の交友ありたる人に佐藤鐵額師、大森知言師、境野黄洋師、山川健次郎、岡田良平、加藤高明、濱口雄幸、川村景明、犬養毅、團琢磨、井上準之助等の知名なる諸氏がある。そ

の生涯は言行一致をもつて世人の教化に努めし高德の師なり。當主龍興師はその養子にして明治九年六月七日の岳降である。氏は長じて文部省認定曹洞宗第二中學校に學び氏が十五歳、在學中養父先代龍保師入滅す。卒業後、大内青僧師に就きて宗乘を專攻し又、文學博士木村泰賢に余乘專攻の後新竹廳に赴く、尙通譯林思水氏に福建語を六ヶ年間專攻し、文部省主催話術講習會を修了、又文部省社會教育局中央教化第五回幹部講習を終了。群馬縣司法保護委員として、釋放者其他の保護相談に又、縣教化事業聯合會に加盟及會員として教化幹部として教化に盡力してゐる。

信廣山

生壽寺

當山の御本尊は聖觀世音、曹洞宗にして、開基は生壽道空居士、開山、熊叟全廓大和尚。開基道空居士慶長元年に當寺創建す。當郡菅原村金鷄山陽雲寺六世にして、學德の高僧、請ひて當山開山熊叟全廓大和

尙となす。大正七年五月一等法地生壽地に法類される。降雨少なき時には當寺に於て雨請(雨乞ひ)祈禱法會修行し、其靈驗地方の知るところ。本末寺は、北甘樂郡妙義町字菅原金鷄山陽雲寺。なほ參詣名士には故山川健次郎氏、故濱口雄幸氏、故齋藤實氏、故團琢磨氏等である。現檀家範圍は、高田全村九分は檀家郡内各村及東京八十四戸、四百八十餘戸である。現住職は二十二世佛海龍興(片桐姓)にて、學識高邁なる圓滿なる人格者である。檀徒總代は天島伊太郎氏、吉井新次郎氏、須藤啓藏氏、藤井鎌太郎氏である。

小坂村東野牧

妙高山永壽寺

天台宗に屬し阿彌陀如來を本尊とし、觀音勢至を脇立とする當山はその由緒頗るふかく、顧りみるに往昔法山妙高比丘と稱する僧祕佛の地藏尊一體奉安、此地にきたりて小堂を建てこれに隨往、その後建武元年榮秀僧都爰に住居、然るに當

國蛇井村實相寺は比叡山座主法性坊尊意僧正の開山にて歴代の靈地なる故時法性山十七世了觀、阿闍梨を師として此に至り龍泉坊永運と號し、後行弘阿闍梨に傳法、他力本願に依つて一寺を創立、妙高山永壽寺と稱す。後三十三世湛海師の代寛文九四年、格引直し東叡山末寺となる。現在の寺堂は三十一世義潤の建立に係り、後改築せられしもの、寶物として涅槃像、十界曼陀羅傳教大師自筆六字名號その他を藏す。

住職

大河原智舜

當寺住職として、盡瘁する師は明治四十五年三月三十日の岳降、本郡新屋村の出身、郷校卒業後、壬生雄舜師に就て修業更に比叡山中學に學を積み、明治十一年十二月當寺住職と



當寺住職として、盡瘁する師は明治四十五年三月三十日の岳降、本郡新屋村の出身、郷校卒業後、壬生雄舜師に就て修業更に比叡山中學に

なる。總代として盡瘁するは高橋、小井士、加部、松本の諸氏、寺運興隆に盡すところ多し。

尾澤村砥澤

寶砥山藥師寺

天台宗寺門派に屬して藥師如來を御本尊とする當山は應永四年寂榮法師に依つて開創せられし當地方屈指の古刹である。開基當時、時の住職が砥山神社の別當を兼ねて神社境内除地若干を有し、後元和中當村内市川半兵衛と稱せる人が砥石請負を命ぜられて當院寺堂を修繕、亦畑山林を寄附し中興開基となる。其後天保四年正月祝融に遭ひし爲堂宇悉く焼失、爾後堂宇さびれ寺運地に落ちしが、明治四十五年三月當住職匿名にて入り寺堂を修理新築、それ悉く獨力を以て成し今日に至る。寶物として藏するは本尊藥師如來、法用具八點、普通什器貳拾箇の三點である。

住職

三澤長忍

勞資協調を主義とし當院住職として貢献する外に方面委員職工労働組合指導員に任じ活躍してゐる師は資性濃厚にして義侠心に富むる幼時より智慮衆に勝れ獨學を以て政治、經濟、



法律の各問題を研究、その實現近く研究問題は米穀、交通、自家醬油、農村自力更生、農具、家庭工業等であり中にも交通問題は縣にて五ヶ年を以て着手近く實現せられる由、師は亦曾て村會議員として執筆されし事あり尙日露戰役に黒木軍に従軍して活躍奮戦せし勇士、勳八等に叙されてゐる。檀徒間の信望頗る厚き善知識である。氏のこの抱負と即實踐の熱意は今後當地方に裨益する多大なるを期待する。

吉田村南蛇井

大徳山最興寺

當地方屈指の古刹と聞える當山はその創建頗る深く、延元二年丁丑春、天台宗律師晃榮權僧都の開創に係り、妙徳山最興寺と稱す。一時寺運衰頹せしも文治五年三月小幡國峰城主平憲重天偏正挺、弟倫和尚を以て開創とし寺運を興隆せしめた。曹洞宗に屬し大思教主釋迦牟尼如來を本尊として群馬郡白郷村雙林寺末に當る。その末寺淺川町高乘寺、信州昌禪寺を初めとして七ヶ寺に及ぶ。境内官有地壹千四百七坪、三回祝融に遭ひし爲重要書類、寶物を焼失、現在謂ふべき寶物なく本堂は間口九間半、奥行七間三尺、庫裡間口七間、奥行八間、その他の建築物がある。佐藤清三郎、佐藤孝太郎、浦野重太郎、五十嵐佐太郎、大小原繁の諸氏が總代として盡瘁をなし、その寄與貢獻するところ甚大である。

住職

笹野井靜雄

師は明治二十三年八月二十一日の岳降、今は青歩と號し



俳句に造詣深く濃厚にして博識多才の善知識人望すこ

ぶる高い。今當寺住職として盡瘁する傍ら方面委員として社會事業に貢獻、亦令聞は淑徳の譽高く國防婦人會理事、愛國婦人會名譽會員の任に在り、銃後の護りに奔走する。

秋畑村來波

西光寺

當山はもと淨土宗、妙念寺と稱し、柳の木に彫刻した阿彌陀如來を本尊となして多くの歸依者をおつめてゐたが、いつか荒廢に歸せしを、元和四年寶積寺十五

住職

橋本眞順

世の祖勢南育和尚が托鉢の折、當山に留まつて再興、名を西光寺と改め、同時に曹洞宗に改宗、今日に至つたもので、寶積寺を本寺となしてゐる。



師は栃木縣河内郡國本村の舊家の出、小學校長として教育界に盡瘁し、後ち入山したもので、

今、秋畑村社會教育委員、産業組合實行委員に擧げられて懸命の努力をなしてゐる。長男眞雄氏は東京齒科醫專の出身、大正十二年より東京日本橋に於て開業、盛業中である。

新屋町

向勝寺

當山開山は莊山道嚴大和尚(多野郡多

丹生山金乘寺

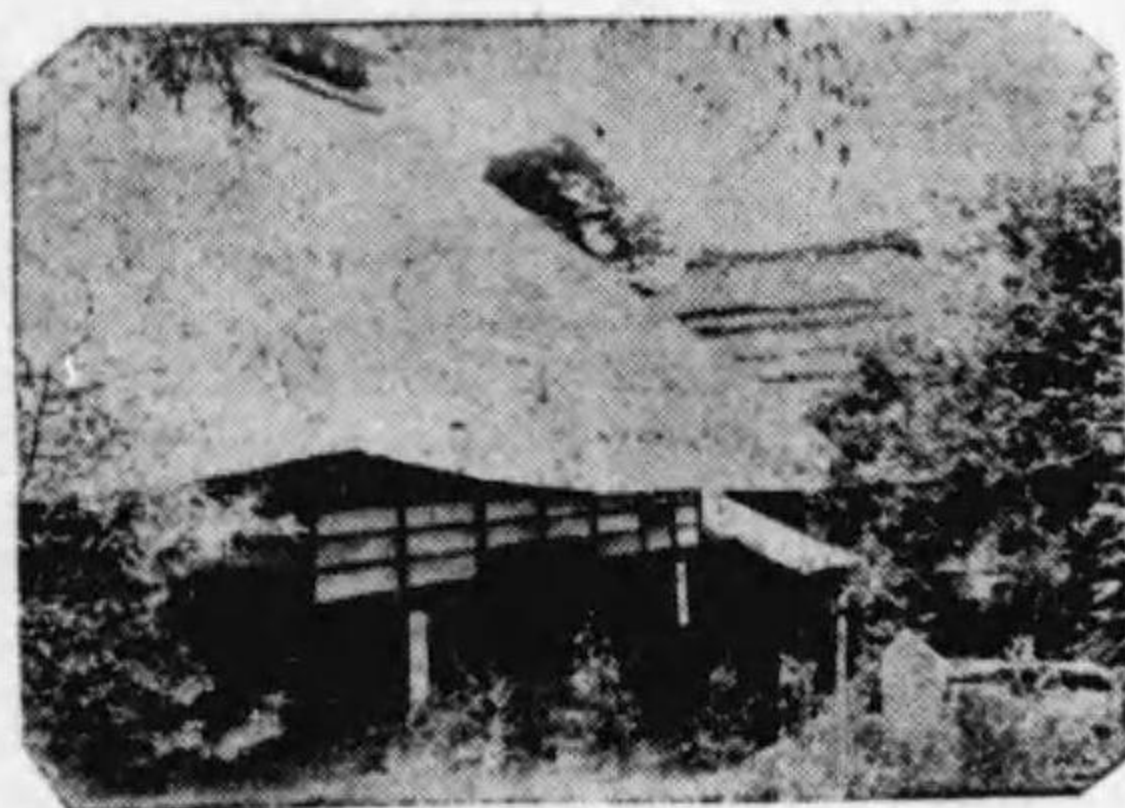
丹生村上丹生



當山宗派は淺井曹洞禪宗派にして御本尊は

釋迦如來座像(この地の大塚半兵衛氏の寄與)開祖は、天應正浩師(文祿二年三月)。當寺は古く文祿年中天應正浩師の開山にして當師で二十三代目なりと云ふ。人皇七十七代後白河院之御宇、保元丁丑秋關白太政大臣藤原恭經公十一代孫丹生四良金乘和州丹生館引越當處州上之鎮守神殿造立之者なり。寶物は本村大字上丹生鳴澤不動明玉有り、佛體は立像にて三尺(弘法大師作との傳説なり)不思議なる靈驗有り、村人及び近郷の者、皆尊敬せり。尙現在の建造物は殆んど全部十八世大雄本明師(當寺中興祖)の代のもの。

現住職は淺井逸道師にて、高德明智の僧として令名高し。現在は北管樂郡和協會理事、司法保護委員、村精神總動員委員



當山全景

等の公名譽職に在る。令聞との間に長男文雄氏(一七歳)あり現在縣立富岡中學校在學中。因に當寺檀徒總代は、岡部孫四郎氏、金井靜光氏、大塚愛作氏等である。

新屋村金井

觀喜山寶勝寺

住職

巖清良

當家は代々僧侶にして師は先代故良照師の男として明治十年八月三日岳降す。先代良

當山は、奥平城主九八郎氏京都御室仁和寺元瑜上人至徳元年創立、應永年間十三世元祐法印の代現地に移したり。永祿年間當國城主小幡播摩守當山地藏尊を深く信仰し武門の祈願所とす。元和元年小幡城主織田越前守金穀田畑を寄附し永祈願所とし同氏祈願所とす。御本尊は、大日如來にして眞言宗豊山派なり。地藏菩薩靈驗顯著、本末寺關係は埼玉縣兒玉郡東兒玉郡小茂田勝輪寺にして、當寺の末寺、往昔三十有餘ヶ寺、現在は三ヶ寺なり。瓦葺間口十二間、奥行九間半、庫裡間口六間半、地藏堂三間二尺四方、上間九尺四方、當境内は一、二八八坪、寶物は女幡守筆額面。年中行事は、毎年三月十三日、地藏尊祭典と大磐若轉讀なり。檀家は二百六十餘戸にして現住職は高德明智の僧として名高い巖清良師である。

照師は寺小屋を開き、村民の教育に盡力し、引續き、宗教務支所長として社會教化事業に貢献せる人なり。師は現在宗教支所長、多野郡各宗協會長、聯合保護會評議員、日本佛教聯合會群馬理事、甘樂郡各宗教會布教師、方面委員、赤十字分區委員、農繁托兒所長、金井青年、處女團長、農事組合修養部長等の名譽職、公職に在り、實に師の活動は多方面に亘る。師は眞言宗大學林の出身である。家庭は夫人吉代さんとの間に長男良宜(三波河村金剛寺の住職)次男良譽氏(東京市足立區北堀町不動院住職)三男良勝氏(多野郡入野村地勝寺住職)四男清剛(多野郡三原村大光寺住職)五男は保進氏にして氏は佛教中學卒業後、現在、滿洲國開教師として教化事業に活躍してゐる。

群馬郡大類村

村會議員 長井兼作
元縣會議員

長井家はその鼻祖を長井織部之丞と稱



勘四郎氏は町村制施行前の

した武人であつた。子孫は土着して農に歸したのである。爾來數多の代數を重ねて現在に至つてゐる。亡父勘四郎氏は町村制施行前の四箇村聯合村を村會議員に當選し、功勞甚だ多大であつた。兼作氏はその長男として、慶應元年五月三日に生れた。家業に没頭して精農家の譽を博す。明治四十四年七月、大正十五年二月の二回に、選ばれて村長に任ぜられてより一期間在任し、功績枚舉に遑あらず、大正四年九月二十五日に縣會會員に選ばれてより、引續きつゞき二期間在任した。現に村會議員として選ばれ、四期間連續して在任してゐる。父子相承けて村長の要職に登り、相繼いで誠意を盡し、熱心を傾けて自村の充實發展と向上進歩を念願とし、たゞ此の大念願のために最善を盡して盡瘁し

たる、父子二代に互つて寄與貢獻する所は顯著深甚なるものがあ。政友會生粹の重鎮として、政界に勢威頗る振ひ、村内といはず、全縣下に互りての長老として推服されてゐる。

新田郡

太田町

縣社 新田神社



南朝の忠臣新田義貞公の英靈を祀る當

社は明治六年八月當町及當地方の有志相謀りて金山城本丸に創建せらる。當城の歴史を

顧るに戰國時代に築城され割據の要害として他にその比を見ざる所、此丘陵に義貞公も築城を計畫せるが兵馬倥傯遂に志をはたさずして越前藤島に無念戰没、その子孫多く國を出で越後方面に潜伏せる爲此の要害を利用する事能はず、其後岩松家純が足利氏より新田の地を與へられ文明元年二月二十五日義貞公孫三河守家純武藏國五十子村に在陣して嫡男兵庫頭新田明純に命じて築城、家純尙純その城主となり、以來幾多の變遷を経て現在に至りしもの、山上には本丸及び二の丸、三の丸、御臺所の遺蹟現存して草莽の間石壁空壘の尙それと認められ、社前には數百年の星霜經たる大櫓今もよく茂り、春秋幾百年の榮枯を如何に見たらんと思はる。尙金山には、當社の他に御嶽神

世良田村

郷社 八坂神社

社格は郷社に列し、祭神は素戔鳴尊である。創建の年代は詳ではない。後醍醐天皇の皇孫尹良親王の御子良王君は、上野國寺尾城にて誕生せられた。御母は世良田政義の女である。その後良王君は尾張國津島に移り津島宮と稱し奉る。良王

君は津島天王社の神主となる。即ち新田



八坂神社全景

世良田 戒の始に當り、七月一日より十五日まで
の諸族 精げたるを以て飯を炊ぎて奉供し、一
は良王 日より二十五日例祭終了まで、神職以下
君及び 村民悉く精進潔齋し敬神の誠を表す。神
その母 輿は二體ある。七月十五日、七月二十五
公と議 日の兩度に渡御式を行はれる。殊に大祭
り、分 には参拜者は世良田八區東西二十餘町の
靈を請 大道はすべて人を以て填められる。各氏
ひ此地 子より十餘の舞臺車を曳き出し、各所に
に創め て演劇等の餘興を行ふ。社寶には康繼の
て勸請 太刀、八稜形の神鏡等がある。境内には
し、新 高富の松があり、熊野杉がある。鈴殿は
田の天 嘉永四年森文右衛門の奉納せる大鈴を安
置してある。また歌人師岡正胤の長歌の
碑あり、小松宮彰仁親王染筆の征清記念
碑がある。

王社と稱し、新田、世良田、由良、横瀬
等の諸族の崇敬して措かなかつた所であ
る。また織田家にも尊崇甚だ篤かつた
ので、八坂神社創建に當り、その建築を
補助した。則ち神鏡及び本殿の兩扉には
同家の紋所を印してある。祭典は毎年四
月十五日を小祭とし、七月二十五日を大
祭とす。その祭典は神職及び奉仕者の齋

元年の創建にて、曾て長慶天皇の行幸あ
りしことあり、徳川時代には御朱印地十
五石三斗をたまはつた。本堂は間口六間
奥行五間半、庫裡は間口七間半、奥行四
間、鐘樓は九間四面、経藏は間口三間半
奥行は二間半、境内は千五百坪を算し、
田三町三段、畑二町がある。支那事變に
於いて南京城外にて名譽の戦死を遂げた
故酒巻伍長の追悼祭は特に盛大壯麗であ
つた。檀家は二百戸、惣代は岩野三郎兵
衛氏、新井泰氏等三氏が奉仕してゐる。
現住職は第三十九世の里澄全師である。

山田郡福岡村鹽原
貴船神社

當社は往昔、山城國官幣中社貴布禰神
社の御分靈を奉祀したりと傳はり、高靈
大神、大山祇大神、大穴牟遲大神の三柱
を祭神とする當地方屈指の古社である。
祭神高靈大神は常に雨を掌らせ給ひ、國
土を永遠に濕して草木の生育を扶け國民
の食用豊かならしめ給ふ御神、亦大山祇

貴船神社

山田郡福岡村鹽原

大神は伊弉諾尊、伊弉册尊の御子に坐ま
して山を掌らせ給ふ神にて、大穴牟遲大
神は國土經營の功績絶大なる御神、國土
を守護し蒼生の病めるを治し不幸を濟ふ
御靈徳高く、故に當社は士農工商福徳の
守護神として御靈驗の灼然なる事は参拜
者の年々増加せるを見ても明かなる事、
殊に國民精神總動員の非常時局に際し武
運長久祈願の爲の武人の参拜者最も多く
殷盛を極む。

邑樂郡館林町

尾曳稻荷神社

當神社は、今より四百八年前、人皇第
百五代後奈良天皇の御世、享祿元年城主

年より社掌を拜命して勤積中である。氏
はまた丹青の道に練達し、大正十四年龜
の繪一軸をやんごとなきあたりを献上し
奉り御嘉納の光榮に浴した。誠心誠意神
明に奉仕し、修理固成の大理を究め、惟
神之道を體得して、村民の教化指導に専
心努力してゐる。

太田町

大光院

當寺の名は往昔の吞龍上人と鶴殺召取
狀の有名なる物語發祥の由緒ある古刹と
して普ねく天下に知られてゐる。上人は
齡十四歳にして武州平方村林西寺の炭辨
上人を拜し、得度して曇龍と稱した。後
學徳兼備の上人として天下に知られた人
である。一夜夢に龍宮に往き諸龍を教化
し、中に惡龍あり上人に害を加へんとす
上人を知り自ら金翅鳥(翼長三百六十
萬里日毎に大小の龍を食すること五百餘
といはれる傳説の鳥)となつて惡龍を吞
む。後名を改めて吞龍と稱すと云はる。

赤井照光の創祀になるものである由緒は
大袋の城主赤井山城守照光享祿元年正月
舞木城主俵五郎秀賢の許へ年賀の儀禮と
て赴く途次群童孤兒を捕へて殺さんとす
るを照光從臣鉢形惣次郎をして錢を與へ
て之を救ひ、遍照寺の林中に放たしむそ
の深更忽然一老翁顯はれ曰く我は稻荷の
神使なり、我兒今日幸にして一命を救は
る。その鴻恩謝するに物なし、願ふに公
の居城は要害宜しからず、是より西北に
館林とて四神相應の靈地あり築城せば敵
百萬騎來るも危ふからず、明夕來りて繩
曳き奉らん築城すべしと傳へて形を没す
翌夕老狐顯はれ尾を曳き先導し字侍邊に
始まり宇加法師に至りて夜明けたり。別
れに臨み、若し此城成らば永く當城の守
護神に仕へんと言終りて忽然没す。照光
築城して尾曳城と號して移り、城中の一
廓に稻荷廓を設け社殿造營し尾曳稻荷神
社を奉祀す、大正三年九月十一日村社に
列し神饌幣帛料供進の指定あり、什寶は
獅子頭(名工甚五郎作と言ひ傳ふ)甲冑

は早稲田大學の出身、目下在滿洲國部隊に服務中であり、次弟氏は桐生高工に在學中である。なほ電話は三七六五、三六六番。

佐波郡境町

會社取締役 織間與四郎
元町會議員



會ては町會議員として町勢今日の基礎をつくる上に

大なる寄與貢獻をなし、現に日本絹毛工業株式會社、株式會社羽毛商店及び境倉庫株式會社等の各取締役の重職にあり、且つ伊勢崎織物同業組合評議員、伊勢崎織物工業組合監事、氏子總代などを兼ねて機略縱横、旺んに活躍しつゝある氏は明治十四年七月十日、先代奥四郎氏の男に生れた人である。家は源家の後裔、足利矢田判官義清、義實、義滿、織田右京

義信、續いて四代後に民間に下り、郷土として鳴らした名ある家柄である。明治三十八年來織物製造業を営み、昭和九年陸軍特別大演習の砌り、畏くも事業御奨勵の思召により天覽を賜はり、宮内省御買上の光榮に浴した。電話境五二番。因に當家の祖義清氏は木曾義仲の木曾に兵を擧ぐるや、足利の一族を引率して馳せ參じ、義仲方一方の大將として平家の大軍にあたり、遂に備中國水鳥の合戦に敵を散々惱ました。不幸戦ひ利あらず、敢なくも討死をしたと傳へられてゐる。

桐生市天神町三丁目
稻邊工揚主 稻邊倉太郎



碓氷郡

板鼻町

板鼻町役場

板鼻町は碓氷川の北岸に沿ひ、人口二千六百をかぞへ、なか／＼名勝舊蹟に富んでゐる。舊里正木島氏の宅は古來數度の火災ありしも遭難せず、今に保存す。俗に千歳の古舎と稱する。中山道十五次鷹巣山は板鼻宿の西、碓氷川の懸崖の上なる石嶺といへり。鳥川又は高崎川あり、板鼻を過ぐ。八幡村に八幡宮あり、藤塚村に淺間權現あり、豊岡村より河に到る。遙に見渡せば日は野原の草の露に輝き、雲は嶺の杉風に晴る。山々の景色は空とひとつに遠望の感情盡き難し。碓氷川の渡は日本三大運臺渡の一つとして天下に其名を知られ、難所の一なり。ま

た里見讚岐守忠重の居住なりしと云ふは現在板鼻の北に小高き丘あり、現況悉く畑となり、周圍に壕塹の形跡存す。伊勢三郎義盛の屋敷跡、板鼻驛字小丸田にありと云ふ。現況は驛の北にして、町より三丁程距る神明莊の邊にして、今は悉く畑となり形跡分明ならず。傍に鏡が池、朝不見橋あり。今や町長須賀純一氏を初めとして、氏を轉任する人格圓滿なる助役清水賢一氏、穩健着實なる收入役茂木保之祐氏等は自ら陣頭に立つて吏員を率ゐ、町會との協會圓滑緊密として、町政及び産業等は頗る活潑に發達し、町勢益々隆盛に向つてゐる。特に近代農法の實施と蠶業の研究とは、長足の進歩を遂げて、今後の發展期して待つべきものがあ

町長 須賀純一

須賀家はその創始遠く傳へられる。然し乍ら文書記録類の照して證すべき資料を喪失せるは遺憾とするところである。亡先老甲四郎氏は性質きわめて濃厚、しかして篤實、人望すこぶる厚き人格者にして、當主純一氏は亡父



甲四郎氏の長男として明治十一年十一月九日に生る。前橋中學校を卒業し、更

に明治大學法科を卒業した。町長一期間郵便局長、町會議員四期間、郡會議員三期間、郡會議員一期間、郡參事會員二期間を歴任して功勞甚大なるものがある。また板鼻産業組合の創立者として功績顯著である。現に町長に任ぜられ農會長を兼ねてゐる。名町長として令聞が高い。資性溫和純真にして熱烈眞剣、清濁併せ

呑んで寛厚慈仁、徳望甚だ宏大である。園基に興味深く、練達甚だ深いものがある。家庭には三男五女を恵まれて、長男吉郎氏三十歳は高崎商業學校を卒業して次男勝二氏二十八歳は同じく高崎商業學校を卒業して、それぞれ家業を勵み、三男保三氏二十三歳は安中蠶絲學校を卒業し、今支那事變に出征奮戦中である。長女静枝嬢及び二女悦子嬢は、共に高崎高等女學校を卒業し、三女逸子嬢、四女みゑ嬢、五女百合子嬢は、共に安中高等女學校を卒業した才媛である。一家は常に繁榮し和氣藹々として春風駘蕩たるものがある。



長合組 相澤三氏

は自動湯の花、などうまくて有名である。當温泉の業者結束して磯部鑛泉組合を設立せられたが、同業者間の親睦と連絡とを圖り、業務及び設備の充實と改善と發展とを期してゐる。組合長は相澤芳三氏にして、副組合長は上原善次氏である。相澤芳三氏は碓氷郡醫師會々長にして、徳望遠近に洽く、當温泉醫及び當温泉組合長として、多年に亘り鑛泉區の改善向上に盡瘁し來れる人、萬人悉くその功勞を感謝し信賴を寄せざるはない。

磯部町

磯部鑛泉組合

磯部温泉は妙義山の麓、碓氷川沿岸に臨み、海拔一千一百尺の高地に位し、夏は清涼、冬は温暖、絶好の清療養の温泉郷である。東京上野驛から磯部驛まで信越線にて二時間、磯部驛から温泉地まで

含有アルカリ性炭酸泉で、東京帝大物療内科教室の現地實驗により、胃腸病に對し醫治的效能が顯著で、ドイツのノイエンアール温泉を遙に凌駕してゐると確證された。最新式の温泉所を開設してあるなるリウマチス、神經痛、婦人病、肝臓病、腺病質に特效がある。附近には曳杖散策の名勝が多い。妙義山を始め、官幣中社貫前神社、磯部屋氣樓見物地、碓氷川鮎漁と舟遊、碓明山佐々木盛綱の城址、大野九郎兵衛の墓、磯部公園、運動場、大遊船池、首塚等が有名である。旅館にはイソベカン、林屋旅館、風來館、一新館、磯乃湯、東泉館、長壽館、小島屋旅館、旭館等がある。名物としては磯部煎餅、鑛泉おこし、鑛泉うむどん、鑛泉餡

自動車部

滿島商事 合資會社 電話室田二十二番



滿島惣彌氏

當地方にありて高崎松井田線、高崎清水線及び川浦線、松井田妙義線、松井田

磯部線、安中秋間線、安中後閑線、安中磯部線等の要路に九九・八九三軒の路線を有し、乗合自動車運輸は勿論の事貨切大型車業等もなす當滿島商事合資會社自動車部は大正十年四月九日滿島惣彌氏が獨力を持つて創立せしに初まり、隨次路線の延長人員の擴張をなして後昭和五年九月三日組織を合資會社に變更、投資者拾名にて五萬八千圓の資本金を擁して現在の隆盛に至るもの、事業は自動車運輸の他土地家屋の賣買及賃貸業、金融業等をなし従業員は五十名を擁する。業績見るべきものあり、當地方交通界に缺くべからざるものにして、常に地方民の感謝するところ、現在の代表者は滿島兼一氏にて、氏は獨力獨行の氣性に富み、而して人もよく知る如く稀に見る卓抜なる事業的手腕を有する材幹、その中に圓滿なる人格を有して常に事業の發展に意を注ぎて活躍、亦従業員に對しては温和なる風格を以て當り、運轉手及び車掌等の三年五年以上の勤續者の表彰を毎年行ふ等

は殊に従業員の感謝するところ、その圓滿なる上下の仲は益々業績繁榮を約束づけられてゐる。尙左の三ヶ所に營業所及び車庫を置く。

營業所 高崎市赤坂町七五 (電話高崎六六九番)
 車庫 碓氷郡松井田町 (電話松井田一二三番)
 同 碓氷郡 安中町
 同 群馬郡 倉田村

西横野村

鈴木伊勢太郎



西横野村長 鈴木伊勢太郎

當家は十數代の家系を傳へる當村屈指の舊家にして、亦村内代表とまで稱される財産家、その家に明治二十二年七月二日先代金太郎氏の長男に生を享けし氏は天性濃厚にして博識多才の紳士、曾て水戸工兵大隊に志願兵として明治四十二年入隊、工兵少尉に任ぜられ正八位に叙された。除隊歸郷後は専ら自治公共の事に意を用ひて中瀬蠶業組合事務理事、在郷軍人分會長等の重責を永らく盡瘁して貢獻多大なるものあり、亦産業組合、農會等の發起人、創立者にして收入役として村經濟の爲に盡力せるは七ヶ年の永きに亘り、その他村政の各名譽職を歴任して村勢發展への寄與多大、人望は功と共に翕然と一身に集まり、遂に昭和二年村長の重任に村民一同の推輓を受けて就任、引續き三期を歴任して現任中、兼ねて農會長、産業組合長の任にもあり、その活躍するところ、道路改修、學校園藝、生徒營養給食、奉安殿建立、彰忠碑建立等數ふるに追なく、村民は近來にない名村長として、仰慕の念を寄せ氏の一舉一動は益々期待を以て矚目されてゐる。家には尊父金太郎七十八才母堂八十才共に建在にて、なか子夫人との間には六男二女の子福者にて、長男道

夫君は高崎中學出身、家庭には常に春風が流れ附近羨望の的である。尙夫人は愛國婦人會分會長の任にありて奔走しつゝある。

東横野村

東横野村長 遠間富平



我國歴史の一大轉換期にして國を賭しての戦でありし日露の戦役

に際し、勇躍出征、常に第一線に立ちて奮戦、遂に名譽の負傷を受け、亦郷に在りては郡會議員として郡政に携はり活躍奔走したる遠間孝平氏の長男に明治二十五年三月十六日呱呱の聲を擧げし富平氏は天性穩健、圓滿なる人格の中に俊敏の氣性を有する當村一の衆望高き紳士、早稻田大學出身の俊器でもあり、自治に關しては卓拔な手腕を有し、夙に村政産業

の事に關與、村會議員その他の重責を多年勤めて多大なる功勞あり、遂に村長に推輓を受けて引續き現任中、兼ねて農會長、産業組合長の任にも在り、亦確氷社の監事でもあり、その多年に亘りて村勢發展に寄與貢獻せるもの實に目覺ましきものありて、當村繁榮の功勞者中の第一人者である。趣味は讀書、その高潔なる人格は功と相俟つて村民仰慕の的となつてゐる。國防婦人會々長の任に在る夫人との間に七人の子女にめぐまれ、家庭は櫻花咲き誇る四月のうららかな空の如く春風胎蕩し、附近村民の羨望するところである。

里見村

里見村長 柄澤猶次

今、二期目の村長に農會長を兼ねてわが村の明朗なる發展向上と、村民幸福とに一身を投げ出してゐる氏は、村民の敬仰極めて篤く、氏あつてわが村榮の名村長をたへてゐる。氏は明治三十年十月の



出生、柄澤家の先代清次郎氏に望まれて同家に入つたもので、夙に

村治に進出、村助役一期半、村會議員等を二期歴任、數多き功勞中から特に數へあぐれば昭和十年の本村水宮救護事業に銳意し、同十一年には小學校雨天體操場を設立し、同十二年三月郡内有數の模範役場の新築を完成してゐる。本村が郡内の模範村として譽れを擔ふもの、實に氏の手腕に負ふところ大なるものがある。氏は温厚篤實の人格者、村内の信望頗る深く、趣味は生花(三雅遠州流)と俳句しかも何れも堪能。長男太郎氏は元日本航航會社に勤め、後ち鐵道省に入り、現在高崎驛助役に就任、將來に多大の望みを囑せられてゐる。なほ他に二女さんがあり、何れも他家に嫁ぎ圓滿和樂の家庭他の羨望するところである。

秋間村東上秋間

秋間村長 戸塚盛太郎



當家は其の祖を遠く南北朝時代の南朝の遣臣に發しそれ即ち此の

地に土着せるものと稱さる。當地方戸塚姓の總本家にして、代々、兎右衛門を襲名した。中興の祖梨畑を創めて當地に設け、恒久的産物を形式する等、之より當家の産は益々増大するに到つた。祖父兵太郎氏は名主を勤め尊父信太郎氏は縣會議員、同副議長、郡會議員等を勤めた縣政の巨頭として重きを爲し地方自治多くの功績を爲した人で、又村長として町村制施行以來推さるゝこと數期に亘り、村治産業の上にも巨大な功績をなした。氏はその長男として明治元年三月二十二日の岳降、木暮中學慶應義塾等に學び資性

極めて勤嚴にして且温容の風格を持し、大正八年村長に推され、更に大正十五年に再び村長に推輓されて、今日に及ぶ。實に村治の樞機に執掌すること十有七年村自治且又大正末期よりの農村産業經濟の啓蒙打開に堅實な指導的功績は實に顯著なるものあり、村民の翕然たる信望を集めてゐる。實に當家の如き三代に亘る自治功勞の家は稀有である。夫人との間に二男二女あり、長男武七郎氏(三十

六歳)は高崎中學校を卒へ既に家業に就き三代の衣鉢を襲ぐ、二男勝次氏(三十三歳)は高崎中學を経て慶應大學を卒へ大福海上火災保險會社に在り、長女は早世次女すきさん(三十歳)は前橋共愛女學校を卒へた人である。信仰は神教にして、家庭は常に團樂、春風一蕩し春の如く和樂を極む。

後閑村

後閑村長 長加部林吉

長加部家は相當の舊家であり、且つ本

村代表の家柄でもある。農を本業となして來た。氏は先代傳吉氏の次男、明治九年八月三日の出生、夙に村役場吏員として奉職、日露戰爭當時は兵事係を勤め、その功に依つて銀杯を拜した。村會議員となり、助役に推されて村長を補佐するところあつたが、現在は村長並に産業組合長の要職にあり、これまで學校改築新築、水害地の改修、産業組合の創立に際しては身を挺して盡力し、その他村自治のために業績をあげ、名村長として稱へられてゐる。氏はなか／＼の子福者で、次男重雄君は宇都宮聯隊に入營、北支に派遣されて、たゞ忠誠の一念を以て目覺ましい活躍をしてゐる。

後閑信用販賣購買利用組合

當組合は昭和十年本村を襲つた大水害の災厄を動機とし、これが復興策のために設置されたもので一口の出資金額二十圓、加盟者四百五十七人、出資總額一萬五百二十圓を示してゐるが、これを本村全體の農家から見

時は九割、全戸数の八割に達しないといふ憾みがある。併しそれだけに各組合今後の活動餘地が残されてゐるものとも見られる。最近の業績は

貸付総額	六、三一八・三一
貯金	九、三六三・九八
購買價額	六二、四二四・七五
販賣價額	五七、六九九・六四
使用料	一、六六〇・四一

である。なを現任役員は組合長長加部林吉氏、専務理事中島盛太郎氏、主事小河原助氏等で、大字上後閑、下後閑と出張所を設けてある。

細野村新井

上原甚一郎



上原家は代篤農家の

父盛太郎氏の長男として明治十八年四月に生れた。明治四十五年四月より大正十三年八月まで助役を勤続して各方面より幾多の表彰を受けた。名助役として聲望頗る高く功勞甚だ顯著である。また産業組合長、村會議員に歴任し、功績多大で枚擧の遑がない。また大正十三年以來村長に擧げられて今日に至り、農會長を兼務してゐて萬年村長として模範を垂れてゐる。村内は固より全縣下全國に於ても優良村長として推稱せられつゝある。事務に練達し時事に曉通し、明敏の頭腦と俊英なる手腕と、高邁にして圓滿なる人格とは、能く氏の長處善處を發揮し、孜孜として倦まず、斷じて誤らず、施して悖らず、此の如き村長の下に全村民はその堵に安んじ得るは、容易に得難き幸福である。氏はまた曹洞宗を奉じ參禪練心堂奥に達せるはその徳風の一端にすら堪然として活現せるところである。母堂は八十三歳の高齡であるが矍鑠として健勝である。氏の母堂にさゝぐる孝養は至れ



烏淵村川浦 烏淵村長 原田新太郎

り盡せりて、美德佳行何人も仰ぎて讚嘆せざるはなく、養嗣子高行氏はよく氏の庭訓に服し、孝養忠信にらざるところなく、常に熱心に家業にいそしみ農業に精通してゐる。

原田家は創始以來二百餘年を閱したる舊家である。新太郎氏は亡

父留吉氏の長男として明治十四年一月八日に生れた。日露戦役に出征して各地に奮戦し、陸軍歩兵軍曹に任ぜられ、勳七等功七級に叙せられ、金鷄勳章を賜はつた。夙に助役及び村長三期間、村會議員二期間、郡會議員、土地賃賃價格調査員等の公職、名譽職に歴任して功勞少からず、現に村長に擧げられ、農會長、産業

組合長を兼務して盡瘁これ力めてゐる。名村長として令聞全縣下に響きわたつてゐる。資性は極めて圓滿温厚にして寛容謙讓、明敏俊英にして篤實勤勉である。村内外にわたつて徳望を博すること絶大なるものがある。老成圓熟の人格は都々乎として萬人を薫化せざるなく、特に禪宗を奉じて信仰厚きを加へて、悟道の達人、修練の長者たり、近來稀に見る名村長として謳歌せられてゐる。家庭も亦たよく齊ひ圓滿福安を極めて、和樂繁榮、隣里郷黨の仰瞻してやまざる所である。

九十九村小日向

山賀孝治



當家は當地有數の舊家として由緒正しき家系を保つ。先代故宇之助氏は明治

五年來酒類醸造に専心の傍、村治方面にも多くの貢獻を爲した人である。氏はその二男として、明治三十二年十一月二十日に呱呱の聲を擧げた、資性剛毅瀟灑にして、而も重厚堅矜の情に厚く、高崎商業卒業後家業に精勵するの他、村治産業の上にも大いに思念を用ふ、曩に在郷軍人分會副會長、産業組合長、社寺總代其の他を勤め、現に推されて、助役、消防組頭、學務委員其の他に執掌す。又昭和醸造器株式會社々長たり、實に自治に事業に多角的才腕を揮るい、村民の興望頗るに厚いものがある。表彰狀等枚擧に遑なく、趣味は角力と劍道である。村民の今後に於ける期待こそ太きものあり、村各般の樞主に閑座すべき徳望の人たり。因にはこの夫人は國防婦人會理事として銃後の守りに活躍内助の譽ある賢婦人である。又子福者であり圓滿常に胎湯の家庭を爲す。

樹の花

當家の吟醸する酒類は既にその品質の良淳、芳

香の輕妙を以て普ねく知られてゐる處であるが、年醸造高八百石に上り、其の重なる販路は群馬縣下、東京方面であつて桐生、東京、安中に支店を置き、樹の花群鳳の聲價益々隆盛を加へつゝあり。殊に陸軍大演習の機には、天覽獻上の光榮に浴し、且つ宮内省買上の名譽を擔つてゐる。山賀孝治氏の寧日夙夜あくなき研鑽努力と十八從業員の眞面目な職能は益々今後の興隆を呼ばずには置かない。

安中町

美濃部龜太郎



當家は三萬石板倉侯の普代の臣大目付役美濃部氏に出で代々自治

教育に盡力した名門にして連綿たる家系を傳ゆる舊家である。先代故精氏は町長町會議員、其他自治行政の各般に執掌し

て、町勢發揚の爲めに瘁勵終身した、當町の銘記すべき功勞者として未だに町民の間にその人徳と功績の數々を噂炙されてゐる比肩なき徳望家であつた。當主龜太郎氏はその長男として文久三年二月八日の岳降である。群馬師範を卒へ安中、磐ヶ谷の各小學校に奉職、後勉學の思念強く東京英語學校に學ぶ再び郷里に歸り板鼻小學校長として奉職した。前後教育者生活三十有餘年間縣教育の爲めに貢獻せる處多大である。大正八年退職後は町役場に入り専ら地方自治開發に専心した曩に國勢調査委員に擧げられ、現に町會議員、學務委員、區長、氏子總代、檀徒總代等に歴任し、壯者を凌ぐ斐然たる剛健さを以て益々町治各般の上に盡し、町政の長老として重きをなす又町民の信望他に比肩なき程である。濃厚篤實殊に矜愍の情に厚き事は氏の人格をして益々高雅のものとなしてゐる。家庭は五男二女の子福者にして、長男進氏はシベリヤ事變出征し勳八等に叙せられた殊勳の人で

あつたが惜むらくは凱旋後病歿した。次男修氏五男一郎氏は目下支那事變に出征中にして三男文雄、四男の兩氏は他家に養子となつてゐる。

磯部町西上磯部

町會議員
消防組頭

宇佐見 勇



當家は當地屈指の家柄として繼家する舊家であるが、

養父故慶藏氏は多年町會議員、區長、衛生組合長、産業組合長其他の公名職に歴任して功あり、殊に南磯部驛設置に當りては絶大の努力を盡し、當地人士の感謝太く未だに膾炙されてゐるが、大正八年その功勞を表彰された。當主勇氏は明治十九年二月一日に生れ、夙に養父の衣鉢を以て全く、曩に磯部製菓組合長、養蠶實行組合長、磯部鑛泉組合長、町會議員四期、部

頭(大正三年)組頭(十一年)等に歴任して多大の功績を擧げ、現に町會議員、消防組頭、赤十字特別正社員、氏子總代として盡瘁しつゝあり、殊に氏の中堅層に對する指導誘掖の信念は、その實踐力と共に着々効を奏し、組合員五十名の一糸牽れぬ協力と氏の純正なる誠心の訓陶は遂に確氷隨一の模範消防組と賞されるに到り、既に表彰數回に及んでゐる。尙又學校新築に消防器具置場、自動車ポンプ、ガソリンポンプの購入に對し率先私費を投じて範を示す等眞摯なる公共奉仕の精神は他への有効なる影響は元より町民の間に澎湃たる感謝を呼ぶに到つてゐる。又氏は文筆をよくし、消防沿革誌の起草、無火災表彰歌等をもつて佳賞されてゐる。實の氏の如く専心町治各般の爲めに獻心的瘁勵を爲すものは稀れと云ふべく、其功亦太きものあり、町政の上にも一勢力を爲す中樞の材幹として、今後に於ける貢獻をも期待を以つて俟る、人である。家庭は七人の子福者として、

和合團樂を極むる。

西横野村人見

村會議員
勳八等

小此木紋三郎

先代吉太郎氏は炭問屋及び材木商を營んで成績見るべきものがあつた。紋三郎氏は明治十二年三月十一日に生れ、吉太郎氏の養子となり、専ら農を以て業とし精勵してゐる。吉太郎氏は日露戰役に出征して名譽の戰死を遂げたが、引きつゞいて紋三郎氏も同戰役に出征し、陸軍歩兵軍曹に任じ勳八等を賜はつた。父子共に勳功を輝したる譽の武門である。紋三郎氏は區長代理一期間半、農事實行組合員に任ぜられ、製糸業千鳥社副組合長を兼務してゐる。曹洞宗を奉じて信仰頗る篤いものがある。養嗣子守平氏は俊敏の氣性に富む人、支那事變に出征し、陸軍歩兵上等兵として奮戰中である。妻えいさんとは琴瑟頗る相和しあひだに長女がある。

東横野村

村會議員

木暮善八



當家は會つては名主を勤め數百年を繼承する舊家にし

て現在の屋敷も數百年來の古建築に屬す。先代識太郎氏は四十八歳の壯年にして物故した。氏は明治十八年九月九日その長男として生る。若き頃より正義剛直を愛し、其眞摯格勤止むなき資性は習志野騎兵聯隊に明治三十八年兵として騎兵伍長の特進をなすのみならず、家に於いては克く齋家の経程よろしきを得て太く家運の繁榮に努力し今日を築いた。又公共村治の上にも思慮深く曩には大正十年來村會議員に推輓すること數期、其他農會總代、軍人分會役員、國勢調査員、初期家屋調査委員、農事組合の創立に専心して、農業

八幡村劍崎

村會議員
方面委員

富樫傳十郎



先代故作次郎氏は生前區長、村會議員等を歴任し村政に盡せし功

勞者である。氏はその三男として明治十一年十一月十九日呱呱の聲を擧げる。資性剛放磊落、その一面又義侠心厚き氏は夙に村政に參與して産業開發自治に貢獻寄與すること功頗る顯著である。曩に明治七年消防組合發布以來、消防に従事しその献身的功勞に依り各方面より表彰、感謝狀、賞品、記念品等を受け、且又方面委員となるや救濟事業は一人氏の双肩に依ると云つても過言でなく出征遺族の慰問等に氏は寢食を忘れこれに奔走盡瘁する等、氏の犠牲的精神の遺憾なき發露は特筆に價する。その人望噴々たるものがあり、目下氏は村會議員、方面委員、八幡村消防顧問、産業組合理事、小作調停委員、負債整理組合長、農會委員等の要職を兼ね公共事業に盡してゐる。曩に消防部長、組頭等をも歴任してゐる。氏の趣味は、劍道、柔道、乗馬にて又氏は縣廳、警察より感謝狀表彰を受けること實に十數回に上る。信仰は佛教にして、家庭には令閨との間に三男三女の外令孫

秋間村下秋間

村會議員
方面委員代理
勳七等功七級

矢島爲三郎

矢島家は其の創始甚だ古く、先祖の中に三平氏は文治四年三月四日死亡との記録保存され、それ以前は古文書類悉く喪失せられて一切不詳に屬してゐる。三平氏以後代を重ねること六代にて現在に至つてゐる。代々篤農家の譽高く村内外の悉く敬仰するところである。亡父七五郎氏は村會議員に擧げられること二回に及び功勞決して少くない。爲三郎氏はその男として明治十四年十月十四日に生れた。郷里の小學校を卒へてから家業にいそしんだが、召されて陸軍野砲兵に入營し、日露戦役に出征して砲

兵軍曹に任ぜられ、第二軍に従つて金州南山、大石橋、沙河、奉天、開原等に轉戦し、後第四軍に編入されて勳功愈々高

大顯著なるものあり、勳七等功七級に叙せられ金鷄勳章を賜はつた。夙に村治に貢獻するところ多大にして村會議員に任ぜられて二期に及んでゐる。更に方面委員代理、土木委員をも兼任し、日本動産保險株式會社及び日清生命保險株式會社の代理店を經營して、それら優秀なる成績を擧げつゝあり、更にまた氏子總代檀家總代をも奉仕すること頗る熱誠である。碓氷川の氾濫に因れる荒廢地を復興して耕地たらしめたる功勞に依り村より表彰せられた。道路橋梁溝渠水路の改善整備には率先して盡瘁するところあり、簡易保險の奨勵普及に努力すること頗る熱心である。また國民教育に寄與すること多く小學校々庭に二宮尊徳先生の銅像を寄附建立し、教育上有效なる裨益を加へる等、着々功績を積み、常に天下公共の事を念として、一切の私情を抛つ底の

至誠篤行の士にして、村内外は等しくその徳風を仰いで敬慕信頼を寄せてゐる。

後閑村上後閑

村會議員 新井友吉

新井家は年代不詳なるも、當地に土着してからでも數代を重ねてゐる。代々農を以て業とし篤農の譽が高い。亡父虎松氏は特に傑出せる精農家であつて、五十七歳を以て永逝した。友吉氏はその長男として明治十三年七月十五日に生れた。農業及び養蠶業に専念努力し令名頗る高大である。遂に推されて村會議員に現任中である。また敬神崇祖の念に富み氏子總代を奉仕して甚だ熱誠を極めてゐる。氏はまた弓道に志して練達するところあり、また將棋界に活躍して一方の重鎮として推服せられてゐる。資性は溫和にて寛厚、熱心にして堅忍、人格は玲瓏圓満である。曹洞宗を奉じて信仰平乎として不動の信念を持してゐる。長男信雄氏は嚴父を助けて家業に精勵し、孝養を盡し

に至らざるなく、孝行の活模範として推稱されてゐる。一家常に圓滿和樂を極めて家産益々増大し、家運隆々たるものがある。

細野村上増田

村會議員
勳七等

石田茂三郎



當家は既に三百有年を傳へたる當村屈指の舊き家系である。先代

故音藏氏は區長として部落の融和開發に努力した人である。當主茂三郎氏は其の長男として明治十六年呱呱の聲を擧げた近衛一等兵にして日露戦争に出征し、拔群の功あり名譽の戦傷を受けて勳七等を賜る。若き頃より眞摯剛毅の熱意と濃厚篤實稀れに見る篤農家たり、夙に村治産業に思惟する處あり、曩に區長、國勢調査員、現に村會議員一期、産業組合幹事

方面委員等に歴任して、寧日なき瘁勵をなし、その人格と共に村民の信頼大いに厚いものがある。宗旨は禪宗、家庭は夫人との間に二女あり長女ますみさんは松井田裁縫女學校に在學し、次女佳子さんは前橋女子師範學校在學中にして常に一家團樂和平を極めてゐる。

安中町米山

町會議員

上原信太郎



上原家は當主まで代を累ぬること七代目、先代故藤七氏は家業た

る農に精勵努める多大なるものがあり、夙に篤農家を以て知られた。當主信太郎氏は明治四年七月十八日その長男に生れ教育界に志を立て、群馬師範に入り、同二十七年三月業を卒はるや、安中小學校訓導として奉職したるを振り出しに各町

村小學校に歴勤、終に校長に榮進、磯部小學校長を最後の奉公となし、三十有餘年間専念率勵せる至大なる功績を後に育英界を去つたが、その徳望は今なほ高大なるものがあり、曩には信用組合監事に推され、現在は町會議員として重きをなし、その他區長、衛生委員、學務委員、養蠶實行組合長、産業組合理事を兼務、滅私奉公の趣旨を帯して盡瘁してゐる。温厚至純の篤學者、勤績功勞賞を受くる數回に及んだ。夫人は淑徳の譽れ高く、間に三男一女があり、愛孫を儲くる十八名、一家の隆昌更に大ならんとしてゐるなほ長男清平氏は一意農耕の業にいそしんでゐる。

磯部町上磯部

町會議員 須貝房吉
勳八等

當家は分家獨立して以來八代目の舊家であり、殊には縣下にも珍らしい三夫婦揃の家庭、且つ親子三代相繼ぐの軍人家族として縣より表彰された洵に慶祝すべ

き譽れある家柄である。氏は明治十五年九月十二日先代宰次郎氏の長男に生れ、騎兵第十四聯隊に入營、日露の役に出征して功をたゝへられ勳八等に叙された。歸來町内のことに與り、養蠶組合長、區長、消防部頭を歴任、その白紙主義の努力は明せずして衆望を双肩に擔ひ、現に町會議員であるの外、衛生委員、戰友會役員、氏子總代を兼ねて盡瘁してゐる。その消防組にあるや、宇佐見組頭と共に不眠不休、只管に町政のため將た消防のために努力をつゞけ、勤績功勞賞をはじめ感謝状等を各方面より贈られた。長男吉五郎氏は豫備少尉、在郷軍人分會長に任じ、次男の盛氏もまた豫備少尉、目下出征中であるが、他に稀にみる六人の子福者である。

西横野村行田

村會議員 新井彌市
方面委員

新井家は相當古い歴史をもつ家柄、代長五郎氏を襲名して相繼いで名主役を

れた。

東横野村中野谷

村會議員 佐俣文太郎



當家は佐俣の姓を稱して既に十餘代を傳ゆる連綿の家系である。

先祖代々郷士として名主戸長等を勤めた舊家にして、村内に比肩なき資財を擁する素封家である。祖父長太郎氏は安政十亥年三月本村に岳降し農より麻蒔業に轉じ、我國明治維新の物情燥然の中に横濱開港と同時に慧眼よく生糸貿易に着手し、卒勵専心愈々其の財を増大した人で、六十五才にして長逝された。實に我國生糸貿易の蒼生時に當り偉大なる役割を果せる傑材と云ふべきである。その男に生を享けし先代故鐵五郎氏も亦父業を繼いで専念された人である。當主文太郎氏はそ

の長男として明治十五年五月三十一日呱呱の聲を擧げ京都同志社出身の英才にて

日露戰役に高崎聯隊守備兵に召集されたことがある。若くして既に齋家修身に勉め、又政治の上にも思念する處あり。明治生命、三菱火災、第一徵兵の代理店、長野電氣、碓氷金融會社其他會社重役等を勤めて、多忙を極める中によく村會議員學務委員として村政方面にも盡力してゐる。曩には助役、村會議員數期、學務委員、産業組合理事として村治産業の上に巨大な功勞をなした。實に當家の如きは自治功勞の家と稱すべきである。人格温厚篤實、且矜愍の情に厚く、趣味として謡曲をなし、温雅の風格を持つ紳士である。因に日本赤十字社特別會員でありキリスト教を信仰する。淑徳の譽高きさだ子夫人は國防婦人會々長として活躍なす、二男三女の子福者にして、長男靜太郎氏は富岡中學の出身である。家庭は頗る圓滿にて春風洋々たる感がある羨望の的なり。

後閑村下後閑

村會議員 山田喜三郎

卓技せる純農家、そして特に養蠶に興味を持ち、斯業に勵精し、努力しつゝ、ある當家は長壽者の系か、先代藤吉氏は當年八十五歳、母堂また八十二歳、共に健勝、壯者を凌ぐの意氣である。當主はその長男、明治十六年二月の出生、近衛工兵大隊に入營、日露の役時に出征し、沙河、奉天方面に華々しく活動した。凱旋後歸郷して父祖の業に就き、夙に精農家を以て著聞し、今、村會議員に選ばれて村政の刷新向上に盡力してゐる。事を處する果斷、敢然としてその事に進む氏の今後こそ大に囑目に値ひする。家庭は三夫婦打ち揃つての圓滿ぶり、俊敏の氣性に富む材幹長男正男氏、は農に従事し、次男重造君は滿洲長谷川部隊下に在つて北支に出動中だつたが、目下は歸滿中である。

細野村新井

村會議員 石井忠造



石井家は代々篤農の家として、譽が高く徳望甚だ高い忠造氏は亡

父兼吉氏の長男として、明治十五年十月二十日に生れた。小學校を卒へてより家業にいそしみ、日露戦役には特務兵として出征奮戦した。その後細野村書記に任ぜられてより、消防組小頭、西見寺檀徒惣代、諏訪神社氏子總代を経て、群馬縣穀物検査員、國勢調査員、農會惣代、農會副會長、新井農事組合副會長、村第六區長を歴任し、村會議員に擧げられ盡瘁これ力めて功勞甚大であつた。なほ進んで農業調査員、金錢債務調停委員、碓氷社仙流組々合長、森林組合理事、産業組合理事、統計調査員、衛生委員、社會教化

委員、養蠶實行組合長、土木委員、勸業委員、會計検査員、選舉肅正委員、經濟更生委員、土地貸賃價格調査員、農事改良指導員を歴任してそれぞれ拔擢の功績を擧げて郷黨の感謝信賴を博して絶大なものがある。功に依り、新義眞言宗豊山派管長より香爐を授けられ、群馬縣神職會より視箱を贈られ、賞勳局總裁より木杯一組を下賜せられ、稅務監督局長より木杯一組を授けられた。現に村會議員に在職し三期に及び寄與貢獻すること頗る多大である。長男の計衛氏は群馬師範を卒業し、當村尋常高等小學校訓導に在職し、前途多囑の優秀教育家として令名が高い。次男の長壽氏は朝鮮の農場にありて拓殖開發の第一線に活躍中である。なほ二男一女あり、それぞれ有爲多望の人たり。

安中町

町會議員 木暮卯藏

氏は慶應三年二月十日、北甘樂郡下仁



田町に生れ後ち今の家に入つて相續したもので、板鼻小學校に職を

奉ずること實に三十八ヶ年、文部省より教育功勞者として表彰された外、他縣町村より受賞すること數回に及んでゐる。目下町會議員に推されて町政に參し、また養蠶實行組合長、學務委員、町農會總代、方面委員、區長、信用組合評議員などの要職に就任し、老體をかへりみず銳意盡瘁して功を累ねてゐる。曾ては小學校訓導たり、同校長たり、教育指導員たり、また群馬社株主總代として精勵活動してゐた温厚な勤勞家である。宗派は禪宗、投網と釣とに興味を有つてゐる。長男の勝彌氏は原市町小學校の首席訓導として將來に重きを置かれ、その夫人また女教員として奉職、一家團樂、他の羨むところとなつてゐる。

磯部町下磯部

町會議員 從七位 勳八等

須藤由一郎

當家は同町須藤家より明暦年間分家し以後數百年間連綿と繼續せる舊家にして由緒ある家柄である。先代故利三郎氏は夙に教育界に身を投じ兒童の育英事業に功勞ありたる人で、明治二十五年退職後は町會議員其他の公名譽職を歴任し自治社會事業等に終身せる人で、氏はその男として明治二年十二月二十一日に呱呱の聲を擧げた。その資性温厚篤實にして人格圓滿なる人格者である氏は、群馬縣前橋師範を卒業後は、小學校訓導を奉職し、専ら兒童の育英に盡瘁、累進して福島師範教授當時の氏は、縣下有數の教育者としてその教育態度の眞摯さは文部省より表彰を受ける外、各方面より表彰數回に及び奏任官に進級と云ふ榮進振りで氏の人望名聲共に噴々たるものがあつた。現



村會議員 鹽谷喜造

西横野村人見

當家は本村の舊家の吉井藩に屬し、久保地の開墾に當り其の監督をなした現鹽谷神酒造家より分家なしたものである。氏は明治十八年十月十八日

故東内氏の二男に生れた。大正八年の分家にして、氏は資性極めて眞摯且公共的責任感に厚い人格温容の材幹であるが、若き時より農事に勵碎なし篤農家を以つて知られ、碓氷郡七ヶ町村聯合品評會に農産物出品一等の榮冠を得たこともある。分家は益々以て齊家の経程に己を素することなく又矜愓の情に厚く村内の信望厚きを加えた。

曩に養蠶實行組合長、産業組合理事、衛生委員等を勤めて貢獻する處あり、現に村會議員に推輓されて瘁盡するの外千鳥郡原料督勵委員として、且又高山社多野郡富士岡町養蠶研究所に關與して、公事に私事に文字通り、寧日なき努力を重ねその功亦頗る多いものがある。家庭はけさ夫人あり琴瑟相和す。

後閑村上後閑

村會議員 中島治平

中島家は上後閑屈指の舊家にして大盡と稱へて敬仰せられてゐる。亡父惣吉氏

は夙に村治に關心を繋げ奔走すること頗る熱心にして、収入役、助役に歴任して功勞あり、村會議員に擧げられて盡瘁する所大なるものがあつたが、可惜、四十二歳で早世した。治平氏はその次男として明治三十四年八月二日に生れた。高崎中學校を卒業し、明治法律學校、即ち明治大學の前身校に法律學を研讀した。現に村會議員及び學務委員に任ぜられ、また産業組合理事を兼務して勵精甚だ力めてゐる。溫和寛厚にして人望高く、人格識見共に時流を抜いてゐる。高崎中學校在學中より柔道に精進し、初段の榮位を獲得した氏は、柔道によつてその三昧に悟入する底の練達者となつてゐる。前途なほ春秋に富み、將來の活躍は刮目して待つべきものと村内外の等しく期待するところである。夫人は亦た淑徳の譽高く、夫唱婦隨、琴瑟頗る相和して、子女二人を擁し、令弟一人と共に理想的の家庭を營み、圓滿明朗、和樂の聲が絶えない。蓋し多幸の家たり。



細野村上増田 村會議員 金井松惠

先代氏も區長及び消防組役員を歴任して功勞あり、村會議員に任ぜられて功績大であつた。松惠氏はその男として明治二十九年に生る。補充兵役にして、東京市なる高野修道學院を卒業し劍道三段の榮位を獲得してゐる。區長一期間、國勢調査員を歴任してから、村會議員に擧げられ、松井田警察署囑託、細野小學校及び細野村青年團の劍道部名譽教師を兼務してゐる。新進氣鋭の士は剛毅果斷にして、細心微密、頗る人情に厚く義侠に富んでゐる。劍道を以て三昧地に達し、刀影裏に湛如たる人生觀を擧んでゐる達道の士である。禪宗を奉じて信仰が厚い。鐵劍の禪を修して死生を觀

じ金剛不壞の大信念を持してゐる。三男五女が惠まれてゐて、長女しげの嬢は桐生小學校訓導を奉職し、才媛の譽が頗る高い。尙武の劍を以て修身練魂に盡し國民精神の發揚に資すること甚だ大なるものがある。

磯部町上磯部

町會議員 中島小三郎



前橋師範 出の教育家 郡内町村各小學校の校長に歴任、育英界に大なる足跡を印し、今、町自治に全精神を打ち込んでゐる氏は、意志強固、そして最も正義感の強い人として一般から敬仰されてゐる。明治十五年七月二十日、天明年間の昔、同町中島家から分家して數百年の歴史を繰つた今の家に生れ、教育界を辭してから町政に與り、養蠶實行組

合理事をはじめ區長、修養團長、敬神會役員等に推されてそれ／＼效績を擧げ、町民期待に副ふ洵に忠實なるものがあつた。一層榮望を大にし、現在は町會議員として、産業組合専務理事として、氏子並に檀家總代として活躍貢獻してゐる。趣味はスポーツ、殊に詠曲に至つては堂に入つたもの。長男勝美氏は安中小學校に奉職しつゝあるが、父君の薰陶による模範的教育者として令名を馳せてゐる。外に四子あり、圓滿なる家庭にして平和に浸つてゐる。

後閑村中後閑

村會議員 小河原 勳



父良吉氏は明治九年生、北九十九蠶絲組

小河原家は分家獨立してより五代を閲して今日に至つてゐる。嚴

細野村上増田

村會議員 吉田 隣藏

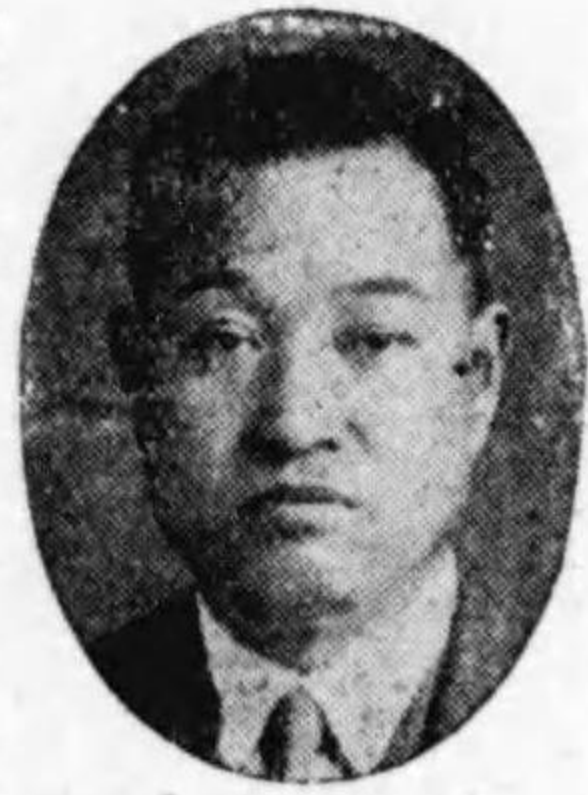


當主隣藏氏は明治二十二年十二月十五日に生る。本家より分立して三十餘年を閲し、農業及び材木商を營營として經營し、既に家礎を固くし家産を増成して甚だ豊潤なるものがある。氏の人となりは誠實忠信にして熱烈眞劍、堅忍不拔にして剛毅不屈、然も人情に厚く義侠に富み、忙中閑を得て愛盃を口にすれば、微醺發して淺酌低唱、愈々物わりの好い好々人としての面目を發揮するといふ。此の圓轉滑脱の性格と、強大なる財力とを併せ有し、公共の事に奉ずること甚だ熱心であつて、夙に養蠶實行組合役員、農會議員二期間を歴任して、それ／＼功勞大なるものがあつた。現に

擧げられて村會議員の要職にあり、奮闘的體験を基礎として、豊富なる常識と、明敏なる透察と、穩健妥當なる判斷とを兼ね備へて、常にその使命を全うしつつある。家庭には長男守太郎氏既に家を成し、嚴父君を助けて家業にいそしみ、なほ二男二女あつて一家は圓滿至樂を極めてゐる。

磯部 町

町會議員 佐藤 三郎



當家先代 八五郎氏は近村東横野村の人、農家の出であるが小學校教師、巡查等を志願して奉職、鐵道敷かれて磯部驛開設を見るや、官界を去つて實業界に身を投じ、丸通運送店を起して運送業に従事したのは、まだ二十五歳の若冠に過ぎなかつた。「この人の將來こ

三三番、運送部は四九番。

後閑村中後閑

村會議員 高橋 信太郎

當高橋家のその創始ははなはだ遠き昔時に屬し、年代を推定することが、資料を喪失せる現在では一切未詳であるが、中興以來連綿八代を重ねて今日に至つてゐる。當地方屈指の舊家の家柄である。今は亡き祖父保五郎氏は算術數學の私塾を開いて教育に従つたが當村戸長にも任ぜられて功勞多大であつた。尊父泰三郎氏はその人となり温厚篤實にして熱烈眞剣、また堅忍不拔の精神を基して剛毅果敢、夙に衆望高く、助役に在職すること一期間、その後久しく村會議員及び消防組頭として盡瘁する所あり、なほ北九十九蠶絲組合副組合長及び組合長等に二十餘年間歴任して功勞頗る顯著であつた。現に八十三歳の高齡にて矍鑠たり、自給産業開發の大功勞者である。當主信太郎氏はその長男として明治十年十一月に生



業を開き温厚圓滿の資性と意氣溢刺事に當りて剛毅眞拳の態度は家の隆盛を招きたるのみならず町民の推輓に厚きものあり現に町會議員、鑛泉組合理事、衛生委員、製菓同業組合長等の要職に歴任し、町治産業の爲めに淬勵する處が多い。殊に氏は町會隨一の少壯議員として、前途を囑望され將來町政の樞主に閣座すべく期待さるゝ大材幹である。又事業方面に於ては千代田サイダー株式会社々長たり、郡下有數の先覺的手腕家として知られてゐる。家庭はすこぶる圓滿である。

後閑村中後閑

村會議員 相川 巳之吉

相川家は代々農及び養蠶を業とし、由緒秀れたる名門である。殊に養蠶に就い

れた。資性温厚圓滿にして、篤實穩和なる篤農の人であつて、現に村會議員に任ぜられ、また檀家總代を勤めてゐる。弓道に練達して、眞言宗の信仰が厚い。長男一郎氏は可惜可悼、三十歳を以て早世し、令孫定雄君が九歳にて家督を相續してゐる。定雄君は一家再興の責任を雙肩に擔ひ、既に世の常の少年とその類を異にし穎才強健にして、前途頗る多望多囑であるといふ。

細野村新井

村會議員 岩井今朝太郎



岩井家は村内屈指の舊家にして名主或は組頭等を勤めた名門である。祖父の代に至るまで名主勤役の人は三代を重ねてゐる。亡父英太郎氏も區長に任ぜられて功勞大なるものがあつた。

今朝太郎氏は亡父の長男として、明治十三年十月九日に生れた。郷里の小學校を卒業してより家業に勵み、國勢調査員に任ぜられ、村會議員に推されて二期に及ぶ。氏は熱烈眞剣、至誠人を動かさずんばやまざる底の力の人、言々肺腑を刺す底の雄辯家である。禪宗の信仰篤く不動不拔の信念を持してゐる。二男三女あり長男長太郎氏は農事に勵み、新進の精農家として推稱されてゐる。次男照二氏は千葉縣下志津陸軍飛行學校に在學中であつて近き將來陸の荒鷲として大亞細亞の天空を翔破する日の英姿を想見し、その勳功を大いに期待されてゐる。

磯部町上磯部

町會議員 安立 政尙

當家は當地屈指の舊家たる安立家の分家で現在二代目、氏は明治三十二年十二月九日故平次郎氏の次男として呱呱の聲を擧げた。令兄氏はシベリヤ事變に出征病歿の爲め家を継ぎ、大正七年より製菓

ては卓抜なる技術家としてうたはれてゐる。己之吉氏は亡父清三郎氏の長男として明治十四年四月に生れた。小學校を卒業してより嚴父君の指導の下に家業に勵みて技能を修得練磨し、志を公共自治の事にかけてより、農會代議員、同評議員北九十九蠶絲組理事等を歴任し、それぞれ功勞を擧げ、遂に三期連続して村會議員に當選し現任中である。また消防組に關しては二十有餘年間一貫して挺身盡瘁し功績枚舉に違がない。なほまた氏子總代等を勤めてゐる。農事蠶業の改良向上を念願とし終始熱誠を傾注してゐる。氏の資性は温順聰明にして篤實堅忍、常に人情温にして深切、同情義侠に富む。村内外の信望頗る博大深厚である。遺憾ながら一子だに恵まれず、然も儀三郎氏の如き當世に得難き養嗣子を迎へ得たのは、氏の人徳の然らしむる所であらう。儀三郎氏夫妻は琴瑟殊に和して、子女八人を恵まれて圓滿常樂の家門は益々繁榮を加ふるばかりである。



細野村上増田
村會議員 上原岩五郎

養成の先覺者として著聞せる人、徳之丞氏の令孫八五郎氏は全國山林共進會に於て六等賞銀盃を授けられた。岩五郎氏は亡父元次郎氏の長男として明治十七年四月一日に生れた。群馬師範を卒業し、歩兵第十五聯隊に入營し短期現役を卒へた爾來、小學校長、國勢調査員を歴任して村會議員に任ぜられ、方面委員、學務委員、産業組合理事、西細野森林組合長、産蘭組合長、防護團役員及び氏子總代等を兼ねて盡瘁貢獻するところ多大である。氏はその資性温厚寛大にして博識多才、謹嚴慎重にして堅忍眞剣である。昭和三年



東横野村鷲の宮
前校長 小野秀松

年上増田字本間瀬より細野小學校間の道路開通に就いては、私費を献じ寢食を忘れて盡瘁これを完成したるは特筆すべきところである。その他凡そ公私諸團體の事業にして、一として氏の指示參議を煩はざるものはないといふ。禪宗を奉じて甚だ篤信である。長男保氏、その他三男一女あり、令孫一人がある。村内外に於ける徳望高大にして悉く感謝信頼を寄せてゐる。

範學校出身にして小學校に奉職すること實に三十年、其の間修身齊家に勉むるは之より大いに縣初等教育の爲めに眞摯なる格勵を以つて爲し其の功績頗る太いものがある。人格方圓思慮する處悉く私を去り公共村治の上に篤し、村民の信望と推輓を受けて、大正十三年より十四年迄助役たり。大正十四年より昭和八年迄村長として、村治産業の主幹に執掌して、寧日なき淬勵を爲す。其の功亦稀在顯著にして、村民の比肩なき信望と感謝を受く。現に尙鑿鑿たる健康を保持し、村の元老としての存在をなしてゐる。長男精一氏(四十四歳)は氏の衣鉢を襲ぎ既に縣教育界に入り現在當村小學校訓導として奉職中であるが温厚篤實克く村民の信望を得てゐる。其の他の息、息女皆夫々相當の一家を爲す。氏の如きは家に於いても完全を得しものと云ふべきである。

東横野村下間仁田
元助役 村井田角次郎



當家は村内屈指の舊家として連綿の家系を傳へる家柄たり。當主

角次郎氏は明治七年四月尊父吉五郎氏の長男として呱呱の聲を擧げた。明治十七年高崎聯隊に入營し日清、日露の兩役に従軍して、戦功あり、又五年八月の再役の功により特務曹長に昇進、勳七等を賜つてゐる。兵役後元碓氷郡役所に十余年間勤務なし地方自治事務に鍊達し温厚篤實、謹嚴其もの、人格は、村民の推輓厚きを加へ収入役に推され、更に助役に就任して村治産業の上に貢獻する處多大なものがあつた。又村會議員二期、初代軍人分會長として専心し功績があつた。日本赤十字社特別會員たり。信仰は眞言宗である。長男朗氏は俊敏の氣性に富む人、鐵道に奉職し現在上野驛に勤務してゐる。

松井田町紺屋

元村長 山田角次郎

當家は當村の草分けとして數百年を傳承する舊家である。又名主を三代に亙り續けたる家柄、氏は故半吉氏長男として慶應二年二月十日に呱呱の聲を擧げ、幼にして秀才を以て知られた。群馬中學校初期卒業にして、夙に地方自治に關與思惟する處あり、元細野村々長、村會議員(初期より大正元年迄)製糸組合長、國勢調査員其他の公名職に歴任して大いに村治産業の爲めに格勵太き功績を爲した。後松井田町家屋調査員、區長等に就任し盡瘁する處あり、現在は第一線を退いて松井田町納稅組合長の位置にあり、悠々自適の生活に入つてゐる。資性温厚篤實にして町の長老として信望厚く、曾つて村長として功勞を表彰され、又縣より納稅功勞に關し柱時計を贈られてゐる。殊に明治四十三年水害の際に於ける道路改修に於ける盡力は特筆に價ひするものが

ある。信仰は禪宗にして、長男三秀氏は細野村々會議員をなし、三男二女の子福者である。

里見村上里見

元村長 堀口德太郎



資性剛毅 廉直にして 才氣煥發の 氏は、故先 代徳左衛門 氏の男にし

て明治二十二年四月十九日に呱呱の聲を擧げた。當家は又舊家にして由緒ある家柄で、氏は長じて高崎中學校に學び、卒業後は、夙に村政に參與し産業自治に貢獻するところ頗る顯著なるものがある。その識見、手腕は非凡なるものがあり、卓拔せる才幹として氏は二十九歳の若冠をもつて村會議員に就任するや氏の理財的に明晰なる手腕を買はれて豫算委員長に選任され、引續き三十五歳の少壯村長

となりたる當村切つての偉物である。村長在職當時、高崎用水路契約再更の節不可抗力に依る流矢等には高崎市にて相當の辨償をなし、一ヶ年三百五十圓を壹千圓に計上し其間幾多の反對を切り抜け今日の確固たる基礎を築き又、納税組合を

設立して頗る優秀なる成績を擧げ、更に水平社の高崎裁判所襲撃事件當時暴民の鎮撫に絶大の盡力を拂ひ又高崎市里見間の道路復活には犠牲的努力をもつて貢獻する等氏の偉大なる足跡は今尙燦たるものである。現在上州石材株式會社、玉糸株式會社其他各會社々長重役等の要職に在り尙又里見村信用組合理事、氏子總代檀徒總代をも兼ねてゐる。趣味は狩獵、圍碁、將棋、弓術、三雅流生花と實に多藝の人である。信仰は禪宗。家族は三男二女の子福で和樂の笑聲は常に門に溢れてゐる。

後閑村中後閑

農會長 元村長 勳八等

柳澤嘉十郎



慶應元年 八月十五日 當村鈴木家に生を享けし氏は天性圓満、而し

て高潔なる人格の持主にて長じて後、當家先代林造氏の懇望を容れ、從三位河内守信芳の後裔にして當村一の名門の家柄たる當家を襲ぎし人である。明治十九年近衛騎兵隊に入營、後明治二十七八年及び三十七八年の兩戰役に際して勇躍應召各地に勇戰數ヶ月、遂に燦たる武功を樹て、殊に日清の役には目醒ましき軍功ありて勳八等に叙され、凱旋歸郷後は専ら自治公共の事に當りて執掌、その勤むるところ數知れず、郡會議員、村長を初めとして郡參事會議員、町村長會議員、區長その他にて、現在は尙も農會長、碓氷産業株式會社監事の重責に在りて盡瘁中その多年に亙りて寄與せる功勞は實に多大なるものあり郡會議員當時には縣道三

線の開通、村長としては村道數線を開通

改修し、亦昭和十年の水害に際しては中央政界に陳情してその改修に盡瘁せる等驚嘆に値するものあり、その功は人格と相俟つて村政の元老として村民敬慕の的となるところ、因に實兄兵三郎氏も亦、郡會議員、村長等を歴任せる功勞者である。家庭は頗る圓滿、氏は讀書を趣味として七十有餘歳の老境にあり乍ら尙豐饒家には七八百年前の刀劍が藏され、尙上海事變の際賞勳局より授與されし木杯三組の他表彰狀枚擧の遑なく、長男武一氏は天逝せる爲、安中蠶糸出身の令孫宗男君が後繼者である。

東横野村鷲ノ宮

學務委員 河村 貢

當家は武田の末胤にして、既に十三代の家系を傳へる名家である。祖父賢次郎氏は弓術の師範、活花茶道、劍道等雅武兩道に秀でた人で、後年は碓氷社創立の一人として、繭糸貿易の濫觴期に偉大な



る活躍をなした人であつた。當主 貢氏は明治十六年三月 故中三郎氏

長男として生れた。中三郎氏は貢氏二十六歳の時早世され、爲めに氏は若くして一家の責任を擔ふ所となり、併て弟妹の指導誘掖に留意する處あり、殊に其の教育に關しては大いに勉める處があつた。現に令弟賢吉氏は茨城縣取手町に於て醫師にて又同町々長の要職にある。其の他の弟妹夫々に相當の一家を齊せり。氏は又齊家修身の道のみならず専ら公共の爲めにも意を用ふ、推輓されて曩には村會議員、國勢調査員其他に就任格勵し、現に永年の學務委員として村學事上に盡瘁する處大なるものあり。資性謹嚴圓滿なる人格は其の矜愍の資性と共に村民の瞻仰厚いものがある。又篤農の人として知らる。長男廣司氏、次男邦男氏共に安

中蠶絲學校の出身、三男亘昌君は安中在學中、長女さんは安中女學校出身の才媛である。

學務委員 九十九村高梨 小坂橋増五郎 從七位勳七等

當家の祖は松井田城小坂橋下總守の重臣、碌高五千石を領した名門の末裔にして、土着してよりは代々名主を以て傳はつた家柄である。先代故長太郎氏は永く公共の事に貢獻のあつた人、當主増五郎氏はその二男として明治十八年八月三日に岳降し、群馬師範卒業後朝鮮普通學校長として多年彼地教育刷新の爲めに大なる功績をなした人で、奏任校長たり、且教育會々長等をなした教育界の重鎮であつた。歸郷後は専ら風光明月の閑雅に浸るの外村治公共のことに奉仕的信念厚く、現在學務委員として村教育の爲めに力を盡す。該博なる叡智と濃厚清廉の人格は村内に屹然たる存在をなし、多數人士の信望厚いものがある。釣、園藝、刀

劍等の趣味あり、將來村治の上にも多くを期待さる。つね夫人も亦頗る奉公に厚く、殊に醇朴矜愍の情は村内に敬慕され、現在國防婦人會創立と共に其會長たり、尙愛國婦人會幹事として、銃後の護に活躍してゐる。長男一夫氏は京城齒科醫專を卒業、京城に開業して繁忙を極めてゐる。次男氏は京城帝大豫科修業、因に信仰は曹洞宗である。

西横野村

産業組合長 須藤永三郎



當家はその祖を武田家の重臣たりし、須藤加賀守定輝に發し、連綿三百五十年を繼承する舊家にて、代々名主を勤めた家柄である。祖父萬吉氏分家して四代、尊父徳次郎氏は收入役、村會議員、碓源組合長等に歴任して功勞の



令息 正雄 少尉 碓源組

合理事等に歴任事績顯著なるものあり現に村信用販賣購買利用組合長、養蠶實行組合長等の村産業の樞主に執掌して、専心之が伸展向上に盡率しつゝある。村民の敬仰益々厚く村治の上にも多きをなす偉材なり。長男正雄氏は高崎中學の出身水戸歩兵聯隊に入り歩兵少尉なり。次男賢一氏宇都宮農林學校を卒業二氏共に目下北支に出征活躍中の名譽の軍人の家を爲す。三男金二氏高商卒現在中島飛行機製作所社員、四男眞章君は富中に在學中



長男 淺好 氏 當家は當地小此木姓の總本家たる土地



西男時治 氏 火災に罹り記録物を焼失烏有に歸した。

先代故林松氏は多年區長、村會議員、氏子總代、寺院總代等を勤めて、其の温厚眞摯の圓滿な人格と共に敬佛された人である。當主はその長男として明治九年十

又息女二人さんも高崎高女を卒業、四男三女の稀に見る良き子福者である。

西横野村人見

産業組合長 小此木勘十郎

一月十四日に呱呱の聲を擧げた。氏も亦父君の血を承けて人格温厚篤實、曩に村會議員、消防小頭、國勢調査員等に推されて貢獻現在村産業の動脈たる産業組合の理事として格勵し人望頗に厚い。氏はつる夫人との間に六男を有し稀なる子福者である。長男淺好氏は現に消防小頭、在郷軍人分會副會長として、將來村政の上にも太く囑望される人であり、上等兵である。二男宇兵氏も上等兵にして、三男は小松氏、四男時治氏は富岡中學を卒へ大阪市天王寺警察署に勤務(七年)歩兵少尉たり、現在三人の兄弟相繼いで支那事變に出征活躍せる實に名譽の軍人の家である。五男敬次郎君も安中蠶絲學校を卒へ三月滿洲へ入營した。六男保君がある。

東横野村中野谷

消防組頭 青木正市郎

大正十一年以來現在に至る十數ヶ年の永きに互りて消防組頭の重責に在りて永續的組頭と稱され、衆望を一身に集めて



此の氏は縣知事よりその多年に渡る盡瘁功勞を表彰されし事もあり

兼ねて生絲組合幹事その他の重責にもある。亦曾ては村會議員、在郷軍人分會長國勢調査員外各名譽職の任に在りし事ありその當村繁榮に寄與貢獻するところ頗る甚大にして、公共のために盡力するもの尠からず、殊に大正十二年の關東大震災に際しては本横野村代表として現地に於いて活躍、時の警視總監より感謝状を授與、亦分會長としても燦たる功績あり帝國在郷軍人會長より賞状を受けた。家庭は頗る圓滿、氏は甚及び劍道を趣味とする非常時日本に相應しき高潔な人格の持主。因に當家は數百年の家系を傳へる素封家、今は亡き先代種藏氏は戸長時代の副戸長として當村開拓に盡瘁せる功勞者及び碓氷社製絲聯合會の創立發起人で



當家は同村の名門たる茂田家より分家して既に五代に至る。嚴父

産業組合長 茂田菊太郎

源次郎氏は早くより我國絹糸業界の將來に着目して、率先絹糸取引業を経営した先覺者である。殊にこの地に製糸組合を設立してその組合長に推され斯業の爲めに偉大なる功績を残した人である。當主

菊太郎氏はその長男として明治九年五月

五日に呱呱の聲を挙げた。近衛歩兵第二聯隊に入り日露の戦役に従軍して功あり軍曹に任ぜられ後臺灣總督府付、朝鮮總督府付として殖民地に奉職恪勵する處あり、明治四十年歸郷後は専心村産業自治の發揚に盡瘁した、爾來助役一期、村長たることに實に十八年に亙り、その功績顯著なるものがある。現に村會議員、學務委員、小作調停委員、教育會委員、村産業の根幹たる産業組合長、農會長等の樞要の位置にあつて、剛毅不拔の精神力と誠心不撓の念意に依つて益々村各般のことに執掌し、村民の多大の感謝と尊敬を受けつゝある。實に其の峨々然たる風格と比類なき公共奉仕の態度は老壯士の感を抱かしむるものがある。當村々治政の元老として益々今後多くを期待さる。又碓氷社役員たり、又勤続功勞賞、碓氷教育賞等の表彰を受けてゐる。趣味として圍碁をなす。信仰は曹洞宗、家庭は一男三女の子福者にして、常に春風の如き

和樂をなす。

九十九村下増田

信用購買組合長 潮市四郎

潮家は源氏の末裔に屬し、第十一代潮長門守源包元當地に來つて土着歸農し、爾來廿四代を重ねて今日に至り、代々農を以て業としてゐる。亡父良作氏は村會議員に擧げられ、衛生組合長、製絲組合長製絲組合理事及び氏子總代として功績大なるものがあつた。市四郎氏はその長男として、明治二十五年一月三十一日に生る。村會議員に任ぜられること二期に及び、消防組小頭、製絲組合監事、衛生組合長、區長、農事實行組合長等を歴任して功勞顯著、現に信用購買組合長、寺院總代水利組合役員に任ぜられ、盡瘁貢獻するところ頗る多大である。自治功勞者として銀盃を賜はつた。氏はまた園藝に興味深く天台宗を奉じて信仰が厚い。しげの夫人は貞淑勤勉を誦はれ、長男今朝秋氏は高崎中學校を卒業し、白井町小

學校訓導を奉職中、二男保君三男英夫君四男榮君、長女光子嬢、次女よし枝嬢、三女かなめ嬢があり、一家は常に圓滿である。

九十九村小日向

陸軍少尉 正八位 佐藤三郎



當家は佐藤繼信の末孫をその祖として連絡たる家系を傳へる當村

屈指の舊家、代々篤農家を以て聞え、祖父嘉十氏は九十歳の老境にあるが八十七歳の時迄、田畑に出でし健在振りであつた。先考岩吉氏は信仰心頗る厚く、妙義山琴比羅神社への月詣を缺かせし事なく亦神社、寺院の各總代として盡瘁せる高潔な人格の持主、當主三郎氏はその男にて明治三十三年十一月一日生を享けし俊敏の氣性に富む紳士、安中蠶絲學校出身

にて現在々郷軍人分會長として銃後の護りに寢食を忘れ活躍奔走しつゝある。家にはやす子夫人との間に二男五女の子福者、頗る圓滿なる家庭にて附近羨望の的である。尙令弟茂一郎氏は朝鮮廣海道農務課に勤務し、東次氏は臺灣植産局養蠶所に勤務してゐたが今次の日支事變に際して勇躍應召、目下彼地に在りて活躍中である。

後閑村上後閑

前村會議員 長日部瑛一郎



亡父和三郎氏は小學校教員を久しく勤めてから、助役

を歴て村會議員に任ぜられ功勞大であつたが、今より十年前永逝した。實兄誠敬氏は、助役村長を歴て現に村會議員に任ぜられ盡瘁中である。瑛一郎氏は長日部家に迎へら

れて、亡父五郎氏の養子となつた。安五郎氏は村會議員等に任ぜられて、貢獻するところ頗る多大であつたが、二十六年前に長逝した。瑛一郎氏は村會議員に任ぜらるゝこと四期間、學務委員三期間を歴任し、西毛木炭組合副組合長、本九十九製絲組合長、會計検査員、金錢債務調停委員、統計調査委員等に現任し、盡瘁貢獻甚だ大なるものがある。歴史に興味を有し温故知新修養に資し研究を補ふこと多年に亙つてゐる。氏は剛毅果斷にして奮闘努力、而もよく人を容れて寛厚である。曹洞宗を奉じて不動の信念を持す

長男豊久氏三十二歳、次男正久氏三十一歳各々家を爲し、相協力して家業に精勵してゐる。なほその他に六女あり、子福者と稱せられてゐる。一家常に至福至樂である。

里見村中里見

元村會議員 乾久治

曾祖父氏は戸長を勤めて功勞あり、嚴



父健次郎氏は、區長、村會議員、村長等を長年に亙りて歴任して功

績多大なるものがあつたが、大正八年永眠した。乾家は此の如く公職、名譽職に在りて功勞高き人々を輩出したる名門である。久治氏は亡健次郎氏の長男として明治二十一年十一月八日に生れた。村會議員二期間、國勢調査員、土地賃賃價格調査委員、區長、學務委員等の公職、名譽職を歴任して功勞顯著なるものがあつた。昭和十年高崎里見間の道路復舊問題を圓滿に處理落着せしめ、安中里見間の村道改修に就いては莫大なる經費を献納し、絶大なる犠牲を拂つて完成した。村民は久治道路と稱してその功を記念し永久に傳へんとしてゐる。氏はその資性は剛毅淵達にして頗る義侠に富み、社會公共に奉じて忠信を極めてゐる。天台宗を

奉じて信仰亦た固いものがある。家庭には長男健藏氏の外三男二女があつて、常に圓滿至樂の一門は益々隆榮してゐる。

西横野村人見

金銭債務
調停委員
勳七等

鹽谷神酒造



當家は元吉井藩に仕へし村内屈指の舊家に於て、甚兵衛門と稱する人は當地久保池の開穿に當り、其の監督として十八餘町歩に渉る水田灌漑の大地を完全し、八十六歳の長命を保持した其當時吉井藩主の視察の折、泥を飛ばさぬ様左に除けといふ言葉にヒタリ、ヒモジと間違つた等の逸話が残りてゐる。先代東内氏は消防組織當時に力を致し其の役員たり、又最初の村會議員に擧げられその他學務委員、方面委員、衛生委員、區長、農會その他の公職を歴任して頗る

大き功績を残し、その奉公滅私の眞摯な態度と、濃厚篤實な人格は村民の翕然たる信望を博し自治功勞者として表彰されたる人である。當主神酒造氏はその長男として、明治十六年二月十六日に呱呱の聲を擧げた。日露戦争に従軍して拔群の功あり勳七等を賜つた。若き頃より専ら齋家修身に勉め、又先代の遺髪を襲ひて再び久保池の改修を斷行し耕地の生命を愈愈全からしめた、現在は金銭債務調停委員として格勳中であるが曩には村議にも推輓されたことがある。人格濃厚篤實にして村民の信頼が厚い。りよう夫人との間に長男照雄氏(高崎中卒)あり喜久夫人を迎へ、又長女多江子さんあり一家頗る團樂和合を極む。因に氏の令弟喜造氏も分家現に村會議員其の他を努め、兄弟相揃つて村治に盡してゐる。

西横野村人見

方面委員 上原善三郎

上原家は先代に至るまで商を以て業と

したが、今や轉じて農に従ひ熱心なる精農家として村内の稱讃する所である。善三郎氏は亡父孫三郎氏の長男として明治二十一年五月一日に生る。群馬師範學校第二部を卒業してより、教職を奉ずること二十年、郡より表彰を受けた。在職中は受持兒童に對して讀本及び書方手本を前後期共に惠與して勉學を奨勵し、特に貧困家庭の兒童には自ら費用を給して高等科を修學せしめ、恩師の芳情に謝して發奮興起し、受給兒童は殆んど悉く優良の成績を以て小學校を卒業し、社會に出て奮闘勉勵し今や相當の地位に立つて活躍し成功せる者が少くない。何れも恩師に對して崇敬愛慕の情頗る厚くして、赤子の慈母に對するにもいやなされる實狀は萬人をして感激感動せしめてゐる。氏はまた御眞影、勅語奉安殿の建築を援助し、これが周圍に樹木を寄附植附け、風致と保安に資するなど、甚だ教育の事に熱心である。現に、方面委員に擧げられ、また農會總代、社會委員を兼務して

ある。社會奉仕の實行を念願として、園藝に就いて趣味深く造詣する所が甚大である。商工次官たりし木暮武太夫氏と親交を結び交遊甚だ懇篤を極めてゐる。天台宗を奉じて信仰が深い。母堂よね子刀自は健勝であつて、なべ子夫人は貞淑を謳はれてゐる。長男一良氏を始め、二男三良氏、長女千代嬢、二女美代嬢、三女香代嬢、四女喜代嬢を惠まれて、一家極めて、圓滿富裕にして、和樂の聲がたへない。

東横野村中野谷

方面委員 石井源治



氏は資性濃厚篤實、殊に矜愍の情に厚く公共の事に與りては眞摯

熱意を以て爲すの人たり、村民の信望自ら翕然たるものあり、現在日本赤十字社

特別社員、方面委員、寺院總代を勤め又區長として部落の融和に盡瘁しつゝある曩には村會議員、國勢調査員、區長として貢献した。殊に碓氷社董組製糸組合理事長としての八ヶ年に亘る格勤精勵による功勞は太いものがある。當家は當地屈指の家系を傳へ、氏は故總太郎氏の長男として、明治十八年八月に呱呱の聲を擧げ藤岡蠶糸學校を卒業した人、故總太郎氏も村會議員、學務委員其他の公名職に執掌村治の上に功績を残した人である。現にあり子母堂七十六歳の高齡を以て健在である。はな子夫人も亦國防婦人會員として奉公の誠を致す。養子次郎氏は師範學校出身現在北甘樂郡西牧小學校に奉職して、地方初等教育の爲めに寧日なき研究、營爲なす。同せつ子夫人は裁縫教師として地方子女の養成に當る。一家稀れに見る和合團樂を極めてゐる。

西横野村人見

區長 上原定吉



當村内に於ける奉安殿増築に際して壹千貳百六拾五圓の巨額を寄

附し、遂に之を竣工せしめ村民の尊敬と感謝を一身に注びて村民一同より碑を建立されし氏は資性穩健にして着實、圓滿なる人格の持主にて出生は明治二十九年四月三十日である。篤行一々枚舉に違なく、その人格と相俟つて頗る衆望高く、現に區長の重任に在りて區政の圓滿なる發達の爲に、將亦區民の福祉増進の爲に一身を投じて盡瘁寄與する外、産業組合理事としても當村産業發展に貢献尠からず傍ら寺院總代としても努力してゐる。その各方面に盡力せる功績多大なるものあり、表彰も受け、當村繁榮の爲に缺くべからざる人物の一人としてその一舉一動は期待を以て注目されてゐる。家庭は常に春風渡る五月空の如くに圓滿、夫人

は國防婦人會人見區の班長として定吉氏と共に公共の事に竭し、間に二男三女あり、長男利保君は安中蠶糸學校出身の未來ある若人、長女歌子さんは安中女學校に在學中である。因に先考長五郎氏は極めて獨力獨行の氣性に富む人物にてカズ問屋を營み、遂に成功、家運を隆盛せしめ、後は農を主なる家業として篤農家と聞えし人であつた。

板鼻町

上田醫院



院長上田守中氏の努力經營に係る。守中氏は醫師木村豐氏の次男

として、明治二十二年二月二十六日に生れ、上田家に迎へられて養嗣子となる。高崎中學校を卒業して千葉醫學專門學校に入り醫學の研鑽に従ひて同校を卒業し

た。上田醫院は内科及び小兒科を設けてゐる。町醫たること二十年間に亘つて今日に至る。その功勞甚大である。先には助役、町會議員、傳染病豫防委員を歴任し、現に産業組合理事、學務委員を兼務してゐる。支那事變出征將兵の遺家族に對して、醫藥診療費の軽減又は免除を行ひて懇切鄭重を極め、また常に窮迫の人人に同情深く施藥施療限りなく、仁慈の權化として感謝崇拜せられ、徳望は村内外に洽なく滿ち渡つてゐる。よね子夫人は現に國防婦人會の會計の任に在り、一粒種の令愛玉子嬢は芳紀正に二十歳、安中高等女學校卒業にして、才色兼ね備はりて、今や慈母君の下に家政見習中である。

秋間村西上秋間

舊家名門 島崎近太郎

島崎家は當村屈指の名門にして由緒頗る古き舊家にして豪農である。嚴父長太郎氏は郡會議員として令名高く、特に山

林業に熱心に努力し、大日本山林會より數次に亘り表彰せられた。近太郎氏はその男として明治八年八月二十二日に生れた。北條學館及び、商業素脩學校等に學び、明治大學の前身たる明治法律學校を卒業した。嚴父君の遺志を繼いで農業及び山林業に盡瘁してゐる。神道の篤信者である。長男弘氏四十歳は縣立蠶絲學校卒業、次男正男氏三十四歳は東京獸醫學校を卒業してから、滿洲國立衛生技術署に奉職中である。長女は嬢二十四歳安中高等女學校卒業、次女とみ嬢二十歳も安中高等女學校卒業、三女きん嬢十六歳は安中高等女學校に修學中である。一家は常に至樂至福であつて、春風駘蕩たるものがある。四隣悉く仰瞻して羨望せざるものはない有様である。

秋間村

素封家 多胡榮一

當家は土地切つての舊家として傳ふ、又當地の素封家として知られてゐる。



祖父忠五郎氏は多年村長其の他の公職に推輓されて、祖父の衣鉢を繼ぎて全く、地方自治に格勵、殊に村治産業の各般に亘つて、眞摯なる貢獻をなし、農村の經濟に産業に將治政に其の経程を純正ならしめた人である。實に二代に亘り村治の中樞に閑座した自治功勞の家といふべきである。當主榮一氏は大正五年文七氏の男として呱呱の聲を擧げた。高崎中學を卒業法政大學に政治經濟を専攻した材幹にして、その氣宇の宏潤にして且剛毅なる資性は該博の智識と共に將來を囑望される青年であ

る。家庭は文七氏夫人たる母堂並に茂久世夫人にして、常に青風團樂和合を極む因に茂久世夫人は高崎市設樂金市氏の三女にして高崎高女出身の才媛である。

安中町古屋

島野山法東寺

當山は安中妙光院の末寺、大日如來を本尊に、新義眞言宗豊山派に屬してゐる。開基の何んであるかは不明であるが秀慶僧正を開山となす古刹である。本堂は木造亞鉛葺、間口七間に奥行六間、境内は六百九十坪を有する。寺は水田七反三畝歩、畑一町一畝歩、山林十三歩あつて、當古屋一圓に原市の一部を檀家となし、その數七十餘戸に及んでゐる。檀家總代に萩原甚作、中澤政治、内田千三郎氏等の外四名が現任、熱誠こめて世話をしてゐる。

住職

師は明治十二年四月十五日篠崎辨識 日の出生、入山して以來、精根を傾けて當山の復興へと力進して身



西島恒徳師 當山は時宗に屬して、神奈川縣藤澤町

龍澤山聞名寺

板鼻町

の清淨光寺即ち遊行寺の直末である。本尊は阿彌陀如來、開基は一過上人、開山は智眞圓照大師である。弘安三年春、宗祖一過上人は諸國遊行巡化の途次、當地に留錫して當山を開基した。寛永十六年十二代の時大いに堂宇を修補した。また享保二十年三月十六代の時更に堂宇修補

を完了した。慶安二年八月二十四日には、徳川家光將軍より朱印を賜はつた。一過上人眞筆名號、南門上人眞筆名號、稱光天皇勅額寺號、山號額、一過上人遺愛の笈、拂子、持蓮華、珠數、袈裟等を寶藏してゐる。檀家總代は國中友一、三澤英一郎、佃菊太郎、清水國太郎の諸氏で、現住は第二十七代西島恒徳師である。師は明治二十五年二月十六日生、藤澤中學校を卒業してから、進んで東洋大學及び宗教大學を卒業す。先には板鼻町會議員、東京府社會課囑託、藤澤中學校教諭、三井慈善病院病人相談所主事、布教師を歴任してそれぞれ顯著なる功績を遺し、現職に進んでからは産業組合理事、和光學園代表者をかねて盡瘁してゐる。

和光學園 和光學園は、教育勸語の趣旨を經として、大乘佛教の精神を緯とし、共存共榮隣保相扶の各種の事業を遂行し、和光同塵、物心一如の理想郷を建設するを目的とし、隣保事業と

しては農繁期託兒所、兒童健康相談所、早起會、兒童圖書館、日曜學校、婦人修道會、郷土史料研究部等を設け、また授産事業としては、眞綿製造加工販賣部、草履加工部、農事組合を置き、従事員十八氏を揃へて、適材適任、よく協力一致して優良なる成績をあげ、頗る好望なる前途を有してゐる。なほ板鼻幼兒園を創立常設の幼兒保育所である。

東横野村下仁田

月光山圓明寺



眞言宗に屬して大日如來を御本尊とする當山は古く當村内日蔭と

槃像を藏し、現住職として盡瘁するは明治三年三月二十五日出生の瀧澤教運師である。師は今亡き越後妙圓寺の隆山師の養嗣子となり斯道の修業を積み、後福島縣田原町慈恩寺に入りて十年、次いで新潟縣鯨波瀧泉寺に七年間修業、當山に入りしは大正四年、檀徒間の信望頗る高きものあり、三等司教大僧都にて福島縣南會津郡小梁村新福寺住職を兼務してゐる。濃厚にして圓滿なる人格者、長男有教師は長谷の専修學校出身の英才である。

東横野村中野谷

熊野山清元寺



當寺は大日如來を本尊となし眞言宗豊山派に屬す。その由緒沿革も極めて古く開基は洞昌上人である。安

中妙光寺の末にして、本堂、庫裡、鐘樓堂等古木の間に整然と並び閑寂の靈域をなす。檀家百七十戸余、檀家總代は現村長たる遠間家外數家である。現住職は西村有泰師、

住職 師は明治十四年七月九日

西村有泰 故新兵衛氏三男として佐波郡に呱呱の聲を擧げ、當初小學校教師を奉職し大いに兒童教育に思念する處あつたが、明治三十四年佐波郡に於て住職となり、明治三十九年當寺住職となつて爾來三十餘年營々として宗教本然の立場から社會裨益の爲めに盡力し來つた人である。人格濃厚篤實殊に矜愍の情に厚く村民の瞻仰燦然たるものがある。昭和三年中野谷農繁期託兒所を開設なし、とし子夫人と共に戮力經營、現在園兒六十名を有し、私財を以て樂器其他の設備に萬全を期し縣下第一の企として且又模範事業として各知名士の視察等もあり、同宗豊山派、縣當局、東京朝日新聞社等より數回に互り表彰されてゐる。とし子夫人は

愛國婦人會幹事として活躍、長男寛氏は縣統計課に勤め、次男秀氏は小學校訓導奉職中にして一家團樂和樂を極む。

後閑村上後閑青木山

東關法窟長源寺



當山は元總持寺輪番地、東關法窟、長

源寺と稱し、一に常恒會地と號してゐる。曹洞宗に屬し總持寺の末寺である。本尊は大覺本師釋迦牟尼佛である。開基は依田信濃守源政(政)知、開山は希明清良禪師、京都藤原氏である。始め源政知公は鎌倉なる足利持氏と戦つて敗れ上州の山に入り山伏となる。偶々清良禪師來りて泊し、禪師を師として長源寺を創立し先祖及び部下の菩提を弔した。後眞田信幸逃れ來つて留る、後信州松代城主

となつてから長源寺の獨住を請して長國寺を創立した。源政知時の帝の御不例を祈り奉り御惱平癒せらる。功により後閑の里全部を賜る。政知これに築城し城主となつた。當山の本寺は、福井縣南條郡慈眼寺にして、末寺は二十三箇寺がある。寺寶としては御開山行狀録、安中城主源勝明朝臣の詩文肉筆、天狗の爪等を藏してゐる。檀家は百八十戸を算し、總代には元老たる柳澤嘉十郎氏、鈴木義一郎氏、河原田孫太郎氏、淺川謙次氏が熱心誠實に奉仕してゐる。現住は趙精愼師。逸麟並に道人と號し詩書を能くする。

神苑之朝

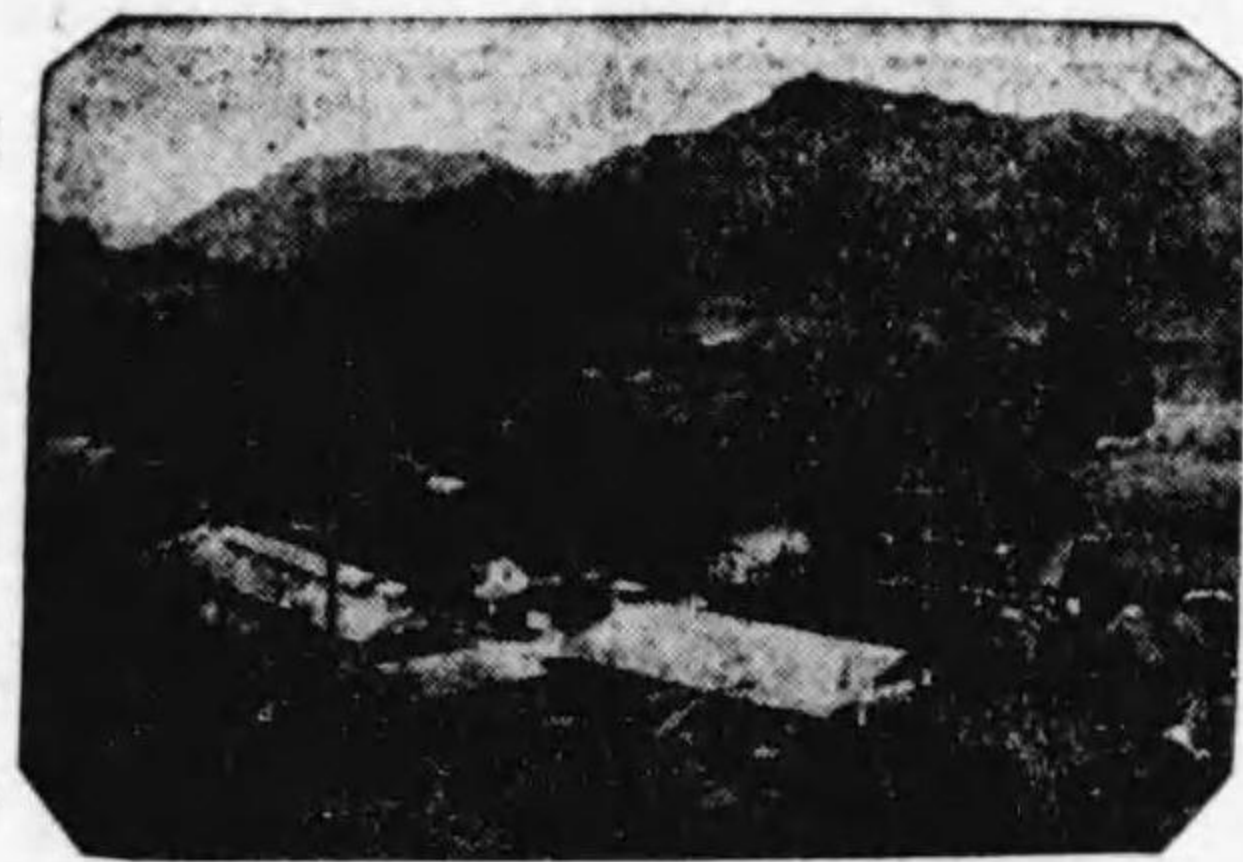
上下當難轉禍春 同胞悉憶遠征人
巍照護國神明德 拂淚久祈鏡後民
贈子某大臣年頭之詩
補弼皇圖碩大臣 今前國難不樂春
鳳參神苑祈千歲 德化群雄運日新
祝南京之占領
抗日軍都大魔鄉 擊滅南京定東洋
將兵幾萬身魂擲 正與和光四億郎

吾妻郡

東村五町田

吾東信用販賣購買利用組合

當組合は明治四十五年三月有限責任信



組合全景

を組織分離したるも、昭和十二年兩者を合併し、保證責任組織の四種兼營組合となつた。組合員三百六十人、出資總額約二萬四千七百五十圓を算し、最近の狀況は、貸付總額三萬二千六百餘圓、貯金二萬二千三百餘圓、購買二萬三百餘圓、販賣二萬二千三百餘圓を示し、貯金急激な勢を以て増加の趨勢にある。餘裕金は各種事業資金に運用し、堅實を旨とする經營方針の下に、着々事業量を擴大し、箱島に支部を設けてゐる。主唱發起人並に功勞者は初代組合長佐藤泰吉氏のほか、唐澤宗五郎氏、佐藤元八氏、佐藤島吉氏、箱島 佐藤右司眞氏、佐藤與平氏、佐藤龜三郎氏、大塚文吉氏(二代組合長)、篠原太吉氏、佐々木仙重郎氏にして、三代目組合長西山金一郎氏、四代目組合長佐藤鴨三

氏もまた組合の發展擴充に多大の功勞があつた。現組合長奥山壽作氏は明治四年二月十九日誕生にして奥山左七郎氏の家に養子となつた。謹直にして部落民の信望厚く、經濟的手腕力量に富み、現に當組合長のほか學務委員をつとめ、夫人との間には四男一女ありて長男六男氏は中之條農業學校の出身、また養父は助役をつとめし自治功勞者である。亦本組合にて特筆すべきは事務員宮下鶴次氏の功績である。氏は本村字五町田の出身にして明治四十四年の生れ、頭腦明敏にして事務的手腕に長じ、昭和二年より當組合に勤務し、職務に忠實且つ勤勉、他の模範とするに足る存在である。

長野原町應桑

應桑郵便局

當郵便局は明治十三年六月一日に開設當時五等局だつたが、同十九年五月三等局に改稱、同四十年九月、今の地に移轉した。現在は郵便事務の一切を取扱つて

優秀な成績を示してゐる。現局長は三代目萩原金一郎氏で、事務員三、集配三、遞送一、合計局長とも七名、遞信報國を旨に努力奉公してゐる。なほ五十年局務成績に依り金壹百圓を授與された。

局長 長一 氏の家はもと甲州武田

萩原金一郎 一家の家臣、武田氏の天目山に敗るゝや臣下四散し、氏の祖また流浪、後ち當地に土着、農に従事今日に至つた。當主は先代氏の長男、明治十五年四月十六日の生れ、三十五年志願兵として麻布聯隊に入營、日露の役に出征、功



に依り勳七等に叙された。同四十年局長を拜し、大正

十五年三月勳六等を、昭和七年正七位を賜はつた。また局長滿三十年の功勞につき同十三年表彰され、學校寄附等によつて賞勳局から銀杯一個を下賜された。な

ほ氏は局長會第三部長、學務委員、檀徒總代を兼ね、曾ては軍友會々長であつた

澤田村四萬

四萬組合取締所

海拔二千五百尺東西北に山を繞らし、南に向つて低地をなして開け、四萬川の清流その間を流れて温泉地帯を貫流、夏涼しく冬暖く春夏秋冬療養清遊に最も適し、附近に澁砥泉、嘉滿淵、神仙の瀧、偕草園、水昌山其の他十ヶ所ほどの名所地を有する當四萬温泉は胃腸諸病、リウマチス、神經痛、一般婦人病の効あり、都人士の遊ぶ者すこぶる多く、交通も甚だ便にて主に左の路順を利用する。

- 1、兩毛線上野驛—新前橋驛乗換—澁川驛下車—乗合、貸切自動車にて一時間半—四萬温泉
- 2、信越線上野驛—高崎驛乗換—澁川驛下車—以下同じ。

設備もよくと、のひて、旅館は田村旅館、積善館、山口館、鐘壽館、四萬館、三木屋、日間見館、豊島屋、玉泉館、泉

屋、吉原屋、唐澤屋の十數館あり、みな顧客本位をモットーにサービスをしてゐる。當組合事業は温泉場一切の取締に任じて風紀取締、衛生、土木、宣傳、交通等は主なる事業である。組合員戸數百二十戸に及び、田村旅館主、積善館主の兩氏が取締役に任じてゐる。

中之條町

群馬自動車株式會社

電話四一、五一番

昭和二年の創立にして資本金八萬七千五百圓なり。伊香保温泉裏線、澁川町、澤渡温泉、大戸、高山、四萬温泉等への交通機關なり。吾妻郡山岳地方の唯一の交通機關として、又社の業績頗る良好なり。他方名士、資力家を以つて組織す。前社長堀内良平氏、現社長は田村喜八氏なり。氏は、同町の人にして、元縣會議員、郡會議員、町長等を歴任されたる高潔なる人格者なり。常務取締役に柳井兼徳氏、支配人蟻川潔氏なり。常務柳井兼

徳氏は元東京乗合自動車會社に勤められし人にして當社創立以來社の中心人物として、その才幹、卓拔せる營業手腕は今日よく歴代の社長を補佐し來れり。支配人蟻川潔氏又業務に精進しその運営宜しきを得、柳井、蟻川の名コンビを生み當社の双壁として重きをなせり。氏は目下陸軍中尉として出征中なり。現在從業員七十餘人。

中之條町

中之條町長
勳八等

劍持眞平

人皇百



十二代靈
元天皇の
延寶年間
劍持孫太
夫氏一家

を創立して今日まで連綿として繁榮の一路を辿り來りし當家は、町内切つての舊家であり名門である。代々農を営みて生業となし、傍ら名主に任じ、郷黨の福祉につくすところ大なるものがあつた。先代要次郎氏は謹嚴實直なる人格者と謳はれしが、惜しくも五十九才を一期に永眠された。當主はその長男、明治十七年二月二十五日を以て誕生せられ、縣立中之條農業學校を抜群の好成绩で卒業、日露戦争に出征し、功により勳八等に叙されたる皇國の精華である。その後銀行家として多年經濟金融界に活躍し、三十有餘年間、群馬大同銀行につとめ、同行が中之條銀行と稱した時代からの勤続者として重きをなし、昭和十二年岩島支店長を最後に退職された。曾て助役たりしことあり、資性濃厚なる紳士、眞面目にして謹直なる人格者との定評あり、現時、町會議員、町長、吾妻郡町村長會長を兼任して、地方自治界に令名を謳はれるほか確水社製糸組合理事、中之條魚菜市場監査役、中之條澤田耕地整理組合評議員をつとめ、業績頗る顯なるものがある。養嗣子眞三雄氏は中之條農業學校の出身にして、現在同地小學校に、教鞭を執つて

長野原町

長野原町役
勳七等

宮崎茂太郎



資性沈
着にして
剛毅の氏
は、先代
故佐吉氏
の三男と

して明治十三年八月十四日出生した。當家は代々農を以つて家業としてゐる。先代佐吉氏は町會議員二期を勤めその他の自治問題に盡瘁した功勞者である。氏は郷校卒業後は家業に精勵し、明治三十三年兵として同三十七年日露の役に砲兵軍曹として出征した。勳功により勳七等を賜はり、後補充隊に廻り、除隊後は、農業、養蠶、畜産(牛)に意を注ぎ、曩に第一回國勢調査員、軍人分會長、有給助役を六ヶ年間勤め、その間は學校の改築警察署の増築、上水道の完備等に盡瘁し

てその功績は甚大である。現在は町會議員、名譽助役、軍友會理事等の要職、名譽職にあり、町政に參與してゐる。家庭は貞淑なる令閨さわさん(四四才)との間に四男三女がある。

東村新巻

名譽助役 齋藤大八

當村有數の素封家と聞える當家は累代農を主に林業、養蠶業を副業になして來た家柄、先考喜興八氏はその家業に精進すると共に村會議員、消防組頭、區長等を多年勤めし當村繁榮の功勞者、その四男に明治三十三年二月二十七日生を享けた氏は明晰機敏なる材幹にして、濃厚なる紳士、中之條農業學校出身の俊器でもあり尊父の衣鉢を襲ぎて夙に公共の事に竭し、區長五期を歴任して現任中、亦消防組頭、方面委員、自作農審議會委員、産業組合理事及び當村名譽助役の重任に在る。その事績は村内あらゆるものに渡り、道路水路の開通、菅原神社改築その

齋藤村千俣

齋藤村長 千川捨五郎

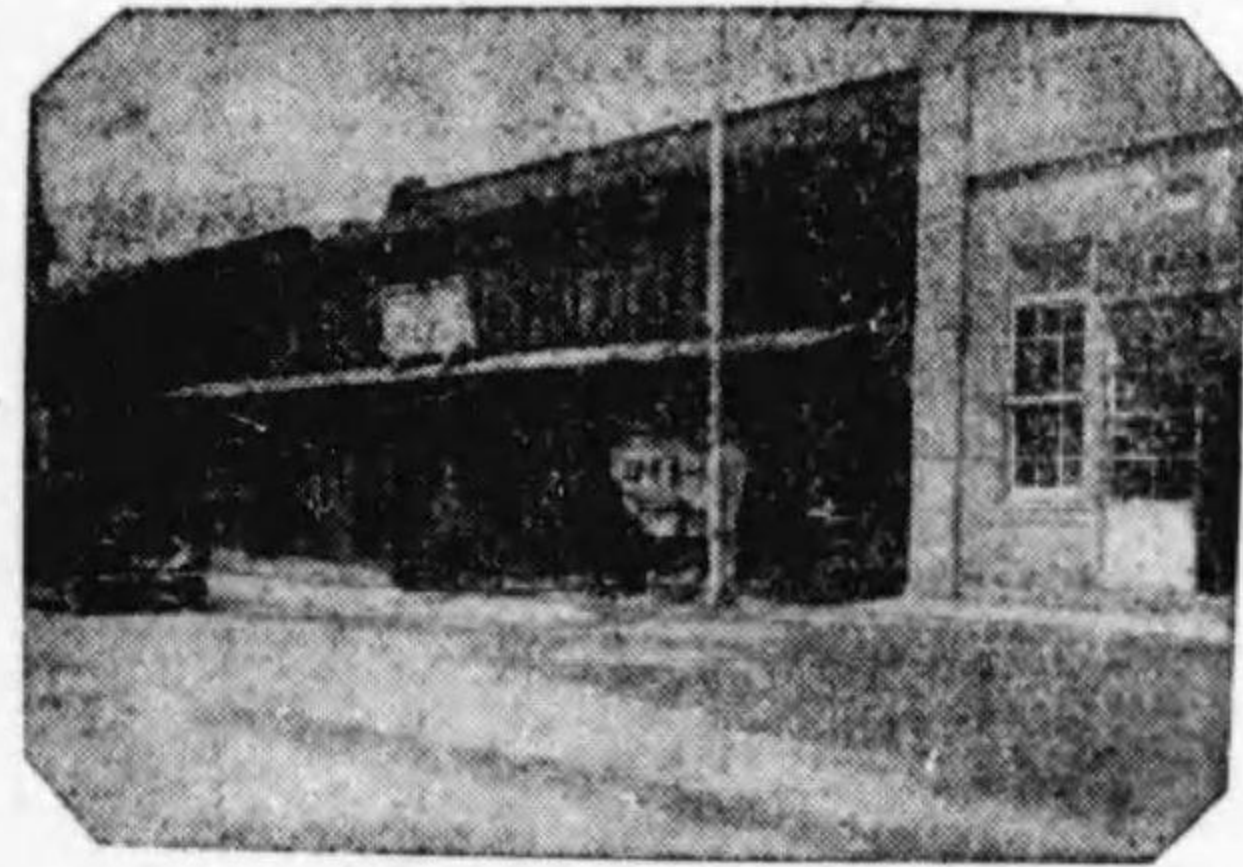
氏は先代故多十郎氏の二男として明治十四年五月十日出生。當家は代々農を以つて家業とし篤農の間へが高い。氏は資性則直にして慧敏なる人である。郷土校を卒業後は夙に村政に盡し、農村開發自治産業の改革明朗化に貢献し、曹を、村長、助役、村會議員八回(二十八年間勤續)家屋税調査員、賃賃價格調査委員等の要職を歴任し、學校改築、道路問題等に寄與しその業績頗る顯著なるものがある。現在は、村長、農會長、村會議員を兼ね村民の信望は絶大なるもので、氏の如き人物は現非常時に稀にみる老練なる手腕家であり、自治に關しては頗る炯眼である。又一面非常に磊落な人で趣味

中之條町

元縣會議員
勳七等

田村喜八

氏は慶應元年三月十一日の岳降なり。當家は享和元年鍋屋なる屋號にて商號登記せるも、それ以前より旅館として知名あり。確實に判明せる年代は百三十年にして當地屈指の舊家なり。祖母リウさんは九十一歳迄の高齡を保ち榮譽ある天盃三回拜授し町内の名物として旅客に親まれし氣俠婦なり。氏又夙に町政に貢献する處甚大にしてその功績頗る顯著なり。現在群馬縣自動車株式會社々長、群馬大同銀行(前身中之條銀行)頭取、耕地整



家には十返舎一九翁の宿泊せしとき寄贈せし歌に
愛敬は外にたぐひも中之條
鍋屋の宿の居心のよき
又、大町桂月の狂歌に
古も今も變りは中之條
鍋屋はやはり居心のよき

車、便あり、又上野より遊川驛下車、乗合自動車に申し、中ノ條への交通の便あり、尙、當



當家は十代連綿として續ける舊家にして代々農業

林業、蠶業を以つて家業とせり。氏は先代故喜惣次氏の男にして明治三年十月七日の岳降なり。先代喜惣次氏、名主、戸長、村會議員五期を勤め村政に功勞ありたる人なり。氏は帝大農科大學獸醫學部乙科卒業、帝國理科大学第九回動物學監督實習所を修了、畜牛結核病検査講習所を卒業せり、學識高邁にして温厚篤實なる紳士なり。氏の村政に盡せし功勞又甚大にして、曩に植林町村組合監理者、縣會議員、郡會議員、信用組合長、縣立農學校教授、牛畜組合長、赤十字社特別社員、吾妻興業銀行取締役、泉澤水電株式會社取締役社長、縣物産共進會副會長、小泉耕地整理組合長、縣治水協會評議員等、その輝しき經歷枚舉に遑あらず、氏

理組合長等の要職にある。又曾て縣會議員三期、郡會議長、町長三期等の公職に歴任せり。自治功勞者として氏は、明治三十九年勳七等青色桐葉章を賜はり、又昭和十一年大日本耕地協會より銀盃表彰を授與さる。現在吾妻郡隨一の自治功勞者として益々矍鑠、壯者を凌ぎ幾多の公職に盡力せり。家族は十二人の子福者にして長男辰雄氏は慶應大學出身にて明治二十二年四月十日の出生。温厚篤實、圓滿なる人格者にして紳士なり。氏は現在消防組頭の外、群馬縣消防協會々長の重職に在る。令閨との間に二男三女あり。
吾妻館 當館は享和元年から判明
鍋屋旅館 せるも弘化年間大火災の爲め書類焼失し記録的には文化年間よりなり。群馬縣名物の舊旅館なり。主人自ら接客、叮嚀、懇切、誠實なること驚嘆に價する。文化年間十返舎一九翁、又高野長英弘化年間宿泊せる歴史あり。四萬温泉に四里、澤渡り温泉に二里、草津温泉原町の棒大戸の關、縣下那馬溪へ各自動

の偉大なる足跡、その半生を擧げて自治の爲めに盡力せり。表彰數回に及ぶ。

長野原町林

町會議員

星河鯛一郎

電話長野原二三番

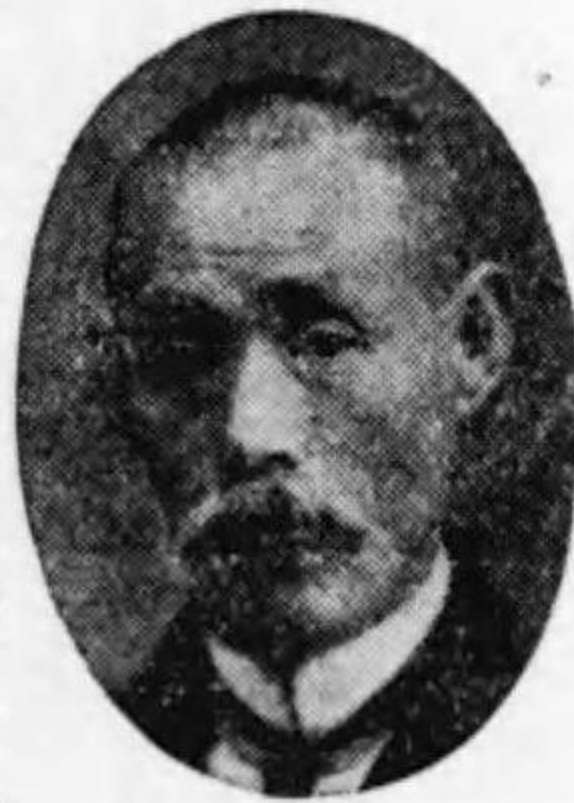
剛健質實、眞率且つ純潔の性格を有し本町人材中出色の存在たる氏は、小池新次郎氏の三男にして先代利平氏の養嗣子二期目の町會議員を現任し、精勵恪勤、才能と手腕の人として信望がある。星河家は代々農を專業とせる家なるも、大正四年より商業に轉じ、蠶種製造並に雜貨商を經營の傍ら、町會議員、區長代理三回、町長一回をつとめ、學校改築問題、道路問題に卓見と敏腕を顯はれ、現時、町會議員のほかに信用組合常任幹事に推されてゐる。家庭には夫人リキさん、長男三河氏、同夫人フクヨさんのほか、福司君、幸子さん、久江さんの三人の令孫あり、和氣霽々として至幸至福を極め、一家益々繁榮の途を辿つてゐる。

東村箱島

郵便局長
從六位勳六等

佐々木仙重郎

清廉潔



白、謹直なる氏は明治六年十月三日の出生。

先代養父一二氏は村會議員を勤めし人なり。氏養父の衣鉢を繼ぎ夙に村民の福祉増進に寄與する處勤からず。現局長の外箱島水力電氣株式會社取締役、自作農審議會委員として村内に重きをなす。曾て又氏は村會議員(明治三十五年ヨリ昭和五年迄繼續)前碓氷社箱島組合の組合長及び理事等を歴任せり。趣味は旅行にして家庭は頗る圓滿なり。

箱島

吾妻郡東村箱島に在り、郵便局 先代一二氏が明治十九年これを開局し現局長佐々木仙重郎に至る長き歴史を有す。廣く東村一圓、群馬郡小

太田村小泉

村會議員
產業組合長

中澤義太郎

當家は十一代連綿續ける舊家にして代々、農、林、養蠶を業とす。氏の祖父は名主、戸長を勤め、先代伊藏氏は、縣會議員、郡會議員及議長、村長等の要職に永らく歴任せる當村の功勞者なり。氏はその男にして、明治二十九年二月十一日出生。前橋中學校卒業後、中央大學に學び中途退學す。氏の學識、才幹共に將來期待する處甚大なり、曾て農村產業自治改革等に盡力し、村民の信望厚く、推輓されて現在は産業組合長、村會議員、農會代議員、碓氷社評議員等の名譽職に在る。又曩に小泉信用組合長、區長、消防組頭等をも歴任せり。令閨との間に二男四女あり、春風洋々として至極圓滿な

り。

太田信販 吾妻郡太里村字小泉にあ
購利組合 出資総額は三萬九千五
百圓にして、一口金額十五圓、組合員數
は現在四百八十一名。小泉部落の貯金團
體の貯金力増額を來し爲に之を合法的に
信用組合として組織せるものなり。後に
四種組合に變更し一部落單位の信用組合
を廢し村單位の現在の産業組合となる。
貸付總額は六萬七千圓、貯金六萬五千圓
にして購買價額は一萬圓にして販賣價額
八萬圓也。歴代理事長は鹽谷眞雄氏、中
澤伊藏氏、白石實太郎氏、青木和三郎氏
荒木庄作氏、現理事長は中澤義太郎氏に
して、専務本下傳吉氏、理事白石實太郎
氏、植木繼藏氏、青木源吉氏、林時吉氏
茂木新平氏、須田左平氏、角田常太郎氏
佐藤平三郎氏、寺島喜一郎氏、町田友吉
氏、監事は青木準雄氏、長尾高見氏、田
倉恒次氏、茂木友彦氏、田中英氏の諸氏
なり。諸氏みなよく盡瘁、貢獻寄與多大
なるものある。

坂上村本宿

村會議員 **橋爪八兵衛**
信用組合長 當家は、數百年來連續續せる舊家な
り。豪農の聞へ高く代々組頭、總代、戸
長を勤め村政に盡力せり。氏は先代源藏
氏の長男にして、明治二十一年十二月二
十七日呱呱の聲をあげる。先代源藏氏は
家業に精勵し、範を業に示してよく今日
村第一の資産を作りし人なり。氏も夙に
家業に勵み理財に富み、又、村産業、自
治改革、開發に貢獻する所勤からず、會
に推輓されて、信用組合専務理事、村會
議員四期、區長七年、國勢調査員、學務
委員等を歴任し、現在は信用組合長、村
會議員、吉岡神社氏子總代會計係等の要
職にある。資性溫順にして、圓滿なる人
格者なり。又その識見、手腕共に村民の
深く信頼するところなり。家庭は、七男
一女といふ子福者にして、令閨は、前村
長中井氏の愛娘にして、現在、國防婦人
會役員として社會公共事業に活躍してゐ

る。

坂上購信 當組合は、群馬縣吾妻郡
利組合 坂上村大字本宿三六〇番地
ノ二にあり(電話大戸七番)。以前坂上村
に製糸組合二ヶ所、産業組合四ヶ所と亂
立し各組合共その成績甚だ振はざりしを
村内有志相計り昭和二年合併、一村一組
合主義に變更されてより現在に至り成績
頗る良好なり。出資總額は四萬八千壹百
圓にして一口金額二十圓也。組合員數六
百二十八人を數へ、貸付總額六萬六千二
十四圓二十九錢、貯金四萬四千五百八圓
三十一錢、購買價額一萬二千五百圓にし
て、販賣價額は九萬百五十七圓也。初代
理事長は震源三郎氏、現理事長は橋爪八
兵衛氏、組合長橋爪八兵衛氏、専務理事
宮崎周平氏、常務理事小林武一氏、農業
倉庫として、木炭倉庫、共同集配所、催
青所、醬油醸造所等あり。

婿戀村田代

村會議員 **松本藤平**
前總務村長



開祖以 來十二代 田代部落 草分けで あり、素 開祖以 來十二代 田代部落 草分けで あり、素 開祖以 來十二代 田代部落 草分けで あり、素

封家である。代々半商半農として今日に
至り名主の役もつとめたる名門である。
氏は先代藤平氏の次男として明治元年七
月二十三日に岳降、令兄財太郎氏が夭折
せるため、明治二十一年八月、家督を相
續、同時に従來の久四郎を改めて藤平を
襲名した。村會議員たること九期、三十
六ヶ年に及び現に十期目の任にあり、ま
た村長二回のほか、區長、方面委員、土
地賃貸價格調査員、學務委員、國勢調査
員二回を歴任、消防組に關與十ヶ年、後
組頭に推された。村長時代、大正七八年
頃、國有林の村有及び個人有林への拂渡
し運動を興して遂に實現し、今日の確固
たる財政の基礎を樹立せるほか、學校統
一問題の解決、産業の振興など、盡力勤

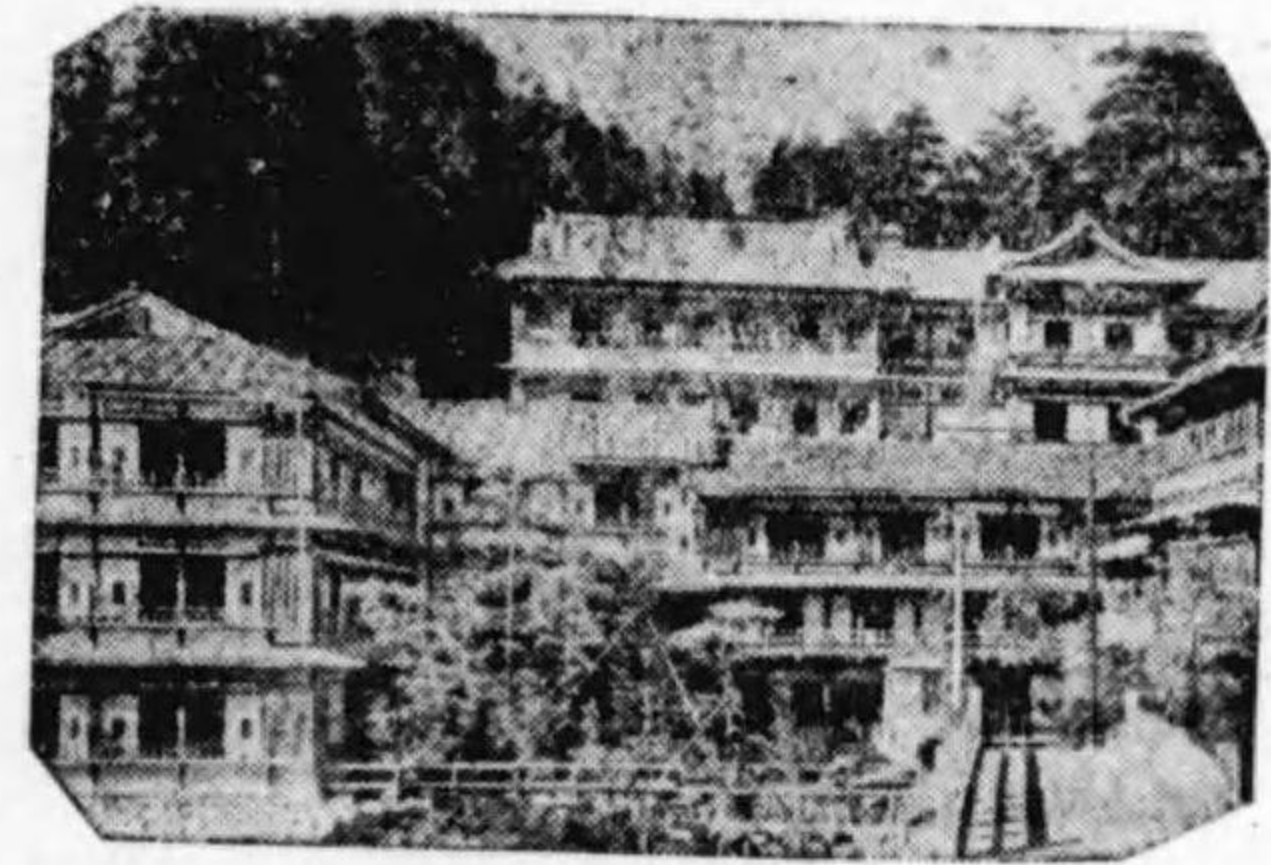
なからず、現在は村會議員のほかに養蠶
實行組合役員、氏子總代、赤十字社終身
社員の任にあり、資性謹嚴實直なる人格
者として尊敬されてゐる。縣警察部長、
内閣統計局、日本赤十字社、その他より
の表彰關係は、一々數へ切れない程であ
る。令夫人は良妻賢母の譽れ高き人、長
男岸氏(明治三十年生)、二男健作氏、三
男照氏、四代利一氏、五男慶作氏、長女
アヤさん、二女すみさん等あり、令孫は
番君、ヒデさんほか二嬢をかぞへる。因
に氏が氏子總代たる村社吾妻山神社は、
日本武尊並に菊理比賣尊を祀る古社にし
て、本村鎮守として庶民の崇敬あつく、
養蠶の神ともいはれ、毎年六月十五日の
例祭には遠近より多數の參詣者引きも切
らざる状態である。境内神社に琴平、北
野、櫻實、十二山の各社あり、氏子百六
十餘戸、神職は浦野峯松氏にして、總代
は松本氏のほか關榮三郎、戸部彪平、宮
崎倉吉、宮崎宇三郎の諸氏が、推されて
ゐる。

澤田村四萬

村會議員 **關善平**
積善館主



活動力 の旺盛な 村内多士 濟々なり と雖もそ の右に出づるものなく、中堅人材中精彩 を放つてゐる氏は、先代善平氏の男にし て明治三十四年四月の出生である。その 祖は眞田氏の家臣として武藝に秀で、眞 田家滅亡のため、落武者となりて澤田村 に住し、代々名主の役をつとめ、今より 十七代前の善兵衛氏は隱居して當家を起 し、その後代々善平を襲名、温泉旅館を 經營して今日に至つた。先々代善平氏は 四萬温泉信用組合設立に大に功あり、組 合長に推されて盡力貢獻すること多く、 昭和十年九月二十六日の大水害のため、 組合事務所並に重要書類を流失されたる



四萬の誇り積善館

経痛
等
ある
又
樂
備
演
場
ボ
麻
ブ
ル



六百年
來
續
く
舊
家
に
し
て
同
村
青
山
村
に
今
尙
其
の
遺
跡

も、現主の不眠不休の努力により、今やまた村内數組合をリードし、益々發展の氣勢を擧げる優良組合として更生した。先代善平氏もまた非常な篤行家にて、村長をはじめ、諸種の公職に歴任、絶大な努力をなされた人である。當主は早稻田大學の出身、意氣激刺たる新人にて、區長、村會議員三期、消防組頭十二年等をつとめ、表彰數回に及び、現在は四萬温泉組合取締所々長、納稅組合長、衛生委員長、村會議員、消防組頭、四萬温泉信用組合長等の要職を兼ねてゐる。趣味は登山及びスキー。

因に當館は氏の經營に係るもので、四萬温泉の中央、勝景且つ便利なる地に位し、風光明媚なる二萬有餘の客室を持ち浴室は蒸氣風呂、貸切風呂、千人風呂、湯瀧、プール等の數室に分れ、理想的な大浴場は高温の原泉を冷却し、適當なる温度とした靈泉御影石の浴槽から常に溢れてゐる。主治効能は、胃腸諸病、關節病リウマチス、婦人病、小兒加答兒、神

中之條町

町會議員 宮崎羊重郎

遊戯場等、完備してゐる。附近の名勝舊蹟は、大泉小泉の瀧、水昌山、嘉滿ヶ淵、澁砥泉、小倉の瀧、摩耶の瀧、神仙の瀧あり、舊蹟として、日向見藥師堂「國寶」がある。現従業員は約四十人、電話四萬二・三・四番。

町政改革に盡瘁す。氏は又狩獵、盆栽、その他多趣味にして殊に生動物愛護家なり。家庭は令閨との間に長男俊氏あり、俊氏は、福島高等工業學校を優秀な成績で卒業、現在氏の手許を離れ、大阪ダイヤモンド株式會社に勤務未來ある青年として前途を囑望されてゐる。

長野原町戀桑

町會議員 勳八等功七級

萩原和一郎



資性謹
直にして
人格高潔
の氏は先
代故林八
氏の男と

して明治十四年十月四日の生れなり。當家は代々篤農の聞え高く先代林八氏は氏が十四歳の時逝去せり。氏は日露戰役に補充兵として出征、勳八等功七級に叙せらる。氏は亦た農村開發に意を注ぎ、産業、植林、育英等はその功績頗る顯著

なるものあり、その在職當時學校改築、増築、縣稅戸數割廢止によりて當時家屋調査員、自治制に基く村民の福祉増進等への寄與に獻身的に盡瘁せり。現在は町會議員、農會總代、赤十字社正社員の名譽職に在る。氏の識見、手腕共に將來期待するところ甚大なり。趣味は讀書、和歌の造詣深く、又家庭は淑徳の譽高き、はなさんとの間に、二男一女あり、長男顯哉氏(二十九才)、二男叶八氏(二十六才)共に揃つて秀才、未來を囑望されてゐる。

坂上村大柏木

元村長 霞 源三郎



當家は
五百餘年
の舊家名
門にして
代々名主
を勤めし

家柄なり。氏は簡藏氏の男にして安政五

年十月二十五日の岳降なり。夙に村自治産業の刷新に寄與貢獻する處甚大にして其功績頗る顯著なるものあり。現在赤十字社特別正社員、擅徒總代、帝國軍人後援會贊助會員の名譽職に在る。曩に坂上村々長、信用組合長、村會議員(五十年)學務委員等の要職を歴任せり。又昭和三年御大禮記念章を受く。大正十四年群馬社會事業協會へ金壹百圓寄附し褒賞を授與され、昭和七年陸軍大臣より感謝状を受くる等、その感謝狀、表彰狀數回に上る。信仰は淨土宗にして家庭は至極圓滿にして長男簡一郎氏消防部頭を永續勤務し赤十字社特別社員となる。

長野原町

元町長 橋爪 和作

橋爪家は當地の草分けといはれる舊家名門である。氏は宮崎清次郎氏の四男として明治四年九月十九日に生れ、長じて先代甚平氏の養子となり家督を嗣いだ。



家は樂品、銃砲、火藥、塗料、化粧品、品の販賣であるが

氏は早くから町書記、同助役、名譽助役町會議員、學務委員、町長、町農會長等町内要職に歴任して、小學校建築その他に功あり、表彰數回に及び、現時學務委員として活躍をつづけてゐる。資性謹嚴實直、衆望あつく、家庭には長男哲氏ありて家業に精勵し、令孫多勢あり、家内圓滿、益々隆昌の一路を辿つてゐる。因に氏の趣味は讀書、政友會系の材幹として地方政界に重きをなす。因に昭和十三年四月自治制發布五十周年記念に際し、本町より自治に貢献せる功績者として表彰され、木杯一組を贈られた。

婦戀村袋倉

村會議員 山崎安重郎



當家は開祖以來十三代に及ぶ素封家にて、代々農を

業とし、附近の徳望あつき家柄である。先代連平氏は村會議員に當選三回に及び村政上獻策頗る多く、また學務委員、區長等多年に亘つて勤め、自治界有数の功勞者として知られ、日清戦争には現役兵として出征、日露戦争には應召して出征共に赫々たる武功を樹て、勳八等功七級に叙されたる護國の勇士である。道路開鑿問題及び橋梁架設問題に就いては非常なる努力と貢獻とをなし、産業の興隆にも意を用ひ、縣畜産組合聯合會より表彰を受けた。また先祖は代々名主をつとめ先々代傳二郎氏は戸長及び村會議員に歴任せる材幹であつた。當主は先代の長男にして明治二十七年九月六日の出生。大正三年近衛歩兵聯隊に入營、模範兵とし



資性快活にして恬淡、中に武人の面影を有する氏は

伊參村蟻川 元村長 綿貫宇十郎

先代勘十郎氏の長男にて明治四年八月十



代故源六氏の男にして、明治十三年十一月十日

一日の出生。夙に神奈川縣水上警察署に十一ヶ年の永き間勤務、退職歸郷後は専心村勢發展に意を注いで村内各公職を歴任、村會議員は實に三十餘年の永きに亘りて重任なした。村助役は明治四十一年より四十四年迄勤めた。後引續き三期を歴任、昭和四年遂に村長の重責に推輓を受けた。その活躍寄與するところ官有地拂下を受けて殖林をなす、即ち百六十餘町歩に渡り毎年千六百圓の材木を切出すに至り、その他部落財産の統一を計りて自治財政に及ぼし、教育の普及、租税完納の美風を植付ける等、事績一々枚擧に遑なく表彰も自治功勞者として數次に及ぶ。現在尙も農會長、村會議員の任に在りて鞅掌中、因に當家は累代篤農家の間え高く、年代不詳なるも相當の舊家にし尊父勘十郎氏の代に至りて農より商業に轉じ財を増し、亦勘十郎氏村會議員を永らく勤めて功があつた。家庭は圓滿、夫人との間に四男三女あり、長男氏は勢多農林學校出身、次男氏は他家の養子に

入り、澁川中學出身の三男氏は歩兵少尉にして外務省巡查を拜命し現に天津に駐在してゐる。

中之條町

町會議員 鈴木萬作

日生れ、當家は又數百年來の舊家にして元祿年間の碑あり。先代源六氏は農業に従事せしも氏の代に至り滿系商を營み、四十年來今日に至る。氏は資性濃厚、圓滿なる人格者にして、實業家なり。現在中之條信用組合理事、吾妻郡滿系同業組合創立者にして創立以來の組合長を勤めその信望絶大なるものあり。又、町會議員(五期目)の要職にあり、債務調停委員、氏子總代も兼ねてゐる。曩に消防部



始祖以來八代、世々名主の役をつとめて郷黨の信望

町會議員 高山雅一郎

あつく、先代彌作氏は永く戸長として自治に關與貢獻するところあり、その後、町會議員に當選四回、また區長、學務委員、氏子總代にも任じ、老巧な手腕を賞讃されし人材なりしが、昭和十年二月二日、行年六十九歳を以て不歸の客となら

れ、村民の痛惜に堪へざるところであつた。氏はその長男である。明治四十年二月八日を以て健かなる呱呱の聲を擧げ、産業學院の出身、昭和二年兵役に服し、現に歩兵伍長である。曩に青年團副團長土地貸賃價格調査員、國勢調査員等に歴任、若年ながら卓抜の頭腦と手腕とを有し、全町民の畏敬措く能はざるところであり、現時、町會議員、在郷軍人分會副會長、消防組頭、養蠶實行組合長、諏訪神社氏子總代等の要職を兼任し、嚴父に肖て公益に調すところ頗る多く、殊に神社の維持經營、學校問題、道路改修、警察署改築問題などに、卓越せる識見と抱負とを有し、新人中の白眉、長野原町のホープといはれてゐる。趣味は讀書。家業は農を主として養蠶業も營み兼ねて日本生命保險會社代理店を經營してゐる。家庭には母堂スイさん(明治九年生)、ヒサ夫人(明治三十九年生)、長女通代さん(昭和六年生)、二女都さんがあり、常に和風堂に溢れてゐる。



瀧澤 大治
村會議員

言語明晰、謹直にして慧敏なる氏は又篤實の人である。尙當家は當地に於ける素封家にして當村の草分けで常林寺の十八世和尙は當家から出たものである。氏は安齋大五郎の三男として明治二十二年五月八日に生れ、先代傳三郎の養子として當家に迎へられたもの。家業は代々農業。氏の代になつてから數年前より電氣器具、ラヂオ雜貨商を始め、旁ら農業養蠶を營んでゐた。夙に村政に參與して學校の増築、道路開發に盡瘁しその功績は甚大である。曩に村民の衆望を擔つて國勢調査員、區長を勤め、また貸賃價格調査委員として活躍盡瘁し、現在は村會議員、養蠶實行



村山平次郎
町會議員

組合長の要職に在る。信仰は曹洞宗で家族は母堂キタさんのほかに、令閨ブンさんとの間に六男三女と云ふ子福者でその圓滿振りには他の羨望するところである。中之條町

氏は新潟縣柏崎の出身者にして明治十六年五月二十七日生れ、十五歳の時、當地に來られ今日に至る。土地の成功者にして家業は荒物米穀商を營む。日露戰役には第三軍乃木軍に特務兵として出征せり。濃厚實直なる氏は又、眞摯なる態度にて町政に貢獻するところ甚だ勞多く推輓せられて現存町會議員の要職にある。氏は又大正十三年以來、製材業を開業し、その販路は東京及び各地に互る。家庭は五男一女の

子福者にして、長男の義男氏は朝鮮海軍に入營し、歩兵上等兵として勤務中、又次男定次氏は宇都宮野砲に入營し目下北支へ出征中なり。

長野原町應桑

萩原登喜一



先代駒四郎氏の三男にして、氏は明治二十三年九月

十六日出生す。資性剛毅果斷にして、明敏、熱の人なり。先代駒四郎氏又、永らく町會議員として町政に盡せし功勞者なり。氏は前橋中學を卒業し縣師範二部出身、教師として長年兒童の育英に當りし人なり。現在町會議員、社會教育委員、養蠶實行組合長、吾妻養蠶組合長等の要職に在る。又曩に町會議員、部落會長、家屋稅調査員等に歴任せり。現在輕井澤

に通ずる縣道は、氏の在職時代開通せるものである。趣味は讀書にして、その學識一家をなせり。清廉潔白、所信貫徹に萬難を排して邁進する不言實行肌の人氏の今後の活躍こそ期待すべしである。家庭は貞淑なる令閨カズさんとの間に三男四女あり子福者にして常に和樂に満ちてゐる。

婦戀村大笹

岩上類三



資性慧敏にして素朴、賢明にして志操堅固なる氏は

文久元年十一月十二日の岳降である。當家は代々農をもつて家業とし篤農家として聞えてゐる。先代故養父八郎氏は名主戸長等の公職にありし人にて、村政に盡瘁した功勞者である。先代故八郎氏は明

治十九三等郵便局として取扱事務を開始し氏は三十年十月これを繼承したものである。現在は氏の令息武氏局長代理を勤めて氏は餘生を園基と釣に毎日を樂んでゐる。現局長代理である氏の令息武氏は明治二十七年四月二十九日生れ。千葉鐵道聯隊に入隊し上等兵として除隊後は専ら父の仕事を手助け傍ら農業に精勵し、嚴父類三氏高齡の爲め今日父に代つて局長代理として事務の統轄に精勵してゐるのである。資性濃厚にして趣味は讀書である。家庭は當主類三氏夫妻、令息武氏夫妻、令孫英一氏(富岡中學在學中)トキヒサさんが居る。信仰は曹洞宗。

大笹 三等局として明治十九年三月二十五日取扱事務を開始する、初代局長岩上八郎氏がこれを創局し、十九年七月死亡され、岩上純一郎氏二代局長としてこれを繼承、明治三十年現局長岩上類三氏になる、集配事務開始明治十九年四月、内外爲替は明治二十九年、電信事務開始を大正元年十月、廣

く、千俣、大前、大笹、田代一圓を集配
區域内としてゐる。従業員は、事務員三
名、集配人八名である。大正十年四月監
督廳より銀杯壹個、昭和十年四月通信記
念日に表彰さる。

中之條町

町會議員 小林喜代作



氏は温厚なる紳士なり。先代故三之丞氏の男にして

明治二十年九月生れ、中之條縣立農學校出身にして、又四十年兵として新發田聯隊に入營、志願兵下士勤務せし事あり。先代三之丞氏酒造業を始め、當主にて二代目。曩に吾妻酒造組合長に歴任、富國火災海上保險會社代理店並に前町會議員區長、國勢調査員二回、軍人分會長、氏子總代、消防第二部小頭等々を兼たり。

現時、町會議員、信用組合理事の要職に在り、趣味は俳句にして、その學識、手腕共に衆の認める所にして氏の今後の雄飛進出こそ刮目に價する。家庭は令閨との間に一男三女あり、長男泰明氏は沼田中學校を卒業せり。

小 屋號を十一屋と稱し、吾妻郡中之條町にあり(電話六一番)明治初年頃嚴父故三之丞氏創業せしものなり。高級清酒にして商標「玉の井」主なる販路は縣内一圓なり。昭和二年、郡品評會より壹等賞を授與さる。現在經營者は小林喜代作氏なり。

長野原町大津

町會議員 小林 德藏

氏は先代豊吉氏の二男にして、明治四年三月十九日の生れなり。穩健篤實なる氏は夙に村政に參與して、その勞頗る多し。又正義感強き人にして、意志鞏固の氏は、所信の貫徹に邁進し明朗なる町政刷新、學校増築、改築、警察署の改築等

に盡瘁してゐる。現在町會議員、赤十字社々員等の名譽職の外、農事實行組合長を兼ねてゐる。先代豊吉氏又、區長として當町に功勞ありたる人なり。信仰は曹洞宗にして、家庭は至極圓滿、妻女カネさんとの間に六男あり。

嬬戀村田代

前村長 戸部彪平

謹嚴篤實なる人格者として郷黨の尊敬をあつめてゐる氏は、また清廉潔白信義誠實の人にて、その偉大なる手腕は何人と雖も追隨し得ざるところである。抑々當家は長野縣三國村の出身にて、古くは武士たりし家柄、農家に還つて以來九代を算し、先代常太郎氏は明治二十三年より四十三年まで二十年間、村長の要職にありし自治界第一番の功勞者、氏はその長男に當り、明治十四年四月二日を以て呱呱をあげ、日露戦争には黒木軍に屬して奮戦し、勳八等功七級に叙されたる忠列の士、凱旋後、明治四十三年嚴父に逝

去せられ、爾來祖業たる牧場業を經營、この間村長二期、消防組頭一期、國勢調査員、縣畜産會評議員、吾妻郡畜産會評議員等を歴任、村長時代、鳥越山開墾事業を完成し、省營自動車を運轉するに至らしめし功勞者にて、その他鑛山關係税金の改正、學校問題の解決など、幾多の難點に逢着しつゝも卓抜の手腕を發揮してよくこれを處理し、現時、村會議員四期目の任にあるほか、社會教育委員、養蚕實行組合長を兼ねて郷黨のため盡力貢獻しつゝあり、また昭和八年以來田代驛長に任じ交通事業に重きをなしてゐる。家庭には母堂つや刀自(萬延元年生)あり、くま夫人との仲には三男一女を儲け霽々たる和氣に溢れ、家内ますく繁昌の一路を進んでゐる。

中之條町

町會議員 伊能 八平

當町町長の重責を二期歴任して縣道の開通、太田村架橋、稅務署新築、學校増

築、省營バス開通、裁判所復活、その他

の數々の事績を残して功勞多大なるものある氏は資性温厚篤實にて私事を忘れて公事に奔走する自治の權化とも稱すべき紳士、先考八平氏の三男にて明治十四年の岳降である。町長に推轡を受ける前には町助役、町會議員數期、消防組頭、所得稅調査員、その他を多年に亘りて勤めて活躍貢獻、町長退職の際は多年の盡瘁功勞を感謝されて町當局より金牌を贈られた。表彰其の他數次に及び、現在尙も町會議員、相續稅調査委員の任に在り、信用組合理事、大同銀行評議員としても町政の爲に産業經濟の爲に盡力する。因に當家は三百有餘年の家系を連綿と傳へる素封家、累代八平氏を襲名し、先考の八平氏は戸長役場當時の戸長及び郵便局創立以前當時即ち驛遞に盡瘁寄與なされたが不幸にも早世し、いま家にはとら子母堂八十二歳の高齡を以て健在豐饒たるものあり、夫人は國防婦人會並に中之條婦人會々長の任にあり、瑟琴相和し、間に

一子邦之助氏がある。

長野原町

町會議員 山口林之助



資性明快、眞率にして敬虔なる氏は先代幸作氏の男

にして明治二十一年四月三日生れ。氏の祖父は半農半商なりしも先代に至り雜貨商を營む氏はよく父の衣鉢を繼ぎ、家業に専念し、現在の白林亭は氏の代になりて擴張營業せるものなり。洋食店を白林パーと稱し、現在使用人十數名に上る隆盛振りなり。これ即ち氏の商機を捉へるに明敏にして、撓まざる努力の賜物なり又、その識見高邁、眞摯なる氏は曩に町會議員三回、町役場の新築委員として盡瘁し、現在は、町會議員、消防組頭の要職の外料理店組合長をも兼ねてゐる。

その功績は、上水道問題、學校改築、警察改築、ガソリンポンプ購入に盡し、消火器の完備を計る等、氏の貢献寄與する處甚大なり。曩に消防勤績として縣警察部長より昭和三年功勞賞を又、昭和四年優良店として表彰さる。今後の氏の活躍こそ刮目期待すべきである。家庭は貞淑なる妻女キンスンとの間に三男あり、長男誠雄氏は目下北支へ出征中なり。

中之條町伊勢町

元町長 故 柳田阿三郎



當家の祖は代々赤穂藩に仕へ寶曆五年當地に移住せり。

り。天保年間高野長英の隱遁の際の義侠は有名にして、後年後藤新平史歷蒐集の爲め來訪せしことあり。先代故阿三郎氏は明治七年六月二十二日生れ幼名虎八と

稱し、長じて阿三郎の名を繼ぐ、慶應義塾に數年間學びしことあり、歸郷後終始一貫して自治、産業、育英等に私財を投じ率先して農村開發に盡せり。その功績顯著、生前氏が就任せる名譽ある公職要職枚舉に遑あらず、又在職當時殘せし學校移轉新築、道路開通、産業開發等の業績その足跡偉大にして、當町唯一の功勞者なり。表彰金品受領數回に及べり。四十八歳にて早世せしは當町に取りて甚大なる損失にして氏の在世當時の信望名聲今尙高し。俗名聰明院大岳義豐居士。隆養氏はその男にして明治四十四年八月



柳田隆養氏

の衣鉢を繼ぎ陶器商を営みその營業的才腕若冠ながら仲々非凡にして明敏商機を捉へること巧みなり。澁川中學卒業し第

一補充兵として世田ヶ谷近衛砲兵に三ヶ月入隊せしことあり。濃厚篤實にしてよく先祖の偉業を辱かしめず、その識見才腕共に前途を囑望されてゐる。氏の趣味は、柔道、謡曲、歴史にして、又當家には名門舊家に相應しき寶物あるも特筆すべきは原惣右衛門より受領の名刀、御殿使用の百人一首、高野長英の遺文書等あり、信仰は曹洞宗にして、家族は母堂みどり子さんの外、令閨佳子さん、長男隆吉さんの四人暮しにして圓滿なる家庭なり。又母堂みどり子さんは中之條國防婦人會副會長、國防婦人會理事等を勤め社會公共事業に寄與貢獻する處からず。

長野原町大津

町會議員 淺見 安喜

淺見家は家祖喜助氏以來五代を重ね來つた名家にして、祖父の代まで代々名主勤役、總代、組頭等を勤めて來た。亡父安一郎氏は戸長に任ぜられること前後三回に及び頗る令名があつた。昭和八年七



十七歳の高齡を以て長逝した。菩提寺の雲林寺に在る墓碑は家系を雄辯に物語つゝある。専ら農業を以て家業としてゐる。當主の安喜氏は安一郎氏の長男として明治二十六年二月十七日に呱呱の聲をあげた。夙に頭腦明敏を以てうたはれ、俊敏の氣性に富み、その將來に多大の期待をかけられ、高崎中學校を卒業し、國勢調査員として、第一回及び第三回に奉仕し現に町會議員に擧げられること二期に亘り、社會教育委員に任ぜられてゐる。また長野原信用組合理事を兼務してゐる。農業、養蠶に熱心であり、また養蠶事業

婦戀村田代

學務委員 區長 宮崎 倉吉

を經營し、縣下一手に配給を取扱はんと企て極力熱心に養育中であつて、二箇年後には、三百萬尾の仔鱒を得る計畫である。氏はまた植林事業及び水産事業にも調査研究を進めてをり、それぞれ周密遠大なる計畫を抱いてゐる。また日本赤十字社普通社員である。また民政黨員として地方に重きをなしてゐる。篤實にして謹直なる反面は烈々火と燃えて何物をも焼き盡さずんばやまざる底の熱意の人である。曹洞宗を奉ずる篤信家である。家庭には母堂ヒマ刀自七十七歳にして益益健勝であり、すみよ夫人は淑徳の譽甚だ高く、長男喜藏氏は、高崎中學校を卒業し、二男喜志男君十二歳は小學校に在學し、三男喜代壽君は六歳長女たまき嬢十八歳、二女さかき嬢十五歳、三女さつき嬢三歳は、それぞれ家庭にある。一家常に福安和樂にして町内外の信望を博すること甚だ篤い。氏の事業的熱意の其の才腕の結實を見るも、蓋し近き將來である。

資性濃厚篤實にして素朴至純、言語懇懇にして舉措鮮明なる氏は、宮崎文吉氏の二男として明治八年八月二十日に生を享けた。尊父は農を業とする傍ら區長、國勢調査員、土地賃賃價格調査員等をつとめし本村發展の恩人、また令兄光太郎氏は長野原町に旅館業を經營する敏腕家である。氏は長じて分家し、農蠶の業に従ひ、兼ねて區長に擧げられること七回學務委員三回、いづれも現任し、また大正三年より愛林組合長、同評議員を歴任養蠶實行組合にも關係し、本村産業開發に盡力功多く殊に植林事業並に農作物の改良耕作には事績顯著なるものがある。各方面からの表彰も數度に及ぶ。長男文太郎氏、二男仁太郎氏(支那事變に出征中)のほか三男二女を有し、長男文太郎氏夫妻には七人の愛兒がある。家庭は圓滿。

婦 戀 村

學務委員
勳八等

黒岩 萬作



資性高
潔にして
素朴、枯
淡濃厚な
る人物な
り。明治

十七年一月二十日先代與平氏の四男として岳降し分家す。明治三十八年兵、特務兵として日露の役に出征し勳八等に叙せらる。氏は又夙に村政に參與し、曩に區長時代、道路の改修工事に盡瘁し、その功績顯著なるものあり。現在分教場設置に就き氏は寢食を忘れて努力せり。現職學務委員の名譽職にある。氏の趣味は農事改良即ち土に親しむことにして氏は又當代稀にみる篤農家として令名高し。信仰は曹洞宗にして、家庭は常に春風駘蕩なり。令閨スイさんとの間に二男二女がある。

長野原町羽根尾

元村長

唐澤 林造



氏は、
先代故林
藏氏の男
として安
政元年八
月九日に

岳降した。その資性、謹直にして濃厚、誠私奉公の精神に富める人望家である。夙に町政に參與して幾多の公共の事業に氏は巨大なる足跡を印してゐる。さきに久森峠の開墾工事に多大の犠牲を拂つてこれが完成に盡瘁し、又町長櫻井傳三郎氏を扶けて諸般の改良、濱岩橋の新式架橋、三十三年縣下の吊り橋は氏がその開祖として、その令名は普ねく知れ互つてゐる。氏の輝しき経歴は町政の中樞に執掌してその燦たる功績の数々は不朽不滅のものがある。曩に消防組頭、助役、町長等殆んど要職、公職に氏は就任し、

現在は八十五歳の高齡にて町の元老として重きをなし、嬰孺壯者を凌ぐの感がある。氏の令閨こうさんは八十一歳、共に健在、氏の家庭は春風和樂の聲門に満つて、令孫は社會教育者として、育英事業に活躍してゐる。因に氏は元來書道を志し號を美州と稱して退職後は普く諸氏の求めに應じて揮毫を爲してゐる。

中之條 町

町會議員 久保田四郎



先代故
廣吉氏の
男にして
氏は明治
二十年一
月十五日

生れ、濃厚篤實の士にして先代故廣吉氏早世の爲め、氏は早くより一家の支柱としてよく家業に精勵し、農事器具の改良販賣に寄與する處尠からず。現在養蠶實行組合長の外、町會議員、區長、氏子總

代等の要職にある。曩に町會議員、區長を永らく勤め消防部頭、國勢調査員等を兼ねたり。村自治に貢献するところ甚大なり。信仰は曹洞宗にして、家庭は五男二女の子福者にして、至極圓滿、長男三郎氏は、東洋大學を卒業して、伊參小學校に奉職中である。

長野原町大津

町會議員 田村

學



資性慧
敏にして
小事に勤
ぜず、胸
中に含蓄
ある人な

り。氏は先代芳三郎氏の男として明治三十二年九月十七日呱呱の聲を擧げる。田家村の廢家せしを、氏繼ぎて之を興す。現在櫻井新太郎氏は氏の令弟なり。氏は高崎商業の出身にして、現在、町會議員社會教育委員、養蠶實行組合長等の要職

に在る。常に専心誠意、眞摯なる態度をもつて町政に參與しその卓拔せる識見、手腕は、衆の認むるところなり。議員中の白眉、當町稀にみる逸材として、前途を囑望されてゐる。又その在職當時小學校改築、警察改築等々その功績頗る顯著なるものあり。趣味は多方面にして、狩獵、讀書、圍碁、將棋等なり。家族は、母堂ミチさん、令閨享子さん、長男勝氏（沼田中學在學中）長女美智子さんあり。家庭は常に和樂に満ちてゐる。

東村五町田

元郡會議員

佐藤泰吉



當主よ
り十二代
以前の祖
は判明せ
るも後詳
かならず

代々農林、蠶糸をもつて家業と爲す。氏は安政四年十二月二十四日の岳降。氏は

夙に村政に參與しその献身的努力は、自治、産業の開發等に意を注ぎ、その功績頗る顯著なるものあり。曩に郡會議員四期、村會議員は四十餘年勤続、村長三期産業組合長等の要職を歴任せり。又、殖林事業は百年計畫にして、元村長大塚丈七氏よりこれを承繼し寢食を忘れてこれに盡瘁せり。家族は五男四女あり。長男忠男氏はかつて仙臺控訴院判事として名聲を博せしも病弱の爲め早世す。次男立一氏は海軍少佐にして目下朝鮮にあり。

太田村岩井

村會議員
勳八等

寺島喜一郎

當家は代々篤農の間え高く、又林業、蠶業を副業と爲す。氏は先代平十郎氏の男にして、明治六年八月十四日の岳降なり。濃厚篤實なる老紳士。かつて三等看護長として日露の役に大石橋より奉天に轉戦し功により勳八等に叙せらる。現在村會議員、産業組合理事、氏子總代等の要職にあり、夙に村會議員三期、村長、

助役、消防組頭等に歴任せり。氏は村長在職當時中之條太田路線(村道)「植栗よ」中之條に至る村道路線「開通に功あり。氏の村治績向上、刷新等頗る顯著なるものあり。賞勳局より、昭和六年乃至九年事變の功により木杯一個授與さる。信仰は神教にして、家族は令閨との間に、五男あり。長男二男早世し、三男憲三郎氏(二十八歳)家督を継げり(中之條農業學校卒業)四男利明氏は同じく中之條農業學校卒業後に分家す。五男武雄氏は東京市神田へ入婿せり。

坂上村本宿

農會 會長
勳八等功七級

中井九十郎



織八氏は篤農の聞え高し。氏はその長男

として、明治七年四月十日出生す。資性温厚、圓滿なる人格者として村民の信望が厚い。氏は日清、日露の二大戦役に下士伍長として出征功に依り名譽ある勳八等功七級を賜る。夙に村政に盡瘁し又その功績頗る顯著なるものあり。現在は農會長、軍友會長、信用組合理事、赤十字社正社員等の名譽職にある。曩に村長二期、助役三期、村會議員等にも歴任なし。村自治制には献身的に努力せり。信仰は浄土宗にして、家族は三男三女の子福者にして至極圓滿なり。

長野原町

學務委員
方面委員

山口廣吉

當家は數百年來の舊家に於て山緒ある家柄又、先代温厚篤實なる氏は、先代故嘉多吉氏の男として明治二十二年四月二十日生る。當家は代々農をもつて家業とし篤農の聞えが高い。又先代嘉多吉氏は、區長、其他の衛生委員等を勤め町政に功勞ありたる人である。氏は郷土校を卒業後、夙に家業に精勵し、傍ら養蠶、植林にも意を



注ぐ等、全く氏の活動は多方面に亘り、三六臂の奮

闘家である。その識見才腕共に町民の信頼するところ厚く、又氏の圓滿なる人格眞摯なる態度は曩に推輓されて區長(二年)又消防組に十有餘年勤績し、現在は學務委員、方面委員等の公職に在る外、農業組合長をも兼ねてゐる。先代嘉多吉氏は敬神の念厚く神社の建設に功あり感謝状を授與された人である。氏の趣味は農業改良工作で、その篤農精神の厚きことは衆の模範とすべきである。信仰は曹洞宗にして、家族は、令閨チカさんとの間に一男六女があり、その圓滿振りは羨望的である。

長野原町大津

市村喜平



日本精神の烈々たる體現者にして資性敬虔誠實、温

厚なる人格者と稱される氏は、明治十三年九月七日を以て生を享け、先考平四郎氏の長男に當る。抑々當家は戰國時代に創家せられたる舊家にして、祖父は名主をつとめ、尊父は明治初年頃戸長に擧げられ、共に人望ありし人である。氏は郷校卒業後、獨學力行、よく小學校教員檢定試験に合格し、明治三十九年より昭和十二年三月まで三十年餘の長年月を吾妻郡中之條小學校たゞ一校に勤績し、同町教育に多大の業績をのこしたる名教育家にて、郡教育會より表彰を受け、遠近の信望を一身にあつめてゐる。現時農業の傍ら養蠶業を營み、また擧げられて學務委員の要職を奉じてゐる。日本人が、皇室を中心として強固なる國家を組織し、

政治に武力に、その才能を發揮して、二千六百年の獨立を維持し來りしのみならず、國運ますます發展の一路を辿るのはその祖先より相次で承けたる忠君愛國の精神の然らしむるところで、氏が國史の研究に深き趣味を有し、日本精神の眞髓を歴史的方面から究めんとするは、誠に有意義なことである。はつ夫人との間に二男平八郎氏、三男三好氏、長女あささん、次女けさのさん、三女さいじさんのほか二令嬢あり、長男は惜しくも夭折された。

長野原町

方面委員
大津區長
勳七等

小林金三郎



先代茂太郎氏の男にて、氏は明治十八年三月十日の出

農の聞え高い。資性謹直にして篤實なる氏は郷土校卒業、明治三十八年騎兵上等兵として出征し勳功により勳七等を賜はる。夙に家業に精勵し、傍ら蠶業、畜産林業方面にも意を注ぎ、その功勞から村民の信望特に厚い。現在區長、方面委員、衛生赤十字特別社員、長野原軍友會第六支部長、消防組頭等の要職に在りて社會公共事業に盡瘁してゐる。曩に國勢調査員二回、區長三回、在郷軍人會班長等を歴任してゐる。氏は常に人に對して誠心誠意、眞摯なる態度をもつて臨み現職の方面委員としては物質的援助でなく、精神的でありたいと云ふ、氏の謹直情誼に厚い一面が窺はれる。趣味として氏は農事の改良に意を注いでゐる。曩に國勢調査員として氏は表彰を受けてゐる。信仰は曹洞宗にして、家族は嚴父茂太郎氏、母堂のおさくさんの外、夫人せいさん(五十歳)、養子淳氏(二十一才)があり、一家常に和樂して笑聲門外に溢れてゐる。

長野原町横壁

方面委員 萩原一治
勳八等功七級



氏の時當征出

武三郎氏の男として明治十四年十一月四日に岳降す。當家は又、代々戸長總代等を勤めし當地草分けの舊家にして篤農をもつて聞ゆ。氏は日露戦役に出征し三十九年二月除隊、拔群の勳功により勳八等功七級を賜はる。曩に信用組合長事務理事を十數年勤続し、區長、在郷軍人班長青年會長として當地の青年團施設に盡瘁せる功勞者なり。現在當方面委員、信用組合顧問の外、軍友會評議員、農事實行組合、製炭農事實行組合會長等の要職にある。氏は又、異色ある篤農家をもつて其の令名高し。家庭は妻女ともさんとの

性謹 資
直な 是
る氏 先代

間に三男三女あり、和樂の聲門に満ちてゐる。

嬌戀村大笹

方面委員 勝山百龍
住職

氏は鈴木庄八氏の次男にして先代機外師の養子となりたるものである。明治十七年十二月十日生れ。師は六才の時實母に死別した。小學校卒業後は群馬縣白郷村興林寺梁宗堂にて修徳、その資性剛直にして、學識高邁の僧として令名高い。剛健なる宗教精神を涵養した氏はその思慮深く膽力の据つた人物である。現在方面委員、司法保護員、出獄人保護會の支部幹事等公、名譽職をも兼ねてゐる。

無量院

當寺の御本尊は、釋迦牟尼佛、文殊菩薩、宗派は曹洞宗である。開山は眞田伊豆守で慶長二年丁酉四月六日。以來一條山と呼んで居たが後、度々廢絶してゐた。常林寺九世衰山良神和尚が元祿年間に隱居寺として開山中興し、又閑居寺と稱した。其後續

いて存し、ある時は由緒ある正觀音を三原から移して安置した。寺紋は常林寺と同一六文錢を使用、元祿二年眞言宗、その後常林寺九代良保和尚の頃より曹洞宗にある。常林寺の末寺で當寺の財産は田地六段、畑二十六段、山林十三段、原野三段、寶物はチョウデンスの畫、聖徳太子十六歳、年中行事は磐若會、四月十九日、檀家は現在百九十餘戸で現住職は勝山百龍、檀徒總代は土屋源三郎氏、枋原重勝氏、小林吾謙氏、土屋一二氏、佐藤利太郎氏、熊川源作氏の諸氏である。

嬌戀村

區長 樋口保吉

氏は明治三年八月生れである。資性剛直、謹直にして素朴の人である。故土屋喜右衛門氏の三男に生れ、先代故武八氏の養子となる。當家は代々農を以つて家業とせしも、先代武八氏の時、醸造業を營みしことがある。氏の實兄亡謙三郎氏當家の養子となり日露役に出征し除隊後



病死せし
爲め氏が
迎へられ
て養子に
なりたる
ものであ

る。氏は郷校を卒業後夙に家業に精勵し又、農村開發、産業自治に貢献寄與するところ尠なくない。村民の信望を擔つて先に村會議員、南木山組合評議員、賃賃價格調査員等を歴任しその間道路問題並に學校増築工事等に氏の功績頗る顯著なるものがある。氏の老練なる手腕と識見は村民の信用絶大で、現在區長の公職にあり、氏は村民の福祉増進に日夜盡瘁し又、養蠶、植林等に意を注いでゐる。信仰は曹洞宗にして、家庭は妻女とみさんとの間に、一男四女がある。

長野原町横壁

區長 金子壽太夫

開祖以來十二代目と云ふ由緒ある家柄



である。
氏は先代
龜吉氏の
二男にし
て、明治
三十年十

二月二十五日出生する。先代龜吉氏も又區長、總代等、自治に盡瘁し公共に貢献した。日本赤十字社社員である。氏は郷土校卒業後、夙に家業に精勵し、大正七年兵として軍隊教育を受け上等兵として除隊後は、専ら農業、養蠶、植林に意を注ぎ、衆の模範として活躍した人である。温厚にして純情なる氏の眞摯なる性格は推輓されて昭和九年國勢調査員、在郷軍人會班長幹事を勤め、現在は區長、軍友會地方幹事、群馬縣産業督勵員、信用組合理事、養蠶實行組合長、等の名譽職にある。また氏はよく病弱の長兄を扶け、家運の挽回に努めその至情の細かさには他の稱讃するところ。先に從軍の功で一時下賜金、國勢調査の功にて感謝狀等



勤勉力
行の人、
資性素朴
の氏は、
明治十四
年九月十

日の生れ、先代傳藏氏の四男にて分家せり。代々農を以つて家業として副業に養蠶、植林事業に従事する。氏は郷土の小學校卒業後、夙に農村開發、産業自治に寄與するところ尠からず、先に農業調査員、養蠶實行組合長、農事實行組合長、氏子總代、衛生組合長等の要職に歴任せり。現在は區長(今回にて三回目)の名譽職にある。氏の趣味は農業改良であり氏は土に親しみ、土を愛することが、自

嬌戀村

區長 下谷幸内

己を活かし他人を活かすことであるといふ持論を固持し、その圓滿なる人格は村民の信望特に厚い。先に農業調査員として表彰されしことあり。信仰は曹洞宗にして、家庭は至極圓滿、令閨もんさんとの間に長男傳七氏あり。

長野原町林

區長 篠原 折平



當家は林部落の舊家に於て開祖以來八代目である。

代々農を業として四隣に信望あり、氏は先代文藏氏の長男にして、明治十九年十月一日の出生である。郷愛を卒へるや、笈を負うて上京した、國民高等學校に學び、歸郷後は、農業、養蠶業及び植林事業に従事、傍ら衛生組合長に任じて公益に竭すところあり、現時、養蠶實行組合

副組合長、區長を兼ね、人望をあつめてゐる。資性謹直にして篤實なる篤農家であり、區民敬慕の的である。クメ夫人との間に長男文治郎氏、二男昇氏、三男三郎氏、四男延行氏、長女リヤウさん、二女リフさん、三女いちさんがあり、長男文治郎氏は部落のため盡瘁すること多く同夫人なみ江さんとの間に祐太郎君及び廣子さんの愛兒がある。

區長 竹淵 嘉平



温厚にして謹厳實直なる氏は土屋角平氏の二男にして

て、明治二十年九月二十一日生れ、當家の先代竹淵常三郎氏の養子として當家を承継したものである。先代常三郎氏は今日八十一歳の高齡なるも尙矍鑠壯者を凌

ぐの感がある。氏は中之條農業學校を卒業後一年志願兵として明治四十年十五聯隊に入營し軍曹として除隊後は夙に村政に參與して、學校増、改築、産業自治、道路改修等に盡瘁し、その功績は頗る顯著であり、氏の識見、才腕共に村民の深く信頼するところで、氏の圓滿なる人格と、慇懃、眞摯なる態度は衆の澎湃たる信望を一身に集めてゐる。現在、名譽區長、日本赤十字社特別社員等の名譽職に在る。氏は讀書、旅行に興味を有し家族は養父嘉平氏の外、令閨ていさんとの間に二男二女がある。因に當家は篤農家として名高い。

長野原町

區長 櫻井 武

電話長野原七番

聰明冷徹、資性温厚慧敏を極め、近代稀に見る篤學の材といはれる氏は、小林藤太郎氏七男として明治三十五年六月十五日に出生、長じて櫻井傳三郎氏の養子



先代傳三郎翁

井家は開祖以來僅か三代なるも、町内切つての名望家にして、初代は名主、戸長に任じたる傑材、養父は町長たること六期に及び自治の偉大なる功勞者である。



氏は十一年宇都宮歩兵聯隊に入營、上長の信任厚く、

拔群の成績を遺して除隊し、養父の業を承けて酒釀造業に従事するほか、公共の事に關與盡瘁し、現に區長、消防組頭、在郷軍人分會副會長等の要職を兼任し、衆望あつく、今後町の中堅たるべき人材町の發展をリードする逸材との定評があ

となる。カネ夫人は明治三十六年の生れ、賢明の譽れありて内助の功多く、氏との間に長男傳二君（昭和二年生）がある。抑當家は、櫻井酒造店と稱し、清酒釀造界に覇を稱へ、創業は明治二年、初代櫻井傳之丞氏の努力により繁榮の基礎は確固たるものあり、銘酒「櫻川」の名は左黨の常に忘れ得ざるところ、附近農村一帯に販路を有し、年産二百石内外に上つてゐる。

區長 山崎 幸吉

今より四代前、太十氏の時一家を創立し、爾來代々農耕を專業として今日に至る、氏は先代友二郎氏の長男にして明治四十三年十一月十三日の岳降である。資性謹直なる篤農の青年、烈々たる意氣と力を有する人で、土に親しむことを趣味とし、農事改良に研究的努力を拂ひ、曩には青年團長に擧げられ、現時少壯乍ら區長に任じ、昭和十二年以來農會蔬菜改

良指導員の役に在り、功績顯著なるものがある。分教場設置、神社々殿の修繕などにも貢獻するところが多い。家庭には母堂リツさん（明治二十三年生）、夫人モトメさん（明治四十四年生）、長女ハマさん（昭和十一年生）のほか令妹サツエさんあり、令弟久志氏は横濱自動車會社に勤務する。

長野原町川原畑

區長 野口 孫吉



一家創立以來三代目に當り、代々農耕を以て專業と

なし、先代金八氏は永年區長に任じたる部落の恩人である。氏はその長男にして明治十八年九月二十日を以て生をこの世に享け、郷愛卒業後、家業に精勵努力して篤農家と謳はれる一方、早くから自治

公共のことに参畫貢獻頗る多く、養蠶實行組合長、國勢調査員、區長一期、區長代理數回、土地貸賃價格調査員、消防組頭を歴任、昭和三年には消防ポンプを購入して本村消防組の充實をはかり、道路問題をはじめ、千歳新橋及び八ツ場橋架設に當つて盡力尠ならず、學校増築問題の議せられし時も大いに奔走貢獻するところあり、内閣統計局、縣消防協會、東京稅務監督局等より名譽ある表彰を受けた。現時區長二期目の任にあるほか、學務委員、養蠶實行組合幹事、氏子總代を兼ね、更に方面委員としては、貧困者に對する救濟事業に盡力しつゝあり、特に出征軍人家族の慰問並に精神的援助に努力し信望をあつめてゐる。資性剛毅にして謹直、良心的な人である。趣味は盆栽。家庭には母堂みさん(安政六年生)きち夫人、長男秀次氏、同夫人みさをさん、二男勝衛氏、三男久雄氏、四男美一氏、長女タケさんがあり、鬪々たる和氣に溢れてゐる。

婦戀村千侯

千侯區長 宮崎幸吉

當家の開祖は詳細ならずとも、口碑や公私の記録により、當區第一の舊家、草分けの家なることは確かなることにて代々名主役をつとめ、名望四隣に普く、また篤農家としても有名であつた。氏は明治六年四月十七日を以て平川政十氏の三男に生れ、長じて先代房吉氏の養子となつた。先代は家業たる農の傍ら推されて戸長に任じ、郷土繁榮のため並々ならぬ努力を拂はれた人である。氏もまた早くより公共事業の要職に推舉せられ、縣聯合畜産組合長たること多年に及びしほか、國勢調査員、學務委員、千侯牧場組合長三期等を歴任、功績一々枚擧の遑なく、資性温厚にして素朴、誠心ある逸材なれば、衆望また洽きものあり、村内屈指の材幹と謳はれ、現時三回目の區長をつとめ、業績愈々燦然たるものがある。家に在つては農耕の傍ら副業として養蠶

を營み、また牛馬の飼育に興味を有して畜産業をなし、更に牛馬仲買商に従事するなど、繁忙の中に統御と秩序の才を發揮し家産の増大頗る顯著を極めてゐる。内閣統計局、農林省、縣畜産會、その他より表彰或は感謝狀を寄せられしこと一再ならず、家庭にはしか夫人、長男房太郎氏、二男茂太郎氏、三男正雄氏、長女ふじさんのほか、令孫四人があり、圓滿を極めてゐる。

中之條町伊勢町

町醫 平田源次郎



氏は沼田町の出身にして明治二十九年四月二十八日

呱呱の聲をあげた。先代宗三郎氏は夙に當地において開業し、現在尙髮鑠、壯者を凌ぐの感あり。氏は懇望されて平田家

に養子となりたるものなり。資性温厚にして頗る情誼に厚き紳士なり。氏のその圓熟せる技術と、眞摯なる探求的態度は町民の深く信頼するところなり、廣く當町民の信用絶大にして、いま、家業益々盛大なり。氏は現に、町醫に任ぜられて校醫を兼ね、又吾妻郡醫師會々長として重きをなせり。

長野原町大津

篤農家 市村菊次郎

氏は明治二十一年十一月十三日、湯本峰吉氏の實子に生れ、懇望されて、當家の養子になつたものである。代々農をもつて家業とし傍ら蠶業を營んでゐたもの



令息 政一 氏

後、夙に家業に精勵し、篤農の聞へが

高い。氏の令息林作氏、政一氏共に今、



令息 林作 氏

る家庭である。現在氏は令息出征後の家庭を堅實に守り、益々家業に精勵してゐる。氏の如き勤勉實直にして、素朴なる人物は當代稀にして、衆の模範とすべき人である。

東村箱島

素封家 篠原菊之輔



先代 友吉 氏

識見に富み、手腕に長ずる氏は、將來本

村の中堅たるべき材幹として信望あり、篠原友吉氏の三男にして明治三十年三月一日に呱呱の初聲をあげた。抑々當家は舊家名門たる家柄にて、初めは代々農を業となし、今より四代前に至り、一時商業を營みしことあるも、その次代より再び農に歸り、兼ねて蠶絲製材の業を經營して今日に至つた。嚴父友吉氏は中興の祖とも稱すべき歴代中に傑出せる才幹にして、村長、郡會議員、村會議員三期、消防組頭代理、其他各般幾多の公職に推されて村治のために貢獻し、一方家産を増進せし努力の人、箱島施業森林組合を起し、大正九年より約十五ヶ年間組合長の任にありて盡力貢獻せしは最も特筆に値し、業績燦として今なほ村民感謝敬慕の的となつてゐる。勳八等に叙されたることは氏の偉業を語るに充分であらう。わが篠原菊之輔氏はその血を享け、家業に精勵努力して愈々家運の隆昌を招來するほか、社會公共のことに意を用ひ、郷土の發展に向つて献策裨益甚大なるもの

あり、尊父にも劣らざる業望をあつめて
ゐる。令閨は不幸早世し一兒の成長を樂
しみに望み輝く日々を送つてゐられる。

東村新巻

名門飯塚安治

當主より八代まで判明せる名門舊家な
り、代々篤農を以て名高し。氏は明治元
年三月二十日の岳降。先代故太郎八氏又
戸長、村長、村會議員として村政に貢献
せし功勞者にて、隣村太田信用組合創立
に功ありたる人なり。氏夙に亡父の衣鉢
を繼ぎ、村政改革に盡瘁貢獻するところ
多く、その徳望は村民の深く敬慕するこ
ころなり。現在は赤十字社特別社員の名
譽を有せり。家庭には三男あり揃つて篤
學家なり。長男安喜男氏幼少の頃より秀
才の譽高く、前橋中學より轉學して順天
中學に學び、第二高等學校を経て帝國大
學農學部獸醫學科を優秀なる成績で卒業
して洋行、歸朝後、農林省技師、獸疫調
査所技師を拜命、昭和十一年博士號を授

與さる。令閨との間に四男二女あり、又
令閨は日本女子大學卒業の才媛にして
貞淑賢婦の譽高し。長女ふきさん、次女
喜子さん共に現在同女子大學に在學中。

澤田村四萬

四萬温泉旅館
株式會社
代表者 田村八平
電話四萬一一番、八番

田村八平

清潔にして閑靜、舊來の營業に新味を
交へて、俗化せず、堅實主義にして靜養
氣分満喫に最適なり。群馬乗合自動車乘
合の四萬終點より約四・五丁、字山口に
あり。附近に嘉滿ヶ淵、神化ノ瀧、借樂
園、水晶山、高野山、楓泉峽、小泉瀧、
日向見藥師、摩耶瀧等の名勝舊跡地あり。
又交通機關として上野より澁川下車驛前
より直通乗合自動車の便あり。當山口館
の歴史は、今より數百年前夢枕に神様現
はれ、温泉の湧出個所を御告げ成られた
との傳説ありて神告の湯と稱す。効能と
して、消化不良、慢性胃腸病、胃擴張、
胃アトリー、肝臟疾患、氣管支加答兒

子宮及び附屬病に効驗あり。當旅館の客
室百八十室、收容人員約五百人なり。浴
室は神告湯、燕ノ湯、蒸風呂、家族風呂
千人風呂(温泉プール)あり、娛樂設備
は完備し、撞球、ピンポン、麻雀、寫眞
暗室、その他遊戯場、廣間等の外、冬季
はスキー場の設備もあり。當旅館主田村
八平氏は明治十六年生れにして、現在村
會議員、信用組合理事、温泉組合取締所
常設委員その他の公名譽職を兼任せり。
資性濃厚篤實にしてきはめて村内の信望
篤し。

中之條町

林昌寺 柴田實惠

當家の先祖は不詳なれども、武家の落
人と言傳へられてゐる。七代の間權之丞
の家名を襲用してゐる。師は先代權之丞
氏の五男として明治二十一年三月一日の
出生。師の實兄養太郎氏幼名を其儘用ひ
現在秋田縣平鹿郡大森町にて町會議員、
消防組頭を永年勤め、現在陪審員といふ



名譽職にある。師は宗門専門僧堂十二ヶ
年修行の一等教師である。その學識高德
共に町民の深く敬仰するところ師は町
民の信仰の培養教化を終生の事業として
盡瘁してゐる。今縣下佛教聯合會役員、
司法保護委員長縣教化事業協議員、縣佛
教會理事、吾妻佛教樹德會長、方面委員
少年教護委員社會教育委員等を兼ねてゐ
る。師は又頽廢せる寺門の興隆に努力十
二ヶ年にして愈々今日の隆盛に盛りあげ
た努力家である。皇室中心主義の念厚く
その性格は率直にして明快である。家族

は令閨ミチエさんとのあいだに長男實光
氏(文學士)、長女慶子さん(高女教諭)、
三男實義氏(明大商科在學)、二女孝子さ
ん(共立女子専門在學中)がゐる。家庭
は圓滿。

實満山 當寺は吾妻郡中之條町に
在りて、宗派は曹洞宗にし

て令名高し。檀徒總代は、田村喜八氏、
町田崇山氏、幸原雄一郎氏、蟻川潔氏、
高橋市五郎氏、久保田一郎氏の諸氏であ
る。

長野原町林

王城山神社

當神社は、建御名方命、八坂刀賣命を
祭神とし、品陀和氣命、菅原道眞公を配
祀し、宇迦御魂命、大山津見命、市寸島
比賣命の三柱を合祀する。往昔三原の庄
長野原郷の總鎮守にして、北條家の朱印
地として京錢八貫四百文を寄せられ、寛
永十六年、眞田信政黒印にて同斷、貞享
三年、徳川家權地に反別六町七段五畝二
十四歩、外に山林一段五畝十八歩とあり
明治四年、境内を除くほか田畑残らず上
地となり、同四十年、木靈神社、大山神
社ほか二社を合併、現在境内神社として
八坂神社、櫻木神社、秋葉神社、琴平神
社、熊野神社がある。寶物には社領に關
する朱印及び黒印書三通、王城山略縁起

祭神とし、品陀和氣命、菅原道眞公を配
祀し、宇迦御魂命、大山津見命、市寸島
比賣命の三柱を合祀する。往昔三原の庄
長野原郷の總鎮守にして、北條家の朱印
地として京錢八貫四百文を寄せられ、寛
永十六年、眞田信政黒印にて同斷、貞享
三年、徳川家權地に反別六町七段五畝二
十四歩、外に山林一段五畝十八歩とあり
明治四年、境内を除くほか田畑残らず上
地となり、同四十年、木靈神社、大山神
社ほか二社を合併、現在境内神社として
八坂神社、櫻木神社、秋葉神社、琴平神
社、熊野神社がある。寶物には社領に關
する朱印及び黒印書三通、王城山略縁起

一面、古書神號一枚、その他が秘藏される。往古、吾妻太郎行盛が戦捷祈願の際奉獻せる鎖鎌あり、俗に虫切鎌と稱される。例祭は八月二十五日。氏子總代は小山秀十郎、篠原兼四郎、茂木知三郎の三氏。神職從七位浦野安氏は、義端氏の長男。

社掌從七位 翁は神官たりし義端氏浦野安の男、元治元年の出生、すでに弱冠して、小學校長を拜し、二十四歳の時、今の中央大學の前身法學院に



學んで卒業し、大藏省主計局に勤務次で千葉縣に轉任したが辭職して歸郷、家職を見るの人となつた。町會議員に當選すること數回、町長に推薦されて就任する二回、郡會議員並に郡參事會に當選、また神宮奉齋會賛助員となるなど、地方政界に偉大なる

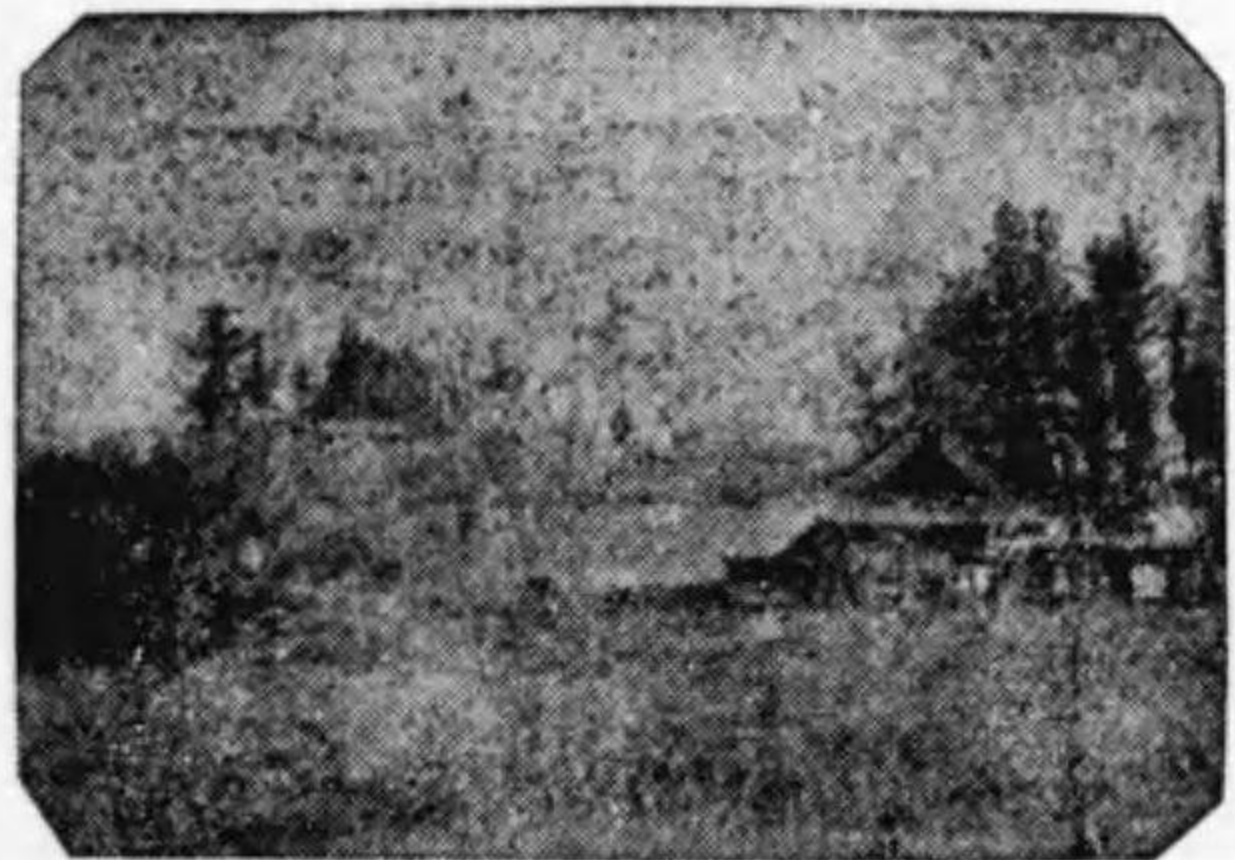
權威をもつてゐたが、十一年間病床に在る父君の後を繼ぐに及んで一切の公職から去り、王城山神社社掌となり、他の十五社を兼務して今日に至つてゐる。その間縣神職取締所吾妻支部支所長、縣神職會參事員及び同會吾妻郡支部支所長、縣皇典講究所分所理事、その他幾多の公職に推されて盡瘁する甚大なるものがある。氏が還曆の詩に、

春風秋雨六十年 世態民情幾變遷
硬骨至誠獨自貫 神祇垂愛身乃全
當年七十五歲にして元氣豐饒たるものあり、その七十一歳の時、奏任官待遇に任じ、七十二歳の三月從七位に叙せられ同五月神職會より表彰され、銀杯一個を贈られた。

中之條町中之條

清見寺

當寺は長岡山安養院と號し、長祿二年僧西現の創立に係り、古くは西見寺と稱したが、中古、久しく廢絶の厄に遭ひ、



永祿十年、武田信玄が當地方を領するに至りし時、再興して清堅寺と改めその臣原右近

は境内除地八反五畝二十歩を寄進した。その後、慶長元年、崇譽炭山といふ僧が京都より來り、寺跡によりて再興し、開基となりし當地の郷族鹿野和泉守は、寺號を古の西見寺にかへしたが、止保年間中興三世の專悅法師は清見寺と改めて今日に至つた。本尊は阿彌陀如來、東京市芝區増上寺末に當り、境内二千九百九十歩他に田地五反八畝餘、畑地二町六反餘、

山林一町一反餘、貸地二百十一坪を有す檀家は三百十餘戸をかぞへ、總代には伊能八平、中澤祥平、劍村眞平の三氏が就任する。

住職 師は明治三十九年十一月長田台淳 二十六日の誕生にして、前住職台解師の長男、法燈をまもる傍ら佛



教樹德會を設立して會長となり、社會事業及び免囚保

護事業に貢献しつゝある。昭和五年に大正大學を卒業せる氣鋭の新人である。松枝夫人との間には長男正淳君（昭和十一年生）及び長女之子さん（昭和八年生）の愛兒がある。

多野郡

神流村下戸塚天王

神流尋常高等小學校

本校は明治七年十月に設立されし岡之郷小學校に濫觴し、同二十五年十月、神流尋常小學校となり、同三十六年五月、現校名に改稱された。國家の意志を尊重し、これが發展に寄與し得る人材の育成を教育方針となし、校訓に誠實、禮儀、自治、快活、協同の五項をあげてゐる。純農村なるためこれが實習を重視し、耕地三反六畝を有す。卒業生累計尋常科二千四百餘名、高等科千五十名、現在兒童數は五百八十餘名である。就學歩合九十九%、出席歩合九十七%八九、衛生施設としてはトラホーム洗顔所がある。歴代校長は小淵幸吉、津久井安太郎、若山半

六、田島癸巳生、内田益次郎、松村宏の諸氏にして、現任職員は十五名をかぞへてゐる。

八幡村山名土合

八幡尋常高等小學校

初め本村には三小學校分立せられしが明治十七年及び二十年の二回に互り、學區廢合をなせし結果、山名尋常小學校一校となり、續いて山名を八幡と改め、明治三十三年高等科を併置し、現校名を稱し今日に至つた。郷土色を有する良き日本人をつくるを根本方針とし、卒業生累計、尋常科三千百名、高等科千七百餘名、歴代校長には村木達一、村山國造、佐藤國次郎、田島癸巳生、原田四郎、矢島積四郎の諸氏が就任した。就學歩合九

九%六、兒童數尋常科六百五十名、高等科百六十餘名あり、出席歩合九九%、職員は二十名をかぞへる。現校長山下十作氏は明治二十六年九月三十日の出生、群馬師範の出身にて、藤岡町尋常高等小學校首席訓導、日野小學校校長等を経て本校に榮轉、先年郡教育會より表彰せられた名校長である。

鬼石町淨法寺

淨法寺信用販賣購買組合

當組合は、明治三十四年七月、甘樂社淨法寺組と稱し、生絲共同市場として設立された。當時の蠶絲業は初期時代なれば、商取引は幼稚にして、生産者の利益を中間商人に搾取されることが多かつた地方有志こゝに着眼せられ、商人の利益壟斷防止を目的に、大正六年春より繰糸を開始し、昭和九年三月、保證責任組織たる現名稱の組合に改め今日に至つた。組合員二百八十餘名、出資一口五十圓にして總額二萬四千五十圓、事業狀況は、

貸付二萬七千圓、貯金二萬餘圓、購買五千餘圓、販賣二萬三千餘圓を示し、昭和九年には生絲販賣組合聯合會甘樂社より二等賞を授與された。役員は、組合長御供喜八氏、専務理事引田勘三郎氏、理事浦部善五郎氏、中村藤吉氏、監事御供平八氏、池田藤太郎氏、須藤鶴三郎氏、黒澤治郎氏、眞下繁雄氏、書記は坪井輝人氏である。

組合長 氏の家は村の舊家として御供喜八 知られ、往古傳教大師が當地に來り淨土院を建立したる際、供奉して當地に居を占めたるに由り、姓を御供と稱したといふ。



先代濱太郎氏は區長に推されし人、氏は其長男にして明治九年二月十一日の出生、同三十年、群馬師範を卒業し、爾來教育界にあること三十年、淨法寺小學

校長を最後に退職したが、多年教育に盡したる功により勳八等を授けられた。桃の栽培に興味あり、栽培法に新機軸を出して優良種を育成し、大正天皇並に今上陛下攝政宮たりし當時、献上の榮を擔ひ、東郷元帥に差上げてその禮狀を頂戴した。現當地方に桃栽培の旺んるは、偏へに氏の努力の結果である。現在當組合長たるほか、檀徒總代、農林省地方事情調査委員、金錢債務調停委員、その他を兼務する。

神流村下栗須

神流信用販賣購買組合

質實第一主義を標榜して、郡下産組中に優秀組合を以て聞える當組合は、昭和二年の創立に係り、當初は田沼安太郎氏をはじめ幹部一同が非常なる苦心努力をこらへ、組合精神の普及に夙夜淬勵し、その効あらはれて今日あるが如き隆盛を見るに至つたのである。組合員約四百人出資一口十圓にして總額一万四千圓に上

り、事業は、信用貸付、農産物の販賣、備品の利用の三點に重きを置き、昭和十二年末現在の狀況を見るに、貸付總額四三〇七七圓、貯金總額八〇一一九圓、購買價格四四四四圓、販賣價格七〇五圓、利用料一四九九圓を呈し、準備金、積立金及び餘裕金中央金庫、縣信用組合聯合會、郵便局等に預金し、または國債等の購入に運用してゐる。利用部には精巧を極めた高速度精米製粉機を備へ付け、他組合の羨望さへ受けてゐる。農業倉庫も第一號倉庫はすでに完成し、第二號倉庫は昭和十三年二月地鎮祭を施行、近く落成の豫定である。組合長田沼安太郎氏は創立以來の勤績にて、縣當局よりその功勞を表彰された。専務理事は小淵幸吉氏監事に淺見勘七氏あり、外に役員十二名をかぞへ、いづれも組合擴充に努力してゐるが、今や組合に對する一般人の認識は確固たるものがあり、従つて當組合の今後はたゞ期して待つべきであるとされてゐる。

相次ぐ老舗である。近郷一圓を販路とし三波石、三山譽等いづれも良酒たるを以て名高く、左黨の愛飲措く能はざるものである。年産七百石を越え、確實なる顧客なれば、事業の基礎、殊のほか固く、近年になつては關東清酒聯合品評會に出品して優等賞を受け、群馬縣清酒聯合品評會に於ても名譽ある優等賞を授與されるなど、名譽愈々高きを加へ、その他各



三波石

地に於ける品評會共進會等に於て受賞するに數回之多

きに及んでゐる。従業員は十五名を數ふ代表社員田島義明氏は青年實業家として信望高く、家業の傍ら信用組合長に擧げられ、本村經濟産業の堅實なる發達に盡すところ多く、今後の活躍こそ大いに期待すべきものがある。

藤岡町 荻原長太郎

電話藤岡一三一番

日露戰 爭當時、町長の要職に在りて兵事々務並に銃後援護の徹底に勞多かりし故を以て勳八等に叙されるの光榮に浴したる氏は、新潟縣の慶應二年十月十八日を以て先代長右衛門氏の長男として生をこの世に享けた。夙に牛乳業を創め、刻苦經營五十年、絶えざる奮闘努力の効あつて遂に今日の如き



町長 荻原長太郎

盛大さを呈するに至り、實に立志傳中の人といふべきである。しかも家業の傍ら早くより社會公共のために盡力し、町會議員たること多年に及ぶほか、選ばれて縣會議員にも任じ、縣政界にも名高く神奈川耕地整理組合長にも擧げられ、その他町の役員數種を歴任、町勢發展に一方ならぬ効績あり、現時二度目の町長をつとめ、老齡なほ矍鑠として壯者を凌ぎ事績いよ／＼顯著なるものがある。令閨フク子さんは愛國婦人會三等有功賞を有する名流、長男早一氏は明治二十八年出生にして令孫二人を有し、四男は樺太廳に勤務、その他一族悉く榮え、家業の隆昌と共に家内繁榮を極めてゐる。誠に氏は本町の元老であり、謂はゞ顧問格の材幹である。

鬼石町 柴崎宇兵二

鬼石町長 勳八等

氏は明治十三年十月十日の出生、埼玉縣兒玉郡若泉村より當地に來り、雜貨商



を營みて今日の隆盛を來たし、町會議員たること三期

後、町長に選ばれて今日に及んだ。日露戰爭には近衛騎兵として出征、勳八等を賜はりし勇士、家庭にはます子夫人との間に長女千恵子さん(藤岡高女在學中)ありて圓滿隆昌を極めてゐる。抑々鬼石

町は多野郡の東南部、神流川のほとり、藤岡町から西南一・二キロの所に位し、埼玉縣秩父地方及び本縣北甘樂方面の交通路にあたり、人口約四、二〇〇人を數へ、大字鬼石、淨法寺の二部落から成り西方一帯は御荷鉾山の山脚を負ふて坂路多く、この山に大なる岩石あり、鬼の面に似たるを以て鬼石といひ、村の名となり、町の名となつた。往古は不詳なれども、慶長三年より慶應元年まで幕府代官の支配に屬し、明治元年、天朝の御料と

なり、更に高崎鎮撫所の支配を受けたのである。産物は材木を主とし、二十數軒の製材工場あり、農産物としては甘藷、馬鈴薯、米、麥があり、最も畑地多く殊に桑園に富み、生糸の産地として知られる。鬼石尋常高等小學校、淨法寺尋常小學校、鬼石青年學校、鬼石裁縫女學校、高崎區裁判所出張所、鬼石郵便局、巡查部長派出所、鬼石銀行、多野郡木炭同業組合等が町内にある。

神流村上戸塚

神流村長 淺見琴三郎



淺見家は代々名主戸長等の役をつとめて郷黨の信望

あつき舊家である。氏は先代松五郎氏の長男として呱呱の初聲をあげ、夙に收入役を拜命、村治に功績多く、村會議員に

選ばれること五回、献策一々列擧の違なく、後、村長に擧げられて今日に至り、手腕と識見と人格を以て村民の輿望を一身にあつめ、本村の興隆に一意努力してゐる。助役入野祥二氏は昭和十一年十月就任以來、よく淺見村長を扶けて人望が高い。氏は入野小左衛門の男にして明治十七年四月七日の出生、青年時代雄志を抱いて渡米し、北米アリゾナ州立大學採礦冶金科を卒業後、ユター銅製煉會社技師となり、大正七年インターナショナル製煉會社技師に轉任、同九年退職した。その後歸朝し、大正十五年以來公立中學校教諭として中等教育界に令名を馳せ、昭和七年四月、從六位に叙され、高等官五等待遇を受けた。また收入役下田喜藏氏は、下田角藏氏の長男にして明治十二年八月十一日の岳降、同三十七年七月村書記を拜命、同四十一年四月收入役となり、爾來勤績三十餘年に及び、先年、永年勤績の功により表彰されし、本村の生字引といはれる自治の人である。

美九里村

高瀬傳吉

當家は村屈指の舊家にして代々名主、戸長を勤めし家柄、傳吉氏は、先代兵三郎氏の男にして、明治五年二月二十八日生れである。先代兵三郎氏は町村制施行より村會議員を勤め村自治に功勞ありたる人である。氏は篤實温厚の士にして、その重厚なる人格と識見の高邁さ、圓熟せる手腕共に村民の深く信頼するところである。曩に推されて消防組頭五ヶ年を勤続し、又村會議員に出馬して當選二年收入役三年、助役一年、氏はその間實に寢食を忘れて村政に盡瘁しその功績頗る顯著なるものがある。現在村長の重職に在り。又、組合理事、信用組合長を兼ねて居る。家庭はせん子夫人との間に三男あり、二男雄二氏は神職に在り三男省三氏は、名古屋商工教授として奉職中であるが、何れもその前途を刮目期待されてゐる。

多胡村

大澤良太郎

皇統連綿、しかも仁慈なる皇室を國民の宗家とする日本人は、その必然の結果として、東西にその比を見ない無類なる忠君愛國を中心思想として、光輝ある歴史を保全して來た民族である。氏はこの日本精神に徹底せる至誠の人、郷黨謙仰の的となり、本村の至寶とまで稱される材幹である。その祖先は豪士として名聲あり、由緒正しき舊家である。氏は豪士たるの傳統を承け、日本民族たるの強き自覺に基いて世に處し、夙に公共事業に盡すところ甚大なるものがあつた。本村産業組合の擴充には特に意を用ひ、消費金融の圓滑なる運轉など、氏の努力により着々その效を收めつゝある。また産業組合長のほか、多胡村長及び多野郡町村長兼を兼ね、縣下屈指の名村長と賞され、全村民の信任あつきは勿論のこと、

高名郡下に冠絶し、偉大なる自治功勞者郷土發展の輝やかしき恩人として不滅の業績を残してゐる。昭和九年十一月天皇陛下行幸に際し、單獨拜謁の光榮に浴したことは今も世人の記憶に新たなところである。

入野村

三木庸次郎

當家は村有数の舊家にして、代々名主戸長等をつとめた家柄である。先々代は殊に村治に功勞多く、町村制施行後、最初の村長に選任せられたる人望家、その手腕も卓抜なるものあり、地方稀に見る材幹との定評があつた。先代源七氏も夙に自治界の人となり、村會議員たること多年、また消防組頭に推されて統御の才を顯はれ、本村消防組の發展に貢献するところ大なるものあり、一方吉井銀行頭取に任じ、當地方金融界の大御所として自他共に許してゐた。氏はその養子である。明治十九年二月十四日を以て呱呱の



先代豊次氏

現久作氏を以て六代目とす



町會議員 農會副會長 新井駒三郎

當家は町の舊家にして代篤農家として知られ、氏は

初聲をあげ、高崎中學校を経て、明治大學商科専門部を卒業せる俊才である。家業を繼承してこれに精勵すると共に、自治界に盡瘁するところ多く、現に名村長として村治各方面に亘つて何人も追隨し能はざる業績を示しつゝあるほか、村農會長、學務委員等を兼ねて、村勢の振興發展に尠なからざる功勞がある。現衆議院議員にして農林政務次官をつとめ、縣政界の元老たる木暮武太夫氏の親戚にあたり、近き將來には縣會議員たるべき人材として普く囑望されてゐる。家庭にはきぬ子夫人のほか、青年團長をつとめる二男春美氏、早稻田大學政治經濟科在學中の三男正美氏、藤岡高女を卒業せる長女光枝さん及び二女三代子さんがあり、圓滿を極めてゐる。

藤岡町

井元久作

電話藤岡三〇番

當家は代々油問屋及び肥料問屋にして

る老舗である。先々代豊次氏は町會議員に選ばれて町政に參與貢獻すること頗る多く、また多年收入役をつとめ、本町財政を堅實なる道に引戻した功勞者、後、推されて縣會議員となり、縣政界に令名を顯はれた。先代久作氏もまた町會議員那會議員等に當選し、縣會議員改選に際し立候補中急逝せられ、世間一般より惜しまれた人材である。當主久作氏はその長男として明治三十五年九月七日に生を享け、推されて町會議員、所得稅調査委員、商工會議所議員等の任にあり、新進實業家として著聞し、總ては父祖の如く大をなすべき材幹である。家庭は圓滿、靜子夫人との間には長男明君、二男貞君がある。

鬼石町 當家は町の舊家にして代篤農家として知られ、氏は先代伊之吉氏の長男として明治十六年十月二日に呱呱の初聲を擧げ、篤農家たるのみならず、徳望家として令名四隣に冠絶する。躍進鬼石町には躍進鬼石町に相應せる人材を必要とするが、氏の如きは正に時代に適應せる偉大なる人物といふべきであらう。家業に熱心にして、農村住民の以て模範とすべきは勿論のこと夙に自治公共の事業に竭し、郷土發展のために自らの辛苦を顧みずといふ意氣と熱とを有し、現時町會議員としては正の論陣によりて公平無私の立場を取り町政に貢獻多く、また町農會副會長に推

されては農事改良に盡力すると共に、商農相存の特殊事情を参酌して相互繁榮の策を講ずるなど、才智と至誠とを兼備して精彩を放ち、また實行組合長としての功勞も、一々枚擧の繁に堪へざる程である。花子夫人との間には一男五女あり、長男欽一氏は蠶糸學校出身にして現在三原青年學校教諭をつとめ、長女及び二女は共に他に嫁し、四女菊子さんは横濱タ イピスト學校卒業後日本ニツケル會社に勤務中、三女操さん、五女計子さんは家庭にあり、一家益々繁榮の途を辿つてゐる。

萬 場 町

町會議員 吉田正平
從七位勳六等



鍊達の士といふべきか、達識の士といふべきか、氏現任する。表彰は數度に上る。里子夫人

は萬場町が有する偉大なる人材の一である。明治十五年一月三日を以て先代定太郎氏の長男に生を享けたのである、當家は當地有數の舊家名門にして、先代は柔道の達人であると共に、學者として令名遠近に普く、子弟の指導教育に當つて大いに功勞あり、教育方面から町の發展に寄與した人である。されば先年その門人によりて、町の中央に頌徳碑が建てられ絶大の徳望を永遠に遺してゐる。氏は嚴父の薰陶宜しきを得て、幼時より資性英邁にして機才に富み、しかも謙讓の美德あり、温恭の精神を持つてゐる。夙に軍役に服し、日露戦争には拔群の手柄を樹て、從七位勳六等に叙されてゐる。軍人分會創立に功あり、會長たること十餘年の長きに及びし人望家である。また報徳社長たること二十有餘年、二宮尊徳翁の教へを町内子弟に傳へ、報徳事業に盡した。謙讓にして何事も他人に譲る人なるも先年遂に擧げられて町會議員となり、

とは琴瑟相和し、長男正剛氏、二男俊夫君(群馬師範學校在學中)、三男浩介君、長女及び二女雪子さん(女醫)は他に嫁し、三女清子さん(女子教育家)、四女妙子さん(女子師範在學中)、五女彌生さん等がある。

萬 場 町

町會議員 新井近吉
會計検査員



明朗萬場町の建設に努力しつゝある氏は、先代善吉氏の長男にして明治二十一年十一月二十三日の岳降である。同四十一年高崎聯隊に入營、除隊後は家業に従つて精農家と謳はれ、令名頗る高く、町會議員に當選二回、現にその二期目をつとめ議員中の材幹と評されてゐる。また會計検査委員電氣委員、林業委員を兼ね、功績頗る顯

著なるものがある。令閨との間には五男六女あり、長男伊好氏は目下支那事變に出征中、二男勝治氏は騎砲兵にて滿洲方面に出動中、三男元重君、四男仲男君は家にあり、長女たき子さんは他に嫁ぎ、二女みつ子さん、三女いち子さん、四女むめ子さん、五女しげ子さん、六女まさ子さん等あり、家内繁昌を極める。令弟も目下出征中にて、一家から三人の出征軍人を出した名譽の家である。

神流村上戸塚

村會議員 淺見善吉

赤誠眞摯なる人格者と稱される氏は、高山蠶業學校の出身にして、早くから自治公共のことに竭したる功勞者である。衛生委員、青年團支部長にも推され、現時村會議員に選ばれて議員中に異彩を放つほか、産業組合理事としては産組運動の第一線に立つて活躍し、上戸塚養蠶組合長に擧げられ又は養蠶業の改良發達に貢獻多く、更に水利委員、農家總代等を

美 九 里 村

村會議員 方面委員 矢田酉藏
勳八等

兼ね、令名噴々として遠近に普きものがある。因に當家は相當の舊家にして、先代貞治氏は多年に亘り自治發達に盡瘁して功多きを以て表彰されしことあり、先代達太郎氏も村常設委員その他の要職に推され、自治功勞者の定評ある人望家である。三代揃つてかく村のために盡せる家柄なれば、全村民の聲望頗る高く、一家ます々繁榮の一路を辿つてゐる。

に寺子屋を開いて農村子弟の薫育指導にあたり、教育功勞者として徳望高かりしのみならず、戸長をつとめ、自治制發布前の地方行政に敏腕を揮ひ、當時すでに本村發展の基礎を確固たらしめた人材にして、今なほ村民にその遺徳を慕はれてゐる。氏はその長男である。明治六年十一月三日を以て呱呱をあげ、同二十六年高崎歩兵聯隊に入營、日清日露の兩役に出征して皇國のため忠勇無比の働きをなし、勳八等に叙せられた。郷に在つては軍人精神を日常生活に生かし、衆庶の模範たるべき人物と稱され、現在は村會議員及び方面委員を兼ねて専ら村治に盡しつゝある。家庭には令閨とみ子さん及び二男嶽男氏あり、一家隆昌、和氣霽々として他の見る目も羨ましき愉快の日々を送つてゐる。

多 胡 村 鹽

村會議員 産業組合理事 黒澤留吉
勳八等

支那事變發生以來、本村銃後授護は空

前の伸張を見てゐるが、それには氏の献身的努力と適切な指導とが與つて大いに力がある。氏は眞に日本精神に透徹せる人、近衛首相が唱ふるところの「日本精神の日常生活化」を身を以て示しつゝある人である。抑々當家は村内切つての地主豪農として知られ、先代品次氏は區長及び村會議員に選任し、部落の繁榮發展に全力を傾倒した功勞者である。氏はその男として生をこの世に享け、國運を賭して戦つた日露の役に出征、暴虐なるロシアを打倒するための聖戰の意義をよく理解して、各地に轉戰功績多く、特に奉天大會戰に於ては忠勇義烈、拔群の勳功を樹て、光榮ある勳八等に叙され、從軍徽章を授けられた。その後家業に従事しつゝ公共の事に參與し、統計調査委員、國勢調査員、養蠶實行組合長、神社氏子總代等に歴任、現時村會議員をはじめ、消防組第三部長、産業組合理事等の重任にありて、國民精神の作興、産業經濟の發展、銃後の援護の徹底等に意を用ひて

功績多く、村の元老といはれ、名聲噴々たるものがある。また日本赤十字社終身社員にして、社會教化社會事業方面にも赫々たる業績を示してゐる。

町 岡 藤

町會議員 小林立三郎
商會議所議員 電話藤岡一八番

町内第一の菓子製造業と稱される當家は、また舊家名門としても知られる。菓子製造は先代是司氏の創業に係り、爾來三十有餘年、屋號を虎屋と稱し、支店十軒を有し、年々歳々繁榮の一路を辿るのみにて、昭和九年十一月にはその製造に係る銘菓ふじの餅を宮内省へ献上の光榮を擔つた。ひとり當家の名譽たるのみならず、當町の自慢であり、縣下同業界の誇りといふべきであらう。氏はその長男にして明治十六年四月二十日を以て生をこの世に享けた。夙に家業を承けて夙夜淬勵休むことなく、常に良菓製造に研究的工夫を施し、當家製造の菓子は、ふじ

の餅をはじめとして風味特に冠絶するを以て有名である。また氏は家業の傍ら推されて、町會議員、商會議所議員、農會總代等を現任し、町政に献策し、町發展のため多大の貢獻を致し、名聲彌が上にも高きを加へてゐる。秀子夫人は良妻賢母の聞え高く、氏との間に一男五女を有し、長女まつ子さん、二女こう子さん三女とみ子さん、四女まさ江さんはいづれも良家に嫁し、家には長男藤光君及び藤岡女學校出身の才媛たる五女ひで子さんがあり、家運隆昌、和氣霽々として堂に満ちてゐる。

鬼石町淨法寺

町會議員 山口賢太郎
農事組合長



當家は町内有數の舊家の一に數へられ、先代芳太

郎氏は町會議員、町長のほか、消防組頭二十有五年をつとめ、縣より金盃を賜はり、その他各種の名公職に歴任、町治に盡力甚大なる功勞者として著聞する。氏はその孫に當り、先代萬次郎氏の長男にして明治四十一年六月二十四日の出生である。若くして區長、青年團長等に歴任新人中の精銳といはれ、令名遠近に普くその將來は多大の期待を以て囑望されてゐる。愛郷心に強く、郷黨の福祉増進のために寢食を忘れて奔走盡力するといふ奉公精神の持主である。郷土を愛することは、一面に於ては、その自治團體を愛することである。郷土の繁榮を圖ることとは、その自治團體の發達を圖ることである。現在氏が最年少の町會議員として自治界に雄飛せるは誠に郷土の誇りであり、氏が町を愛し、町の繁榮を圖ることまた大なるものがある。しかも檀徒總代農事組合長を兼ねる。うめ子夫人との間には長男芳徳君(昭和十年生)、長女和子さん(昭和十二年生)がある。尊父萬次

郎氏、慈母もと子さんも家庭にあり、家内隆昌を極める。因に當家は町内屈指の豪農として有名である。

萬 場 町

町會議員 金井市次郎

熱意のある人、赤心奉公の誠に燃え、公益に盡し、郷土に奉仕せる材幹といはれる氏は、當町が有する誇りの一つである。その家は舊家として名高く、代々郷民の信望をあつめた家柄である。氏は明治五年九月二十四日を以て先代重太郎氏の長男に生れ、少年時代より明敏濶達を以て聞え、長ずるや家業に精勵、祖業を承けて益々家運の隆昌を招き、先年推されて町會議員となるや、町政に一脈清新の氣を注入し、多數議員中に精彩を放つて名聲噴々たるものあり、萬場町産業組合理事としても重きをなす。よし子夫人は内助の功頗る多き賢婦人、長男多十郎氏は人格の高潔を以て謳はれ、令孫孝一氏は滿洲事變に出征して勳八等に叙され

今回の日支事變にも應召、名譽の負傷を受けて原隊に還り、同重孝氏は出征中、他に清一氏をはじめ令係四人がある。

多 胡 村 鹽

村會議員 橋爪悦樹郎

甲斐源氏の末裔といはれ、代々名主その他の公職をつとめし當家は、また村内有數の門名たる家柄である。先代武作氏は縣會議員に選ばれて活躍し、縣政界に精彩を放ちし人、また二ヶ村聯合役場戸長、村會議員等を歴勤し、村内小學校舎建築をはじめ、幾多の事業に關與して功勞多く、本村發展の基礎を築きし大恩人として今も村民よりその遺徳を仰がれてゐる。政治的には當時の立憲政友會に加盟し、當地方の重鎮であつた。氏はその長男である。夙に村農會代議員をつとめ現時村會議員の要職にあるほか、衛生役員、神社氏子總代等を兼ね、嚴父の遺鉢を承けて自治公共に貢獻裨益するところが多い。長男政治氏は吉井町小學校に教

鞭を執り、兒童よりは慈父の如く仰がれ
父兄よりは絶大の信望を承けてゐる新鋭
名教育家である。

鬼石町淨法寺

町會議員

引田勘三郎



町の舊
家として
知られる
當家は、
代々篤農
家を以て

聞えた。氏は、先代豊三郎氏の長男に
て明治二十二年一月二十二日の岳降であ
る。同四十二年高崎歩兵聯隊に入營、成
績抜群の模範兵となり、除隊後は家業た
る農業に従事して父祖同様篤農家と稱さ
れ、傍ら自治公共の事に竭し、助役たる
こと三年、消防組頭十ヶ年、村農會役員
三期等をつとめ、現時四期目の町會議員
として活躍するほか、十數年來勤める檀
徒總代を兼ね、令名噴々として四隣に鳴

り渡つてゐる。曩に日本ニツケル株式會
社が本町内に設立されるに際し、同社の
囑託となり、工場敷地十萬坪を逸早く買
收し、會社に工場新設の時期を早からし
めたが、かゝる事は實に氏の如く信望手
腕共に勝れたる人材に非れば容易に出來
得ることではない。一方では會社事業を
好調に進展せしめ、一方では村民をして
比較的有利に土地を賣らしめ、兩得を一
舉にして獲せしめたのである。聽ては縣
會議員たるべき士との定評あるも宜なる
哉である。りつ子夫人との間に一男三女
あり、長男安太郎氏(明治四十五年生)は
鬼石郵便局長代理をつとめ、長女ちよの
さんは藤岡高女出身の才媛、二女ひさる
さんは小學校訓導、三女富江さんは藤岡
高女在學中、圓滿隆昌の家庭である。

美九里村

元村會議員

坂本宇太郎

由緒深き舊家名門といはれ、地方有數
の名望家たる當家は、代々名主の役をつ

とめ、先代正八氏は名主制度廢止後、戸
長、村會議員等選ばれ、郷土發展と郷
黨福社のため身命を賭して夙夜盡力され
し功勞者である。また當家は村内隨一の
豪農として著聞する。氏は先代の長男と
して元治元年十二月七日を以て呱呱を
けた。謙性忠直、辭令を善くし、眞に豪
農たるの風采を備へた人である。多年村
會議員に選ばれて村治に盡瘁貢獻多く、
その業績は炳乎として本村自治史上に大
きな足跡を印してゐる。現在は日本赤十
字特別社員たるほか一切の公名譽職を辭
して、村の元老と稱されつゝ悠々自適の
日を送つてゐる。長男定吉氏は村民の信
望をあつめて、村會議員、消防組頭等に
任じて活躍し、昭和十一年十二月二日、
消防會議の歸途、自動車事故の奇禍に遭
ひて殉職され、郷民その功を忍びて石碑
を建立し、公共に一命を捧げし、氏の芳名
を永久に傳へてゐる。令孫友衛氏その後
を襲ひ、同夫人は元衆議院議員高津仲次
郎氏令嬢、令孫重徳氏勢多農林學校出身

同計三氏は藤岡中學校卒業後前橋蠶業試
驗場講習を受けし人、他に令孫芳雄君、
同正子さん、同岩雄君あり、家内益々隆
昌を極めてゐる。

萬場町

萬場町産業組合
監事
大同銀行支店長

宮前益雄

當家は町内有數の舊家にて、代々名主
戸長をつとめ、徳川時代には苗字帯刀を
許された名門である。先代虎一郎氏は町
會議員、郡會議員、町長に歴任し、また
多野郡唯一の山奥の町から推されて縣會
議員たること二期に及び、劍道の達人に
して近村子弟に劍道その他を指導され、
稀に見る傑出せる人物であつた。氏はそ
の長男、明治三十一年六月三日を以て呱
嗶をあげ、現時大同銀行鬼石町支店長を
つとめるほか、萬場町産業組合監事とし
て聲望がある。とり子夫人との間には五
男四女を儲け、長男元氏は勢多農林學校
卒業、二男義人君は藤岡中學校を出て東
京城北補習學校に在學中、三男千秋君は

藤岡中學校に在學中、他に四男子郎君、
長女きん子さん、二女良子さん、三女榮
子さん、四女薫さん、五男政實君あり、
家庭は和氣に溢れてゐる。

平井村西平井

平井小學校校長
平井青年學校長

矢島積四郎

氏は矢島傳作氏の四男、明治二十六年
一月十六日を以て生をこの世に享け、群
馬師範を優等で卒業せる才幹、また同農
業講習科も修了し、大正十一年には小野
尋常高等小學校首席訓導となり、同十三
年八幡尋常小學校に轉じて同じく首席を
つとめ、同十五年四月には三波川尋常小
學校長に榮轉、次で昭和六年四月八幡尋
常小學校長となり、同十二年三月平井尋
常小學校に轉じ今日に至つた。多野郡教
育會より職務勉勵の故を以て表彰されし
ことあり、現在、平井村青年學校長、學
務委員、女子青年團副團長、軍友會顧問
愛國婦人會參與、同分會顧問、日本赤十
字社正社員、少年赤十字團長等を兼任す

美九里村

在郷軍人分會長
從七位、勳六等

須藤武平

當家は家號を桃屋と稱し、往古より神
官たりし家柄にして、今も毎年一月の土
司神社祭典に奉納する慣例あり、古くは
流嫡の神事には必ず的を持ちたる役をな
せりといふ。先代七郎氏は名主、戸長、
村長等をつとめ、土司神社々掌を兼ねた
る本村屈指の材幹にして、その功績顯著

なるものあり、今なほ令名燦として本村

發達史上に輝いてゐる。氏はその次男で

ある。明治十二年一月八日を以て呱呱の

聲をあげ、前橋中學校卒業後、一年志願

兵として兵役に服し、日露戦争に出征赫

赫たる武功を樹て、少尉に任ぜられ、後

大正元年中尉に昇進、從七位勳六等に叙

され、男子一代の名譽を施し、郷黨鑽仰

の的となつた。明治三十九年より滿十六

年間藤岡中學校教師をつとめ、後、館林

高女に轉じて勤続三年、更に館林中學校

劍道教師に任ずるなど、多年中等教育界

にありて功勞顯著なるものあり、劍道に

は特に勝れ、從二位勳一等子爵邊昇閣

下より多年劍道に盡力したる功により肥

前長船銘刀一振を贈られた。現在是在郷

軍人分會長、軍友會副會長等に推されて

軍事に盡し、殊に日支事變下にある今日

の銃後の護りに全力を注いで萬全を期し

てゐる。また氏子總代も兼ねてゐる。令

嬢二人は他に嫁ぎ、家庭にはなつ子夫人

二男正夫氏(藤岡中學校卒業)、三女たか

子さん(藤岡高女出身)がある。

藤岡町

消防組頭 小林茂十郎

電話藤岡一〇八番

三百年來小間物商を手廣く營む老舗と

して知られる當家はまた當地有數の名門

である。先々代作兵衛は家業の傍ら縣會

議員及び町長の要職に推され、縣政界の

重鎮にして地方自治の功勞者として著聞

する。現主茂十郎氏は先代茂十郎氏の長

男にして明治二十一年一月十九日の岳降

である。夙に家業を繼承して精勵するほ

か、大正四年頃より消防組役員となりて

活動し、昭和八年には組頭に擧げられ、

同年また藤岡警察署管内聯合消防組代議

員に任じた。大正六年及び昭和十二年の

二回に亘り、消防に盡力したる功勞甚大

の故を以て表彰された。現在藤岡信用

組合監事を兼ねる。和志子夫人との間に

は長男一男氏(藤岡中學校卒業)、二男賢

三氏(早稻田大學專門部卒業)、ほか二男

製造所長に任ぜられて、同大正二年には

岩手縣技師となり、大正三年再び石川縣

に戻つて同縣技師に任じ、同縣農事講習

所長及び蠶業取締所長をつとめ、翌四年

石川縣蠶種製造所長に任じて同十二年ま

三女がある。

神流村

消防組頭 中山陳一

郷土愛に燃ゆる人材として、名聲四隣

に洽き氏は、また消防事業の偉大なる功

勞者として知られ、卓越せる識見と統御

の才とを有する人格者でもある。夙に家

業たる農に従事して家産の大を成すところ

も多く、傍ら推られて國勢調査員、農業

調査員等を歴任、綿密周到なる事務的手

腕はその右に出づる者なく、神流村の驚

異でもある。また多年消防組頭の要職に

あり、本村消防組發達に多大の功績を積

み、郡下有數の優良團體たらしめた手腕

家として氏の名を知らざるものはない。

現時その任にあるほか、産業組合監事を

兼ね、その方面にも相當の業績を収めて

ゐる。實に氏の如き偉材を有することは

本村の誇りであると共に、大いに利する

ところがある。家庭頗る圓滿、和氣霽々

としてます。繁榮を呈してゐる。

美九里村

元蠶業試験所長 鹽原龜次郎

從五位勳五等



當家は本村切つての舊家名門たる鹽原家の分家にして

て、本家鹽原家は古くは代々名主の役をつとめ、

明治維新後は村長、村會議員、その他の要職に推されて

村治に盡力多き家である。氏は鹽原信太郎氏の二男として

明治八年三月十五日日生を享け、農商務省高等蠶業

講習所本科を明治三十三年卒業し翌三十四年群馬

縣蠶業試験所技師を拜命、同三十八年には石川縣農事

試験場技手となり農商務省の委託試験を擔當し、

更に新潟縣農事講習所に轉任、明治四十四年には

農業技師に昇任して岩手縣に赴任、そのうち大正

藤岡町

舊家名門 星野兵四郎

當家は、文祿年間、星野兵四郎氏が多

野郡新町より轉住し、元豪族齋藤左治右衛門家の

後へ居を構へて一家を創立、爾來連綿三百五十年に

及び、代々兵四郎を襲名し、名主、本陣等をつとめ、奉行制

札、キリシタン禁令、御用提灯が今も家寶として

保存される。先代は郡教育會長町長四期、町會議

員、學務委員をつとめたる自治及び教育の功勞者、

當主はその長男にして、高崎中學校卒業の後、群馬師範

に學び、多年教育家として活躍した聲望家である。

なほ當家は地方切つての名門なれば、文久元年

十一月、和宮内親王殿下、北白川宮殿下、

その他各宮殿下御九方の御假泊の光榮に浴してゐる。

八幡村木部

玄項寺住職 大井徹翁

從五位勳八等

不羈不屈、稱名念佛に真心を打込み、

して、一國一の八幡神社を置きし時、創立鎮座されしものといふ。昔、神軍來り

これが將領には女神多く、紅色の衣を着し給ひ、信濃國に御進軍の序にこの地に御休養なされ、小麥、餅、鯉魚を召し給ひ御休養後御出發に際し髻の長さ七尺餘の毛を木の枝に懸け去り給ひしより、この地に宮を造り創めたといふ。毛髪は傳説は、日本武尊東征の一隊たる吉備武常命の隊に關係あるもの、如く、毛髪は橘姫命の御毛なりといはれる。御毛宮と稱する宮は今も社寶として保存され、他にも花形古代鏡二面、圓形古代鏡一面、神輿一臺、唐櫃一箇等の寶物がある。例祭は毎年十月一日。社殿二十坪、本殿は九尺、間口十尺奥行である。信徒は二百十戸をかぞへ、總代は黒澤房次、黒澤萬吉、黒澤角市、宮澤元三、黒澤武平、黒澤和三郎、雨木靖郎、山村文平、茂木兼三の諸氏である。現神職宮澤卷太郎氏は日清日露の兩役に出征して勳七等功七級に叙され、現時軍友會長として重きをな

新 町

お菊稻荷神社

寶曆年間、當町大黒屋といふ妓樓にお菊といふ娼妓あり、心優しき女なりしが惡症に罹り、下半身不隨となりしを、近邇の人憐れみて、當社境内に小屋を設け與へたるに、お菊は専念祈願を籠め、遂に流石の惡症も平癒するに至り、報恩のため社頭に留つて神に仕へ、或は吉凶禍福を説き、或は祈禱を行ひ、靈驗尠からざりしを以て誰云ふともなく當社をお菊稻荷と呼ぶに至り、民衆的信仰深く、遠く他府縣にまで及び、文化文政の頃には江戸の名優や吉原の花魁等より講社を結んで参拜し、今にその奉納の額面が残つてゐる。祭神は宇迦之御魂命である。毎月八日を祭日とし、四月八、九兩日を大祭日とする。氏子七百戸、田邊賢治氏、高木覺次郎氏、吉江勝次郎氏ほか四氏を總代とし、神職は村社八幡宮社掌を兼ね

る高橋晴世氏である。藤岡町芦田町

龍田山光徳寺

當寺は、文明二年、芦田備前守光徳菩提のため嫡男右衛門大夫光玄が信州南佐久郡芦田村に建立し、天正十八年、芦田氏が藤岡城に移るにより菩提寺として當地に移轉したものである。曹洞宗に屬し開山は鷹林伊集大和尚、本尊に釋迦牟尼如來を安置し、徳川家より御朱印地として十五石を賜つた。愛知縣東春日井郡小牧町正眼寺を本寺とし、末寺に美土里村大雲寺及び源性寺、美九里村興禪院がある。境内二千四百坪、本堂、庫裡、總門山門、裏門等建ち、寶物には行基菩薩作の觀世音像一體、飛騨匠の作と稱する猿車一體がある。檀家は藤岡、美九里、美土里、平井の一町三ヶ村に亘る。檀徒總代は島崎宗吉氏ほか八名、現任職竹市文成師は當山第三十一世に當り、徳望の人である。

新 町

落合山寶勝寺



師信慶塚大 職住

る淨利にして、本尊は延命尊、中興の開山を清元阿闍梨といふ。元明年間、犬和國郡山城主柳澤甲斐守の令室が關東下向の砌り、旅舎に於て卒去せられ、當寺に埋葬し、これより同家の祈願所となり、毎歲五十俵宛寄附された。嘉永元年正月七日祝融の災に罹り、堂宇、寶物、什器古記録類等悉く灰燼に歸し、同四年眞應阿闍梨の努力によりて一字を再建、その後、明治四十二年に至り、現堂宇を建立した。本堂は間口七間奥行五間、庫裡間口七間半奥行五間半、當地方有数の靈判として堂々たるものであり、境内は一干

五百坪、他に田一町歩、畑一町歩、宅地六百坪を有す。當寺は俗に高尾山と呼ばれ、毎月二十一日の高尾山祭日には境内外に露店立並び、新町名物の一として頗る殷盛を極める。檀家約二百五十戸、總代には田邊賢次、小菅一郎、小林竹八、吉江勘次郎、吉江勝次郎、高木覺次郎の諸氏が擧げられてゐる。なほ寺内に幼稚園を経営し以て町民のため盡力するところあり、目下園児七十餘名を算し、五名の教員が専任その指導に當つてゐる。現住職大塚慶信師は方面委員、學務委員、郡融和會役員、群馬縣第三區宗務支所長等を兼ね、快濶磊落にして徳望がある。

鬼 石 町

大龍山永源寺

當寺は釋迦牟尼佛を本尊とし、曹洞宗に屬する淨利にして、開山は双林寺第二世一州正伊大和尚である。初め山梨縣御嶽にありしものを埼玉縣兒玉郡渡瀬村の御嶽へ移し、年幾許もならずして甲州武



師保溪野長 職住

田氏の一族なる大龍寺の住持を本山とし、末寺には群馬縣白井村双林寺、東京市本郷區駒込吉祥寺、社田天徳寺ほか十七ヶ寺がある。境内二千坪、他に田畑十町歩、山林十三町歩、宅地千五十坪を有し、本堂、庫裡、藥師堂稻荷殿等の建物がある。小畑羊太夫の磐若心經、芭蕉の布に布袋を畫けるもの(筆者不明)、狩野口法眼牛の黒繪、七代將軍

鶴鶴の畫、その他數十點の寺寶を有す。毎年夏冬二回宛寺内に結制修業が約百日間に亘つて行はれる。附近名所には月山があり、丁度寺の裏に當つてゐる。檀家約二百戸をかぞへ、總代は御供喜人、引田勘三郎、池田馬五郎、塚本友作、三木良太郎、木村九藏、井上直三郎、堀米茂三郎の諸氏が擧げられてゐる。現任職長野溪保師は群馬郡長純寺住職を兼ね、また群馬縣各宗協和會々長、群馬縣方面委員常務に推され、名望頗る高い。

萬場町

福聚山慈恩寺



職住田増
寺は當
釋迦牟尼
世尊を本

尊とする曹洞宗の靈刹である。口碑によれば、その昔悅堂保禪師が諸國行脚中、

鎌倉より來り錫を當地に留め、福聚山を開山したと傳へ、當時この谷十三里内の寺院は大概眞言宗豊山派に屬し、現在曹洞宗十七ヶ寺は寶積寺末であつた。たゞ當寺のみは創設以來の曹洞宗道場として善男女の信仰厚かつた。一説に寶積寺十

一世住職慧應文智師が當山の開山なりともいひ、北甘樂郡寶積寺末に當る。本尊は雨乞ひの靈驗あり、日照り續きの時は附近農村の住民必ず當寺に詣つて雨乞ひのお祈りすれば、靈驗立ちどころに雨を降らすといはれる。境内面積五百坪、他に畑二町歩、山林五町歩を有し、本堂は間口六間奥行五間四尺、庫裡は二十坪、他に不動堂ありて庶民の信心を受けてゐる。毎月二十八日の不動尊祭は附近名物の一にして毎月八日の藥師祭と共に當寺の殷賑頗る大なるものあり、毎年四月二十一日には臨時祭を執行する。檀家百五十戸、總代は黒澤廣雄、近藤安男、今井藍八、近藤鍋重の四氏である。現任増田禪師は日露戰爭の際、川村大將麾下に

神流村岡之郷

觀音寺

新義眞言宗智山派の古刹として古來衆庶の信仰あつき當寺は、本尊に不動明王を安置し、約六百年前の創立なるも、その後惜しくも祝融の災に遭つて什寶記録等一切を灰燼に歸し、草創當時の詳細を傳へざるは残念である。中興の開山は盛長法師といふ。京都智積院を本山とし、弘法大師の御眞筆ほか數點を寺寶として保存する。境内三千坪に上り、他に水田一町二段歩、畑一町歩を有し、寺堂並に建造物には本堂、庫裡、仁王門、中門、櫻門、觀音堂、長屋門、久兵衛稻荷等あり、輪奐の美を競つて、古い由緒を忍ぶに充分である。附近は櫻の名所として知

られる。涅槃會、觀音大祭、降誕祭、稻荷祭は、恒に盛大に催はされる。檀家約二百戸、總代は新井小平治氏ほか二名、現任職中僧都廣瀨義涉師は徳望四隣に高き名僧である。

笛木山 當山は本郡新町に所在し

專福寺 安永二年十二月の創建、法印汰賢が開山、不動明王を本尊とす新義眞言宗智山派に屬する。御靈顯は、武運長久、無病息災、家内繁榮、當寺の財産は、境内二百三十坪、畑一町四段八畝、雑地九畝である。年中行事は、新年祝壽會、節分會、春秋彼岸會、法盆會、施餓鬼會で、現在、檀家は七十餘戸にして、住職は、學識高邁人格高潔なる中僧都、廣瀨義涉師にして村民の敬慕頗る厚い。檀徒總代は關口嘉太郎氏外三名である。

小野村 森

少林山泉通禪寺

當寺は釋迦牟尼佛を本尊に安置し、曹洞宗に屬する靈刹である。中興の開基を

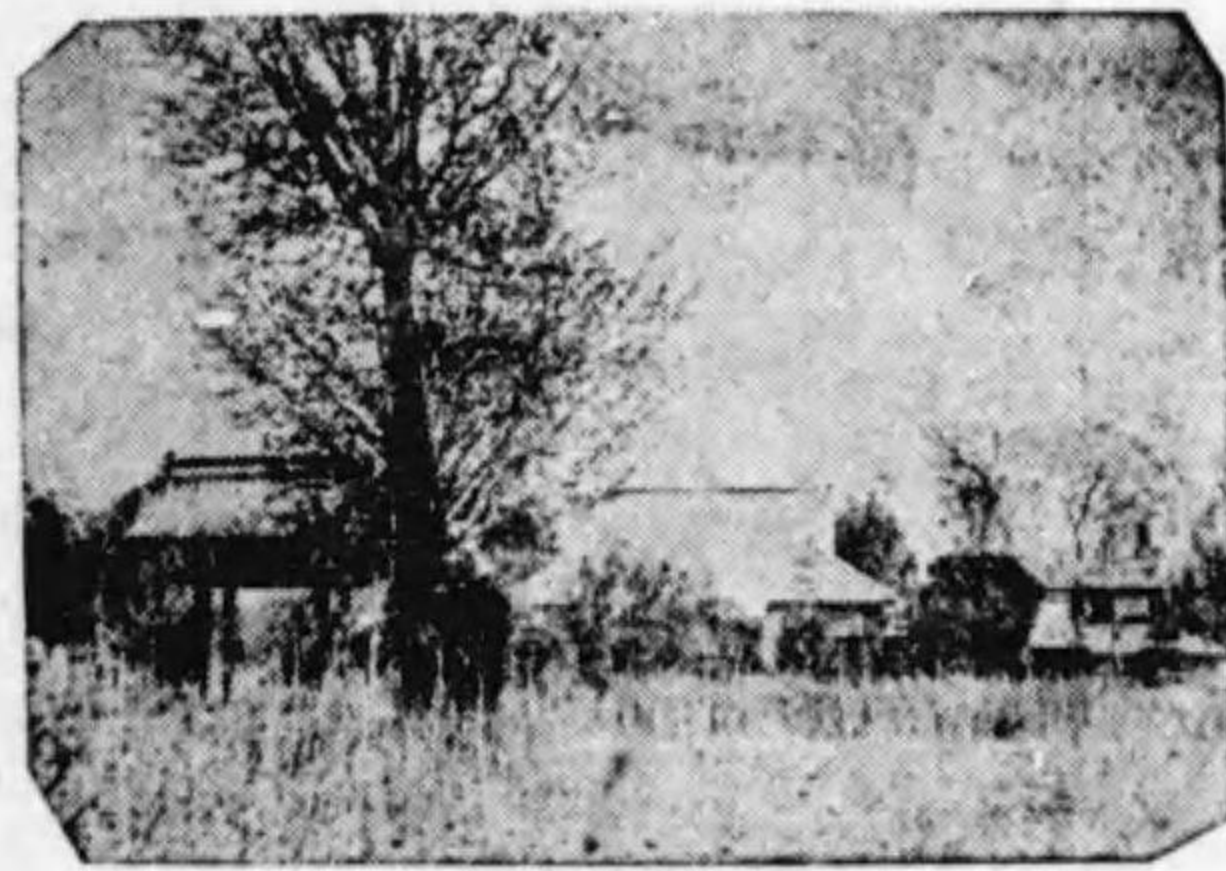
小林齋と稱し、開山を天岫芳朗大和尚といふ。大本山永平寺及び總持寺末にあたり、往古、永平寺疲弊して伽藍修繕をなせし時、開山大和尚はその師と共に大いに努力援助するところあり、その功により特に寶光智証禪師號を賜はつた。高崎

物としては御開山眞筆卷物、教授戒文一卷、正授戒文一卷並に文晁筆の辨財天が所藏される。檀徒約二百五十軒、總代は岡本龜太郎、針谷恒三郎、小野里文平、松原平三、小林美九郎の諸氏が擧げられてゐる。

住職 師は日露戰爭に出征し、



叙されて居り、現時當寺住職たるほか、多野郡融和會



景全寺禪通泉

町歩、畑四町歩、山林七段歩の土地を有し、境内面積は一千坪、本堂間口十間半奥行七間、庫裡五十坪の建物がある。寶

市並 覆町 常山 寺及 村相 續庵 是當 寺の 末寺 であ 一。 田一 顧問、社會教育委員、方面委員、學務委員、少年教護委員、經濟更生委員、選舉肅正實行委員、多野郡各宗協會顧問、群馬縣第五曹洞宗務所長等幾多の要職を兼務し、宗門の興隆、社會教育の普及其他に功績が多い、その人格は温厚にして清廉、きわめて高潔なる資性を有し功と相俟ち人望高い。

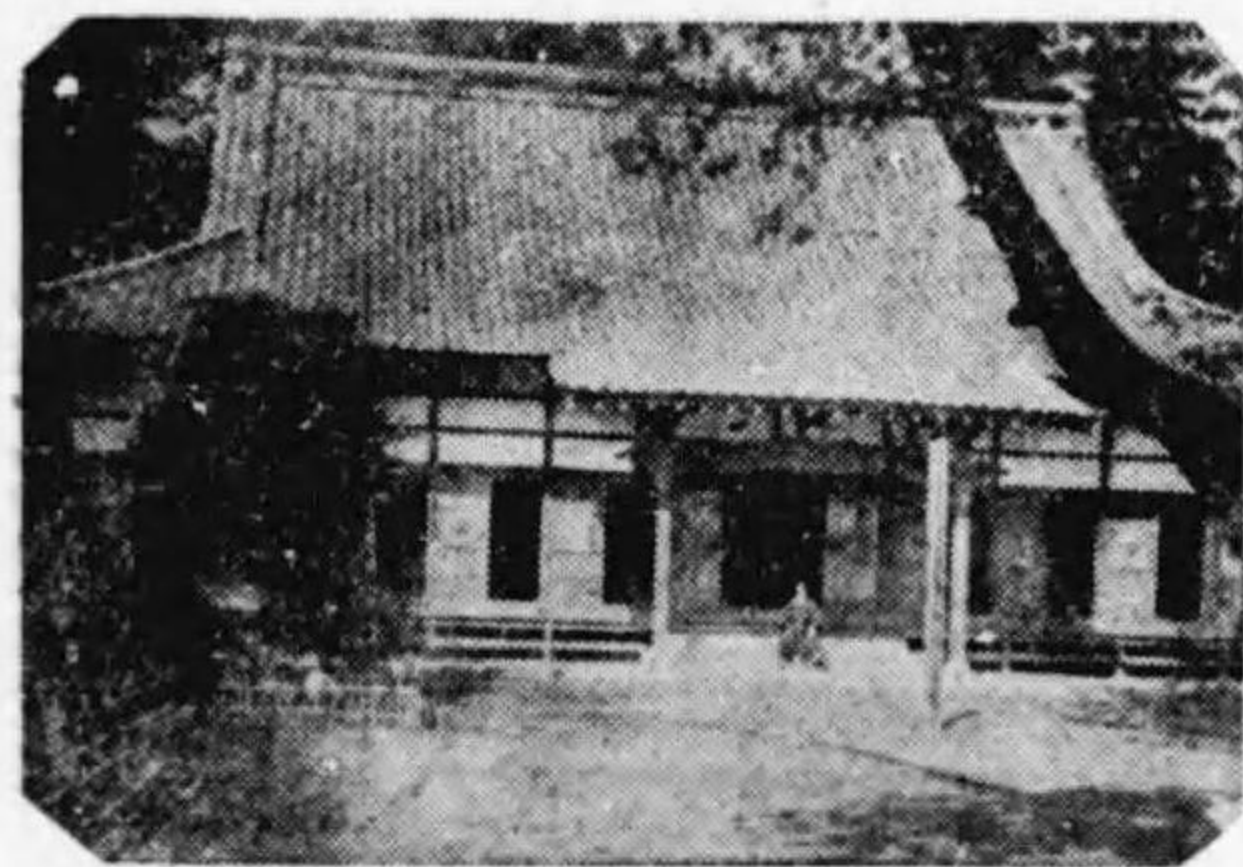
八幡村木部

山名山安樂寺

足利七代將軍義勝公の建立に係り、御朱印八石を賜はりし當寺は、阿彌陀如來を本尊とし眞言宗に屬する淨刹である。古來當地方切つての眞言宗道場として榮え、善男女の信仰歸依するもの多く、歴代住職は常に寺運の興隆に意を用ゐると共に、庶民教化に對して多大の功積ありいづれも法悦に生きる名僧であつた。境内面積約九百坪、山門、本堂、庫裡等の建物を有し、靈域森閑として祖先の靈を守るに相應しく、寺内には日清戰爭に名譽の戦死を遂げた勇士の墓が多數ある。毎年永代教會、御彼岸會、舊七月の盂蘭盆會は當地方年中行事に異彩を添え、股賑を呈する。檀家約九十戸をかぞえ、總代には秋原年太郎氏ほか四名が擧げられてゐる。住職福山來道師は敬虔直學にして誠實なる人望家、氏を得て法燈愈々燦然たるものがある。

平井村西平井

仙藏寺



堂本寺藏仙

本尊に大日如來を安置奉る當寺は、眞言宗に屬し上杉家の創建と傳へられる。古來當地有數の道場として庶民の歸依讚仰あつく、大和長谷寺として寺運頗る隆昌を呈してゐる。境内六百坪あり、他に田六町歩、畑六町歩、山林三町歩の土地を有し、昭和十二年本堂の新築に着手、同年八月工費四千

圓を費して、奥行七間、間口十一間の宏壯なる堂宇が竣成し、靈域に一大美觀を添へるに至つた。境内には上杉家の秘寶たりしダイロ石があり、また本堂のほかに山門、庫裡、藥師堂などあり、毎月八日の藥師尊の縁日は頗る賑やかである。春秋の彼岸、舊七月の盆會の行事も當地名物の一である。檀家約百戸、總代は小林平太郎氏、折茂傳八氏ほか十六名をかぞふ。現住職蓮沼章道師は少僧都の位を有し德望洽き濃厚な阿闍梨である。

三波川村

堅固山金剛寺



師宜良巖職住 新義眞言宗 豐山派に屬す

る當寺は本尊に地藏菩薩を安置し奉る。人皇五十一代平城天皇の御宇、大同元年



師雄俊津新 職住

天和二年松岡正市、高橋市藏、山口友吉、黒澤勉櫻澤子之作の諸氏が擧げられてゐる。現住職新津俊雄師は中里村振興委員會委員司法保護委員を兼ねて村勢發展につくすところ多く中里村一帯の寺院を支配する有力寺院の住職として識見、人格、力量等に於て並々ならぬ貫録を示してゐる。

鬼石町

慶石山福持寺

電話鬼石四三番



職住内期 寺は當 地蔵菩薩を本尊とする

する新義眞言宗豐山派の淨刹にして、開山不詳、開基は梶原平藏景時氏である。源頼朝時代、當地方は梶原景時の領地にして、その三男福持丸當地に於て歿したるを以て、景時一字を建立し、福持寺と

中里村

慧田山東福寺

聖觀世音菩薩を本尊に安置し、曹洞宗に屬する當寺は、名僧芳谷永曆師の開山である。創建は慶長十年のことなれども

行基菩薩の開創に係り、その後弘法大師本國に遊化の際、當寺に留錫、一刀三禮の大聖不動明王の尊像を安置せられたる遺跡にして、爾後御祕佛と稱し信仰せられ、今に當山の靈佛となつてゐる。京都醍醐三寶院直末の中本寺三色着用の法林にして、七ヶ院の末寺と二十九ヶ寺の會孫末寺を有し、御朱印五石諸侯の待遇を受けたが、寛文五年秋、祝融の災にかゝり、經藏、古書、古記録、什器等悉く烏有に歸した。現在は長谷寺直末である。檀家二百三十戸、飯塚清、眞下清太郎兩氏を總代顧問とし、總代は田中幸吉氏、中鷲三郎氏ほか四名である。住職巖良宣師は多野郡各宗務會理事、農會長、群馬縣司法保護委員等を兼ねる。

の際類焼の厄に遭ふて、あたり珍重なる寶物古記録等を烏有に歸した。その後住職をはじめ、檀徒總代等復興に意を用ひ檀信徒の衷心からなる支援により、正徳三年漸く堂宇の新築成りて、古に倍する盛觀を呈するに至つた。北甘樂郡小幡町寶積寺末にあたり、毎月四日の地藏尊祭毎年一月二十八日の不動尊祭は、近隣稀に見る股賑を呈し、寺運の興隆以て想ふに足る。境内面積三百八十坪に上り、他に宅地七百八十八坪、畑一町八段二畝餘山林一町三段一畝餘を有し、本堂は間口八間の奥行一間半、庫裡四十二坪、土藏六坪、開山堂六坪等の建造物がある。檀家は約百五十戸をかぞへ、總代には神原龜吉、高橋又吉、黒澤仲重、岩崎貞雄、

稱した。勝輪寺末に當り、境内二千坪、他に畑十七町歩、宅地一町歩、山林四町歩を有し、堂宇には本堂、庫裡、不動堂、地藏堂、大師堂、太子堂、稻荷社等がある。檀家約二百戸、總代は金澤甚平、植村皓筆、岩城善郎、井上勝三郎、有坂彦太郎、山口熊藏の諸氏が任ずる。住職堀内宥盛師は總本山長谷寺事務長、豊山派懲誡委員長等を兼ねる。令息貫夫師は吉井町上野山延命密院住職たる青年僧侶にして、町内方面委員、豊山派宗會議員をつとめる。因に延命密院は延命地藏を本尊とし、今から約四百五十年前、慈尊阿闍梨の開山に係り、徳川三代將軍より寺領十石を賜はり、その後、蓮勝寺、泉福寺、正覺寺、弘保寺等を合併して今日に至つた。東京護國寺及び長谷寺末にして檀家約三百戸、境内二千五百坪、田二町五段、畑六町五段、山林一町歩を有し、本堂、庫裡、不動堂、太子堂等あり、庭園すこぶる壯麗を極め、名刹たるに背かない。



住職 龍華智隆師

小野村立石
若宮山立石寺

二十年前、後柏原天皇の御宇、大永二年東林上人によつて開山せられ、爾來約七十年を経て、第八世隆正阿闍梨は學德一世を風靡し、厩橋城主酒井雅樂頭忠清公の尊信頗る篤く、本堂、金輪堂、不動堂、地藏堂、念佛堂、愛染堂、仁王門、鐘樓等の諸堂宇建立せられ、輪奐の美を加へ、更に數々の寄進あり、爾來代々城主の祈願所として崇敬篤かつた。忠清公の内室御懷胎に際し、本尊藥師如來の御前に於て弘法大師相傳の眞言守最極深秘安産之法を修して靈驗があつた。大本山は高野山大乘寺である。境内廣く三千坪を越え、楠樹百本繁り、芍薬畑六千坪を有し、外に田畑五町歩がある。行基菩薩の藥師如來及び地藏菩薩智證大師作の不動明王、雲慶作の金剛力士、狩野探幽筆の軸物釋迦三尊、狩野守信筆の辨財天雲丹筆の布袋師等のほか、一字金輪佛頂尊、愛染明王、阿彌陀尊等の秘寶を藏し酒井公歴代の御尊碑は古色そのまゝに現存し、今なほ香華燈明を捧げて追福祈願を執行してゐる。檀家四十五軒、總代は川端元治、川端勝彌、木村益三郎、金井重郎、金井文一郎、落合淺五郎の諸氏である。現住職龍華智隆師は、圓滿柔和の資性を有する高潔なる人格者、當寺に入つてから五十有餘をかぞへ、法燈興隆に意を用ひて寄與多大、曾ては群馬縣眞言宗管理及び選舉肅正委員、多野郡各宗協會副會長たりしことあり、現時方面委員として社會事業に貢獻され、その功もすこぶる多大にして、人格と相俟つて徳望普き大智識と謳はれ、庶民鑽仰の的となつてゐる。

佐波郡

殖蓮村

殖蓮尋常高等小學校

本校は明治二十年植木尋常小學校に創まり、同二十三年殖蓮尋常小學校と改め次で同三十五年高等科を併設、殖蓮尋常高等小學校と改稱、上植木、下植木、八寸の三大字を學區とし

- 1、人格ノ總和的發達ヲ主眼トスル教育
- 2、國家本位ノ教育
- 3、合理的體育ヲ基礎トスル教育
- 4、徹底ヲ主眼トスル教育
- 5、創造活動ヲ重ンズル教育
- 6、個性ヲ尊重スル教育
- 7、學校教育ヲ社會化スル教育

等を教育の眼目となし、これを實際に具體化すべく、校長はじめ職員一同鋭意努力しつゝある。矢島昇氏を初代校長となし天笠久眞三、清水三藏、楢原忠次郎、

大和榮八、神戸直一郎、生形信藏、根岸國造、矢島胖氏等の九氏を経て、田島衛氏現任校長である。これまで卒業生を出すこと三十六期、約六千五百人、現在兒童は尋高合して一千四百五十餘人で、衛生施設等完備し、澤浦源吾氏校醫として兒童健康に鋭意してゐる。

從七位勳五等 氏はもと山田郡菰川田島衛村學校長だつた幸太郎

氏の二男に生れた人、祖父氏は刀圭家として令名を馳せてゐた。當主は明治四十五年群馬師範出身、曩に境町小學校首席訓導に任じ、昭和十年八月奏任官を拜し同十二年高等官七等に、次いで從七位に叙せられた。今、本校々長を現任、また殖蓮村青年學校長を兼ねて熱心努力をさげしてゐる。

殖蓮村下植木

殖蓮村信用販賣購買利用組合

國運發展の動力をなすものは農村産業の伸展にして、その意を吸み農村經濟更生と村民の福利増進の爲に矢嶋次市、若林海司の兩氏を初め村内有志一致團結して勳議を起し昭和十一年六月設立認可を受け昭和十二年二月事務開始をせる當組合はその區域村内一圓に互り、當村産業の根本をなすもの、出資總額二萬四千六百圓にて一口金額は貳拾圓、組合員數七〇八名である。設立以來日未だ淺しと言へどもその業績燦たるものあり、貸付總額一萬七千四百八圓、貯金三萬六千七百五拾六圓、購買價額五萬四千四百六拾七圓、日を追ふて愈々發展を見つゝあり若林海司氏以下二十二名の役員執掌する。

專務理事 當組合の專務理事として若林海司 一身を挺し組合伸展の爲に村産業繁榮の爲に活躍盡すしつゝある氏は明治二十五年の出生にて先考駒次郎氏